ラストマッチ目前!
必読!
前田日明の戦慄連載!!

高田延彦!
奇跡の復活へ!!
ヒクソン戦へGO!!

紙のプロレス RADICAL

No.10

ただごとじゃない
スクープ対談実現!!
前田日明 vs エンセン井上

マット界に地殻変動の予感。

戦闘スマイル、準備OK!!
桜庭和志の"キラー"が見えた!

当然、今号も「プロレスマスコミ」の動向をじっくり追います!

ショーに限りなく近いプロレス?
冬木弘道、参上!!

ヤマトダマシイ
大和魂は連鎖する!!

元気で懲りない2人が揃い踏み!!
ザ・グレート・サスケ
久々に復活 vs 全女会長 **松永高司**
洋上スペシャル・ドリーム対談

プロレス者にすこぶる好評!!
「紙プロ・スーパースター列伝」
谷津嘉章 PART2

本誌独占!! 歴史的大物
引退記念インタビュー掲載!!

紙のプレイボーイ——略して『紙プレ』!
本誌初のSEXY企画もカラーで爆裂!!

解けんのかーッ!!
読者に挑戦状! 賞金30万円!!
RADICALプロレスクイズ開催!!

紙のプロレス RADICAL No.10 大和魂は連鎖する!!

発売元：(株)ワニマガジン社 〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地 電話/03-3357-2911
発行元：(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話/03-3403-5188
ワニマガジン社 定価・本体648円+税

PlayStation

女の闘いがイチバン凄い。

7月23日発売予定
標準価格／予価¥5,800（税抜）

全日本女子プロレス
女王伝説
夢の対抗戦

“プレイステーション初”
女子プロレス3Dポリゴン格闘ゲーム登場

豊田真奈美、井上貴子、堀田裕美子、アジャ・コング、井上京子ら、
あの全日本女子プロレスで競い合った13人が、時空を超えて、ここに集結。

●女子プロレスならではのスピード感溢れる激しい動きをスーパーリアル再現。
●本物の叫び、本物の悲鳴が錯綜する、臨場感たっぷりの試合展開。

株式会社 ティー・イー・エヌ研究所

協力　全日本女子プロレス／アルシオン／ネオ・レディース／ガイア　ジャパン
[ユーザーサポート] 03-5467-3843　10:00〜15:00（祝祭日をのぞく）

RADICAL SCOOP!!

檄談！

ヤマトダマシイ——!!

「そう、前田さんは偉い人ですネ、それはネ」

「いや、ちょっとやね。ちょっとだけ偉い人（照）」

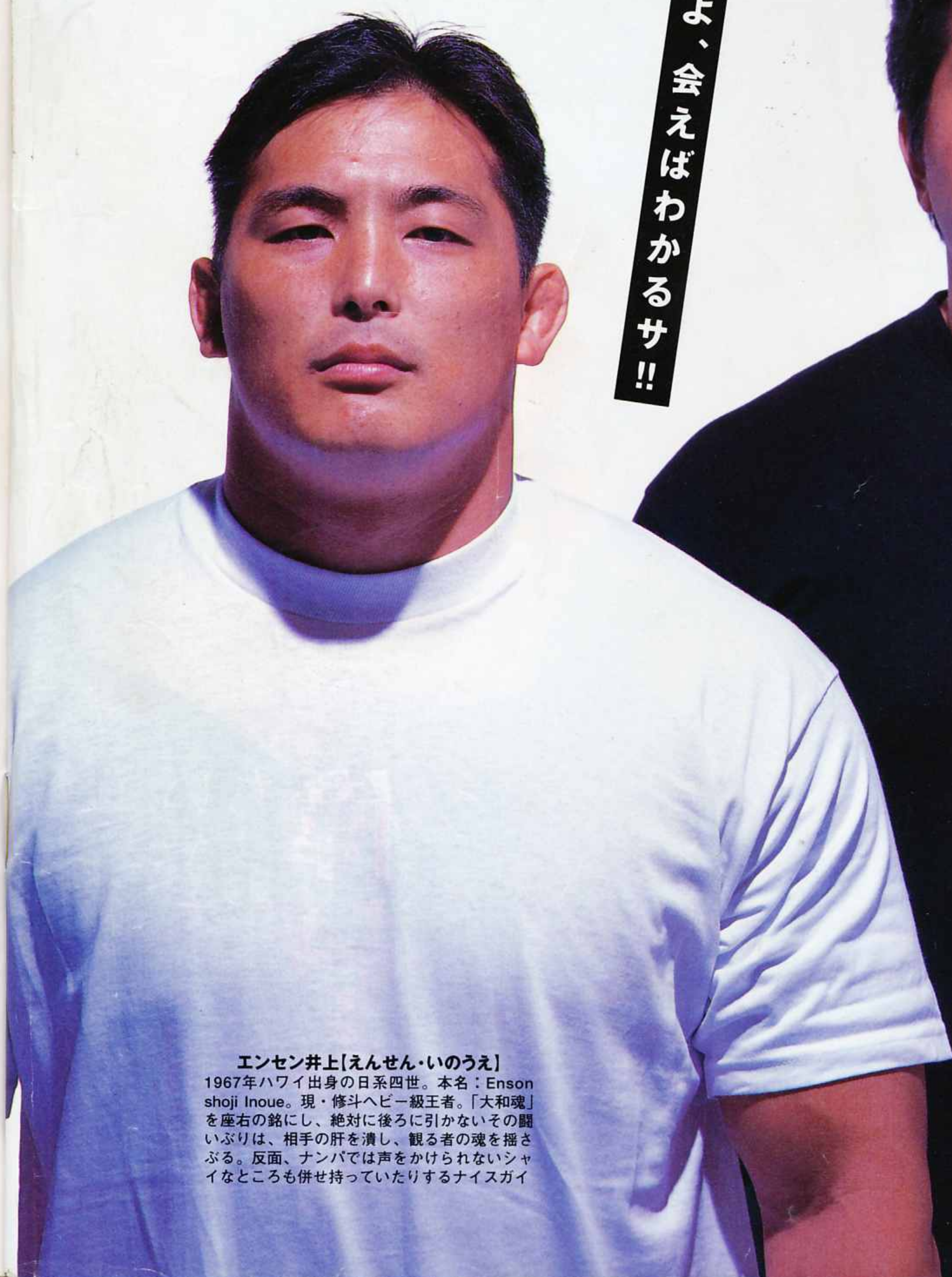
エンセン井上

Enson Inoue

RADICAL SCOOP!!

檄談！

迷わず会えよ、会えばわかるサ!!

前田日明【まえだ・あきら】
1959年7月4日生まれ。77年新日本プロレス入門。84年第一次ＵＷＦに参加。以降、プロ格闘技の礎となった「ＵＷＦ」の“ヘソ”として、数々の偉業、伝説、逸話、衝突、摩擦をマット上に産み落とした。91年リングス創設。今年7月20日にはとうとうラストマッチを迎えてしまう――

エンセン井上【えんせん・いのうえ】
1967年ハワイ出身の日系四世。本名：Enson shoji Inoue。現・修斗ヘビー級王者。「大和魂」を座右の銘にし、絶対に後ろに引かないその闘いぶりは、相手の肝を潰し、観る者の魂を揺さぶる。反面、ナンパでは声をかけられないシャイなところも併せ持っていたりするナイスガイ

前田日明 ×

Akira Maeda

進行＆構成／山口日昇
text by Noboru Yamaguchi
撮影／斉藤ユーリ
photographs by Yuri Saito

大和魂(ヤマトダマシイ)は連鎖する——!!

「いいこと言ってたなぁ」——去る3・28、リングスのNKホール大会を観戦に訪れたエンセン井上に対して、前田日明は握手を求めながら実に気持ちよくこう言った。本誌NO8のエンセン・インタビューを指しての言葉である。男同士の出会いはシンプル・イズ・ベスト！　利害を超越した「前田vsエンセン」夢の対談はこうして実現した！

〝ただごとではない対談〟の当日——。

渋滞のため、時には住居も兼ねるワゴン車でエンセンが到着したのは、待ち合わせ時間を約45分過ぎた頃だった。

よりによって、この日の前田日明は時間前に到着していた。

前田日明はおとなしく待てるか——!?

時間が経過する度にスタッフ間に緊張感が増していく。

この日は運よくご機嫌だった日明兄さんも、待ち合わせ時間を30分過ぎたあたりからさすがに時計を見る仕草が多くなり、顔を見ると、心なしか眉間に皺が寄ってきているように見える。

〝どうか日明兄さんがキレないように……〟と全スタッフが祈る中、非常にも時は過ぎてゆく。

日明兄さんがまた時計を見る。

〝もうダメか……〟と思った瞬間、スタジオのドアが勢いよく開き、エンセンの灼熱の太陽のような笑顔が現れたのだった。

エンセン　スイマセーン！　スイマセンスイマセン（本当に申し訳なさそうに）。

前田　ダイジョブよ（と立ち上がって手を差し出す）。なに、渋滞？　あのワゴンに住んでるの？

エンセン　ソ。でも、スイマセーン。遅刻ね。

前田　ええよええよ。

※というわけでスタッフ全員がホッと胸を撫で下ろし、雑談混じりの写真撮影後、かなり打ち解けたところで世紀の対談が始まった。

前田　（エンセンを見ながら）いや～、エンセンはバンカラやなぁ。いいねぇ。今は格闘家にもいないもんなぁ。なんか知らんけどね。

エンセン　バ～ンカラ？　バンカラ、ヨクワカラナイ。聞いたばっかり。

前田　ナチュラルなね、ストレートなね、オシャレとか関係ない。

エンセン　ワタシはそういう感じ？

前田　外見のオシャレじゃなくて、ハートのオシャレだね。

エンセン　オー、それいいね。それは一番大事よネ。

前田　いやね、『紙プロ』（NO8）のエンセンのインタビューを読んで、いいこと言ってるなぁと思ったの。

エンセン　ナニ？　ナニが書いてあった？

前田　団体がどうのこうのじゃなく、みんなで協力してね、グレイシーでも何でもみんなで一緒に頑張ってやっつければいいじゃないか、ってね。同じ日本の国の中なのに、ペチャクチャ女の腐ったような悪口言ったり、またそれを聞いたマスコミやファンがどうのこうのっておかしいじゃないかってね。〝あぁ、なるほどな〟って思ったね。今、そういうこと言うヤツいないんだもん。俺も前にそういうこと思ってたら、陰でクサレ○ン○みたいな悪口を聞いたんで、「そんなこと陰でヌカすんだったら、ブチのめすから責任取ってトップ出てこい！」って言ったら「絶縁！」とか言われたもんな。

——ガハハハ！「絶縁！」。リングスやパンクラス、それにエンセンさんの練習仲間の金原（弘光）選手や桜庭（和志）選手がいたUインター。その前身でもある「UWF」を作ったのが、こちらにいる前田さんなんですよ。偉い人なんです、実は（笑）。

エンセン　そう、偉い人ですね、それはネ。

前田　いや、ちょっとやね。ちょっとだけ偉い人（照）。

——ガハハハハ！　全国1千万の『紙プロ』読者の皆さん、あの前田日明が謙遜してます（笑）。

前田　だから、さっきもいろいろ話してたんだけど、佐山（聡）さんについてエンセン

この間、掴まえて引きずって高校生ひっぱたいたよ（前田）

×Enson Inoue

の意見を聞いたら、〝なるほど、そうだよな〟と思ったね。俺なんかよくわかるよ。俺は一時、佐山さんとトラブルがあってブチ当たったし、ハッキリ言ってあんまりよく思ってなかったけど、佐山さんがシューティングを出されたことについては、ちょっとおかしいと思うんだよね。なぜかというと佐山聡という人は、みんなを敵に回して悪役になってもね、一人で頑張ってシューティングを作ったでしょ。

エンセン　聞いたそれ、ハイハイ。

前田　でしょ。それが問題あるからってケシかけて、中に空気入れて居づらくして追い出したっていうのは、それはおかしな話よ。エンセンもまったく同じ意見だったからね。そんなこと言ったら日本の国の中でね、どんなに自分が苦労して作り上げても、何かヨソから調子のいい奴がやってきて妙なことになってね。特にお金の問題とか絡むと、なんか急に人間はコロッと変わってしまうからな。ハートの問題で考えないからね。損した得したっていうことばっかり考えてね。なんていうかね、壊れてるのかね、みんな。エンセンみたいな日本人が少なくなってきてるんだよね。

エンセン　最初から自分はハワイでね、「ジブンはニホンジン」って言ってたヨ。「アナタ、ナニジンですか?」って聞かれたら、「ジャパニーズ」って（笑）。アメリカ人の白人は口ばっかり。口が強くて心が弱い。日本人見ると、心が強い。口があんまり強くない。その方が好き。アメリカ人とかは威張るばっかり、自慢ばっかりで好きじゃない。だからハワイでは白人ばっかりとケンカしてたヨ。もうケンカ凄かった。ちょっと悪い人だったネ（笑）。

前田　ハワイとかアメリカで喧嘩したらピストルとか出てくるでしょ?

エンセン　あぁ、ワタシの時期そんなになかった。ナイフだけ。ナイフはそんな大したことないんだけど、ピストルだったらちょっと怖いネ。1回だけピストル出されたことあった。

前田　どうしたの、それで?

エンセン　グループのケンカだった。サモア・グループとワタシのグループのケンカで、相手の一人がピストル出した。〝こういう感じで死んじゃう、信じられない〟——初めてそういう気持ちが出てきた。だからその時は〝もうちょっと生きたいな〟と思った。〝死ぬのまだ早いな〟と思った（笑）。それは、高校3年の時ネ。

前田　高校っていえば、俺もこの間、高校生ひっぱたいたよ! 銀行に行くのに、原チャリ乗ってたんだよ。それでUターンしようと思って地面に足着いたの。俺はぞうり履いてたんだけど、高校生が自転車で足をビュッと踏んでって、そのまま謝らずに行っちゃうんだよ。だから「ちょっと待て! お前謝れよ、踏んだやろ!」って。そうしたら「どうも」って、あっちの方見てボソボソ言ってるから、「ヨソ見して〝どうも〟って、なんやねん! 顔見て謝れ!!」って言ったんだよ。そうしたら「なんでそんなに謝らなきゃいけないんですかあ」とか言ってきたから、「アホか、お前は!!」ってパーンッってやったんだよ。そうしたら「スミマセン!!」って。「よし、じゃあ行け!」ってね（笑）。

——しかし、その高校生もよく前田日明に口答えしますね（笑）。

前田　その時はヘルメット被ってグラサンかけてたから。自転車の前輪でパタンパタンって踏んでいって、俺も〝あー、踏まれた〟と思ったら、また後輪でも踏んでいくねん。

エンセン　ハッハッハー。

前田　普通ね、人の足踏んだらわかるじゃない。それをさ、黙って行こうとするんだよ。思わずベルト掴まえて、引きずったよ（笑）。

エンセン　ワタシも、プロなのに、す～ぐケンカになるね。去年も3回ぐらい。全部いっちゃってる。マウントまでとか。気絶するまでやるネ!

前田　相手はどんな人?

エンセン　もうガイジンばっかり。六本木とかで。ガイジン、失礼ネー。

前田　俺も3年くらい前に、六本木でアメリカ兵やっつけたことあるよ。横田基地だか横須賀基地だかどっかの。便所ブラシ持って、髪の毛掴んでガーッと引きずり倒して、ガーン!ってヒザ蹴り喰らわして（笑）。

エンセン　スッゴイね!

前田　ただ、相手が日本人だったら気ィ付けなアカンよ、エンセン。

エンセン　そうですか?

前田　なぜかっていうとね、〝こいつシューティングのエンセンだ〟と思ったら、わざと殴らしといて警察に訴えて、お金取ろうと思ってやるから。

エンセン　ア、2回それあった、日本人の相手で。でも警察の人がファンで手伝ってもらった。それはラッキーだった。

前田　エンセンの顔も名前もいろんな人覚えてるでしょ。今はタチの悪いの多いから、エンセンをわざと侮辱して、殴らせておいてから警察に訴えたり、マスコミにしゃべる。それで裁判して、お金を取る。

エンセン　そうね。だけど日本人っていっても、今の若いヤツ失礼なヤツ多いヨ!

前田　ホンマやね。ホント多いね。

エンセン　ネー。だからガマン出来ない時多い。すぐ手を出すとか多いからね。それはホンットに抑えたいヨ。「自分を抑えないと良くない」って自分の弟子にも言ってるからネ（笑）。

前田　日本に弟子いるの?

エンセン　大宮のジムに弟子がいるよ。今、プロ選手が10人。あと、ヘビー級のガイジンが3人ぐらい。だから、グァムからもう1人のヘビー級引っ張ってくるから。

前田　じゃあ今、グァムと大宮でジムをやってるの?

エンセン　ソ。

前田　凄いねー。

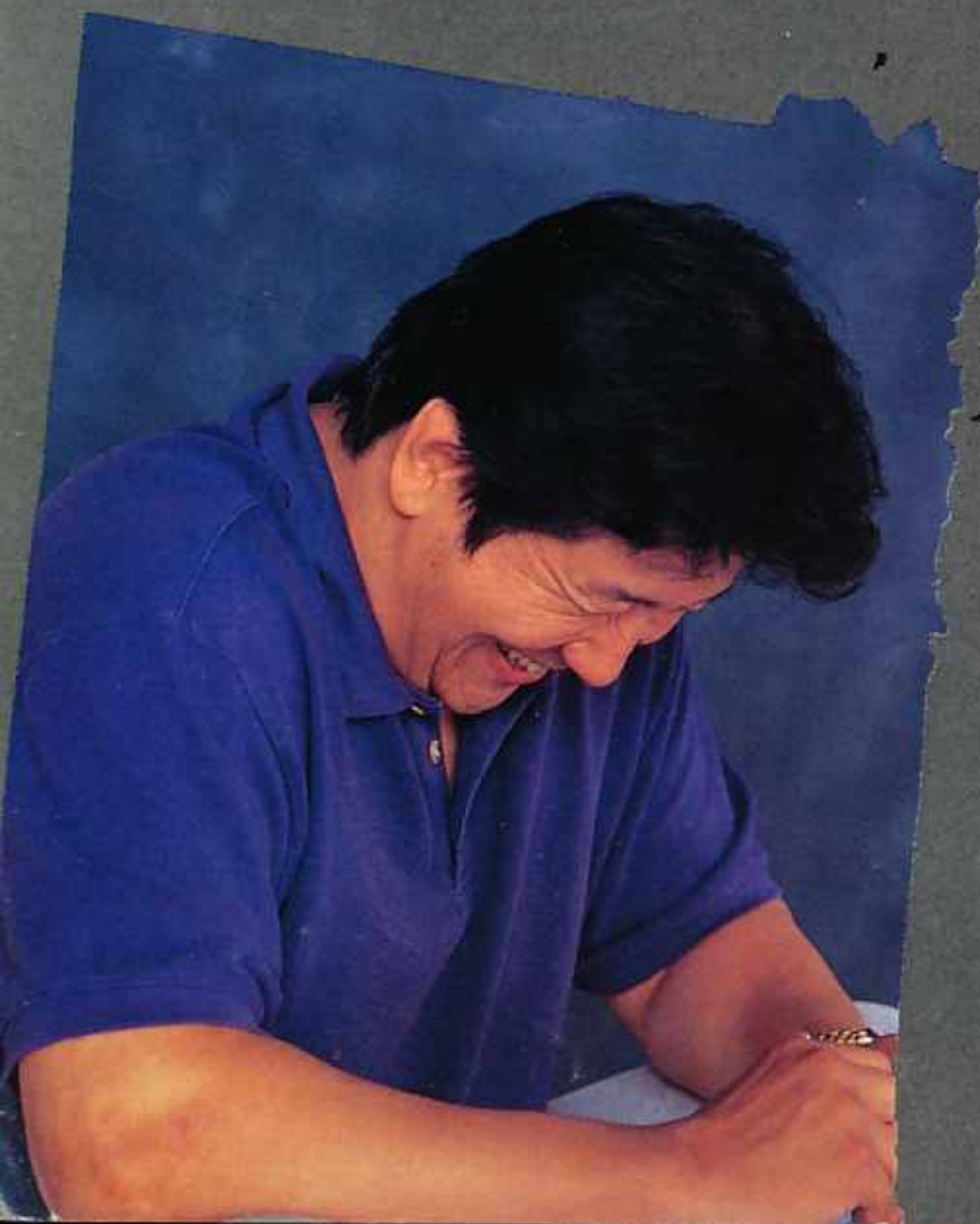
エンセン　東京にも作る話があるから。今年まだ試合してないけど、練習もズーッと続けてるし。もう全部ワタシがやってるネ。家賃も払ったり、全部。責任取ってる。社員さんの給料も払ってるし。全部ワタシがトップでやってる。

——でも、トップのエンセンさんはワゴンに住んでると（笑）。

エンセン　そうそう。だからなんかヘンな感じね（笑）。

前田　いやー、今時そういうハートの太いヤツがいるんだと思ってビックリしたよ。逞しいよね。最近の選手はね、俺らの頃となんか違うんだよね。

Akira Maeda ×

灼熱の

地殻変動'98

——前田さんは若い頃、新日本プロレスという所にいて、その頃の道場ってメチャメチャ厳しかったんですよ。そこにいる人たちも実に逞しかったし。

前田　佐山さんもいたしね。

エンセン　ア、そうですか！

前田　佐山さんは自分より2年くらい上だけどね。

エンセン　佐山さんは厳しい練習できるの？　その頃プ～ヨプヨじゃなかった？（笑）。

前田　当時は一生懸命やってたね。今はわかんないけどね（笑）。高田（延彦）もおったしね。

エンセン　高田さんもいた？

前田　船木（誠勝）もいたし。

エンセン　エーッ、ホントに？

前田　船木ははるかに後輩だけどね（毅然！）。

エンセン　そうですか。スゴイねー。じゃあ前田さん、偉いネ。

前田　へっへっへっへ。まぁ、ちょっと頭はパーだけどね（笑）。でも、今の新日本プロレスと昔の新日本プロレスは全然違うもんになっちゃったね。

エンセン　ア、そうですか。ハイハイ、でもわかります。

前田　僕らが新日本プロレスのグリーンボーイの頃はね、ロープに振るとかなかったの。それをやると怒られたよ。ちゃんとレスリングをやりなさいって。ロープの上でこんなことしたら（カニ歩きのポーズ）、間違いなく猪木さんと（山本）小鉄さんが木刀持ってきて、リングの上でボコボコにやるんだよね。今はそういうことないけどね。ヘタな試合すると、プッシュアップのラワンの板あるでしょ？　あれでガーンッて、試合中でもやられたよね。

エンセン　ウワーッ、スッゴイね！

前田　だからプロレスやってて、“強くない

大地を揺るがすかのような「前田コール」を浴びながら、大阪ラスト・マッチに出陣！ゴンタ顔で試合に臨むことは少なくなった前田だが、その闘いへの志は誇り高い。リングス・ラストマッチは7・20、山本宜久戦だ！（写真は98・4・16大阪府立体育会館）

Enson Inoue

俺の悪口言うんだったら俺の聞こえるとこで言え（前田）

とダメだ”と思ってる人たちが新日本をやめて、自分たちでUWFというのを作ったんだよ。

エンセン　そうですか。でも前田さんもストレートだけど、ワタシも思ったことストレートに言うよ。全然ストレートだよ。よく問題なるけどね、それで（笑）。この間、パンクラスと問題になったネ。

前田　え？　パンクラスと問題になったの？

エンセン　ワタシ、アメリカの雑誌のインタビューを受けたね。例えば、もし勝ちか負けか決めることがあるとすると、負ける方しかわからないってやり方がある。そうパンクラスに関係ある人に聞いたね。こっちの人は思いきりやって、こっちの人はただ極めないだけ。それは面白い。絶対バレないと思ったね。そういう例えばの話をしてる時に「パンクラスで真剣勝負じゃないのある？」って聞かれたの。それで「あるかもしれないし、わかんないじゃない？」と言っただけ。それが凄い問題になった（笑）。

前田　はー。

エンセン　だって、どこにしても、そういうのがあるかないかなんて100％わからない。ビデオ見ると全部ホントみたいだし。でも、なんかそれが問題になったから。バス・ルッテンからガイ・メッツァー（現在、キング・オブ・パンクラシスト）から全部怒った!!（笑）。

前田　なに、エンセンに？

エンセン　そ～うそうそう（笑）。メッツァーはスゴい悪口言ってた、ワタシのこと。でも、その時はケンカになってないね。彼とはリングでやりたい。まあ、問題ないよ。ただシューティングになんか電話が来たみたい。パンクラスの方から。「なんでそういうこと言う」とかね。だから、それはちょっと言い過ぎたかな、と思った。

前田　パンクラスはズルいんだよ！

エンセン　オー、面白いネ（笑）。

前田　俺が、マネージメントの話をいろんなとこにお願いに行ったのね。大きな会社とか。

エンセン　ハイ。

前田　そしたらなんか、その会社がテレビ局の関係者から、リングスは真剣勝負じゃなくて八百長やってるって聞いたと。フィックス・ファイトやってるって聞いたと。それでね、そのテレビ局の関係者に「誰にそんなこと聞いたんだ？」って言ったら、「パンクラスの人間に聞いた」って言うんだよ。

エンセン　アァー、そうですか。

前田　その話をいろんなとこに確かめたら、パンクラスはテレビ局の関係者に「リングスとは同じようだけど、どう違うんですか？」って聞かれたら、「向こうはフィックス・ファイトで自分たちは真剣です」って自分たちのことを説明するために言うんだって。

エンセン　ア、そうですか。

前田　それ聞いて頭に来てね！　鈴木（みのる）とか船木とか出てこい！って。そう言うんだったらリングスとパンクラスで試合すればいいんだって言ったんだよ。

エンセン　（拍手しながら）オォー、面白い、それネ!!

前田　そしたら「絶縁」だって。

エンセン　アー、そう？　そういうことネ。

前田　そうそう（笑）。

——前田さんは「パンクラスを潰す！」とまで言ったんですよ。

エンセン　アー、聞いたね、その話。あんまり日本語読めないけどネ。そういう話聞いただけ。

前田　そんでね、髙橋（義生）って選手が、パンクラスの会場で、「俺が前田を殺す！」って言ってきてね。

エンセン　アー、そうかそうか、なんかに出てた。アッハッハッハ、面白～い!!

Akira Maeda

ヴォルク・ハンとの大阪ラストマッチを終えた前田。試合後はU系の会場では珍しく、ファンが幾重にもリングを取り囲んだ。20世紀最後のカリスマ・前田日明がリングから去った後、マット界はどのような方向に舵を取るのだろうか。期待と不安、二つ我にあり——である

前田　ドームで高田vsヒクソン（・グレイシー）戦があったでしょ。

エンセン　ハイハイハイ。

前田　アレが終わったあとにね、通路歩いていたら、向こうから金髪の、ちょっと体格のいい若いヤツが走ってくるの、俺の方に。あれって思って「高田さん負けたから、前田さん、仇を討ってください」ってファンの子が言いに来たんかなって思ったら、俺の1メートルぐらい前で止まってジーッと見てるんだよ。握手してほしいんかなって思って、顔見たらどっかで見覚えがある顔だなって思って、よく考えたら髙橋なんだよ（笑）。“そういえばコイツ、「前田を殺す！」とか言ってたなぁ”って思って（笑）。で、どうするんだろと思って見てたら、横にいたウチの山本（宜久）が、「ちょっとどいてください」って言って。そしたらなかなか素直にどいたの。なかなか可愛いヤツや。フフフ。

リングス創設時からの戦友、V・ハンと大阪ラスト・マッチを行った前田。惜しくも敗れたが、静かな中にも万感の思いと闘志がヒシヒシと伝わってきた一戦だった。本能が壊れた動物が人間なら、「前田日明」は人々にその本能を思い起こさせた存在である

エンセン　オォー、面白いネー!!　ワタシもガイ・メッツァー、彼とならストリートでもいいよ!!

——またそういうこと言うから、向こうは怒るんですよ（笑）。

エンセン　いやー、ホントの男はやっぱりプライドがあるね。プライドをイジめられちゃうと……もうしょうがないよ！　イジめられちゃうと、どこでも……。

前田　わかってるよ、わかってる。そうだよ、そう！　その通りだよ。プライド傷つけられたら、リングだろうと外だろうと関係ないからね。道でだって、「コノヤロー！」ってなるよ。俺もそれでいろんな問題起こしたけどね（笑）。

エンセン　ア、そうですか。

前田　俺の悪口言うんだったら、俺の聞こえるとこで言えばいいと思うんだよね。聞こえてきたら「ナニッ！」って言ったら終わり

ガイ・メッツァーはバカ過ぎだヨ。もう……殺したい！
（エンセン）

Enson Inoue

灼熱の
地殻変動'98

だから。それで向こうが文句があるんだったら、やればいいわけでしょ。日本の場合ダメなのはね、全然聞こえないところで、コソコソコソって言って、たまたまそれをどっかで聞いて、「お前な、何言ってるんや!」って言ったら、「僕、そんなこと言ってません」ってなるんだよ。

エンセン　アー、それ多いネ。

——訴えるとか（笑）。

前田　そう、訴えるとかね（笑）。だからなんかね、男らしくないんだよ。

エンセン　そうねそうネ。

前田　俺はアントニオ猪木さんの悪口たくさん言ったけど、自分が新日本プロレスにいる時に言ったからね。そのかわり最後はクビになったけどね（笑）。

エンセン　タイヘンだー（笑）。

前田　いろんな意見があっていいよ。だから正面からどっちが正しいかやりあって、ファイトすればいいじゃない。

エンセン　そうね。ワタシもそれをみんなに言いたい。陰で話してるヤツは直接ドージョーに来て、ワタシとファイトすればいい。ドージョーには誰も入れないで、ワタシと相手だけでネ。

前田　ガイ・メッツァーとエンセンがやる時は、リングスがプロモートしてもいいよ（笑）。

エンセン　どこでも行くよ、ガイ・メッツァーとやれるんだったら（笑）。だからね、ガイ・メッツァーとかは、前は友達だったし、今も友達と思うよ。パンクラスもスゴくいい試合やってるし、強い選手も多い。友達も多いし、一緒に練習している友達もいるし。だから別に悪口言うわけない。パンクラスも日本人で一緒に強くなりたいのに、悪口を言うと目的が逆になっちゃうでしょ。でも、「メッツァーが、『エンセンがパンクラスはフェイクだって言ってる』って言ってた」とか、そういう噂も聞いたことあるし。ワタシ、そこまで言ってないよ! それで腹が立っていろいろバーンッて言ったの。彼が頭にきて言っただけなら別にいいよ。ワタシもちょっと言い過ぎたとこあったかもしれないし。ただ、もし彼がホントにそういうこと思ってるんだったら、もう……殺したい!

前田　その通りだよ!

エンセン　そんな感じね。メッツァーはかなり直接悪いこと言ったね。アメリカのアルティメット大会（97・5・30ジョージア州オーガスタ）で「オレのことが怖くてエンセンは出てこない」とかね（怒）。1回戦でワタシが（ロイス・）アルジャー選手に勝って、最後決勝がメッツァーだった。でも目の問題でドクターストップになった。自分は出たかったのに。そうしたら彼が「エンセンはイエローフィーバーだ」って。イエローフィーバーっていうのは、怖くなって逃げる病気とか言ってた。あとシューティングは弱いとか、シューティングはアマチュア・パンクラスって言ってた。シューティングはアマチュア・パンクラ～ス? よくわからない。でも、それバカ過ぎじゃない、それ!!（怒）。ビデオとか見て自分の意見を持ってくださいって感じね。逆にパンクラスはアマチュア・シューティングって言うのもバカ! ルールが違うし、ゼ～ンゼン違うよ、やり方が。だからホントにバカ過ぎだよ。もういいよって感じネ!!（怒）。

前田　うん、そうだよ。その通りだよ。

エンセン　ワタシ、すぐキレちゃう（笑）。試合でも、野蛮人みたいにバーッって行っちゃう。行って引いて……みたいに、賢い野蛮人になりたい。まだ勉強中ね。もう、試合になると、オレは誰かに引っ張られないと止まらない! 相手がタップしても殴る! そういう試合ばっかりね。

——前田さんは賢い野蛮人の見本です（笑）。

Akira Maeda

前田　ハッハッハッハッ!

エンセン　そうですか、そうですね。野蛮人は間違いないみたいネ（笑）。でも、前田さんみたいな人いないとつまんないじゃない?

前田　エンセンのセコンドに立ってやるよ、セコンドに（笑）。

——前田さんとエンセンさんがもし同期だったら、確実に酔っ払って殴り合ってたでしょうね（笑）。

前田・エンセン　ガッハッハッハッハッ!

エンセン　で～も酔っ払わないよ、ワタシは。飲まない飲まない。

前田　あぁ、飲まないんだ。

エンセン　ア、で～も1回そういう問題あったよ。高田さんと。

前田　え、高田と? どうしたの!?

エンセン　ディスコで。その時、金原さんと桜庭さんと練習始めたばっかりの頃だった。オレは全然VIPルームには入れないヤツだから、普通にみんなといたね。そこのオーナーがワタシの所に来て、「今、高田さんが来てます。知ってますか?」って。「知ってるけど、個人的には会ったことない」って言ったね。だから高田さんに挨拶に行った。彼のジム（キングダム=当時）に練習しに行ってたから。トップの彼に「お願いします」と声をかけたね。で～も彼は酔っ払ってた。

——ダハハハッ! 酒癖悪いですからねぇ。

エンセン　そうそうそう（笑）。握手しようとしたら、彼は、しょうがないから握手しようみたいな態度だよ（笑）。それで手を出したら、彼はワタシのことをグッ! と引っ張ったね。"アレ、おかしいな"と思ったけど、彼はまた手を出したね。ちょっと笑ってたし、"まだ冗談"と思って手を出したら、ま～たそういうことやられた。それで、彼、もう1回手を出してる。

前田　ほんで?

エンセン　3回目は、オレが彼のこと引っ張ろうと思ったね。そしたら、お互いに引っ張り合って、オーッてなって。もう、ヒドイと思ってムカついた。ケンカしようと思ったね。もういいよ、周り関係ない。「どういうこと?」って怒って言った。その時、金原さんと桜庭さんは、違うとこに座っててわからなかった。それでケンカなりそうだった。"高田さんは、すっごいヒドイヤツ"と思ったね。もう、倒したいと思った。もう、何でもいいよ、試合したい。彼のリングに上がってもいいと思ったね。そのつもりだったけど、金原さんにいろいろ話を聞いたら、「高田さんは酒癖悪い」って（笑）。そうわかったら、今は全然嫌いじゃないよ。いい人。一緒に練習したいね、彼と。

前田　いいな～。大好き、そういうの（笑）。

エンセン　そういうエピソードがあった。もしそこでケンカになったら、負けても勝っても関係ない! あとでシューティングの方が、「やばいよ、やらないで」って言ったけど、いいことじゃない? だってプロレスの方が全然お客さん多いし、有名だし、くだらない格闘技の選手が偉い人とケンカしたら、シューティングにいいことじゃない。その時はそういうこと全然考えてないけど。ムカついたから、やりたかったよ（笑）。

前田　ガッハッハッハッ! 俺がその立場だったら同じことやってたと思うで。俺だったら3回目の時に足が飛んでってるな。でも、エンセンの話を聞いてると、ちゃんとものの道理をわかってるよ、しょーもない日本人よりも。

エンセン　だから、高田さんはワタシより有名だから、ワタシは頭下げてもいいよ。彼は頭下げなくてもいい。ただ失礼なことすると、もう頭下がんないよ、オレ。だから、この間（3・28リングスNKホール大会）、前田さんと会った時、前田さんは有名人だ

から頭下がるよ。でもヒドイことされないか、コワかったネ。

前田　俺が？　なんでなんで？（笑）。

エンセン　「お前、誰だ！」とか言われたらどうしようって（笑）。すぐワタシも頭キレるもん。ワァーッてなっちゃうから。どうしよーって思ってたら、「いいこと言うなぁ」って言われたから、も～うスッゴク嬉しかったネ（子供のようにめちゃめちゃ嬉しそうに）。

前田　ハッハッハッハッ！

エンセン　ハァー良かった、と思ったね。ケンカならなくて。自分は怒るとバカなことするからネ（笑）。

――前田さんは有名な人だから、また、高田さんみたいに変なことするんじゃないかと思ったんですね（笑）。

前田　有名だからって、誰でもそうすると は限らへんよ（笑）。でも、こういう人間がもっといれば面白いよね。なんか今、陰でコソコソ悪口言うばっかりで同じ業界にいるって仲間意識もないし、なんか裏で人の足引っ張りあったりしてね。同じ格闘技の中で、ライバル意識でやってるのはいいんだけどね。

エンセン　そう。日本の中でも、お互いに試合をするんだったら敵みたいな感じでもいいんだけどネ。

前田　そうそう。

エンセン　でも忘れないでほしいのは、日本人は日本人っていう血を守んなくちゃいけないね。それで1回、ワタシ『格通』（格闘技通信）にスゴく怒ったヨ。

前田　格通に？　どうしたの？

エンセン　なんかね、ジュージュツのブラジル勢がいっぱい出た大会（今年2月、ハワイ）で凄いケンカになったの。

前田　どうしたの？

――ブラジル勢と大乱闘騒ぎになったんですよね。

エンセン　そうそうそう。ワタシから始まった（笑）。お兄さん（イーゲン）が大会に出たんだけど、いろんな悪いことされた。大会中に。試合時間とかウソ教えられたり、お兄さんはずっと待ってて、相手は家で待ってるとか。道着の大きさとかクレームつけてくるとか。それでお兄さんは飽きちゃって、「この大会もういい、ファック・ユー！」って言ってるし。だから「あなたたち、ヒド過ぎる！」ってワタシが言った。いろんな人がワタシのことを囲んで大ゲンカになった。イーゲンの弟子も入って。ヒクソンもいた。井上兄弟対ブラジル人みたいな感じになったの。

前田　なったの？　へェー（ニヤニヤ）。

――前田さん、また嬉しそうに（笑）。

エンセン　日本人の人、英語しゃべれない人多いでしょ。だから、ハワイでいろいろお世話してあげたよ、マスコミの人とかにも。でも、『格通』はスッゴくワタシのこと文句言ってた。その雑誌を見ると絶対ワタシたちが悪く見える。「エンセンの大和魂はいつも空回りする」って。その時は何を書いてるかわからなかったけど、教えてもらったら、スッゴイ頭にきて電話したの。「空回りはヒド過ぎる！　謝ってほしい」って。結局謝りに来た。まぁいいんだけど、なんで守ってくれないの？　日本人同士なのに。ワタシはいつも手伝ってるのに、「どうもありがとう」とか別に言わなくてもいい。ただ、そういう時に見せてもらいたいね。そういう感じネ。

前田　日本から試合しに行ってるんだから、ストレートに応援すればいいのにな。なんか理由を考えずにブラジルの肩持って、「日本人がおかしい」って、それはおかしいよね。雑誌を作ってる人たちはね、実際に日本の選手がいないと作れないんだからね。日本

Enson Inoue

97・10・12後楽園ホール。初代修斗ヘビー級王座に就き、愛犬・修斗クンを抱き上げるエンセン。この後、「（フランク・）シャムロックでも、このリング・アナウンサーでも相手は誰でもいいヨ。誰とでも闘いたい！」とトンチの効いたアピールも行った。ＶＩＶＡ、エンセン！（©長尾迪）

97・4・6後楽園ホール。ヒクソンと闘ったこともある“伝説の魔神”ズールをボコボコにしたエンセン。「キレたら止まらないネ」というだけあって、もはやどうにも手がつけられない暴れっぷり。その意気や、ヨシ！である（©長尾迪）

の選手のことを書いて、それを日本のファンが見て、それでご飯を食べてるんだからね。なんかおかしいよね、やっぱね。俺がその場にいたら、加勢してやるよ！　応援したよ！　その時、ヒクソンはなんて言ってたの？

エンセン　ヒクソンは賢いよ。顔も見ないし、一言も言わなかった。いなくなった。ヒクソンの息子とか、ヘンゾ（・グレイシー）の弟とか、オレとお兄さんのこと殴ろうとした。なんかハワイなのに、ブラジル人の方が多かった（笑）。ケンカになって、お父さんもその中に入っていたから、お父さんを守りたかった。お父さんは歳取ってるし、大きい人がお父さんの上に乗ってたから、その時は頭キレたネ！

前田　それはキレるやろ!!　自分のお父さんがやられてるんだったら。

エンセン　どうしてそれで、「大和魂、空回りする」って書かれなきゃいけないの？　あとね、そのケンカでちょっとケガした。だから書いた人と話したら、「エンセンはプロなんだから責任があるし、試合出るってファンに約束してるんだから、そういうバカなことはするな」って言ってた。だから彼は意味がわかってないと思う。お父さんを助けようとしたんだから、バカなことじゃないヨ。

前田　当然や！　自分の親兄弟が襲われたら黙ってられないでしょ。試合どころの話じゃないでしょ。それに仕掛けてきたのは相手だし。

エンセン　その時ワタシ、バカになったね。マチャド（柔術）の方はスゴイ仲いい。なのにオレは大きい声で「ファック・ユー！　ブラジル人」とか「バカヤロー、ブラジル人、柔術のことわからないくせに」とかいろいろ言ってた（笑）。ハワイでは、オレとお兄さんも、中にはマフィアに知り合いもいるから、みんなに電話して「殺しましょう！」って（笑）。オレの島なのになんでブラジル人はワタシたちのこと攻撃できるの？　わかんない、それ。スゴイ頭来たけど、イーゲンはすぐ冷静になるね。でもオレもあとで冷静になったらバカなことってわかった（笑）。感情があると、オレ、ヒドクなるからね。

――でもお兄さんは冷静っていうけど、リングスに上がった時（96・8・24有明）、成瀬昌由選手と乱闘騒ぎになったじゃないですか（笑）。

前田　あぁ、あったな。

エンセン　成瀬はわざとじゃないと思うけど、掌底やった時、お兄さんの目に親指が入っちゃった。すぐ試合をすると見えないから、ちょっと時間がほしかった。でも審判が、「ダメ、闘え闘え」って言ったから、お兄さんは「いいよ、大丈夫」って言って「命賭けて」みたいな感じになってね（笑）。マウントとってグーで殴っていた。それでオレがすぐリングに入って、お兄さんを引っ張ったね。お兄さんは冷静じゃなかった、その時（笑）。

――さすが兄弟！（笑）。

前田　昔はこういう日本人がいっぱいいただろうねぇ（笑）。

エンセン　でも面白かったけどね。ハッハッハッ！

――スポーツ的に見れば、乱闘は確かにいけないことかもしれないですけどね。

エンセン　たまにあればいいね。最近ないから、オレがやってあげるよ（笑）。

前田　ハッハッハッハッ！

エンセン　でもね、オレが思うのは、プロレ

Akira Maeda

髙田さんとも、ケンカなりそーだったネ（笑）（エンセン）

97・5・30ジョージア州で行われた第13回アルティメット大会のライト・ヘビー級トーナメントに出陣したエンセン。セコンドもウェアを「大和魂」で固めているが、エンセンの心も「大和魂」で固まっている！　賢い野蛮人の面目躍如で1回戦突破！（C長尾迪）

スでも格闘技でも、命賭けて100%やったらそういうこともあるよ、ゼッタイ！ しょうがないよ、それ！ 100%出して、ココロ全部入ったらそういうことあるよ、ゼッタイ！

前田 あるある。でもね、俺、エンセンのこと勝手に勘違いしてたな。柔術やってるっていうから、ブラジルから来た日系人かと思ってたよ（笑）。だから、どっちかっていったらブラジルの応援する人かなあって思ってたの。でも、話聞いてたら、彼が一番日本人らしいよ。

エンセン 前田さんもそういう人みたいね。そういうとこあるんだろうなぁとは思ってたけど、オレみたいなとこあるとはわからなかった。前田さんの大ファンになった、ワタシ。

前田 ヘッヘッヘ。話聞いてたら、すごい良くわかるよ。なんか、そういう話しても誰もわかんないからさ。初めてわかる人に出会ったよ（笑）。

エンセン 今度ワタシ問題あったら相談できるネ。

前田 相談に来てよ。俺が真ん中に立つよ。

――でも、機会があったら、エンセンさんの試合をリングスで見てみたいですね。

エンセン オー、やりたいね。まだもうちょっと練習しなくっちゃネ。

前田 いいね～。ウチはアルティメット・ファイトやりたいっていうヤツいっぱいいるから。

エンセン アー、それはいいネ。（タンク・）アボットとか（マーク・）コールマンとかそういうヤツとやりたいよ。別にリングスの山本とか、高阪（剛）とかはやりたくない。日本人は、逆にみんなで練習したいね。もうリングに立ったら誰でも出来るよ。ただ、同じ国に住んでるし、同じ所で練習するかもしれないし。だから避けたいね、それは。

――エンセンさんを見てると、プロレスも格闘技も関係ないんですよ。

エンセン 関係ない関係ない。

前田 もともとはそんな関係ないんだよ！ こんなちんまい世界でね。

エンセン キングダムに練習行く前はみんながワタシに言ったネ。「プロレス弱い、デカイだけ。全員プロレスは弱い」って。でも、1回練習したらビックリしちゃった。金原さんと桜庭さんは強かった！ だからシューティング・ジムで言ったの。「プロレスラーは強いよ。ナニ言ってんの、みんな」って。

――見る方からすると、強くて、凄くて、面白い人が一番いいですよ（笑）。理屈抜きで。

前田 エンセンみたいなナチュラルでバンカラな人間がもっと出ないとダメだね。ホントはね、エンセンみたいなバンカラがカッコいいっていうんだよ。今の若い選手でカッコつけてるヤツ見ると、なんか知らんけど、おとなしくてね。試合見てもカッコつけて相手の様子を見て、自分がちょっとイケそうな時はポコポコポコっていって、あとはガード。そんな余裕があるんだったら、思いっきりウワーッって行って1分1秒でも早く倒さんかい！ってね。

Enson Inoue

エンセン カッコイイ技で倒すとかネ。

前田 そうそう。

エンセン （佐藤）ルミナがそう。ワタシとルミナは反対。彼は試合前に髪の毛直したりとか、カッコイイ技で決めたいとかあるよ。オレは全然髪型とかは関係ない。全部剃っちゃう。あと、決め技もなんでもいい。マウント取ったんなら、キレイな十字とかはとりたくない。相手の心を潰したい！ パンチで。ただ腕が折れちゃいそうだからってタップされるのはイヤ。ホントに〝この人はオレより全然強い〟と心の中に思わせたい。〝再戦したくない〟と思わせたい。（ジョー・）エステスはもう再戦したくない、と言ってるね。それ、サイコー（笑）。

前田 喧嘩でもストリートファイトでも、あとで復讐されないようにしようと思ったら、徹底的にやっつけたらいいんだよ。エンセンが言うみたいに、心を潰しちゃったら、絶対に仕返しとか来ないよね。反対に子分になっちゃうよ。

エンセン それいいネー！（笑）。

――エンセンさん、ホントに嬉しそうですね。

エンセン 前のケンカを思い出してるね（笑）。ホント潰したよ。前田さんに聞きたいのは、今の問題を真面目に話すとね、悪いことされたら、どうやってガマンする？ 前田さんは偉い人だし、ワタシより年寄りだし……。

――年寄り！ 年上ですよ（笑）。

エンセン オー、年上ネ。すみません（笑）。どうやって無視するかってこと聞きたい。オレの問題はね、大きい人でも関係ない、ヤクザでも関係ない。90%は相手が怖がるね。「ごめんなさい」っていうのが多い。ただ、「ナニ、お前！」とか言われたら、スーグ始まる。自分の問題は、失礼なヤツでも、無視して反対の道を行くようにしたいっていうこと。オトナになるまでにね。オトナになったら絶対に無視できると思うけどね。今はまだ出来ない。それが問題ネ。

前田 俺はこの雑誌で人生相談やってってね、この前、その答えにも書いたんだけど、昔ね、今から500～600年前に塚原卜伝っていう有名な剣術のスペシャリストがいたの。その人に3人の息子がいたんだよ。

エンセン ハイハイ。

前田 で、その3人のうち、誰にスペシャル・テクニックの〝一ノ太刀〟っていうのを授けるかってことになった。それを教えてもらうってことは、お父さんの二代目になるということなんだよ。それでテストした。襖の戸を開けたら上からモノがパッと落ちてくるように仕組んで、一人ずつ部屋に呼んだ。それに3人の息子がどう反応するかを見ようとしたわけや。

エンセン ハイハイ。

前田 まず長男を呼んだ。その長男はどうしたかっていうと、襖を開ける前に、それを見つけてどかしてから、「はい、お父さん、なんでありますか」って言って部屋に入った。で、次男は、パッと襖を開けた瞬間に挟んであったものが落っこちてきたから、パッと跳び去って、それが危ないモノではないと確認してから、「はい、なんでありますか」って入った。3人目の息子は、モノが落ちてきた瞬間に刀を抜いて、パッパッと四つに割ってから、「はい、お父さん、なんでありますか」って言って部屋に入った。

エンセン ウ～ン。

前田 で、塚原卜伝は誰にスペシャル・テクニックを教えたかというと、長男なんだよ。それはなぜかというと、未然に危険を察知して、心の準備をしてから部屋に入っ

そのつもりはないんだけど正面衝突やね、いつも（笑）
（前田）

Akira Maeda ×

この対談も問題出るかもネでも、その方が面白いでしょ（笑）
（エンセン）

灼熱の地殻変動'98

たから。
エンセン ハァー、面白いネ。
前田 剣を抜くのはいつでも出来る。いつ抜くかっていうのが大事なんだと。
エンセン 面白いネ。深いよ、コレ。アー、いい話。
前田 自分でわざわざ危ないとこに近付く必要はないっていう話。
——さすが年寄りは言うことが違いますね（笑）。
前田 へっへっへ。当たり前や。それから塚原ト伝のもう一個面白い話があってね。
エンセン オー、教えてほしいネ。
前田 ある時、日本全国を武者修行してた時ね、塚原ト伝が舟に乗って座ってたら、若い侍が、「ワタシと勝負しろ！」って言ってきた。塚田ト伝はその若い侍を見たら、一目見て"たいしたことないな"って気づいたんだよ。で、どうしたかっていうと、「私の流派は無手勝流という名流派だが、ここでは試合をするには狭すぎる。川の真ん中に小さな砂の島がある。あそこで勝負しよう！」って言って、「悪いけど砂の島まで舟をやってくれ」って船頭さんに言って、島に近付いた。その若い侍は島に近づくと、パッと舟から飛び降りて「さあ、来い！」と刀を抜いた。すると塚原ト伝は舟を沖に動かして、「さようなら」と行ってしまった。若い侍は「逃げるのか、卑怯者！」って言ったけど、ト伝は、「これは卑怯ではない。君の技術で僕とやったら、僕は君を殺さないといけない。そんなことをするよりも、こうした方がいい。これがほんとの無手勝流だよ」と言ったんだよ。闘わずして勝つということちゃね。わかる？
エンセン ハイハイハイ。面白い、それネ。
前田 昔の日本男児は、みんなエンセンみたいなヤツばっかりだったから、こういう話がいっぱいあるんだよ（笑）。
——エンセンさん、せっかくだから、あと前田さんに教わりたいことないですか？ 女のこととか（笑）。
エンセン オー、それは誰でもいいから教えてほしいね（笑）。彼女いないしね。
前田 ハワイにいる時は彼女いなかったの？ ハワイに彼女置いてきたの？
エンセン 昔？ ア、そうね。いたいた。オレが先にきて全部ビザ取ってから、日本に一緒に来てくださいって言うつもりだった。その間に彼女は他の男と一緒になった。しょうがないですね。運命がなかったネ。
前田 でもエンセンはモテるでしょ？
エンセン アー、もてないよォ！ 声掛けれないもん、ワタシ。金原さんもそう。一緒にディスコとか出かけても、どうしても声掛けれない。今、金髪とかの若いイヤな日本人の男いるでしょ？
前田 ああいうの嫌でしょ？
エンセン イヤね。「どっかで会ったことあるね～」とか「見たことある～」とか言うでしょ。ワタシ出来な～いヨ（笑）。
前田 俺が女だったら、エンセンにすぐ一発やらせるけどな（爆笑）。今度セッティングするよ、セッティング。へっへっへ。
——佐山さんとはまた違うタイプでしょ、前田さんは？
エンセン 全然違うね！ 全然違うヨ。
前田 いつでもどこでも正面衝突。ガーンって、いつも（笑）。
エンセン 面白いネェ（笑）。オレもストレートだけど、そこまではまだないね。これからかな（笑）。
前田 正面衝突するつもりはないんだけど、なんかそうなってしまうんだよね。自分はシンプルに言ってるつもりなのに、向こうは反対に"なんか裏があるんじゃないか"と勝手に考えてるんだよ。こっちは単純なこと言ってるだけなのに。
エンセン じゃあこの対談でも、いろいろ問題が出るかもしれないでしょォ。
前田 ハッハッハッハッ！
エンセン でも、その方が面白いでしょ（笑）。
——ガハハハ。揉めた方が面白い！ なんちゅう人だ（笑）。
前田 いやー、今のまま、バーンッ！と行ってほしいしね。彼みたいなのは、話してても気持ちいいしね。なんていうか、何も構えずに、ナチュラルにしゃべれるっていうのは気持ちいいよ。こんな爽やかな人間はいなくなったよね。今、選手でも。
エンセン もっと作りたいねぇ、そういう選手。だから、ドージョーで自分のそういう考えとか、いっぱい言ってるヨ。でもみんな大和魂持ってるんじゃない？ でも今の時代は、大和魂なんて出さなくてもいいと思ってるんじゃない？
前田 武道の道場とかでも、今は大会に優勝するためにとか、そんなことしか教えないところが多いでしょ。
エンセン だから、前田さんはワタシが経験してないことも経験してるんで、ワタシも彼と同じような道を行きたいね。今は団体の偉い方だし、ビジネスもやってるし、弟子も作ってるし、あとは、歳取っても（笑）、大和魂を持ってる人になりたいね。そういうことをいろいろ教えてもらいたいね。あと、一緒に練習したい。
前田 これからも、ドンドン大和魂で行ってほしいね。
エンセン とりあえず、格闘技とかプロレスの中にそういう流れが始まればいいネ。
前田 そうだね。だから、男同士の会話はシンプルでいいんだよね。シンプル・イズ・ベストでね。また今度、シンプルな会話をしましょう。
エンセン ア、ハイ。どうもアリガトウゴザイマシタ。

【5月19日、六本木アートセンターにて収録】

灼熱の

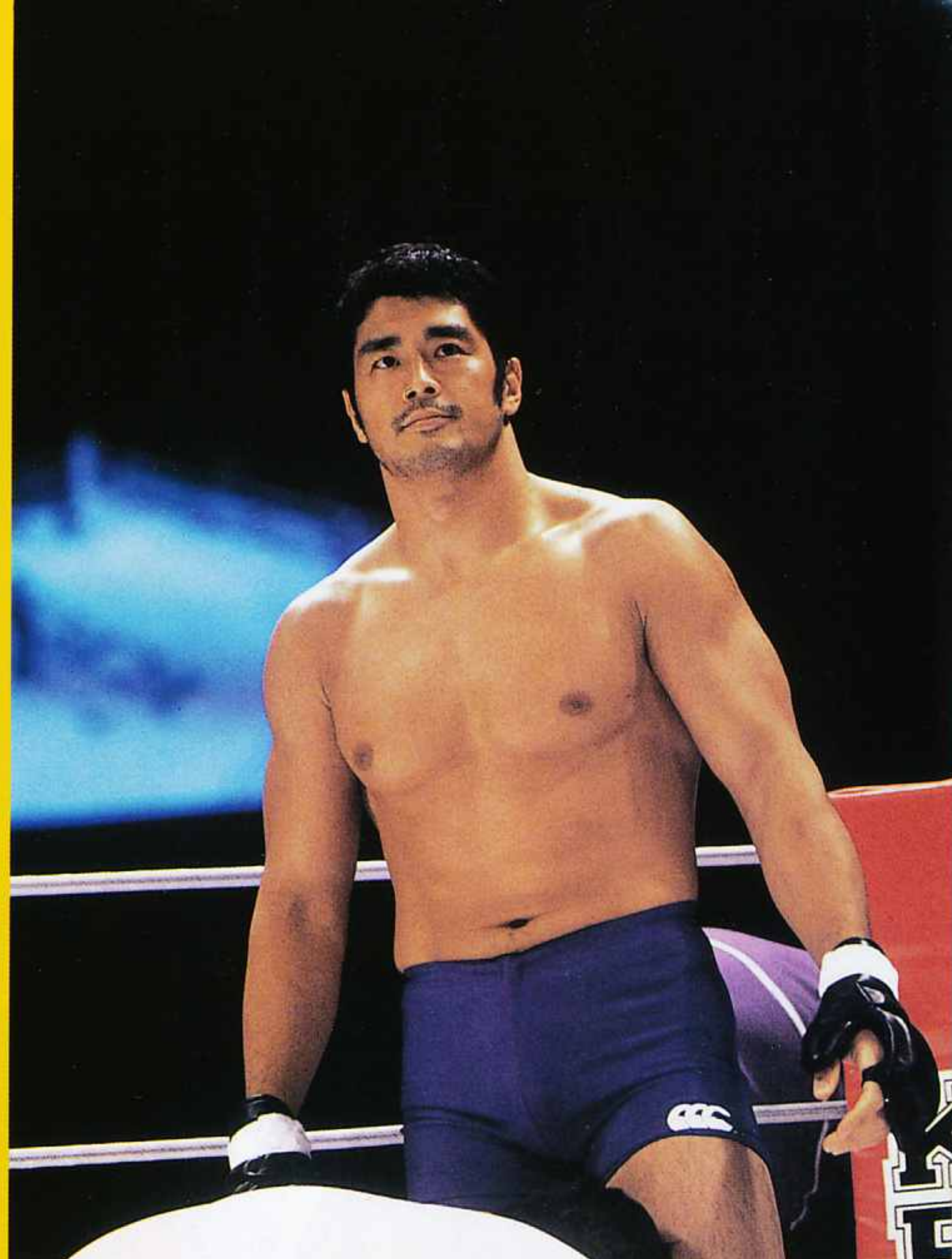
地殻変動'98

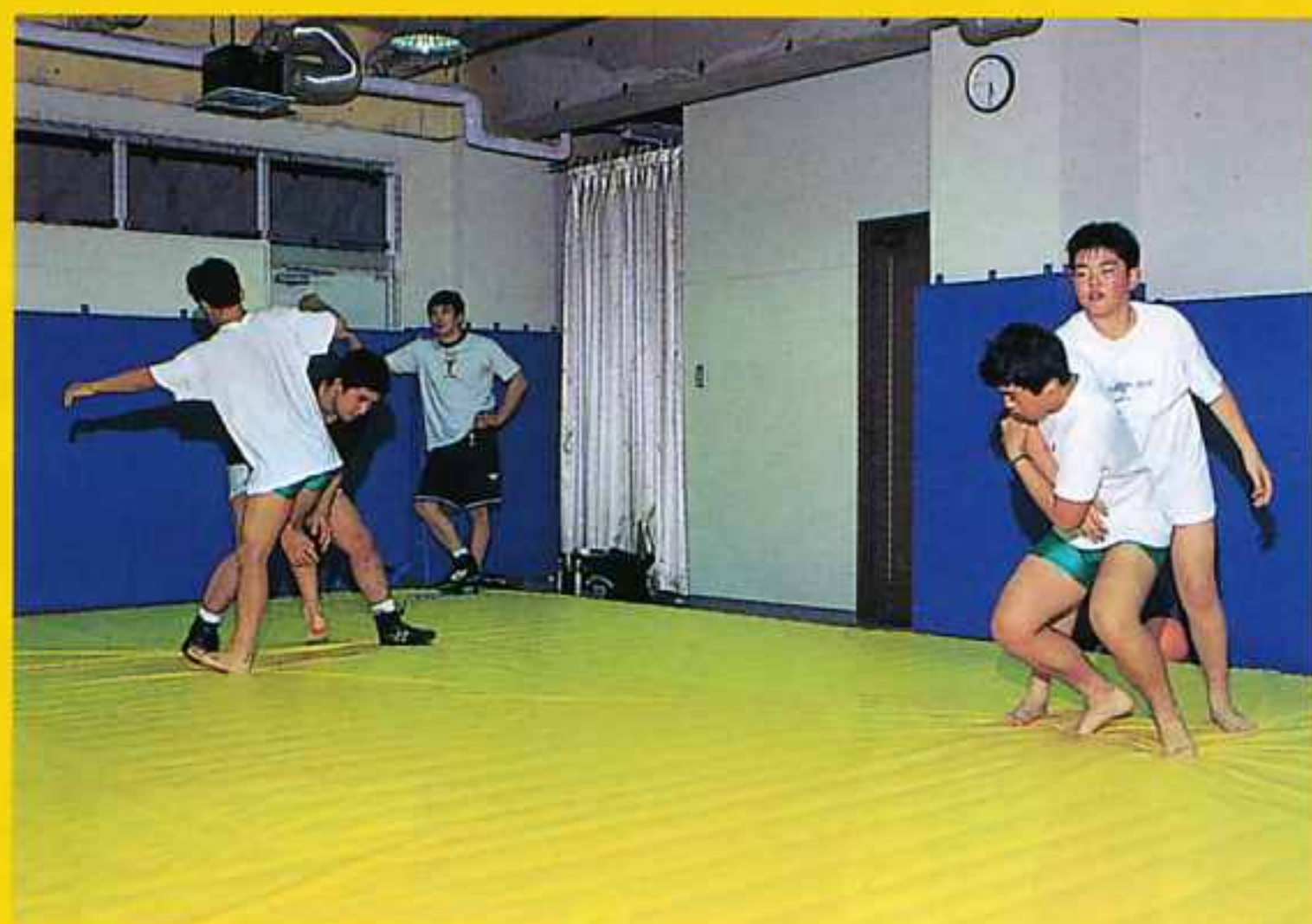
NOBU TAKADA RADICAL INTERVIEW

踏み出せば、
その一足が道となる——
待ってろよ、ヒクソン!!

髙田が元気だ!!

聞き手／山口日昇
interview by Noboru Yamaguchi
撮影／松永源さん
photographs by Gensan Mtsunaga

ヒクソン・グレイシーに敗れてから約半年——。高田延彦は4月中旬から5月中旬にかけて、桜庭和志と共にロスの「ビバリーヒルズ柔術クラブ」で約1カ月間を過ごした。グレイシーの天敵でもあるルタ・リーブリの強豪、マルコ・ファスの元でバーリ・トゥードあるいは柔術の基本を反復するためだ。
「赤っ恥」「弱い」「世界王者と素人がやったようなもの」——“魔の10・11”以降、高田は矢のような罵言雑言を浴びてきた。しかし、それはプロレスというジャンルで強烈に光を放っていた高田だからこそ出てきたものである。ではなぜ、プロレスというジャンルで高田は光を放ったのか？
「ムキ身になったときに光れる“素”がなければ、たとえどんなジャンルであっても光れない」——誰が言ったか知らないが、この言葉をプロレスファンはいま一度噛みしめるべきである。ズバリ言っておくが、当然、高田のムキ身になったときのリアリティはあんなものではない。
そしてヒクソンとの世紀の再戦まで残り4カ月。高田は、ファンが気づかないうちに、とっくのとうに樹海から抜け出している。
あまたの格闘家にはのぞけない奈落の底をのぞいた生身の高田。
そして巨大な“痛み”を知った高田にしかつくりえない、これからの“物語”。
高田延彦を見ていく面白さ。その“広がり”は、現在の高田を直視することから始まるのである——。

——キッズファイターもスクスクと育ってる感じですね。
高田　元気！（笑）。
——元気ですね、彼らは（笑）。そういう高田さんは元気なんですか？
高田　ん？　元気！　いろんな意味で元気だ！
——いいですねえ。で、酒豪・高田延彦はロスでは暴れなかったんですか？　それが一番聞きたかったりして（笑）。
高田　暴れなかったね（笑）。恐ろしいもんだね。メシ食っちゃあ、練習だね。
——で、どうですか。柔術というものと一から接触した感じっていうのは？
高田　うーん、まあ、目からウロコが落ちるような部分っていうのはなかったんだよね。ただ、俺がそれをできないだけだったから。
——ぶっちゃけた話が、35歳にして“生徒”になったわけですよね。
高田　36だよ！
——失礼しました。松田聖子と同い年ですね（笑）。
高田　まあ、でも、本人としては未熟な部分があるからね。俺より経験や技術をたくさん持っている人から教えてもらう時は生徒であるわけでしょ？
——どんな世界でもそうですね。
高田　そう。だから違和感なかったけどね。そりゃ行く前はね、リスクあるし、恥をかかなきゃいけないし、ってね。だから、正直なところ、人の見てないところでできないかなって思ってたよ。
——コソッと（笑）。
高田　でも、それは難しいことだから。どうしても、ああいう環境の中じゃない限り、一からっていうのは無理だと判断して、一生徒として行ったんですよ。
——しかし、あのプライドの高い高田延彦が……。
高田　高くないよ！（笑）。
——よく考えてみれば、凄い大転換ですよね。
高田　何が？
——いや、高田さんの人生そのものが。
高田　激動！　参院選も出たしね（笑）。
——ガハハハハ！　自らフリますか。
高田　ホント、激動だよ（笑）。特にこ こ5年ぐらいは激動だね。半年単位で大きなことがいろいろあったからね。
——実に波瀾万丈ですよね。でも、高田さんの場合は、前田日明やアントニオ猪木みたいに、あまり波瀾万丈という目で見られないところってあったじゃないですか。
高田　うん。なんか“スクスク”って感じでね（笑）。
——キッズファイターみたいに（笑）。
高田　何も辛いことなく、ただ流れに乗

NOBU TAKADA RADICAL INTERVIEW

高田道場でのキッズファイターたちの練習風景。黒いTシャツはキッズではなく豊永稔選手です。高田が写真撮影しているとき、キッズの1人が「いいなー。おれもあーゆーふーにしゃしんとられたいなぁ」と大声で言っていた。キッズ、元気！

俺がドロップキックやってた頃から彼らはバーリ・トゥードやってたわけだし

ってきたみたいにね。出世街道とかって言われてたけど、冗談じゃないよ（笑）。

——プロレス界からも追放されるし（笑）。

高田　とうとう追放されたよね（笑）。

——うちもプロレスマスコミ界から追放されそうなんですよ（笑）。

高田　そんなひどい記事ばっか書いてるの？（笑）。プロレスマスコミっていうのはプロレス雑誌媒体ってことだよね？

——そうですね。その辺からは、いろいろ逆恨みされてるんですよ（笑）。

高田　そういった意味では同じ立場にいるわけだ。ね？（笑）。

——あちこちから叱られてばかりで（笑）。で、今回、高田さんはマルコ（・ファス）先生から叱られたことってあるんですか？

高田　叱られたことってのはなかったけど、叱りたかったことはたくさんあるんじゃないかな（爽やかに）。彼もそこをグッと堪えて（笑）。中身も濃かったし、いつも大きい声で指導してくれてね。

——じゃあ、マルコも元気なんですね（笑）。

高田　マルコ、元気！

——じゃあ、はしょって聞くと、逆にマルコから学んだことってなんですか？

高田　それは内緒！　企業秘密（笑）。足んないとこ多いからさ。

——頭とか？

高田　そこまでいうか！　だから嫌われるんだよ！（怒）。インタビューしてる相手に言ってどうするんだよ、頭が悪いって！

——いやいや、本人の前だから言うんです。裏でコソコソ言いませんから（笑）。

高田　陰で言ってるんじゃないの？　聞いたよ。「高田はプロレス界のワルモノだ」って言ってるって。

——誰がですか？

高田　『紙プロ』の山口っていう人が！（笑）。250人くらいから聞いたよ。会う人、会う人に聞いたよ、裏情報で。

——言ってないですよ！　裏情報はともかく、表の話に戻しましょう（笑）。

高田　うん（笑）。ま、だから、彼らは、俺らがトップロープからドロップキックをやってる時にはバーリ・トゥードをやってたわけだし、バーリ・トゥードのための練習をしてたんだから。そういう人から見たら、オレはまるっきり足りないところだらけだと思う。おそらく頭の中も！

——あぁあ、忘れてください（笑）。

高田　ア・タ・マ・ノ・ナ・カも！　今日は社交辞令はやめよう！（笑）。

——バーリ・トゥード用の頭ってことですね（笑）。

高田　そう（笑）。自分がバーリ・トゥードに出るわけだから、まずはベーシックなところからじゃないと何もできないでしょ。そういう部分の積み重ね。ヒクソンを想定した場合の捌き方の練習。それをマルコは熱心に教えてくれた。

——やっぱり、いままで（カール・）ゴッチさんとかに教わったサブミッション・スタイルとは違うわけですか。

高田　（熟考）うーん、似て非なりだよね。だからといって、そんなに違いがあるわけじゃない。例えば逆十字の入り方ひとつ取っても、やっぱり彼らの場合は、ここ（顔面）が空いたら、まず殴ってからっていう発想があるでしょ。ま、わかってると思うけど、それがあるとないとじゃ全然違うわけですよ。

——そうですね。

高田　だから、サブミッションのガードだけじゃなく、いかに殴られないようにするかっていうガードも含めて考えないとね。向こうも殴るチャンスを見つけながら、なおかつ体勢を崩されないようにしながら取っていくっていうね。僕らがやってきたことは完全に殴るのがなかった。だからその辺の技術が大きく違うわけですよ、パンチがあるとないとじゃ。ただ、それがあるがゆえに、入り方のパターンが変わってくるわけですよ。

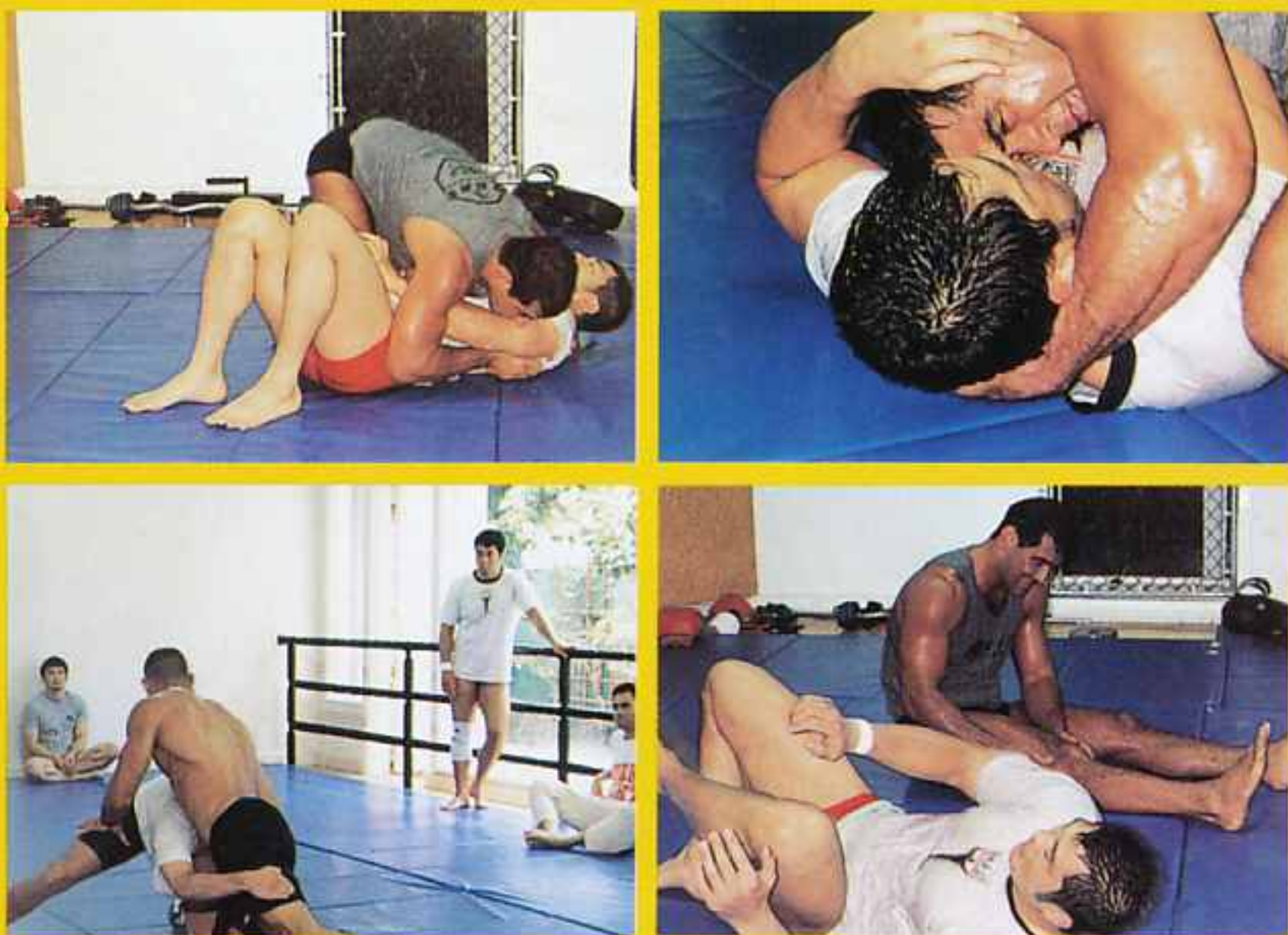
——じゃあ、関節技の「型的」には、ゴッチさんから教わったものと変わりないわけですか。

高田　型的にはね。確かに枝葉的に進化してる部分もあるけども。

——となると、第二次UWFが解散に向かってる頃は技術革新っていう部分ではストップしてたんですか？

高田　いや、個人差はあると思うよ。例えば俺が入門したての時はドンブリ飯何杯食わなきゃならないとかあったけども、少しずつ時間を消化するにしたがって若い選手っていうのは基本的に技術的なことを追求していくしかないじゃない。それしかやることがないんだから。そうじゃない選手っていうのもいたけど、言えるのは、全部が全部ストップじゃないということだね。

——高田さん自身はどうだったんですか？　他競技の技術や知識の情報収集とかは。

高田　もう、ストップどころじゃないよ！　穴ボコに落っこちてたね、落とし穴に。ウェイトばっかりやってたから、太ろうと思って。

樹海に再び入るため、方位磁石の点検をしに桜庭と共にマルコ・ファスの道場へと足を向けた高田。マルコとはベーシックな技術の反復とスパーリングを繰り返した。ここに並べた写真は取材に飛んだライターのド素人写真だが、この様子も収めたプロ撮影の高田密着写真集がスコラから出る予定だ（詳細はＰ28）

灼熱の

地殻変動'98

ヒクソンに技術で追いつくのはムリ。だけど、こういう試合だからこそ、勝てないことはない。楽しみだね

NOBU TAKADA RADICAL INTERVIEW

——Uインターになってからは？

高田　Uインターになってからは、その穴ボコから這いあがったね。その辺はやってる自分が一番よくわかってるから。ボーウィー（・チョーワイクン）が来た時も打撃の技術をね。ただ、おおむね、いままでやってきた技術の繰り返しで、外からのものに対する注意が足りなさ過ぎたね。だから、柔術の技術がここまで洗練されたものだっていうのが、なんでこれだけ情報の豊かな日本に入ってこなかったのか不思議だったね。

——佐山聡さんなんかがいち早く取り入れてましたけどね。だから、そのエリアにいる選手にとってみれば「いまさら遅いんだよ」って声も出てくるわけじゃないですか。裏情報によると（笑）。

高田　遅いのはしょうがないよ。いま目覚ましが鳴ったから、いま起きただけだよ！

——ガハハハ！　うまい例えですね（笑）。

高田　別に起きないつもりはなかったし!!　オレも自分のやってきたことを信じてやってきたわけだから。ただ、それを見過ごすんじゃなくて、目覚ましのスイッチを切って起きあがったんだからね。

——「いいじゃねえか、起きたんだから」ってことですよね（笑）。

高田　歯ぐらい磨かせてくれよ、ってね（笑）。

——ガハハハ！　そうすると、ヒクソン戦は巨大な歯磨きだったとも言えるわけですね。

高田　歯を磨いたら歯槽膿漏で血だらけになっちゃってさ（笑）。だから、歯医者行って歯槽膿漏をジックリ治してから、もう一度歯を磨かないと（笑）。

——しかし、実に大きな歯磨きだったですね。

高田　磨くたびに「オエッ！」ってなってね。飲み過ぎかなって（笑）。

——飲みっぷりいいですからね、高田さんは。

高田　負けっぷりもいいし!!

——ガハハハハ！　何も言ってないですよ、ボクは。

高田　山口さんが相手だと、なんかね、深読みしちゃうんだよ。こういう言葉を引き出そうとしてるんじゃないかと思って（笑）。

——いえいえ。終わったことはどうでもいいんです。大事なのは過去より未来ですから（笑）。で、マルコは柔術界というかバーリ・トゥード界ではヒクソンと並ぶ実力者と言われてますよね。そのマルコとスパーリングして「まだまだかなわない」と思ったのか、「これならいけるな」って瞬間があったのか。

高田　そうだな……。いまの状態じゃかなわないね。だから教えてもらいに行ってるんだから。だけど、これから先ってのはわからない。どれだけ自分が精進するか。そういう情熱があるんだったら、その可能性が出るかもしれない。さっき言ったように、彼が（バーリ・トゥード）やってる時、俺はドロップキックをやってたわけでしょ。だから、それは取り返しがつかない。特にその年代に身に付く技術とかは何倍も違うものなんですよ。とにかく少しでもヒクソンに対して対抗できる技術が100あるとするならば、使えるものを3つか4つブラ下げてリングに上がれるようにね。

——なるほど。

高田　マルコ・ファス先生なり、例えば他の先生なりに素直な気持ちで教えてもらう。それはなぜかって言ったら、自分のプライドを取り戻すためなんだよ！　いま余計なカッコつけてもなんにも生まれてこないしね。どう考えたって、いまからヒクソンに、その分野での技術で追いつくっていうのはムリ。だから、そんなナンセンスなことは考えない。いまからボクシングを始めてもタイソンにボクシングで勝つのはムリ。だけど、こういう試合だからこそ勝てないことはないんだよ。楽しみだね。

——そうですね。

高田　そういう可能性がなかったら、僕は二度とやりたくないと思ってるはずだよ。それはやった人間にしかわからない部分で、勝負になると思ったからこそ、こういう形になってるわけだよ。

——今度のヒクソン戦も、バーリ・トゥードや柔術の技術を一から習ってるからといって、その技術だけで勝負しようというバカな真似はしないと。

高田　うん、そうだね！

——それが闘いの場面の中で見れたら、実に気持ちいいですね。

高田　（TVでかかっていた大相撲中継を指さして）ちょっとこの取り組みだけ見ましょう！

——貴乃花ファンなんですか？

高田　悲壮感あるじゃないですか。頑張ってもらいたいですね。調子悪そうだし。

——悲壮感って部分で、自分とダブらせてません？　さっき自分から「負けっぷり」の話を振ってくれたんで聞きますけど（笑）。

高田　やっぱりその言葉を待ってたんじゃない！　餌まいておいて……この男だけは（笑）。

——違いますよ（笑）。

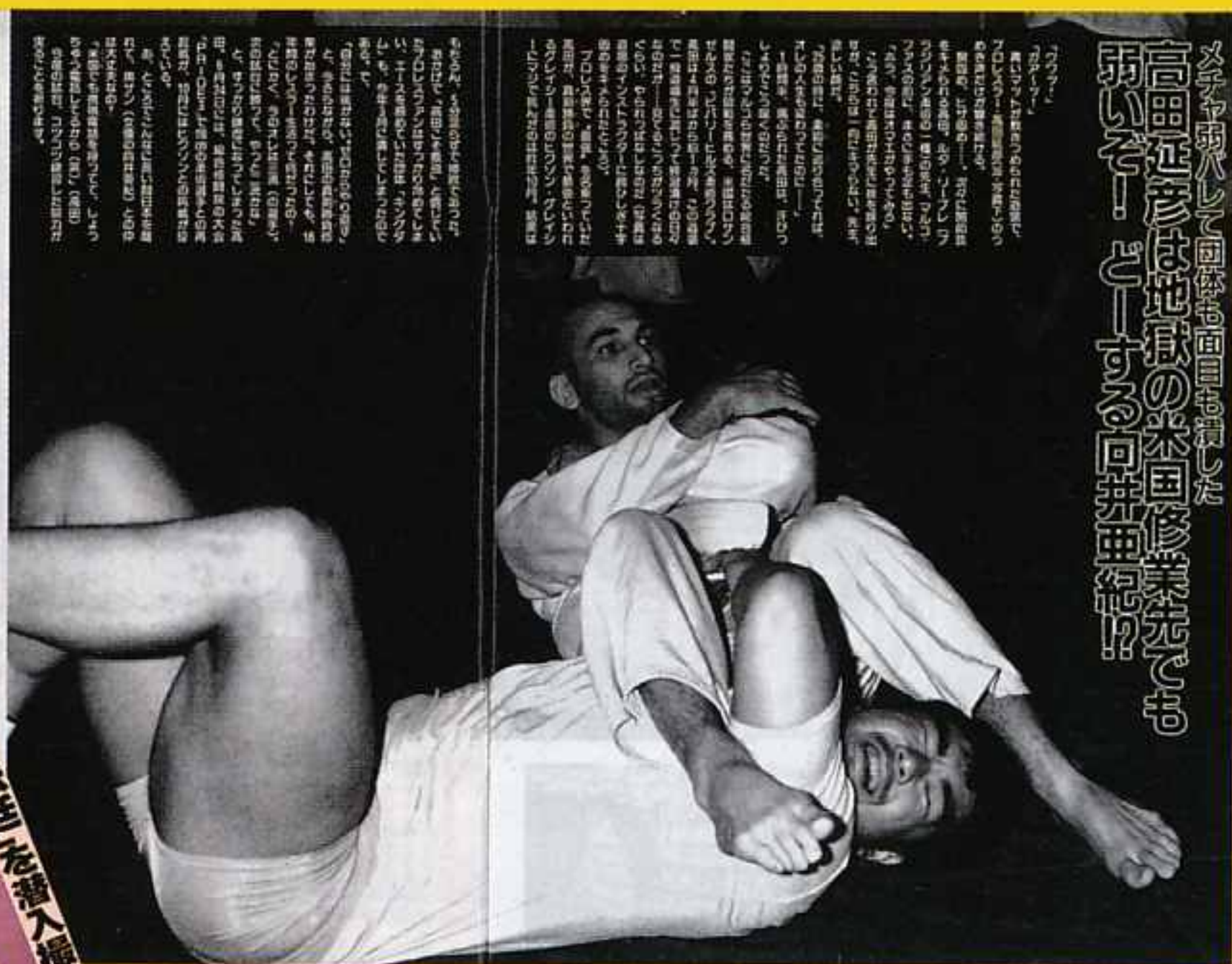
※取り組みは貴乃花が寄り切りで勝つ。

高田　ヨシッ！

——ところで『FRIDAY』（写真参照）にこんな記事が出てたんですよ。

高田　はん？………こんなもんを持ってくること自体、『紙プロ』だよ。ソッとしとけよ（笑）。

——あろうことか、「めちゃ弱バレて団体も面目潰した　高田延彦は地獄の米国修行先でも弱いぞ！　どうする向井亜

メチャ弱バレて団体も面目も潰した
高田延彦は地獄の米国修業先でも弱いぞ！　ど～する向井亜紀!?

これが問題の『フライデー』5／29号だ！
悪意しかない記事内容には高田本人も激怒。本誌も激怒。"世間"にスリ寄っているゴロツキ週刊誌には、これから高田が紡ぎ出そうとしている物語の糸口がまったく見えていないようだ。不幸なことである

紀!?」っていうヨタ記事が出てるんですよね。

高田　うん。

――「最強」と名乗ってた高田延彦がヒクソン戦で負けて、修業先でも弱い、と。もっと極端に言えば「最強」から「最弱」へと落っこちたっていう記事の作り方なんですよね、これは。

高田　それで？　何を聞きたいの!!

――いや、だから、率直に言って、この記事についてどう感じてるのかなと思って。

高田　これは、ホントにね……俺はこの人（高田が写真で腕十字を取られてる人）とスパーリングをしたことはないんだよ!!

――あ、そうなんですか！

高田　つまり、この写真はこの人がボクに技術をやりながら解説してる時のものなのに、あたかもスパーリングで極めているように扱ってると……冗談じゃない!!　これを書いたヤツは取材にきてないんだから、ロスに!!　これを書いたヤツが練習をこっそり覗いて写真を撮って、この判断を下したんなら、しゃーないですよ！　それがこいつらの仕事なんだから。だ・け・ど、お前は来たんか!!　俺はこれを書いたヤツとただの一回も会ってないんだからね。だけど俺にコメントを取ったように書いてあるよね。

――ということは、ロスに取材に行った人間が写真を貸すなりなんなりして、こういう風に書けと、アホなリークをした人間がいるわけですね。

高田　そういうことだろうね。それも捏造してね。

――まあ、これが事実だと仮定して……。

高田　事実じゃないって！

――いや、それは高田さんを信用してますよ。ボクが言いたいのはそういうことじゃなくて、『FRIDAY』が言うところの「最強から最弱」という落差のある人生って凄い……。

高田　何回も何回も「最弱最弱」って言わなくていいよ！（笑）。

――まあ、聞いてくださいよ。リングってよく考えてみると四方向、つまり四面から見られてるわけですよね。

高田　うん。

――だから、ステージと客席のように一面しか見せない関係じゃないわけですよね。それこそ応援する人もいれば、『FRIDAY』もいるし、専門マスコミもいるし、裏情報を流す人間もいるし（笑）、四方から様々な視線に晒されてますよね。

高田　うん。

――だから、例え弱い部分をさらけ出しても、なおかつ人々の視線を射返すというか、闘いを通じて強い部分を突き刺していける人を「プロレスラー」と呼びたいんですよ。だから高田さんには、ズバリ言って、こんな戯れ言には負けてほしくないって思うんですよね。

高田　全然負けてないよ!!　大いに結構ってことでしょ。逆にここまで書かれた

ら、もう書かれようがないからね（笑）。どんどん書いてくれ！ってとこだね。

——だから、Uインター時代にはこういう記事が出ることもなかったけど、ヒクソンに負けてこういう記事も出てくるようになった。これは、ある意味で喜ばしいことですよ。多角的に語られるっていうのは大物スターの証しですから（笑）。

高田　冗談じゃないよ！　まったく人ごとだと思って……この男だけは（笑）。

——でも、お涙ちょうだい的な再起物語という意味じゃなくて、高田さんの今回の踏み出し方は、実にドラマチックですよ。ムキ身になった分、なおさら。

高田　ドラマチックかどうかわからないけどね（笑）。でもとにかく、俺としては自分のやらなければならないこと、あるいはやりたいことに対して素直に行動したことがマルコの道場に行ったことであってね。自分自身に足りないことを自ら感じて、それで作り上げていってるわけですから。だけど、その過程を取材ということで第三者に見せるのは、僕にとってはハイリスクな部分ってあるわけだからね。

——そうですね。高田さんのような落差を味わった人間はそうそういないんだから、深い部分での心中がわかるわけないんですよ、世間の人間に。

高田　だから本来、恥は試合だけで人に見せればいいんだよ。勝った負けたは

「フライデー」？　法律がなかったら「お前の人生終わらしたろか！」ってね

競技者においては誰でもあるからね。だからなおさら、取材に来てもいないヤツらがこういうことを勝手に、「高田の18年間は何だったのか」みたいな文章を付け加えてね。俺の18年間を説明してみぃって。法律がなかったら「お前の人生を終わらしたろか！」っていう感じだよね!!（怒）。

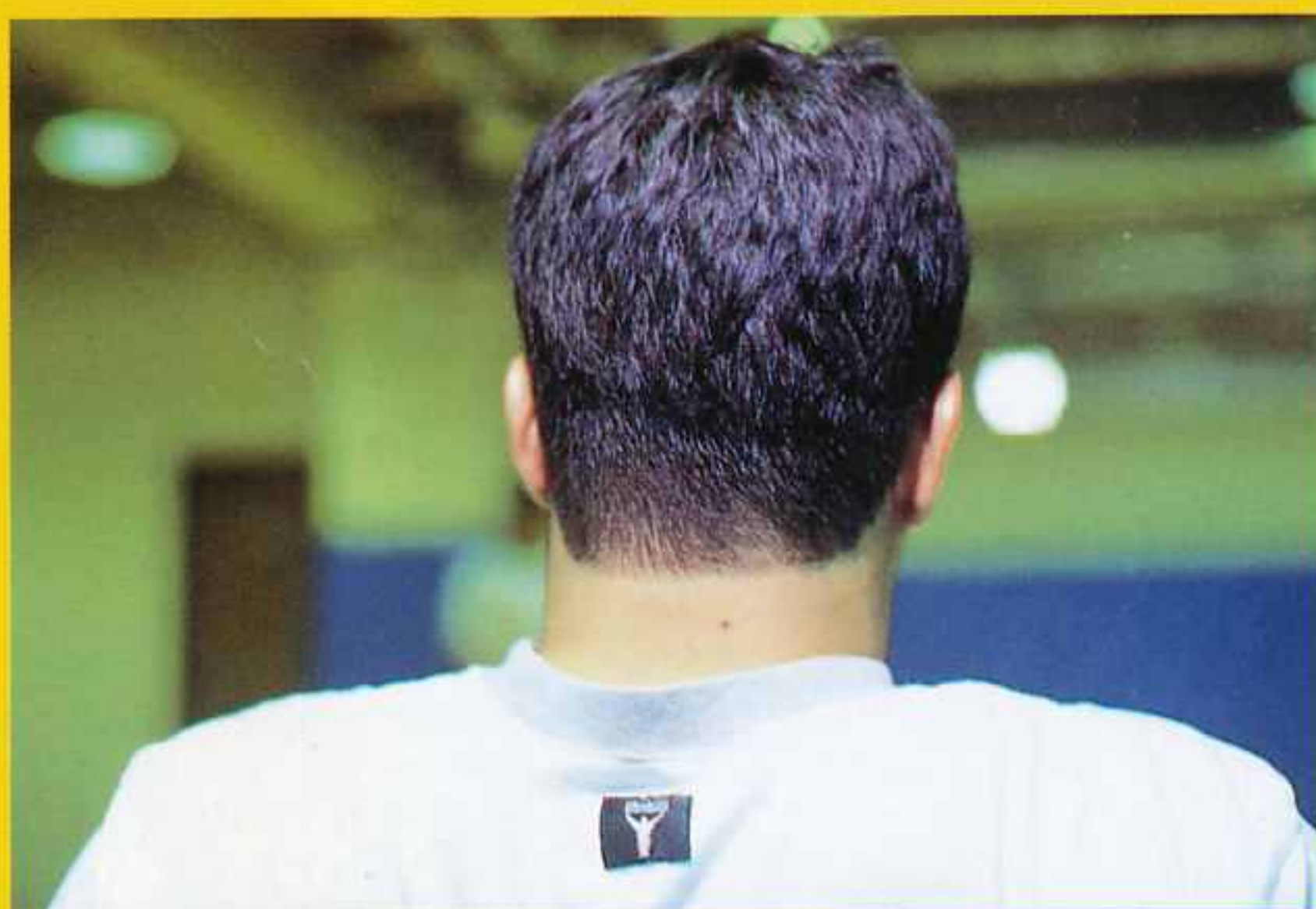
——素敵です！　前田さんだったら確実に女子便所に連れ込んでますね。

高田　とにかく、本業で結果を出すしかないんだよ。それが俺にできる最大のアクションだよね。

——わかりました。ところで、桜庭さんとはロスでだいたい一緒に行動してたんですか？

高田　だいたい一緒。部屋に入ったら別だけどね。あいつは自分のペースってものがあるし。その中で周りを見てないようで見てるし。

——それはズバリ言い表してますよね、桜庭さんを（笑）。

高田　ただ、ボォーッとしてるだけじゃ、あんな選手になれるわけがないんだから。スイッチの入れ方がうまいんじゃないの。天性のものだね。ただね、向こうで部屋を決める時、最初はベッドが二つ並んでる部屋しか空いてなかったんですよ。先輩の俺としては後輩の考えてることがわかるから、一緒の部屋なんか絶対イヤだろうなって思ってね。それで試しに「どうする？」って聞いてみたんですよ。「それだけは勘弁してください!!」って、珍しく自己主張してたね（笑）。

——ガハハハハ！　和志君の初めての自己主張って感じですか？

高田　そう（笑）。強かったね、あの時の口調は。目がニラんでたもん（笑）。

——ガハハハハ！　で、その桜庭さんはいま高田道場で、先生として一般の人にもレスリングを教えてる。高田さんが新日本に入門した頃と大分変わってきてて、興行と道場経営がクロスオーバー化したり、目には見えにくくても、マット界にはいま、確実にうねりが起こってますよね。

高田　うん。

——高田さんは毎日、こうやって道場にきて、そういううねりみたいなものって感じますか？　それともマット界はもうどうでもいい？

高田　そういう気持ちはないです！　やっぱりマット界にはどんどん良くなってもらいたい。ただ、1年先、2年先が予測できないんだよね。古き良き時代の人たちがどんどんいなくなっていく。現場が若返っていくっていう状況を見ていくと、考え方とかも変わってくるしね。これから興行会社イコールプロレス団体というシステムがなくなってきて、プロモートするところが別に存在するようになるのか。また、そういうところに選手がどんどん出ていくのか。ただ、それでいい方向に行くのか、さらにバラバラになるのか、その辺はいまのところはまったく見えないしね。現実問題、格闘技の興行っていうのが必ずしも利益が上がるという状況じゃないでしょ。

——はいはい。

高田　いいのはK－1だけ。決して格闘技ブームじゃないでしょ。この先、アルバイトしながらプロレスやるんかい、ってことになったら、それじゃ夢も希望もないじゃない。仕事が終わったあとに集会所に行って踊りを踊るんじゃないんだから。ね？　やっぱりベーシックに夢を与えようよ、と。みんなが憧れるような、まさしく力道山のような存在っていうのかな。

——いま思いきり戻りましたね、時代が（笑）。

NOBU TAKADA RADICAL INTERVIEW

前田さんは、マット界全体で暖かく「お疲れさまでした」と送らなければダメ

高田　でも、ある意味、それが一番のマット界の頂点でしょ。子供からおじいちゃん、おばあちゃんまでに人気があって、それで強いっていうね。ここに来てるキッズたちは僕らのファイトなんか見てないと思うんですね。むしろ親の方が知ってるわけですよ。それじゃ悲しいじゃないですか。

――そうですね。その子供たちがオン・タイムで見て、レスラーに憧れを抱くようなマット界を作っていきたいってことですよね。

高田　そうです！　やっぱりまずは〝一体感〟じゃないかな。俺たちがこれを守るんだっていうもの。新日本プロレスだったら新日本プロレスを守るんだっていう気持ちだね。俺が新日本にいた時は一体感が熱くあったよね。団体が二つか三つしかなかったから、当時は。

――実に熱かったですよね、あの頃の新日本は。

高田　こんな狭い世界で、「あれは別の会社だから関係ねえよ」みたいな、そういうんじゃなくてさ。それと、第三者が見て「プロレスラー」って納得できるレスラーがたくさんいる世界を作るというかね。そっからだよ。そうじゃないと「リュック背負って後楽園ホールに来ました。ファンだと思ったらレスラーでした」とかになってバカにされるだけだからね。「マット界っていうのはこうじゃなきゃいけない」「サッカーとか野球を追い抜かすんだ」っていう凄く大きな志を持ってる人間は、いま少ないでしょう。だから、そういう風にするには最低限のテストをしようよ、と。それに受かったヤツは、例えばリングスに行こうが、みちのくに行こうが、高田道場に来てくれようがいいじゃない。それぞれ好きなスタイルでやればいい。でも、プロレスラーっていう一つの定義づけを作っていかないと真面目にやってるヤツは情熱をなくしていくよね。ミソもクソも一緒だとさ。

――高田さんとか前田さんがまだ新日本にいる頃、みんな〝ムキ〟になって自分の団体を守ろうとか、対抗団体に負けないようにしてましたよね。ムキになる感覚がいまは凄い希薄に思えちゃう。例

高田道場
TAKADA NOBUHIKO

灼熱の地殻変動'98

NOBU TAKADA RADICAL INTERVIEW

え違う団体であっても、「黙ってられねえぞ！」というエネルギーを出し合ってお互いにレベルアップしていった方が、結果的にファンにも夢を与えることができるんじゃないかと思うんですよ。

高田 例え、一時期悪く言いあってもね、同じ世界で生きているんだから、爪の先ほどでも連帯感ってものがあれば、悪い方向には行かないと思うんですよ。だから、いまのマット界は非常に乾いた感じがするよね。いまの現状だったら、お互いがお互い、意識の中では関係ないからね。だって、そこら辺のなんだかわからないお兄ちゃんにだって団体ができるんだから。そういうのと連帯感を持てって言われても、逆にこっちが引いちゃうよ。

——だから、いまの状況を見ていくと第二次UWFが解散していろんな団体に分かれた。でも、分かれたことによって細部での技術の向上ってあったと思うんですよ。それをもう一回、一緒になって団体を起こすとかいうレベルじゃなくて、意識の上で集結させていく時期なんじゃないですかね。

高田 うん！

——だから、桜庭さんなり、髙阪さんなりがその先駆けであり、古き良き時代の一端も知っている高田さんが、その先駆けの中にいる意味って非常に大きいと思うんですよ。それが見えてないマスコミとかファンって多いと思うんですよね。

高田 今度はホメ殺し？ な～んか山口さんの言うことはねぇ（ニラむ）。

——なんでそうやって疑うんですか！（笑）。

高田 山口さんだから！（笑）。

——そういうのを裏読みっていうんです（笑）。

高田 「ミスター裏読み」に裏読みって言われたか（笑）。なんせミスターが付くからね！（笑）。

——で、話は思いきり変わりますが（笑）、前田さんがマットから降りることに関しての率直な思いを聞きたいんですけど。

高田 ……永遠に現役でいられるわけないけど、自分の中で前田日明は、永遠に格闘技者って思ってるから、ラストマッチなんて響きがすごくブルーになるね。寂しすぎるよ。俺なんか入門したその日からずっと、あの人の背中みてやってきたからね。いろんな意味で疲れたろうなぁ、本当にお疲れさまでしたっていう気持ちです。ただ、あの人自身が枯れちゃうんじゃなくて、この世界で現役でやっていく上では、気持ちが枯れてくる時期だろうなっていうのが、よくわかるよね。ケガもたくさんしてるし。引き際の気持ちの決着っていうのは、前田さん本人しかわからないし、出来ないことなんだよ。誰も口を出せないんだ。ただ、ここまで頑張って引っ張ってきた前田さんに、マット界全体が暖かく「お疲れさまでした」と送らなければダメだよ。

——わかりました。じゃあ、最後に復活戦のカイル・ストゥージョン戦（6・24日本武道館）。この一戦に賭ける意気込みなどを。

高田 まあ、ベストを尽くしてね。負けると次につながらなくなっちゃうから……ガンバルゾッ!!（ちっちゃな声でちっちゃなガッツポーズ）。

——ガハハハハ。そんな！ キッズファイターじゃないんですから（笑）。

高田 キッズファイターを見習って、ちっちゃくガッツポーズ（笑）。世界は広いゾッ！ 世界を見なきゃダメだゾッ！（ちっちゃな声でちっちゃなガッツポーズ）。

——ガハハハハ！ ということで、ムキ身の高田延彦の強さと面白さが爆発することに期待します。頑張ってください！

高田 ウシッ！（大きなガッツポーズ）。

【98年5月20日、東京都大田区池上・高田道場にて収録】

6・24『ＰＲＩＤＥ．３』で高田の復帰戦に名乗りをあげたカイル・ストゥージョン。キモと同じジョー・モレイラ道場所属。キックボクシング、ボクシング、拳法、レスリング、ブラジリアン柔術という格闘技歴を誇るが、その実力は謎のベールに包まれたままである。1967年生まれ。190cm、102kg。

戦闘スマイル全開か封印か
“殺戮の微笑青年”

桜庭和志の“キラー”の片鱗が見えた!!

聞き手／山口日昇
interview by Noboru Yamaguchi
撮影／松永源さん
photographs by Gensan Mtsunaga

灼熱の

地殻変動'98

6・24『PRIDE3』で桜庭和志vsカーロス・ニュートン（サバイバル柔術『サムライ・クラブ』）という格闘技ファン垂涎もののカードが行われる！
しかし、期待と不安、二つ我にあり――！
〝圧倒的に面白そうだ！〟という期待と〝桜庭は日の出の勢いのニュートンに勝てるのか？〟という思いが交錯して、ドキドキ感とワクワク感を増幅させる。
桜庭は、意外にも闘志ムキ出しで「ニュートンには負けたくない！」と言い放った。果たしてその理由とは何か？
今回は、戦闘スマイルを封印した、〝キラー桜庭〟が姿を現すのか――。それとも勝って戦闘スマイル全開となるのか――。
今号が発売された約1週間後には結果が出ているが、その後に読んでも非常に味わい深いと思われる〝桜庭イズム〟を、キミの〝ツボ〟に刷り込むショート・インタビュー。どうか居眠りをせずにお読みください（居眠りをした後に読んでもヨシ）。

――4月中旬から5月中旬にかけて、髙田さんと共にロスにあるマルコ・ファスの『ビバリーヒルズ柔術クラブ』に修行に行ってたわけですけど、ビバリーヒルズの近くだったんですか、宿は？

桜庭 ………。地理がわからない。

――は？

桜庭 どこにいるかわかんない。

――もう場所はいいです（笑）。でも、その宿で「髙田さんの隣に寝るのだけはカンベンしてくれ！」ってハッキリと言ったらしいじゃないですか（笑）。

桜庭 ベェ！ 言ってないですよ！（笑）。ただ、髙田さんが「俺の横だと気になっちゃうだろ」ってジロッと睨むもんだから……。

――髙田さんは「桜庭がこれまでした自己主張の中で一番強かった」って言ってましたよ（笑）。

桜庭 言ってないですって。でも心の中では言ってたかもしれないです（笑）。やっぱ気を遣うじゃないですか。

『ビバリーヒルズ柔術クラブ』で連日、練習に明け暮れた桜庭（中央）と高田（左）。指導員の言葉に耳を傾ける顔も、ゲームをやってるときと同じように真剣だ（トーゼンです）

ロスでもゲームに高じる桜庭。オクタゴンに入る前よりコワイ顔だ。隣は、『FRIDAY』で"高田を極めた人"と誤って日本に紹介されたイーサン・ミーディアス氏

――結局同じ部屋じゃなかったんでしょ？

桜庭 出入り口とリビングは一緒なんだけど、二つの部屋に分かれてるとこなんですよ。

――なるほど。それで、なに聞こうと思ったんだっけなぁ。

桜庭 あ、向こうは気候が良かったですね（ニコニコ）。

――ガハハハハ！ うまい！ いま、桜庭和志の試合スタイルの一端がわかったような気がしましたね。人のやる気を削いどいて、機をみるに敏で一気に切り返す（笑）。

桜庭 ヒャハハハ。いや、いまのはシャレで言ったんじゃないですよ。だって向こうは日本より湿気がないじゃないですか。カラッとしてるから（笑）。

――気候のことはどうでもいいんですけど、向こうのアマレスのチャンピオンかなんかを見事に投げちゃったらしいじゃないですか。

桜庭 アー、相手が疲れてたからじゃないですかねぇ（笑）。一本背負いがポロッと掛かりましたからね。

――向こうでも「あのニコニコしてるちっちゃいのはなんなんだ？」って、かなりの噂になったらしいですよ（笑）。

桜庭 いやぁ。向こうでは基本的には柔術のクラスに混じってボクらも教えてもらってたわけですから。

――柔術は見切りましたか？

桜庭 いやぁ、普段やってることと、また別のパターンっていうのは頭の中に入りましたし、自分でパッと思いついた技とかもありましたけど、教わったことは基本的なことばっかりだったんで。あっ！ でも、アマレスで「差し」の練習をやるじゃないですか？ あれを手と足でやるのとかは勉強になりましたね。それはメモりました。

――桜庭和志がメモった（笑）。

桜庭 だって忘れちゃうじゃないですか（ニコニコ）。それやると足の使い方が器用になるんですよね。

――足でメシが食えるくらい（笑）。

桜庭 メシまでは食えないけど、車のハンドル回せるくらいはできるんじゃないですかぁ（笑）。

――柔術の選手は足の使い方がホントにうまいですからね。

桜庭 そういえば、マルコさんの足はデカかったですよ！（両手を肩幅ぐらいに広げて）こ～んくらいありましたよ！

――いくらなんでもそんなわけないじゃないですか。肩幅はない！（笑）。

桜庭 うぅ……。でもでも、高山（善廣）さんぐらいか、高山さんより大きいくらいですよ。

――あ、それはデカイですね。マルコ選手は見てて強いと思いましたか。

桜庭 手足デカイから。手足デカイ人って力が強いじゃないですか。でも、ボクはマルコさんとは1回もスパーリングはやってないんですよ。

――ところで6・24の『PRIDE3』ではビッグカードが決まりましたね。

桜庭 松井vs……。

――そうじゃなくて！（笑）。そうくるんなら聞きますけど、松井選手は誰とやるか知ってるんでしょうね。

桜庭 ……。わかんない（笑）。

――ガハハハハ！ お見事です。実はボク、桜庭和志っていう人vsカーロス・ニュートンというカードが異常に楽しみなんですよ。

桜庭 松井にフザけて「松井、決まったよ、お前。ニュートンとやるみたいだよ」って言ってたら、ボクに来ちゃいました（笑）。ニュートンは強そうですね。アルティメット（5月15日アメリカ・アラバマ州）で見たんですけど、強そうでしたよ。

――本場のアルティメットを見て、「オレも出てぇゼ」って思わなかった。

桜庭 う～ん、あんまり（笑）。わざわざあっちに行ってまで試合したいとは思わないです。

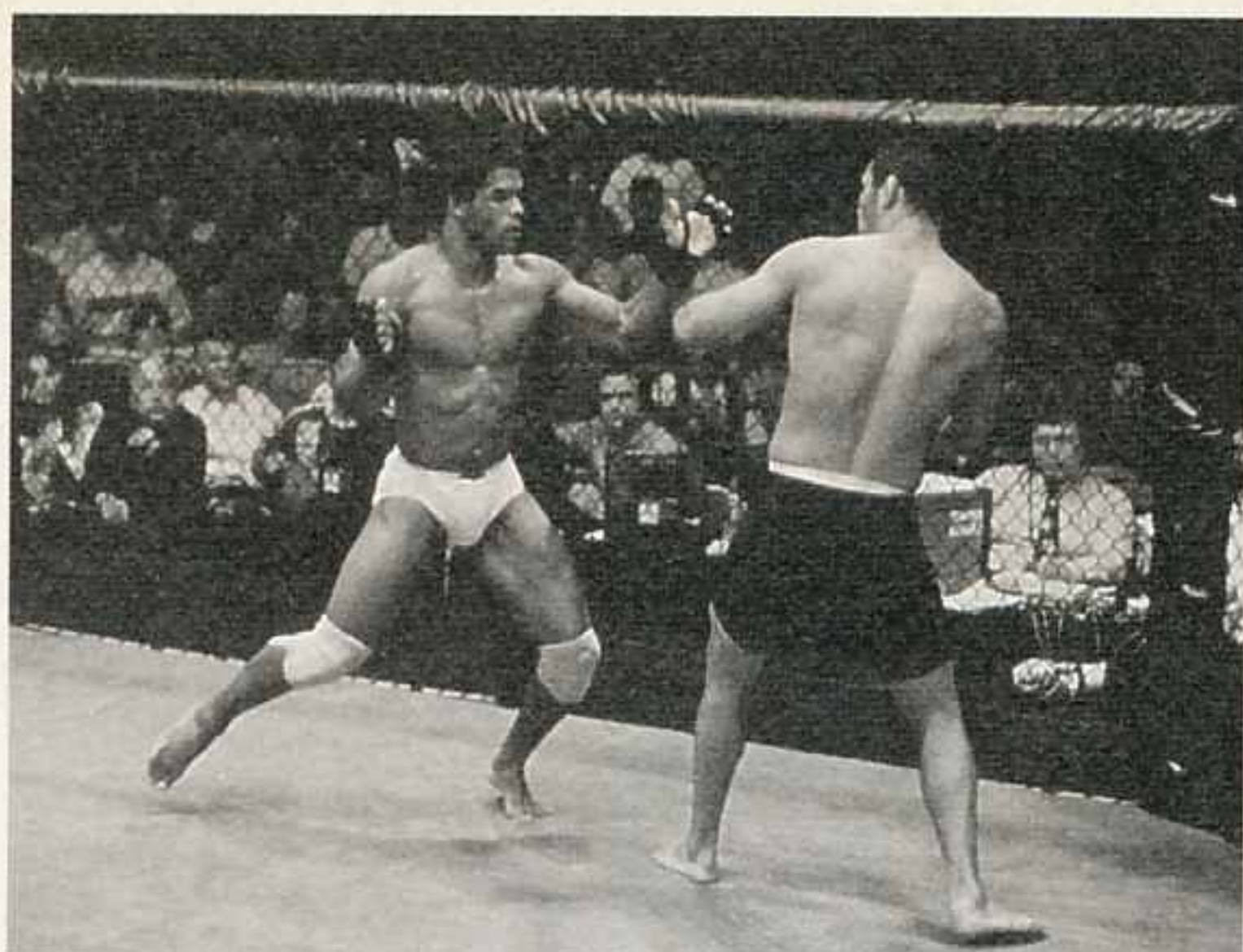
――そういう理由なのか（笑）。

桜庭 面倒じゃないですか（笑）。2～3時間だったらいいですけど、10時間近く飛行機に乗るのはイヤです。

――じゃ、グァムとかだったらいいと。

桜庭 その辺だったらいい（笑）。

――ああ、肩の力が抜ける（笑）。アルティメ

グァムとかだったら UFCとかに出てもいい

【右】見てみぃ、この笑顔！　5月15日、アラバマ州で行われた「第17回ＵＦＣ」を観戦した桜庭は、荒々しい雰囲気の場内でもやっぱり桜庭だった。【中央】その第17回ＵＦＣに登場した〝褐色の宮本武蔵〟カーロス・ニュートン。ミドル級トーナメント制覇は判定の末に惜しくも逃したが、存在感と技術はピカイチ。さすが、昨年11月の「ＶＴＪ97」で修斗ライトヘビー級王者、Ｅ・パーソンを秒殺し衝撃の日本デビューを飾っただけのことはある。【左】6・24はそのニュートンが桜庭の相手。総合格闘技界のニューヒーロー同士の激突には胸が躍る！

ヘンゾともしやったら精神的にボロボロにしてやりたいです

Kazushi Sakuraba

ットの会場では、ファンに「あ、サクラバだ！」とか言われませんでしたか。「見ろ見ろ、あいつアルティメット・ジャパンの優勝者だぜ！」とか（笑）。

桜庭　ちょっと言われました（笑）。アメリカのそういう系のファンの人からは、「写真、撮ってくれ」って。なんかカメラ小僧みたいな人が来ました（ニコニコ）。

――で、実際に試合を観戦して、印象に残った選手というと？

桜庭　カーロス・ニュートン。

――あ、やっぱり。

桜庭　日本に一番最初に来た時（97年11月26日、vsエリック・パーソン戦で初来日）から注目してましたから。秒殺で極めちゃいましたよね。だけど、アルティメットで見た時はけっこう試合が長かったから、あらためて「うまいなあ」って思って。

――ミドル級トーナメントの決勝では判定で敗れてしまいましたけどね。

桜庭　あれは負けたっていうか、どっこいどっこいですよ。相手が地元だったから勝ったようなもんだと思いますよ。

――ホームタウン・デシジョン？

桜庭　そんな感じですよ。でも、パンチはうまいですけど、キックがヘタくそですね。

――そこにつけいるスキがあると。ズバリ言って勝算はありますか？

桜庭　わかんないですね。またいつものように自分のパターンに入れば勝てると思いますけどね。でも、負けられないですよ！

――おお！　珍しく豪語しますね！

桜庭　だって、彼は若造じゃないですか！

――若造ときましたか！

桜庭　彼は21歳ですよ！　ボクは今年29歳ですよ！　ボクが小学校1年か2年の時に生まれたんですよ。

――そんな年下に負けてられるかと！

桜庭　でも負けたりして（ニコニコ）。

――せっかく盛り上がったのに、なぜそうくる（笑）。

桜庭　でも、いつもよりは緊張するかもしれないですよ。

――桜庭和志のドシリアス・バージョンが見られるかもしれないですね。

桜庭　それはちょっとわかんないですけど。たぶん、フザけます（笑）。

――いや、なにも無理矢理フザけなくてもいいですよ（笑）。

桜庭　いま練習してないんですよ。ロスの10日めくらいに足の親指を痛めちゃいました。それで今日、初めてウエイトやりましたから。まあ、問題ないと思うんですけど。

――気分的にはどうなんですか？

桜庭　気分的には全然悪くないですよ。だから、勝敗じゃなく、面白い試合を期待してください。見た感じには面白い試合にはなりますよ。

――いや、絶対面白くなりそうですね。

桜庭　ボクが相手を見た感じでは手が合いそうな気がします。

――寝技の攻防も目が離せないですね。

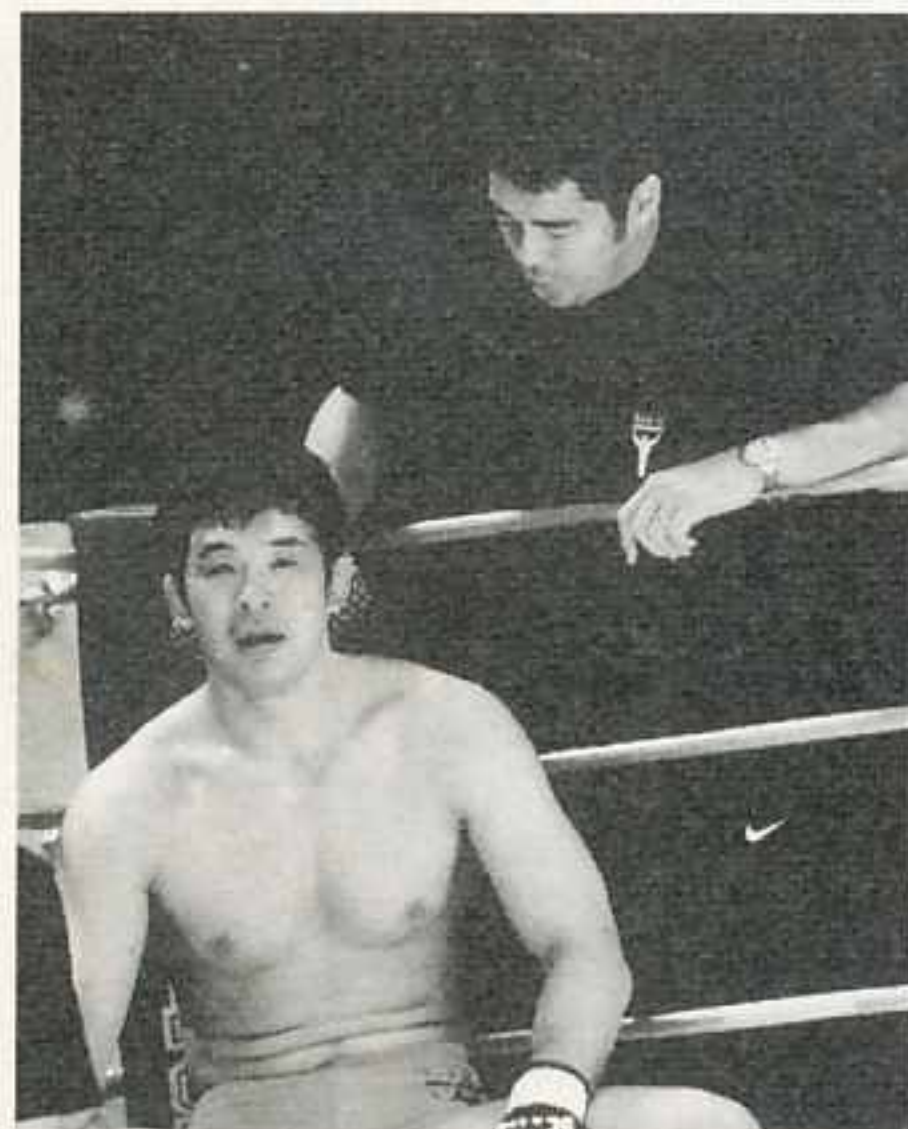
桜庭　なるべく膠着状態にならないようにします。なんとか動けば。

――でも、ニュートン戦を勝ち上がると、今度はいよいよヘンゾ・グレイシー戦あたりが浮上しそうですよね。ヘンゾと当たったらどうなると思います？

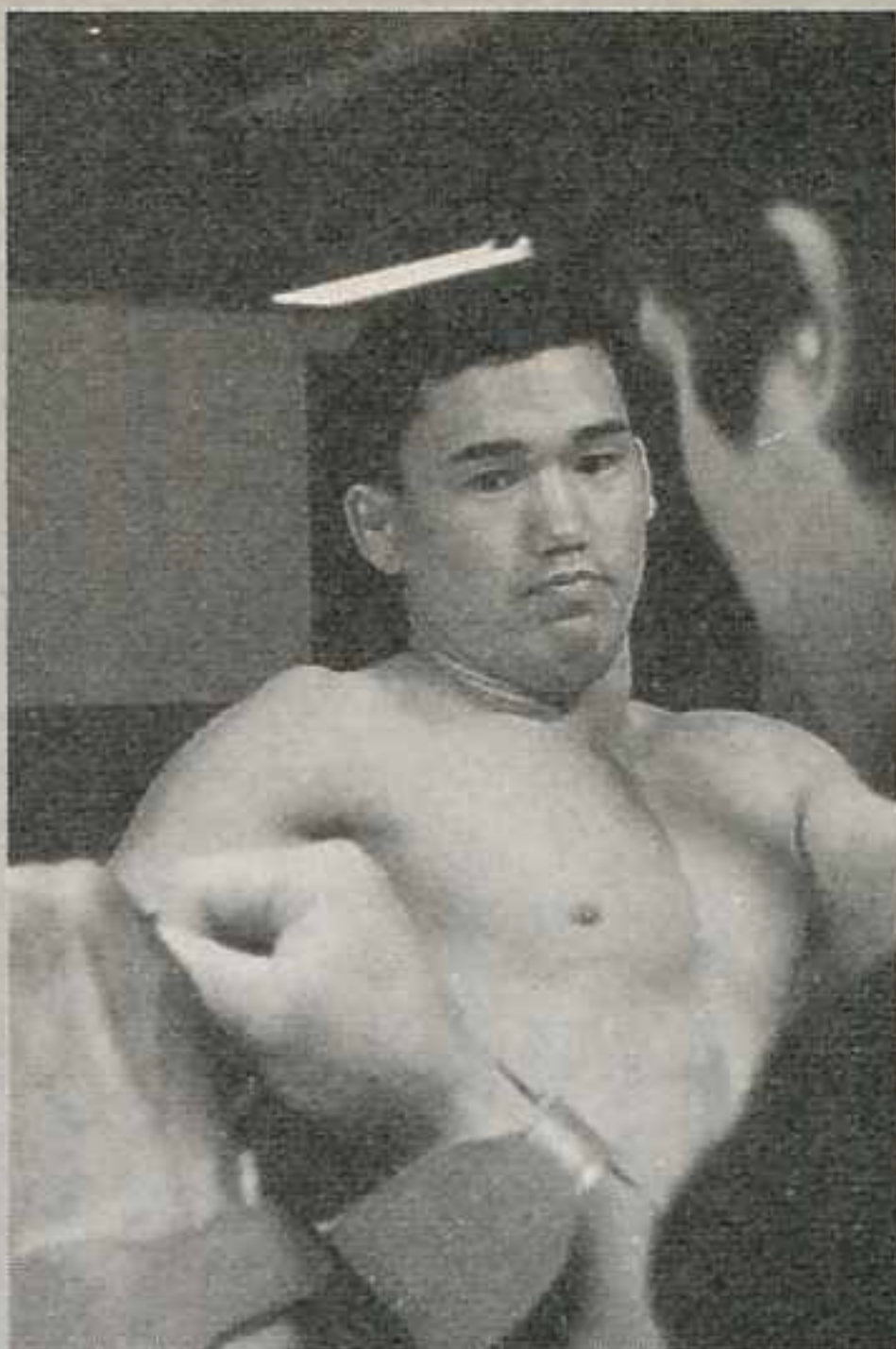
桜庭　勝ちたいとは思いますよ。ただ、やってみないとわからない。練習で肌を合わせてる人だったら展開がどうなるか、なんとなくわかるじゃないですか。だけど、やったことのない人だと、わかんないですからね。でも、ボコボコにしたいです！

――エ!?　衝撃発言ですね！

桜庭　ボコボコにっていうか、殴る意味じゃなくて、精神的にボロボロにしてやりたいっ

3ヶ月ぶりのリングは〝ボール〟が相手だ!!

上と左は、3・15『PRIDE 2』で元パンクラシストのV・T・ホワイトを破ったときの桜庭。『3』で対戦するニュートンは「転がるボールのような闘い」を目指すドレッド野郎。桜庭と同タイプだけに“無重力対決”を“ボール”が制するか、“ニコニコ”が制するか、非常に興味深い

松井駿介

高田と同じ日にリングに復活!!

現在、シューティングで活躍中の須田匡昇とは大学時代、一緒にUインターを見に行き、熱く語り合った仲だとか。かわいい瞳とは裏腹に、ハードな格闘人生を歩んでいるのである

松井駿介——身長178センチ、体重88キロ。中、高、大学を通じて柔道歴10年で三段を取得。平成8年9月30日、岩手県営体育館でvs上山龍紀戦でデビュー。UWFインターからキングダムを経て、高田道場に参加し、現在は選手兼、道場でインストラクターを務めている。今年1月以来試合を行っていないが、6・24に復帰戦を行う高田延彦と奇しくも同日にリング復帰となる。

と定石通りつらつらとプロフィールを書き連ねてみたのだが、そんなんじゃ何も伝わらないだろう。とにかく、その松井が、高田、桜庭に続いて高田道場3人目のプロレスラーとして6・24に行われる『PRIDE.3』のリングに登場する。注目の対戦相手は、「何が日本最弱じゃ～」「もっともっと闘いたいんじゃ～」と熱すぎて寒さを感じた人も多いマイク・アピールで〝格闘技界の大仁田厚〟の異名を欲しいままにする小路晃（和術慧舟會）に決定した！ ちなみに、この一戦は『PRIDE』のリング上で行われる初の日本人対決でもある。

高田と慧舟會の関係は、過去に間接的な因縁がある。『PRIDE.1』で高田がヒクソンに敗れた際、慧舟會のボス・西良典が一部誌上で「エンターテイメントと真剣勝負は違う」と発言。プロレスファンと日明兄さんの怒りを買いまくったのは記憶に新しい。対戦する2人には何の接点も因縁もないが、松井は否応なしに高田道場のメンツやプライドを背負って闘いに臨まねばならないのだ。

しかも、相手はプロレスラーではない。ヘンゾ・グレイシーと引き分けたとはいえ、普段は搬入業に就いている準プロ格闘家である。心置きなく練習に打ち込める環境の整った松井としては負けられない一戦である。松井自身もレスラー人生で初の大試合で、さぞ意気込んでいることだろう。というわけで、松井を直撃してそこらへんの意気込みを聞き出そうと試みた。

松井　ボクって誰か有名人に似てませんか？ 学生の頃からよく似てる言われる人がいるんですよ。

——は？ 誰？

松井　女優さん（笑）。

——女優～？ 全然わかんねえです。

松井　清水美砂（笑）。

——ああ、言われてみれば！

松井　でしょ？ ヌフフフフ（笑）。

インタビューが始まった途端、肩の力が抜けきった話題になってしまった。デビュー2年も経っていないのに、ずいぶん落ち着いた物腰である。非常にいい意味での完全脱力主義＝桜庭イズムが高田道場内に浸透しているおかげだろう。肩に余計な力を一切入れずとも、妙に力強い。それが高田道場イズムなのかもしれない。出鼻を見事にくじかれてしまったが、話題を肝心の小路戦に移してみた。

——『PRIDE.3』で小路晃選手と対戦しますが、小路選手についてはどんな印象を持ってますか？ いままでの2戦を見た感じとしては？

松井　やっぱ、強いんじゃないんスか。『PRIDE』のリングも経験してる人なんで胸を借りるつもりで闘いますけど。はい（笑）。

——ヘンゾと引き分けてますよね。

松井　凄いッスよ。彼も柔道やってたんですよね。

——おまけに元プロレスラーですから。

松井　え！ そうなんスかッ！

——誠軍団1号というリングネームでやってたらしいですよ。KRSオフィシャル・ブックの編集長がある本に書いてましたから。

松井　はぁ。

どうやら松井は、小路が誠軍団1号だったことをホントに知らなかったようだ。マニアックな見方をすれば、この試合にはU系出身者vsインディー経験者という隠しテーマもあるのだ。

——どんなところが強いと思います？

松井　この間（98年3月15日）も勝ってますからね。

——僕の個人的な意見を言わせてもらうと、高田さんを「エンターテイメント」と言い放った西良典の門下生を松井さんが破ったらメチャクチャ痛快だと思うんです。

松井　そうッスね！ でも、あんまり深く考えずに。あんまりビリビリしてもね。桜庭さんを見習ってラクにいこうかなぁって思ってますけどね。

——試合直前に居眠りしたり（笑）。

松井　緊張しちゃうんでたぶんできないと思いますけど（笑）。

——試合の結果いかんでは、言葉は悪いですけど「ただの若手」から大きく羽ばたいていく可能性もありますよね。その試金石がこの小路戦。出世試合になるかもしれないですよね。

松井　はい。がんばりますぅ。

——対戦相手の小路選手になんか言うことありますか。

松井　小路選手はなんか言ってました？

——小路さんは取材してないです。

松井　じゃあ別にないです！（キッパリ）。

——最後に、ファンに向かってメッセージはありますか。

松井　う～ん応援してください（笑）。……ボク、つかみどころないですか？

——メチャクチャないです（笑）。実績積んでからしゃべる方なんですか。

松井　どうスかね、ヌハハハハ。

こちらの質問に、なんとも引っかかりのない返答をするのも桜庭イズムか。しかし、やはり胸の中には燃えたぎるものがあるはずだ。それをリング上の闘いから感じとるのが、ファンのつとめというものである。

（構成＝坂井ノブ）

灼熱の

地殻変動'98

ていう気持ちはありますけどね。

——頼もしい！「待ってました！」って感じですよ。

桜庭　偉そうにしやがってっていうのはありますからね。

——今日は〝キラー桜庭〟の片鱗が見え隠れしてドキドキしますよ。

桜庭　でもコロッと負けるかもしれない（笑）。

——だから、せっかく盛り上がったのに、なぜそうくる（笑）。桜庭さんがロス滞在中にホームランまで打った野茂（英雄）とか、海外で活躍している日本人を見て、オレも世界に羽ばた……。

桜庭　全～然、思ってないです。

——と思ったから、途中で言うのをやめました（笑）。

桜庭　有名になりたくないですよ。ラクな方へラクな方へ行きたいですね（笑）。

——ガハハハ！ でも実際は、けっこう厳しい道に入り込んでますよね。背負うものが確実に増えてるというか。

桜庭　そうなんですよねえ。ボクもそう感じます（悲しそうな顔で）。

——もしヘンゾに勝ったりしたら、また名前が上がって、さらに厳しい道にいくことになりますよ。

桜庭　あ、じゃあ、ニュートンに負けるのはイヤだけど、ヘンゾ戦で負けたらいいじゃないですか！（急に明るく）。

——なぜだ！（笑）。

桜庭　それは冗談ですけど、でも、もっと試合したいですよね。年に8回くらい。

——刻みますね（笑）。桜庭さんは試合やるのが楽しそうですもんね。

桜庭　やる前はイヤですよ、ピリピリと緊張して（ニコニコ）。

——ピリピリ？（笑）。

桜庭　やっぱり緊張はしますよ（笑）。でも、終わると試合したくなりますね。

——やっぱり桜庭さんは面白い！ 今度も圧倒的に面白い試合を期待してますよ。

【5月20日、高田道場にて収録】

Showちゃんの もち必読!

超スーパーウルトラオススメ日記 賛同させてよ!'98

全国1億3千万人の『紙のプロレスRADICAL』(以下、『紙プロR』)読者のみなさん。毎号、『紙プロR』を盛り上げているShowです。いつも応援ありがとう! さて50万円の大枚をはたいてパンクラスの永久会員(NO3)になった僕ですが、いろいろあってもう3カ月も広尾道場に練習に行っていません。そんな僕が今回、必死の思いで単行本『U～多重アリバイ～』&高田延彦写真集『72/744～史上最高の敗北者～』(ともにスコラ刊・6月26日に同時発売)を制作しましたので、50万円払って『紙プロR』から2Pを買いとり(おい、ホントかよ!?)、その制作秘話を含めた日記を掲載することになりました。どうぞ読んでみてください。きっと賛同すること請け合いです!! (カタブツ氏は読まなくていいよ)。

4月4日、東京ドーム

アントニオ猪木引退試合取材。とにかく「ありがとーッ!!」とその功績に賛同。

4月7日、高田道場

高田道場の初取材。高田延彦&桜庭和志インタビュー(『東京1週間』5/5・5/12合併号掲載)終了後、次いで佐野友飛インタビュー(『紙プロR』前号掲載)。またこの日、高田延彦写真集『72/744～史上最高の敗北者～』で初公開する高田の日記を見ながら、昨年の〝10・11〟の話をする。「ヒクソン・グレイシー戦後……」と話はじめると、ここで高田の口から意外な人の名前が出る。「あの日、自宅に帰ったら、前田(日明)さんから……」というのだ。「えっ、前田さん?」と驚く僕に、高田は思わず胸が熱くなるような話を……。詳しくは高田写真集『72/744』にて。この内容には絶対に賛同するはず(必読!!)。

5月6日、ロスの日本メディカルセンターに高田が痛めた首の診察ために訪れる。院内でも高田は人気者。みんなからサインをせがまれていた

4月9日、横浜アリーナ

K―1KINGS98を取材(『紙プロR』前号掲載)。ゲストで来場していた高田が言い放った「Showちゃん、アメリカで待ってるから」の言葉に完璧に賛同。急遽、高田の柔術特訓(4月半ばから1カ月間)を取材しに、アメリカ行きを決定!!

4月12日、神奈川県内某ホテル

山崎一夫インタビュー(『スコラ』5/28号掲載)。面白い話がたくさん聞けた。これは新生UWF旗揚げ10周年を勝手に記念して、僕が最大級の力を注いだ単行本『U～多重アリバイ～』(スコラ刊・6月下旬発売)にも収録することに自分で思わず賛同(超スーパーウルトラオススメ本!!)。

4月14日、都内某ホテル

(対談)藤原紀香vsマイク・ベルナルド取材(現在発売中の『ペントハウス』6月号掲載)。

4月22日、後楽園飯店

パリンヤー・ギアップサバー(オカマムエタイ戦士)&エマニエュル・ヤーブロウ(310キロのアルティメットファイター)来日記者会見取材。

4月24日、横浜某ホテル

パリンヤー・ギアップサバー(前述の通りオカマムエタイ戦士)インタビュー(これも『ペントハウス』6月号掲載)。マット界はとにかく彼(彼女?)を見習うべき。その「プロ」ぶりに賛同。

4月26日、横浜アリーナ

SHOOT THE SHOOTO XX取材。やはり注目はパリンヤー。日本マット界は、この16歳のオカマから大事なことを学んだに違いない。「単なるオカマ」とタカをくくった人間は必ず後悔するだろう。

4月27日、富徳

(周富徳の中華料理店)

僕の奇才ぶりが発揮された単行本『U～多重アリバイ～』に収録するため、『紙プロR』の山口日昇編集長と「UWFとはなにか?」座談会。結局、僕が奇才ぶりを発揮しすぎて終わらずにスコラ編集部に移動(早朝まで)。

4月29日、弁慶

(プレジデントホテルB1Fにあるシャブシャブ屋)

結局、前々日だけでは終わらなかったので、再度、嫌がる山口日昇『紙プロR』編集長を監禁状態にし、続「UWFとはなにか?」座談会。最終的には合計20時間のトライアスロン座談会になってしまった(20ページブチ抜き座談会となった、掟破りの単行本『U～多重アリバイ～』はもち必読!!)。

ロスの『ビバリーヒルズ柔術クラブ』で高田と桜庭に挟まれてふんぞりかえりやがるShowちゃん(中央)

5月1日、東京ドーム
全日本プロレス取材。三沢光晴vs川田利明の激しさに敬服、いや賛同。

5月2日、成田空港
アントニオ猪木インタビュー（『スコラ』6／11号掲載&未掲載分は、パンクラス公式読本『矛―HOKO―』の姉妹本『盾―TATE―』に収録）後、同行していた、愛しの佐山聡との会話。
――佐山さん、焼けましたねえ。
佐山　ああ、ダメダメ。これは日焼け（サロン）だから。それより、大谷さん（僕の本名）、痩せましたねえ。
――それ、1カ月前に会った時もいってましたよ（笑）。

5月5日、成田空港からロスに到着。
高田を追いかけ、ついにロスまで来てしまった。高田延彦写真集『72／744』の担当編集者A氏とホテルでひと休み後、高田のいる場所へ向かう。約1カ月ぶりに高田と再会。「ホントに来たの？　いや、首をなが～くして待ってたよ」と爽やかに高田。思わず「それはロスでも賛同できないよ」とばかりに「嘘つきですねえ（笑）」といってしまった。その後、車に同乗。夕食行きの計画に賛同し同席。

ロス市内で桜庭が見つけた瞬間に迷わず買った『ドラゴンボール』のオモチャとTシャツ。

5月6日、ビバリーヒルズ柔術クラブ
午前、柔術特訓中の高田と桜庭を初取材。あの高田が正座をして話を聞く姿に衝撃を受ける。その後、昼食に同行。車内で高田と様々な話をすることに賛同。

6日、再びビバリーヒルズ柔術クラブ
マルコ・ファスと高田の戦慄のスパーリングを目撃。その後、桜庭が「携帯電話を持っていてください」というので受けとると、「5分後に爆発しますから」と笑いながらつぶやく。ホテルに戻って、ターザン山本氏（落武者）、『週刊プロレス』の佐藤〝凡人〟正行記者ほかに国際電話。アメリカ行きを知らせていなかったので一様に驚く。賛同しろ!!

5月7日、ビバリーヒルズ柔術クラブ
午前、高田と桜庭の柔術特訓を取材。その後、空港へ向かうため、両者に挨拶。去り際に桜庭がニヤッと笑いながらまた一言。「靴の底に爆弾仕掛けときましたから」。それにしても、やはり2泊4日はツラすぎる。これは賛同できない。

5月15日、P's LABで鈴木みのるに打撃を教わる（？）藤原紀香ッチ

5月6日、ワールドジムでの高田のウエイト・トレーニングを取材中、ジム内で日本プロレスに来日経験を持つハードボイルド・ハガティと出会う。「当時、イノーキに『サノバビッチ!!』といったら、イノーキも意味がわからず、『サノバビッチ!!』と言い返してきた。4年前にここでイノーキと会った時に、その話に花を咲かせたこともあるゼェ」と、70歳を超えてもまだ現役バリバリの体をした老人は言っていた。現在は映画を中心に役者活動中

5月12日、後楽園ホール
パンクラス取材（P49の『BOUT REVIEW』参照）。

5月13日、廣戸道場
米国取材の疲れか、体中がボロボロのため、治療してもらうと、だいぶ楽になる。廣戸聡一さん（パンクラスレフェリー兼コンディションアドバイザー）に感謝。そして、その技術と気迫に賛同。

5月15日、P's LAB
〔対談〕藤原紀香vs鈴木みのるを撮影後、西麻布にあるイタリア料理屋、カポ・ペリカーノに移動し取材。猪木の引退試合に来なかった件を鈴木に質問すると、「行かなくて良かった」とポツリ。理由を聞いて賛同。詳細は6月30日発売の『ペントハウス』7月号にて（もち必読!!）。

5月20日、自宅
粉骨砕身の単行本『U～多重アリバイ～』に掲載する座談会の原稿構成に『紙プロR』の山口編集長激怒!!「おまえはプロレスを語るのはやめて田舎に帰れ！」と言われる。結局、山口編集長の構成案に迷わず賛同&修正。

5月21日、株式会社ローデス
業界騒然（予定）の単行本『U～多重アリバイ～』に使用する題字をサダハルンバ谷川氏（格闘技評論家）に頼む。なかなかの達筆ぶりに感心し、賛同？　またこの日、来る10月11日の東京ドームで発売すると思っていた高田延彦写真集『72／744』を、担当編集者のA氏から「6月24日の『PRIDE．3』で先行発売する予定」と聞く。「聞いてないよ！」「いったはずです！」の押し問答の末、A氏に賛同（当たり前か）。

5月23日、高田道場
6月発売と聞き、急遽、高田延彦写真集『72／744』の追加取材のため、最後の高田インタビュー。やっぱり爽やかな高田に、当然のことながら賛同。

5月26日、スコラ編集部
高田写真集『72／744』に収録分の最終原稿チェックのため、高田と電話で打ち合わせ。要件を終えると、「Showちゃん、頼んだよ」との高田の言葉に、顔面を硬直させながらも賛同。

5月30日、自宅
現在発売中の『スコラ』（6／25号）に掲載されている「高田のページ（仮）」の原稿をFAX。これで僕が心血を注いだ単行本『U～多重アリバイ～』と高田延彦写真集『72／744』ともども、抱えているもののすべてがどうにか間にあった。自分の頑張りに賛同!!……させてよ。

※『紙プロ』編集部注：今回、Showちゃんの書いた日記の構成&内容にはいっさい本誌は賛同していません。でも、下の広告の2冊はそれとはまったく関係なく「もち」必読ですので、どうか誤解なきよう、よろしくお願い申しあげます。押忍。

バトに強い紙プロが送る濃密な3ページ

バトラーツ爆発記念企画

B-MANIA

B-マニア

THE STORY OF GENTA HAGA

バトラーツ初代営業

芳賀元太伝説

協力
島田レフェリー

「なにがなんだか……」

初めまして。で、で、伝説の芳賀元太です。なんでボクのページがあるの?「まったく、なにがなんだか……」。確かにボクはバトラーツの初代営業でした「いや、これホント!」。あっ悪いけど、これから柔術の練習があるんで「いかねば!」。タイミングが悪い?「わざとらしいことこそリアル!」っていうことで……「さあ来い!」?

●芳賀元太語録『むしゃしゅぎょー!』

島田レフェリーが米・フロリダのマレンコ道場でくつろいでいると、一人の青年が訪ねてきた。実に歯のよく突き出た青年は、勢いよくドアを開け「武者修行に来た!」。驚いた島田レフェリーが「何しに来たの?」と聞くと、青年は「いや〜、あの〜、むしゃしゅぎょー!」。それからというもの青年は、スパーリングで"ギューギュー"言わされても「むしゃしゅぎょー!」。金をくすねられても「むしゃしゅぎょー!」。もう何を聞いても「むしゃしゅぎょー! むしゃしゅぎょー!」だけだった。勝手に来て勝手に修行して勝手に帰っていった、それがこの芳賀元太なのである。

●芳賀元太語録『いかねば!』PART1

帰国後、しばらく音信不通だった元太から、「何日か泊めて下さい」と島田レフェリーを頼って藤原組に電話があった。それから三ヶ月、元太はチャンコ番として道場に住み込むようになった。ある日、元太のもとに高級ホテルでの食事のお誘いが入った。元太はスーツは持っていたが、靴を持っていなかった。持っていたのはレスリングシューズだけだった。そこで元太はそのレスリングシューズのアシックスのマークを黒く塗りつぶし、満足げな表情で一言「これで一安心! いかねば!」。後にも先にもレスリングシューズで高級ホテルへ入ったのは芳賀元太ただ一人だけだろう。

●芳賀元太語録『いかねば!』PART2

バトラーツの営業となった元太は、その日金沢に行くことになっていた。そこへ島田レフェリーがやってきて「お前、事務所の鍵掛けた?」と聞くと、元太は何故か自信満々に答えた「いや、掛けてないです」「お前、掛けなきゃダメだろ!」と島田レフェリーが言うと、元太は「いやッ、でもッ、……いかねば!」と鍵も掛けずにビュ〜ンと走り去っていった。元太は「いかねばじゃねェよ、待て元太!」という声も振り切り、そのまま金沢まで行ってしまったのだった(ちなみに元太は、その金沢でサウナに入って遊んでいたため当然のように営業成績は上がらなかった)。

●芳賀元太
プロレスデビュー編

バトラーツに南アフリカのプロレス団体から「選手を貸してくれ」という要請があった。島田レフェリーがなにげに「元太、お前行けば？」と言うと、元太は即座に「はぁい」と答えた。こうして唐突に元太のデビューが決まった。元太は空手着を着てカンフースタイルの「カラテキッド」というレスラーになった。元太はデビュー戦でいきなり池田大輔選手の試合に乱入し、相手の首を帯で絞め「フーッ！　フーッ！」などとワケの分からないアピールをしはじめ、観客の大ブーイングを浴びた。元太はアフリカで大ヒールだったのだ。

●芳賀元太語録
『なにがなんだか……』

南アフリカ遠征の前日、朝の5時まで飲んでいた元太は、ベロベロのままチャリンコで空港へ向かった。元太が飛行機に乗れたか心配して「元太が来たら連絡をくれ」と空港に伝えてはいたが、出発時間の12時を過ぎても連絡は一向に入らなかった。（元太は空港に12時10分に着き、ギリギリで乗ることが出来た）。しばらくして元太から連絡が入った「今、マレーシアぁ」「お前、朝の6時に出たのに何で12時に着かないの？」と聞くと、元太は「いや、なにがなんだか……」（元太は空白の時間、酔っ払って、日比谷線を何往復もしていた）。

●芳賀元太語録
『死んでもタオル投げないで下さい！』

元太は働いて貯めたお金を実家の改築費に充てたりと、親孝行な一面も持っている。しかし、新居に元太の部屋はなかった。たまに実家に帰っても、元太の寝る場所は仏壇の前だった。元太は家族から疎外されていたのだ。そんな元太に後楽園のルナパークで試合をするチャンスが訪れた。元太はセコンドに言った「死んでもタオル投げないで下さい！」。ゴング直前、元太は再度「絶対にタオルを投げないで下さい！」と力強く言い切った。が、しかし、数分後、元太はあっさりタップしていた。元太にはそういう情けない一面もあったのだ。

来いっ！

イラスト／田中稔先生
（日展応募経験なし）

●芳賀元太語録
『たのも～』

他の営業マンがポスターを貼らせてもらおうと、ある道場を訪ねた所、門前払いにされてしまった。それを聞き、怒った元太は「殴り込んできますよ！」「たのもぉ～！」とその道場の扉を開けた。「何だね君は」道場主は聞いてきた。「道場破りだ！　強い奴、出て来い！」。道場主は「何をやってるんだ君は？」と冷静に聞いてきた。元太は「柔術！」と答えた。道場主は言った。「入会の申し込みはこの紙にね」元太は言われるがままに申し込み用紙に記入し、頭をヒネりながらスゴスゴと引き上げた。早い話が入会しただけだったのである。

●芳賀元太語録
『さあ来い！』

その頃、カメラマンE氏とそりが合わなかった元太は、酒の勢いを借り「Eさん、あんた間違ってる！」とカラみ始めた。元太は、フラフラしながらもE氏を突き飛ばし「さあ来い！」と柔術ポーズを取り、関節蹴りを繰り出した。「お前、俺は普通の人間なんだからやめろ！」とE氏がいくら言っても、元太は構わず「へい、いくぞ～」と胴タックルをやめようとはしなかった。周りに止められても、元太は「さあ来い！　さあ来い！」と言い続けた。翌日「何てことをしてしまったんだぁ～」と頭を抱える元太がいた。

●芳賀元太
『我流』伝説

「格闘家への道を進みたいが、今のままでは練習する時間もないし、みんなにはバカにされるし……。己の道を信じたい！」と言い残し、元太はバトラーツから旅立っていった。……しばらくして道場に荷物が届いた。元太からであった。その中には「今静岡の方で住み込みで働いています」という手紙と共に、缶詰が山ほど入っていた。「同室のハンガリー人と友達になり分けてもらいました。皆さんでどうぞ」とのことだった。「元太も気が利くようになったな」と、みんなで話していた。が、しかし、よく見ると缶詰はすべて賞味期限が切れていた。それも含めたものが芳賀元太なのである。

幻の強豪 芳賀元太
この男は実在する！（いや、これホント！）

格闘探偵団バトラーツ

B-MANIA
B-マニア

特報 生 元太が見れる「買わねば！」

出ます芳賀元太！　出します芳賀元太！　出させます芳賀元太！　元太マニアのために制作された!?　バトラーツ旗揚げ２周年記念ビデオ「Ｂ－ＭＡＮＩＡ」（発売＆販売・東芝ＥＭＩ／カラー１０５分、税込み５０００円）。内容はバトラーツ旗揚げから２年間のスーパーベスト盤！　アレク＆のものも結婚式で戦慄のお披露目となった「マッハ純二＆土方隆司」による“天狗舞い”も収録！　もちろんバトラーツバチバチファイトも満載！

収録内容
ファンが選んだバトラーツ魂のベストバウト集計結果

順位	試合
1位	池田大輔vsアレクサンダー大塚（97・11・5後楽園ホール）
2位	石川雄規vsアレクサンダー大塚（98・1・21後楽園ホール）
3位	田中稔vs田尻義博（98・1・21後楽園ホール）
4位	アレクサンダー大塚vsビクター・クルーガー（97・9・7東京FM）
5位	石川雄規vs池田大輔（97・4・15大阪）
6位	石川＆大塚vs池田＆小野（96・10・30後楽園）
7位	石川雄規vs池田大輔（97・9・1金沢）
8位	石川＆カール・vs大塚＆田中（97・12・9名古屋）
9位	TAKAみちのくvs田中稔（96・10・30後楽園）
10位	岡本衛vs日高郁人（97・11・5後楽園）

★他団体＆外国からやってきた探偵員　初代タイガーマスク、垣原賢人、坂田亘、デュセル・バット、グラン浜田、リッキー・フジ、中川浩二、星川尚浩、４代目タイガーマスク他　★モハメド・ヨネ秘蔵試合

【バトバト基礎知識講座】
●芳賀元太（はが・げんた）●華魅嫁是（カミカゼ）●ガッチリ●「ナーシャッ！」●U.T.G.●天狗舞い●宮内美穂●お祭りプロレス●アマチュア・バトラーツ

解説：島田裕二（格闘探偵団バトラーツ）
　　　鈴木　健（『週刊プロレス』編集部）

混迷窮まるマット界！バトラーツ悪気はないのに独り勝ち！

Mr.B ミスター・ビーの大逆襲

5.27バトラーツ後楽園大会リポート

バト魂（こん）EXPRESS

この秋バトラーツがとんでもないことをしでかす!!（いや、これホント！）

バトが大爆発したわけを、お、お客さん教えて！

こ、この日の盛り上がりは、と、とにかくスゴかった。選手も客も、みんな熱かった！　イ、イヤ熱すぎた!!　聖地・後楽園ホールではど、どの団体も苦戦を続けているのがマット界の現状。そんな中、な、なんでバトラーツにはこんなに客が入ってるの？　た、確かに試合は面白いが、ボ、ボクにはそれが何故だかわからない。というわけで、試合終了直後、興奮冷めやらぬお客さんに、バ、バトラーツの魅力を聞いて来ました、ハ、ハイ。

（こ、興奮のあまり、芳賀元太口調になってしまったチョロ）

すみれちゃん（5歳）

きょうは、おねえちゃんときたの。はじめてだよ。あたまがね、ツルツルのおにいちゃんが、ちがいっぱいでてて、かわいそうだった。わるものでてきたのあったでしょ。わるものはやなの。とげのぶきとかつかうのこわかった。ぶきはダメにすればいいのに。あとね、おっきいがいじんさんみた。ひげのピンクのおとこのひととたたかってたよ。すみれ、がいじんさんがかっこよかった。ほんとはね、すみれピンクがすきだからピンクのひとおうえんしようとしたら、かおがけだらけでこわいからやめたの。あのひともわるものかなぁ？

東京都　石橋昌人（28歳）

初めて見たんだけど、全試合良かったです。メインが目当てで来たんだけど、印象に残ったのは日高ですね（もちろんメインも最高！）。やられっぱなしで終わらなかったのが良かったです。バトラーツの魅力ですか？　前田日明の言葉で「人前で何かをやることは格好悪い」って。バトラーツはその格好悪いことを真剣にやってるじゃないですか。すべてをさらけ出してるって感じで。やっぱ、そこですかね。もし、自分がレスラーになるんだったら絶対バトラーツに入りますよ。ホントこれからがスゲエ楽しみです。石川選手にはもっと猪木化して欲しい。その情念で突き進め!!

見てみ、この顔！　これがイカレ社長の情念プロレスだ。けっして“わかりやすい”ものではないぞ！　もっともっと奥深いものなのだ！

東京都　荒井康弘（25歳）

『紙プロ』の講座で石川選手と約束したので見に来ました。松永の試合も気になってたし。初めてだったけど面白かった。まさかメインがああいう結果になるとは思わなかったけど……。松永とはこれからも絡んで欲しいですね。なんか昔の新日みたいでイイじゃないですか。猪木対シンみたいで。それこそ猪木化ですよ。やっぱり石川VS松永が見たいですね。石川選手には「インチキ猪木」とか野次が飛んでましたけど、客にもどんどんケンカ売って欲しいですよ。バトラーツに望むことですか？　今以上に時代に逆行していって欲しいですね。絶対また来ます。

寺島千歳（23歳）

感激しましたー。なかなか東京で試合しないから、今日が待ち遠しくてー。もう、すっごい良かったー（B'zのテーマ曲はちょっと……）。今日のベストバウトはやっぱりメインかな。卍を決める石川さん、堪えまくる大ちゃん、本当に、「そんなに我慢しないで!!」って思いましたよー。その横で島田レフェリーが泣きそうな顔してたの、見ました？　それ見たら私も泣きそうになりましたよー。私、島田レフェリーとお話ししたことあるんですけど、いつもはふざけてばっかりなんですよ。私の知ってる彼とはまるで別人でした。これからは見る目が変わりそう（ポッ）。

橋本真也

サーベル攻撃よりも怖かったのが両者の表情。感情まる出しの臼田の表情と松永の無表情な顔のコントラストが闘いに深みを与えた。

社長の延髄斬りでウッシャー!!　大ちゃんの脳天唐竹割りでウッシャー!!　虚構と現実がクロスする壮大な情念プロレスが繰り広げられた。

バ、バ、バ、バトラーツをバカにする奴はコロす！（岩清水チョロ）

Bマニアの必需品　マッハ&土方　天狗舞いカード

バトラーツ　ヤングジェネレーションバトル［前期日程］

7／25（土）開幕戦　TOKYO FMホール　18：30試合開始
7／26（日）山梨県・丹波山村交流センター前広場　12：00試合開始　入場無料
7／30（木）埼玉県・本川越ぺぺ　18：30試合開始
8／2　（日）千葉県・多古町民体育館　17：00試合開始

【RADICAL1行劇場】
チョロ「編集長、ど、どうですか、ボ、ボクの作ったこのページ？」　山口「な、なにがなんだか」

紙のプロレス RADICAL

1998 No.10

アッという間の10号記念!
つぎはトーゼン11号記念!
線路は続くよどこまでも!
100号まで行きますかーッ!!

紙のプロレス・ラディカル

CONTENTS

●NO.10 MAIN-EVENT

灼熱の地殻変動 '98

ただごとではない対談実現!

大和魂(ヤマトダマシイ)は連鎖する!!

AKIRA MAEDA & ENSON INOUE

● SCANDAL&SCOOP

● RADICAL FIGHT

● SPECIAL NOVELS

● COLUMNS

● ANOTHER

※ピンポンパンポーン。T印刷の大杉様、大杉様、太りすぎでしたらこちらまでおいでください。校了は何日でしょうか? ピンポンパンポーン

Art Director
出田さん●San Ideta

Design/two-three
村松さん●San Muramatsu
ヒサくん●Kun Hisa
マツ●Matsu
古川ふるーる●Furuuru Furukawa

表紙モデル/前田日明&エンセン井上
撮影/斉藤ユーリ
スタイリング/Akira Maeda&Enson Inoue
ヘア&メイク/Akira Maeda&Enson Inoue

※ワタシもす〜ぐキレちゃうけどね、「RADICAL」は「根源的」「根本的」という意味でとらえてくれるとヒジョーに嬉しいヨ!!

出でよ！
空飛ぶゲジゲジ!!
マット界の地殻変動を見逃すな

山口日昇のサブウェイ・トーク

聞き役／松澤カクリョウ（別名・マッカク or チョロ）

今日はしゃべる！　しゃべるからテープに録って起こして。もう原稿書きと文字校正と校了とわけわかんないセミナーとか重なっちゃったから、こんなのいちいち書いてられない。しゃべる。

え？　校了？　専門用語？　いいよ、読者に説明なんかしなくったって。調べりゃわかる。迷わず調べろ、調べりゃわかるさ、アリガトーッ！

終わっていい？　ダメ？　とてつもなく眠いんだよ、俺。

……………。今日の話はね、まずね、ゲジゲジっているでしょ。当たり前だよ！　地面這ってるやつだよ。海に潜るゲジゲジがいるか？　バカだな、おまえは。

おまえがゲジゲジだったらどうする？

ゲジゲジのまま生きていく？

いや、ゲジゲジ差別とかそういうんじゃないよ。つまり地面というか平面を自由に動いてるつもりでも、空をブンブン飛ぶハチから見たらさぁ……え？　ハチってビーだよ、ビー！　ミスター・ビーなーんつってな。ダーッハッハッハ。

……………。

そのハチがね、ゲジゲジを見て「おまえ、平面を這って、目いっぱい動いてるつもりかもしれないけど、それは動いてるうちに入らねぇゼ」ってブンブン飛びながら笑うわけ。で、そのハチを見下ろしながら、今度はツバメがさらに高いところから「ハチさんハチさん、あなたが生きてる空間は、チンケすぎて空間とは言わないんですよ～」って笑うの。

そのさらに高いところを飛んでいるワシは、「ワシのように空間をダイナミックに自由に飛び回ってこそ、空間を生きてるってことを初めて言えるんじゃよ」っていうわけさ。

つまり、これは上には上があるっていう教訓で、一般世間では「まあ、なんにせよ謙虚に越したことはありませんよ」とかの意味あいで引っ張り出されることが多いんだよ。

これは役立ちそうだし、リアリティがあるし、教訓としては立派そうに聞こえて世間受けはするんだよね。

だけど、「謙虚に越したことはない」っていう教訓は、ゲジゲジはゲジゲジらしく、ハチはハチらしく生きなさいってことになって、ゲジゲジがハチの世界を望んじゃいけない。所詮ゲジゲジは平面を動くもんで空間では動けない。それは無理なんだから、平面を這ってゲジゲジらしい生き方をするべきだってことになっちゃう。

要するに、己の分際を知って生きなさいっていうことだよね。

でも分際を知るっていうことは、〝ゲジゲジらしい〟の〝らしい〟だけに凝り固まって、自分自身を規定して縛って、平面さえも自由に動けなくなっちゃう。で、結局なにもしないのと同じという知恵が付いただけで終わりってことにもなりかねない。そうするともはやゲジゲジでもなくなってしまう危険性もはらんでるんだよ。

「プロレス」っていうのも、日本に誕生してからこの方、八百長とかショーとか罵詈雑言を世間から浴びて、軽んじられる宿命にあったわけでしょ。

だから「プロレス」＝「ゲジゲジ」なんだよ。最初から飛べないんだから。

いや、これは「プロレス」がゲジゲジそのものだとか、ゲジゲジみたいなイメージがあるっていう意味じゃないよ。上には上があるっていう教訓の話をしているだけだから。

だって、「プロレス」よりも認知されてるジャンルって腐るほどあるじゃない。相撲、ボクシング、野球、サッカーとかさ。それはハチであり、ツバメであり、ワシなわけじゃない。

それに拗ねてというか、己の分際を知った「プロレスラー」の多くは、「プロレス」＝「しょせんプロレス」って規定して、決してゲジゲジからハチになろうなんてバカなことは考えずに、危険のない平面だけを選んで動いていくわけでしょ。

でも、ゲジゲジが〝ハチになって空を飛ぼう。夢としてそれに挑戦しよう。それが私のロマンである〟と考えないとは限らないんだよ。突然変異的に。

……。おまえはバカか！　生物学的にいったらゲジゲジがハチになれるわけねぇだろ！　そういう話じゃねえんですよ！

でね、もしかしたら、ゲジゲジでもハチになれるかもしれないって、真剣にこっちが思うほどの〝熱〟とか〝エネルギー〟を放出していたのがアントニオ猪木という存在でしょう。

それがアリ戦であり、ウィリー戦であり、広げれば国会議員になったことなんかもそうだよね。

実はゲジゲジであれ、ハチであれ、ツバメであれ、ワシであれ、エネルギーを持たないものは滅びるんだよ。

その「空を飛ぶゲジゲジ」の権化のような猪木さんはこの前リングを去ってしまったよね。

今度、7月20日にリングス・ラストマッチを迎える前田日明も、長州力の顔面蹴っ飛ばしたり、格闘技戦やったり、UWFという運動体の〝ヘソ〟になったりして、「平面ばっかり動いて、それで自由だと勘違いしてたらアカンで！　上には上があるんや！　その上を撃たんとね、モゾモゾ動いとってどないすんねん！」という熱とエネルギーを出しまくってたでしょ。その前田日明も引退してしまう。

前田日明の引退はかなり前からいわれてたことだ

から、いまさら寂しいとかそういう気持ちはないけど、代わりに誰がその熱とエネルギーを出してくれるんだろうという不安はあるよね。
あ、俺、冷たい紅茶。ミルクね。

ハバの広さ

もう無駄話やめような、ここからは。時間ないし。でね、4・4の猪木さんの引退試合には、世界中探しても誰も知らない人はいないっていうくらいの存在のモハメド・アリ、五輪メダリストのジェフ・ブラトニック、ボクシング元世界チャンピオンのユーリ・アルバチャコフ。元柔道世界一のウイリアム・ルスカとか錚々たるメンバーが集まったよね。

その錚々たる面子のなかに、キラー・カーンっていう、いまやチャンコ屋の親父がいたわけでしょ。

運営してる人の中にはもっともっとビッグ・ネームを集めたかったという思いもあったかもしれないし、あの日リングに集まったメンバーは必然というよりも偶然揃ったメンバーだったかもしれない。

でも俺はあのシーンを見て、「猪木ワールド」っていうのはホントに幅が広いもんだって再確認したんだよ。

それはつまり、乱暴にいっちゃえばプロレスは幅が広いということだよね。許容量があるというか、平面でも自由に動き回ればかなり広いということがわかるというか。

ただ、その「幅が広い」っていうことを野放しにすると、その尻馬に乗っかって大仁田厚のようなプロレスが出てきて、「邪道でなにが悪いんじゃ~、プロレスは幅が広いんだから何をやってもいいんじゃ~!」ってなるよね。

それに対して、前田日明は「あんなのは底抜け脱線ゲームや!」って噛みついた。

なぜ前田が怒ったかというと、「〝幅が広い〟という尻馬に乗っかってどうすんねん!」っていうことだと思うんだよね。

横幅は〝広さ〟だけど、首を90度曲げてみると縦幅になるでしょ。縦幅って〝深さ〟でしょ。

だから、首をちょっと曲げて見れば〝深さ〟は〝広さ〟だし、〝広さ〟は〝深さ〟なんですよ。

つまり、前田がいいたいのは「〝深さ〟もないのに〝広さ〟ばかり強調してどないすんねん! 殺すぞ!」っていうことなんだよ(笑)。

大仁田のプロレスはデスマッチというものをやって一見、幅が広いように見えるけど、実はデスマッチしかないんだから極端に狭いんだよ。だから首をいくら曲げて見ても、深さはないよね。深さもないのに幅ばっかり広げていったら、それこそのっぺらぼうの世界になっちゃうよと。

つまり、前田が起こしたUWFは、「抑圧」のない「自由」なんてなんぼのもんじゃい! ということとも取れるわけ。抑圧があって初めて自由を獲得できるもんだというか。

UWFっていうのは、歯止めの効かなくなった「自由」というか「プロレス」への抑圧装置の役割もあったんだよ。

だから、その責任を取るためにも、前田日明という人はものすごいエネルギーを放出して、「ゲジゲジだゲジゲジだってウジウジしててもしゃーないやろ! いっちょ空でも飛んでやろうやないけ!!」という理想を掲げたわけだよね。

猪木さんが「後継者には前田を考えていた」ってちょっと前の東スポでも言ってたけど、前田日明も、つまり「空飛ぶゲジゲジ」だったんだよ(笑)。

エネルギーの埋蔵量がゲジゲジの平面の世界では収まりきらなかった。

いや、だからさ、ゲジゲジって例えが悪ければイノシシでもカモシカでもなんでもいいよ。おまえ、へんなとこで突っ込むね。

ああ、今度はコーラ頼んで。ミルクも付けてね(笑)。

イコール深さ

で、いまもっとも熱というかエネルギーを感じるのは高田延彦なんだよね、実は。

高田延彦は、去年の10・11に世紀の敗戦を喫して、今年また同じ日の10・11にヒクソンと再戦する。これだけでもドラマチックでしょ。それにあの前田日明からヒクソンをさらえるだけの運もある。

「プロレスラー」は〝芸(げい)〟と〝術(じゅつ)〟と〝性(さが)〟――この3つが三位一体になってなきゃダメだと思うんだよ。それは言い替えれば「面白くて・強くて・凄い」人を「プロレスラー」と呼びたいということなんだよ。

〝芸〟だけだとイザというときになんにも役に立たないし、〝術〟だけじゃメシは食えない。もちろん圧倒的な〝術〟を積み重ねていけば、それが自然と〝芸〟に昇華することはあるけどね。ヒクソンみたいに。かといって〝性〟だけじゃどうにもならないわけでしょ。プロレスラーとしての〝性〟を徹底的に磨き込めば上田馬之助のように異様な光を放つ場合もあるけどね。

「最強」という名の〝鎧〟を身につけていた高田延彦が、ヒクソンの鋭い〝剣〟に、その〝鎧〟を打ち抜かれたわけでしょ。身につけていたのはファーファの〝鎧〟じゃなくて「最強」という名の〝鎧〟だよ! 「真剣勝負の試合に負けたら、背中に『負けた』って紙を貼って歩くようなものだ」って船木誠勝がいってたけど、普段の試合でさえ、そんな心理状況に陥るんだから、「世紀の一戦」に負けたらどうなる? キミだったらその落差をどう精神的に埋める?

結局、高田延彦はヒクソンに負けて〝術〟と〝性〟

を失うことになったんだよね。

で、その〝術〟を磨き直すためにマルコ・ファスの道場にも行ったわけでしょ。

でも、だからといって「高田延彦はもはやプロレスラーではない」なんて見当違いもいいところなんだよ。確かに今度負けたら高田は終わりかもしれないし、負けたとしても次に繋がるかもしれない。それはわかんないよ。でも、そんなドラマを「プロレスラー」以外がつくり出せる?

だから、一度ブザマな姿を晒して、それでもなおかつ高田は〝術〟と〝性〟を取り戻すための闘いに出て行くんだよ。その2つを取り戻したら自然と〝芸〟も戻ってきておつりがくるはずだからね。

高田延彦は確かにいままでもトップ・レスラーだったけど、ここからが真の「プロレスラー」高田延彦の底力を見ていくチャンスなんだよ。

余計なカッコつけてた頃の高田には応える必要のなかった、観るものの高い要求や、自分の課した高いハードルを越える瞬間が見れるかもしれないゼイタクな状況になったんだもん。それを喜ばなきゃ。こういう見方は本人には迷惑かもしれないけど、いいんですよ。プロレス雑誌がゲジゲジだとすると、うちは「空飛ぶゲジゲジ」だから(笑)。

「高田さんはスターですからね」なんて皮肉混じりにいう格闘技関係者もいるけど、要するにそれは、ゲジゲジはゲジゲジらしく生きてりゃいいのに、ということでしょ。

だから、高田は単なるゲジゲジじゃなくて、「空飛ぶゲジゲジ」なんだということを満天下に示して、思いきり世間とか「自分たちの方が上だ」と思ってるヤツらを射返してもらいたいよね。

あ、もう飲み物はいい。ハムタマゴサンド。ミルクも付けてね。

ハバの広さ

だからさ、熱とエネルギーがいるんだよ。もう「しょせんプロレスはプロレスだから」とかの冷えた感情が渦巻いてる環境には飽きちゃったからね。「しょせんプロレスはプロレスだから」なんていってたら、それはもはやプロレスでもなくなっちゃうよ。

でも、確実に地殻変動は起きてる。

高阪、桜庭、田村、パンクラスの高橋たちは〝術〟を掘り下げていって、〝深さ〟の部分を担ってくれてるでしょ。エンセン井上なんかも含めて、あとは彼らが〝芸〟と〝性〟をマット上からもっと強烈に突き刺してくれれば、必ず〝広がり〟が出て大爆発は起こるはずなんだよ。〝深さ〟は〝広さ〟なんだから。

「謙虚に越したことはない」なんてチンケな発想よりも、〝大振り〟が見たいよ。「面白くて・強くて・凄い」――そういう闘いを生み出してもらいたい。その弾みを付けるという意味でも高田には「プロレスラー」らしい闘いをしてほしいよね。それと、「空飛ぶゲジゲジ」がいっぱい出てきて、マット界にエネルギーを振りまきまくってほし……おい! おぉおぉおーい! おまえなに寝てんだよ! マッカク、おまえ次号からこのページ書かすぞチョンマゲ!

猪木を伝えろ!!

書けよ、ホンナラ!

「アントニオ猪木引退試合観戦記」&「猪木とは何か?」論文&作文大募集!

前号で大々的に募集したにもかかわらず、非常に低調なレベルのため今回は掲載を見送りました。もっともっと"イノキという概念"に肉薄する声が聞きたいというか。ドヘタでも構わねぇんです! みなさんの"ナマの声"が聞きたいというか!! というわけで、前号で掲載した募集要項の住所が間違ってました。これじゃ、来るものも来ねぇわな。ガーッハッハッハッハ!っつーことで、UFO旗揚げ、引退試合、過去に猪木に触発されたこと、猪木に感動した瞬間……"猪木とは何か?"に少しでもかかってればOKです! "イノキ"を伝えていくことはプロレス・ファンのロマンというか。それではみなさん書きますかーッ!!

【送り先】
〒151 東京都渋谷区千駄ヶ谷3—11—3—702
(株)ダブルクロス RADICAL編集部
『猪木とは何か? も1回UFO!』係

※次号で大々的に掲載予定です。掲載者にはいまでは手に入らない猪木グッズを差し上げます。

全身編集評論家・
ターザン山本の

プロレスマスコミ表紙批評!!

前号で「さらばプロレスマスコミ」という掟破りの座談会をやったにもかかわらず、「最近、プロレスマスコミに以前のような勢いがなく、つまらないことおびただしい。なんとかしてください」(板橋区・このぴ)というお門違いな声が本誌に続々と届いている。

本誌はプロレスマスコミではないといってるじゃねぇですか!

しかし、読者の声を信じるならば、これはゆゆしき事態である。だってプロレスマスコミが元気でなければ、マット上のレスラーのエネルギーだってかき消されてしまうじゃねぇですか!

そもそも、なぜ、プロレスマスコミはつまらなくなったと言われるのか?

そこで、おせっかいながら、「雑誌は表紙が命ですよ~!!」と豪語し、以前は『週刊プロレス』の編集長を務めていたこともある全身編集評論家のターザン山本氏に、プロレスマスコミの2大巨頭・『週プロ』と『ゴング』を「表紙」をテーマにしてズバリと斬っていただいた次第である。

それではみなさん、斬リマスカーッ!!

この『週プロ』の表紙をズバリ言うとカメラマンにダマされた！　普段からシッカリとリングスを追っているならいざ知らず、この週だけリングスを表紙に持ってくる必然性はまったくないんですよ！　この週は、当然バトラーツでいくべきでしょ。違う？

これは、前田が出場しない5・29札幌で次期エース候補のチャンピオンの田村が負けて、それを前田が見ているという構図の写真の意味性に、編集者がダマされたというかノセられてしまったわけですよォォォ！

それにね、「北都」という使い古されたコピーを使うこと自体、頭が腐ってるんだよね。ボクが「北都激震」とかのコピーを付けていたときは、勢いのあった第2次UWFがマスコミも団体もファンも札幌でやることに重要性を見出していたわけ。つまり、あの時代だから意味があったわけですよ。だけど、もう〝U〟そのものが死に体なんだから。その死に体を引きずったような「北都戦慄。」というコピーを付けること自体が、表紙をつくってる者の頭が老化現象を起こしている証拠だ。この表紙は0点ですよ！　発想そのものが陳腐だ!!

サブコピーなんか、見ること自体がバカバカしいですよ。こんな小っちゃい字じゃ、誰の目にも入らないですよ。字の小っちゃいのと空間が空きすぎてるのがもうダメ。

反対にこの週の『ゴング』は空間を埋めてるでしょ、写真と字で目いっぱい。でも、これはまた埋めすぎなんだよね。一点集中じゃなくて、とにかく埋めればいいってことでやってるわけよね。でも、こんだけデカイ字でバーッと埋められると、何を訴えてるか何にも見えてこないわけよ。どっかに目がピッと一点にいくような表紙を作らなきゃいけないわけでしょ。

だから、例えば「必ず」だけをもの凄く大きくして色も変えて、あとの文字は小さくするという形にしなくちゃいけないのに、こうなると拡散しちゃうわけですよ、見ている者の目が。で、何に目がいくかといったら、年を取った猪木のおっさんの顔だけに目がいくんだよ。ということは、あとの文字はいくらデカくてもラクガキと一緒だということですよォ！　これは大失敗だよォ！　だから、『ゴング』も『週プロ』も基本的にダメ。この週は低レベルな争いだということだね。クックックック。

週刊ゴングNo718
（6／18号）
■表紙コピー：
6・5日本武道館で必ず何かが起こる!!
■表紙サブコピー：猪木は疑惑を否定したが…
■巻頭カラー「龍が来た！」5・28金沢大会から新日本に参戦した天龍の4連戦を追跡
■トップ記事「猪木は疑惑を否定したが…6・5日本武道館で事件勃発!?」小川は新日本に絶縁宣言する中、6・5武道館大会に合わせて緊急帰国。猪木と新日本の亀裂問題をこの週もしつこく追跡取材

週刊プロレスNo858
（6／16号）
■表紙コピー：
北斗戦慄。
■表紙サブコピー：手負いの王者・田村玉砕〝ポスト前田時代〟混沌！
■表紙担当：浜部良典
■巻頭カラー：「命知らずのスーパーJr　今度はK・ハヤシが…」〈5・31鳥取〉金本浩二vsK・ハヤシ戦リポート（佐藤正行記者）
■トップ記事：「バチバチ　バッチン　バトラーツを学習せよ」5・27後楽園ホールに超満員の観客を動員したバトラーツ人気を、あまり意味のないデータを駆使して検証

まず『週プロ』。この表紙になったハヤブサと田中将斗の試合は素晴らしく良かった。でもそれを伝えるには、この表紙には欠点が二つある。

まず写真の選び方。これは2階からの写真を使ってるんだよね。これがまずダメですよ～。2階からの写真だと、どうしても身体とか顔が表現してるものよりも、場面の説明的な写真になるわけよ。技そのものの説明的な写真になってしまう。この試合の持つ意味がストレートに伝わらないわけですよ。

それから、二点めはこのコピー。この「深化する」っていうのは、80年代後半にUWFがキックやサブミッションで〝進化〟していくのに対して、古典的なコブラツイストをフィニッシュに使ったりした天龍を評して、〝深化するプロレス〟と使ったわけでしょ。

つまり、ボクが使った「言葉」、10年前の使い古された言葉をまたここで使ってるわけ。表紙は使い古された言葉を使っちゃダメなんだよォォォ！

ハヤブサと田中の試合を新しい言葉で語っていないでしょ。この「新生」っていうのも新生UWFとかで使い古されてる。「魂」とかさ、「新生」とかさ、「深化」とかさ、すべて言葉としては骨董品なわけ。この表紙をつくった浜部さんは『ビッグレスラー』の人、つまり浦島太郎なんですよ～。時間が10年遅れてるんだよね。

このハヤブサvs田中戦は、「これまで大仁田が引っ張ってきたサイド・ストーリー重視の邪道プロレスを超えて、初めて試合だけでお客を熱狂させた」というところに意義があるんだよ。これはハヤブサが三沢になり、田中が川田になった。つまり、FMW版全日三冠戦なんですよ。それをアピールしなきゃダメなんだよ。「FMWが全日の三冠戦に迫った」とか「超えた」とか、そういう具体的な意味をボーンッと打ち出して、読者に強烈にイメージを与えなきゃダメなんですよ～。それを表紙で訴えなきゃ!!

対して『ゴング』は、要するに日刊のスポーツ紙が展開している事件物というかさ。「小川、新日本から離脱」とか、日刊紙型の事件に歩調を合わすのが『ゴング』なんですよ。

それをプライドとしてできないのが『週刊プロレス』だよね。でも、新日本とか長州力は雑誌も日刊紙のあと追いをするように作ってほしいという思いがあるんだよね。僕はそれを徹底的にしなかったから、新日本から取材拒否を受けたわけです！

だから、いまの『週プロ』はそこまで徹底的にやってないし、日刊紙と『ゴング』の路線に対する強烈な差別化を創造できてない！　クリエイティブな面でできてないというところに、現在の表紙のつまんなさの原因があるわけ。つまり、センスがないんですよ！　表紙を作るには詩人の才能がなきゃダメなんですよォ！　詩人というのは言葉に敏感でしょ。死んだ言葉なんか使いませんよォォォ！

いきいきした言葉を使い、いきいきした言葉を生み出していくのが、つまり詩人ですよ。『週プロ』の点数？　この表紙はハッキリ言って「言葉」という点で全然ダメだ！　50点！

週刊ゴングNo717
（6／11号）
■表紙コピー：
やっぱり!!猪木と新日本に亀裂
■表紙サブコピー：小川の不可解行動で遂に表面化した事実！
■巻頭カラー：「川田VS小橋、エースはどっちだ!?」〈5・23後楽園〉小橋組vs川田組6人タッグ戦リポート
■トップ記事：「小川の不可解行動で遂に表面化！　猪木―新日本亀裂の深層部分に迫る」黒幕は猪木か？　UFOを巡っての新日本内の不協和音を異様に追跡

週刊プロレスNo857
（6／9号）
■表紙コピー：
深化する新生魂
■表紙サブコピー：ハヤブサ―田中に聖地鳴動！
■表紙担当：浜部良典
■巻頭カラー：「三沢不在の新シリーズが開幕バトンはいらぬ」〈5・23後楽園〉小橋組vs川田組6人タッグ戦リポート（市瀬英俊記者）
■トップ記事：「老舗・全日本・三沢不在の新シリーズ開幕　ドームの追い風に乗れ！」5・1東京ドームを経て新シリーズ開幕の王道マットはどう変わるか？　といった主旨の記事

プロレスマスコミ表紙批評!!

「橋本の刃」ぁぁ？　まったくインパクトがない！　さっぱり意味がわからん！　0点！

「昭和のプロレス」っていうのは、要するに藤波のことでしょ。じゃあ藤波の顔がわかんないとダメじゃない。この写真だと、逆十字を掛けられてる人が藤波だか誰だかわからないでしょ。これでこの表紙はもうダメなんですよォォ。また無駄な空間がもの凄く空いてる。そこに目がいっちゃうわけよ。なんていうかさ、手抜きみたいなイメージになっちゃうんだよねぇ。もう全然……なんかもう……あのね、佐藤は俺のかわいい弟子だけど、表紙を作っちゃいけない人間なんだよ！

対して『ゴング』は橋本と藤波の顔をハッキリ見せてるでしょ。だから、この週に限っては、『ゴング』の方が上なんですよ。“2枚写真”で橋本と藤波を対立概念として見せてるよね。

ただ『週プロ』も『ゴング』も「昭和のプロレス」ってサブコピーを使ってるところが、ホントに発想が陳腐だよ！

もしボクがやるんだったら、無我に橋本が乱入した写真を使って「橋本！　無我の世界を汚した！」っていくよ。「橋本が無我の純粋世界を汚して大ブーイング！」って書くよ。橋本は無我にとってはダイオキシンなんですよ！　無我に橋本が紛れ込んだことの悪を突くべきだよ。そしたら、そのことによってみんなの心情が藤波の方にいって、橋本が悪者になって盛り上がる！　つまり、藤波の方にみんなが感情移入していけば6・5の武道館が、より盛り上がるんだよ。

橋本の方を表紙にして「刃」とか「昭和プロレスを潰す」とやったら、お客は引くんだよ。新しい世代が古い世代を潰して当然なんだから。

だから、これはぜ～んぜん反対。4・4で藤波が佐々木健介を破って、せっかくあの日の藤波をみんないい気分になって受け入れているのに、なぜそれを展開できないのかということなんだよね。

週刊ゴングNo716
（6／4号）

■表紙コピー：
破壊王、鬼の咆哮
■表紙サブコピー：昭和プロレス、壊滅寸前…
■巻頭カラー：「高岩、悲願のライガー越え！　涙がこぼれないように…」〈5・16松戸〉高岩vsライガー戦リポート
■トップ記事：「捲土重来を期して!!　動き出した男たちに勝算はあるか!?」表紙とは関係なく、なぜか前田、高田、キングダムの復活を徹底検証

週刊プロレスNo856
（6／2号）

■表紙コピー：
橋本の刃（やいば）
■表紙サブコピー：昭和プロレス、絶体絶命！
■表紙担当：佐藤正行
■巻頭カラー：「飛龍は、死ぬか!?」〈5・16松戸〉藤波＆佐々木vs橋本＆西村戦リポート（佐藤正行記者）
■トップ記事：「前田日明vs山本宜久『リングスラストマッチ≠引退試合』着地点、視界不良」“引退試合”の相手が決まらない前田日明の今後

週刊ゴングNo714
（5／21号）

■表紙コピー：
俺の色で突き進む!!
■表紙サブコピー：大願成就の三沢撃破川田、ドームを制す
■巻頭カラー：「三沢、川田の覚悟の表情を見よ!!　勝負と重責の狭間でドームに立つ」〈5・1ドーム〉三沢vs川田三冠戦リポート
■トップ記事：「全日本の底力と信頼が形になったドーム…　川田新政権で戦いはより激しく！　厳しく！」大成功に終わった全日ドームの総括と、大会全体から垣間みられた全日本の未来図予想っちゃー未来予想図

週刊プロレスNo853
（5／19号）

■表紙コピー：
我が人生五月晴れ
■表紙担当：市瀬英俊
■巻頭カラー：「ドラマは一日にしてならず」〈5・1ドーム〉三沢vs川田三冠戦リポート（鈴木健記者）
■巻頭記事：「新日本独走に“待った”全日本・FMWの追撃が始まる!?」FMWの4・30横浜大会、全日本の5・1ドーム大会の成功により、新日本の独り勝ち状態だったマット界に変動の予感がするといった記事

週刊ゴングNo715
（5／28号）

■表紙コピー：
衝撃発言6連発
■表紙サブコピー：直撃！ 特写！ 98年下半期の主役たち
■巻頭カラー：「宿命の糸を感じるから…前田さん、やりましょう！」橋本真也インタビュー（金沢克彦記者）
■トップ記事：「3つに分かれたインディー・パワー!!　5月19～21日の3日間が今後を決める」FMW、大日本、インディー活性化委員会の後楽園ホール興行戦争勃発。インディーの今後を予測という予測のつかないトップ記事。

週刊プロレスNo855
（5／26号）

■表紙コピー：
ジュニアからの季節風。
■表紙サブコピー：「ベスト・オブ・ザ・スーパーJr」さあ開幕！
■表紙担当：佐藤正行
■巻頭カラー：「検証。5・1三沢戦」川田利明インタビュー（市瀬英俊記者）
■トップ記事：「UFOというパズル」これも表紙と関係なく、猪木の参院選出馬説や9月のUFO旗揚げ戦など、猪木の今後を解読

『週プロ』の方は完全にテーマぼけだ！　マイナス50点!!

これは今回のジュニアヘビー級のリーグ戦のテーマを全然示してない。だって、K・ハヤシだとか、南条隼人だとか、福田雅一だとか、スリーAの選手がメジャーリーグに出てきてるわけでしょ。

オレだったらその南条たちを集めて「お前たち、生還できるのか！」「生きて還れるのか、お前たち！」とかやりますよ。誰が優勝するかよりそっちの方が重要でしょ。違う？

あのね、人間には四つのタイプがあるんだよ。「チカラびと」「マレ（稀）びと」「ハレびと」「ケのひと」の四つ。「チカラびと」は肉体とか顔なんかが武器になってる人。「マレびと」は変わった人間。これは精神が武器になってる。「ハレびと」は非日常的なことが好きな人。もう一つは〝ハレ〟に対して〝ケ〟のひと。これは普通の人なんですよ。だから、〝ケ〟のひとは雑誌にかかわっちゃいけないんだよ！

〝ケ〟の人が表紙をつくったら、表紙そのものが〝ケ〟になっちゃうわけよ。表紙というのは「ハレて」なきゃいけないし、「マレて」なきゃいけないんだよね。で、「チカラ」がなきゃいけないわけ。

俺は佐藤は大好きなんだよなぁ。いつも千葉産のピーナッツを送ってくれるから。うまいんだよ～、それが。だから、佐藤も浜部さんも要するに世間的にはいい人なんだけど、雑誌っていうのは悪人が作るもんなんですよ。卑怯な人間が作るもんなんですよォォ！　卑怯な人間はフェイントを使って「ハレた」ことをやろうとするし、「マレな」ことをやるし、

週刊プロレスNo847
（4／14号）

■表紙コピー：
4月4日、鈴木みのるはどこに…

■表紙担当：宍倉清則次長
■巻頭カラー：「心、乱れて。」〈3・29名古屋〉三沢vs川田C・カーニバル・リーグ戦リポート（市瀬英俊記者）
■トップ記事：「女子プロレス7団体すべてが18日間に後楽園ホールで興行戦争」なぜか4月の女子プロ興行戦争の行方を追

これは、まさに宍倉次長らしさが爆発した、次長的手法を駆使した最高にインパクトのある最高傑作ですよ！（笑）。次長そのものを世に示したね。

こういう目立ち方は次長にしかできない！ ただし、一つだけ言うならば、ある人たちは引いてしまうというインパクトなわけですよ。人が確実に引いてしまうというネガティブなものがあるわけよ。

つまり、客観性に欠けてるんですよ。もう逸脱してるから。だって、猪木の引退直前で「猪木と鈴木」っていうのは全然からみもなにもないじゃない。パンクラスに奉仕してるのかって言いたいよ。

もう一つ言うならば、鈴木みのるは4・4に来なかったんだよな。その責任はどうなるの？っていうことがある。もう一つ言うなら、ボクのビジネスマン的経験から予測すると、この週はその3週間前後で一番売れてないと思う！ 実際どうかはわからないけど、俺は確信を持って言える。確実に売れてない!!

雑誌というのは、売れてるか売れてないかがすべてなんだよ！ やったものの責任というのは数字だけでしかないんだから。

ボクが『週刊プロレス』を辞めたのは、新日本からの取材拒否で部数が落ちたから責任を取って辞めたんだから。責任を取るというのは一番重要なことなんだよ、この世の中で！ だっていまは誰も責任を取らないでしょ！ 政治家にしても経済人にしても！

表紙の極意っていうのは使われなかった写真、つまり〝殺された写真〟もパッとイメージに浮かんできて、〝使った一枚だけをなぜ選んだか〟ってことがすぐにわかるのが一番いいんだよ。消去法の凄さと、選んだことの凄さの両方が見えた時にいい表紙になるわけですよ！

〝思い切って切り捨てる行為〟と〝思い切って選ぶ〟という行為をやった時に素晴らしい表紙ができるわけよ！ だから、思い切って捨ててもいないし、思い切って選んでもいないところにいまの『週刊プロレス』のダメさ加減があるわけ。

でも、この号の次長の鈴木みのるの表紙はそれをやってる。だから凄いわけですよ。

でもね、こっからが重要なんだけど、捨てるにしろ選ぶにしろ根拠がないわけ。説得力と根拠がないわけですよ！

だから、切り捨てられた人たちに「これを選ばれたら仕方ないな」と思わせるものがなきゃいけないわけよ。

そうすれば表紙になった時には、その選手に「逆にすべてを切り捨ててやった」という快感が生まれるわけよ。「全部切り捨てて、俺だけ突出したんだ」という快感が『週プロ』の表紙になった人々の快感になったわけですよ！ ボクがやってた頃は、そういう構造をつくってたわけ。そういう幻想を与えてたわけですよ！

つまり、単に「表紙にしてくれて嬉しい」じゃなくて、「こういう切り口で来たのかぁ、これは凄い！」と団体や選手に思わせる。それが表紙の極意ですよ！ 選手は他人が表紙にしてくれたことによって自分自身を知ることになるわけですよ！ そうなったら興奮するでしょ。そういう表紙をつくれば当然、読者も興奮する。

だから説得力のある過剰な表紙を作らなきゃ！

でね、いまは過剰なものが受け入れられない世の中だとかいうけど、そうじゃないんだよ！ ものをつくる側が過剰なものを提示してないだけなんだよ！ それをみんな間違うんですよォォォ！ 時代が過剰なものを拒否するなんていうのは、あれはまったくの嘘なんだよ。嘘っぱちの共同体なんだよ！ 違うんだよォォォ！

いまの『週プロ』のつまらない原因は、実はターザン山本の呪縛ではなくて、新日本の取材拒否の呪縛なんですよ！ 取材拒否された精神的後遺症が残ってるわけ。もし、なんか過剰にやろうとしたら〝山本さんみたいになるんじゃないか〟という恐怖心があるわけですよ。そこですよ、問題は!! 〝追放されたターザンにだけはなりたくない〟ってことですよ。相手側の「ドス」ばかりが見えてくるわけ。こっちも「ドス」を持たなきゃいけないのに、取材拒否されて、その経験がトラウマとなって、競走馬でいえば去勢されて、騙馬になっちゃってるわけよ。

騙馬にならず、説得力のある過剰なもの！ それをつくっていかなきゃいけないんですよォォ！

週刊プロレス緊急増刊No854
（5／22号）

■表紙コピー：
「同夢」

■表紙担当：市瀬英俊
■巻頭カラー：「三沢がいた」三沢vs川田三冠戦リポート（市瀬英俊記者）

これはボクが『週プロ』を辞めてからの最大のコピーだァァァ！ 市瀬がつくった最高のコピーだよ！ 馬場さんらしい地味なドームの成功を「同夢」、つまり〝同じ夢〟ということで考え出した市瀬は、これはもう掛け値なしに凄い!! 5・1全日本のドームの概念を一言で表してるもんな、うん。

これは大失敗だ、両誌とも!!

5・1東京ドームをどう取るかというのは二つあったんですよ。一つはあの全日本プロレスがドームで興行をやったということ。もう一つは一回も勝ったことのない川田が三沢に勝ったこと。どちらが凄くて重いかってことなんだよね。

オレの中では全日本がドーム興行をやったことの方が重いんですよォ。〝全日本のドーム〟ってことが表紙になければいけないのに、全部飛ばしちゃって、川田が初めて三沢に勝ったことにいっちゃった。それによって全日本がドームでやったことが消えちゃったんだよね。だから、大失敗だよ！ 川田の写真を使ってもいいけど、新日本のドームとはどこがどう違って、どこが良かったをコピー一発でわからせなきゃいけないわけです！

全日本は派手ではなかったけども、ものの凄く全日本らしい空間をつくって、みなさんはそれに対してスンナリと見た。ごく自然に試合に集中していったと。そういうことをピーンッと一発でいわなきゃいけない。これじゃあ5・1は川田が勝ったことだけに集約されてしまう。違うんですよ！

『週プロ』はこの前に増刊号が出てるからそれと差別化するために仕方ない部分はあるんだけど、もっとズーッと広い視点でとらえなきゃいけない。

そこがもう、大失敗だぁ！

【全身編集評論家の総括】

週刊誌がマット界に果たす役割は終わった！ ボクが辞めたあとにスポーツ新聞がプロレスを載せ始めたんだよね。日刊スポーツ以外にスポニチもサンスポもぜ〜んぶ。

日刊紙というのはプロレスファンというよりも一般人を相手にしてるわけでしょ。要するに一般の人にもわかる程度の情報、それが主流になってきたので、週刊誌は、ごく一部のマニアのための少数派のジャンルに転落したんですよ！

衛星放送とかも出てきたでしょ。そうすると、ますます〝時代を背負う〟とか、〝時代を担う〟ようなものじゃなくなっちゃったわけ。

だから、売れなくなったと一概にいうのも彼らにとっては酷なんですよ。いくら週刊誌が何十万部っていっても日刊紙の方はケタが違うじゃない。やっぱり日刊紙の方が情報としてのパワーがあるじゃない。10万とかの世界よりも100万とかの世界の方がそれはやっぱりプロレスというジャンルそのものを伝えちゃうでしょ。だから、いまはメディアそのものが大きな転換期を迎えてるわけよ。でも、週刊誌の方は、いまだに自分たちが時代を背負ってるような幻想だけが残ってるでしょ。違うんだよ。だから、俺はいい時に辞めてるわけ。立場としての責任は取ったけど、ジャンルの責任は取らずに無責任に逃げてきちゃったわけだから。でも、仕方がないんです。

みんな早く辞めるべきですよォ！ ボクの時代は終わってるんだから。

こうなるのはわかってたんですよ〜！……でも、オレが辞めた時、誰も辞めなかったでしょ。つまりオレには未来を予測する目があるんだけど、人望がなかったんだよな〜。

「チカラ」を見せるわけでしょ。つまり、才能というのは悪徳！ 才能というのはハタ迷惑なもんなんだよ！ 精一杯やることが善ではなく、結果を見せることが善なんだよォォ!! その辺が最近の『週プロ』がつまらなくなった一番の原因だね。

反対にこの週の『ゴング』。こういうスタイルのデザインはもの凄く多く見てきた。この橋本がいる真ん中に昔はマスカラスがいたんだよね。それでまわりにテリー・ファンクとか、猪木とかいろんなレスラーがいたわけ。『ゴング』は表紙のスタイル的に一貫してる。これはその典型的な表紙ですよ！ 『ゴング』らしいノスタルジックな表紙、つまり、週刊誌というより月刊誌的匂いのする表紙ですよ。そういう意味では『週プロ』に対して差別化できてるんですよ。

※このページの見解は、全身編集評論家・ターザン山本氏の見解であり本誌の見解ではありません。『紙プロ』は『週プロ』『ゴング』あっての『紙プロ』です。押忍

プロレスマスコミ観察雑記

しばらくやる気皆無だったのが、ちょっぴり復活。これはスポーツ新聞、プロレス専門誌、一般雑誌など掲載されたプロレスネタの数々を勝手に観察して勝手に報告する、人のフンドシで相撲を取るかのような雑記帳である！

文／吉田豪　え／マツくん

ジャイアント馬場の「One Shot Interview」（担当／門馬忠雄先生）と「還暦インタビュー」（担当／村田久美）を読む。

（『Number』4月23日号、『サンデー毎日』98年5月10＆17日号より）

光ある所に影があり、タイガーマスクのいる所に暗闇の虎・ブラックタイガーがいるように、全日の5・1東京ドーム大会が成功した裏側には各媒体での広報活動に明け暮れた社長・馬場の姿が存在した。

それぐらいはクレバーな『紙プロ』読者の皆様なら、きっと御存知のことだとは思う。

ところが鎖国状態を一時的に緩めて珍しく凄まじい数の取材を受けてしまったためなのか、これまで聞いたこともない衝撃情報が次々と明るみに出てしまったことは、おそらく知る由もないだろう。

そこでまずはボクが尊敬する門馬忠雄師匠が馬場に直撃した『Number』でのインタビューから紹介させていただくのだが、相手が仲の良い門馬師匠だからか、あのいつでも慎重な発言の多い馬場が「俺はもう何も隠さない」とばかりに、何から何までやたら素直に告白しているからビックリ。

なにしろ全盛期の自分と比べると「ほんとに自分でね、あの馬場と今の馬場と同じかあって、自分で思うときある（笑）」と、いきなり自分の老いをあっさりと認めるなり、具体的に過去との違いを細かく検証していくんだから、もう凄すぎるのである。

これによると、馬場は「いま一生懸命走れないけど、昔、走れたという頭があるから、歩くのと変わらないぐらいの早さでも、走る真似はできるわけですよ」とのことで、いまは要するに「徒歩程度のスピードでの走る真似」という独自のトレーニング法しかできなくなっているという。

それゆえ「足が、十六文キックやったって、そんなに上がらない。上げたら自分の体が不安というか、もしかしたら相手の勢いでひっくり返るんじゃないだろうかというぐらい、不安になってきましたよ」と、フィニッシュホールドに対する不安感までカミングアウトする始末。

さらに私生活でも「このごろ夜遊びするようになってね、マージャン（笑）。書いていいよ、俺はもう何も隠

G馬場 還暦インタビュー
猪木といっしょにするな！

さない。マージャンも徹夜もします」という衝撃の不良化宣言までブチかまし、「読書家」というパブリックイメージまで「最近は、もう本なんてね、ゴルフの本をめくるだけですよ」と、平気な顔で豪快にブチ壊すのだ。

馬場を象徴するもう一つのパブリックイメージである「趣味の絵画」に関しても、「マージャン始めたら絵描く暇なくなっちゃってね」とあっさり否定し、「ゴルフとマージャンやめたら、俺はお陀仏ですよ（笑）」と当然のように言ってのける。

これは「誠実」をモットーとしてきた全日らしからぬ発言のようにも思えるが、逆に隠し事をしない開けっ広げな姿勢こそ真の「誠実」だということなのだろう。深いね、実際。

なお、このインタビューは「次の全日本の社長、誰がなるの。ジャンボにしたいったって、あんな調子でしょ。だめでしょ、やっぱり。いま『次、三沢。全日本の社長だぞ』と言っていいもんなのか、どうか。しかし、自然にそうなっていくんだろうと思うけどね」と、どさくさに紛れて次期社長まで明らかにされているという意味でも貴重すぎるので、バックナンバーを取り寄せてでもして読むように！

続いては『サンデー毎日』誌上での、「猪木、高田、最近の若者をメッタ切りダァーッ」と題された、なぜか猪木イズムを爆発させてしまった物騒な煽り文付きの記事である。

これまた全日創生期に「堅実に貯めたお金で世田谷に土地を購入し、その土地を担保に借金をして窮地をしのいだ」だの、グッズ売場で金を盗んだ子供を注意すると母親が「うちの子はお金を盗む子じゃない！」と逆ギレしただのという初耳な話もあるんだが、ポイントはやはり斬れ味抜群の「メッタ切りダァーッ！」な部分だろう。

たとえば「力道山は厳しかった思い出しかないんですよ。自分がもっと強かったら、やさしくしてもらえたかもしれない」という普通ならどうってこともない発言にしても、力道山に殴られもせずエリートとして最も優しく育てられたことで知られる馬場が口にすると意味が大きく違ってくるのだ。

つまり、他のレスラーが死ぬほどブン殴られたり、猪木が力道山に雑草のごとく扱われてきたのは、全て「弱かったから」というシンプルな結論になるわけなのである。

それだけではない。話が格闘技に及ぶと、もはや猪木の「一番弱い奴」発言以上に辛辣なお言葉で高田批判を繰り広げるのだ。

「K-1の試合は見ていませんが、ヒクソン・グレイシーは知っていますよ。この間、レスラーを辞めて何かの技を研究しだしたのか高田っていうのがいますけどもね、自分の名前を売りたい、芸能人になりたい、という人がヒクソンと試合をすること自体、僕は感心しませんね。ヒクソンとやるために毎日練習をしているんだったら理解できます。でも芸能人になりたい人たちが、格闘技戦に出場するなんて、一生懸命レスリングを勉強している人たちが迷惑すると思うんですよ」

さすが「シューティングを超えたものがプロレス」に続いて、「K-1もプロレス」という名言を残した偉大な男は言う事が違う（でもK-1は見たことないらしいが）。なにしろヒクソンだって知ってるし。

結局のところ馬場の視点、つまり2メートル9センチのジャイアントな位置から見下ろすと、「高田っていうの」は「レスラーを辞めて」「芸能人になりた」がるだけの感心できない男であり、「格闘技戦に出場する」のは「芸能人になりたい人たち」になってしまうのだろう。言われてみれば安生も芸能人志向かもしれないが、それにしたって毒舌すぎる。ポイズン澤田もビックリである。

キラー猪木が現役を引退すると同時に誕生した最も巨大な恐怖の大王、キラー馬場！

過去の文化的な趣味を捨て、マージャンやゴルフなどの悪い遊びに没入することで不良化した馬場が到達した境地が、新間と二人三脚だった当時の猪木に匹敵するキラーな芸風なのであろう、きっと。

そう考えてみると、A・ブッチャーやディック・ザ・ブルーザー、それにビクター・キニョネスなんかの名前を挙げるまでもなく、馬場の大好きな葉巻は極悪なマフィア・テイストを表現するのに最適なヒールの定番ギミックである。（ちなみに最近、日明兄さんも葉巻派になったらしい。馬場の影響？　それとも力道山？）。

ボクに言わせれば、誰一人として気付かなかっただけでキラー馬場の伏線は数十年前からずっと張られっぱなしだったのだ。

ファミリー（軍団）の掟を重視し、裏切り者には無言のままおもむろに火の点いた葉巻を腕に押し付ける。そんなキラー馬場が、ボクは心から見たい。

……って、こんなこと書いてるボク自身が真っ先に着火されかねないんだが、それも金村に匹敵する名誉の火傷としてキッチリ受けてみせますよ、ボクは！（言うだけ番長）

プ・プ・プ

紙のプロレス RADICAL PRESENTS

読者に挑戦シリーズ PART1
賞金総額
¥300000!!!!

プロレス・クイズ～!!

解けんのか――ッ!!

男なら上級に挑戦してきてみやがれ!!

応募要項!

世の中とプロレスしつづける『紙のプロレスRADICAL』では『読者に挑戦シリーズPART1』と題して賞金総額30万円のプロレスクイズを行います。クイズは初級、中級、上級の3コースになっています。その中から自分のレベルにあったクイズを選択して下さい。25問全問正解でコースごとの賞金をお支払いします。正解者多数の場合は各コースの賞金を人数で割ったものをお支払いします。(例えば初級問題で正解者が10人いたら、一人につき5000円をお送りします)P48の解答用紙を切り取り、いずれかのコースの応募券を必ず貼って封書にてお送り下さい。(応募券のないものや、解答用紙以外での応募、又は応募券をコピーして何10枚も送るのはもちろん無効!)締め切りは7/15必着です。皆さんドシドシ応募して来て下さいネ。　(出題:プロレスクイズ界のチョーロー)
※プロレス専門誌(紙)及びプロレス関係者への問い合わせは、先方にご迷惑がかかりますのでおやめ下さい。

賞金 ￥50000！

プロレスクイズ初級問題

（三択問題はA、B、Cで答えるように）

Q1　右の写真を30秒間じ～っと見て下さい。さてリングス和田良覚レフェリーはどちらでしょう？
A・右　B・左　C・どちらでもない

Q2　10・11『PRIDE－4』で“世界の酒豪”高田延彦と対戦する超大物格闘家の名前は？
A・RICKSON GRACIE　B・HICKSON GRACIE　C・RIKSON GRASIE

Q3　馳浩の全日本マット初戦の相手は誰でしょう？　A・小川良成　B・志賀賢太郎　C・志村賢太郎

Q4　ヘッドハンターA、ヘッドハンターBお兄さんはどっち？　A・A　B・B　C・兄弟と思わせておいて実は他人

Q5　アントニオ猪木が最近考案した履き物の名称は？　A・モンスタリッパ　B・サンダリッパ　C・アソコガリッパ

Q6　長州力（吉田光雄）のデビュー戦の相手は誰でしょうか？　A・サム・グレコ　B・トム・グレコ　C・エル・グレコ

Q7　ジャイアント馬場の本名は何でしょう？　A・馬場笑瓶　B・馬場正平　C・馬場京平

Q8　昭和59年1月10日、宮城県多賀城市総合体育館で行われたA・猪木＆？対B・N・アレン＆B・ハート。この時の猪木のタッグパートナーは誰でしょうか？　A・渕正信　B・高野俊二　C・前田日明

Q9　「今は醜いアヒルの子といわれるかもしれないが、必ずや、美しい白鳥になってみせます」これはある記者会見でのレスラーの発言です。さて誰の発言でしょうか？　A・スーパー・ストロング・マシン　B・ドン・フライ　C・白鳥智香子

Q10　右の写真はあるレスラーの素敵な奥さんです。そのレスラーとはズバリ誰でしょうか？
A・佐々木健介　B・ザ・グレート・サスケ　C・ターザン後藤

Q11　元旧UWF営業マン、サンボ浅子が経営する安くてうまい居酒屋の店名を答えよ
A・サンボ浅子の店　B・アバンギャルド　C・つぼ八

Q12　実際にある、アントニオ猪木の素敵なダジャレグッズの名称は次のうちどれ？
A・アントニオ命の母A　B・アントニオひのき　C・アントニオい消し

Q13　マイティ井上が引退してしまった今年、年男（虎年）の人が一人だけいます。さて誰でしょう？
A・タイガー・ジェット・シン　B・二代目タイガーマスク　C・タイガー服部

Q14　本田多聞のプロレス入りする前の職業は何？　A・大リーガー　B・自衛隊員　C・花屋さん

Q15　寛水流出身、後藤達俊が新日本プロレスに入門する前にしていた職業は何でしょう？
A・コピーライター　B・スタントマン　C・.自動車セールスマン

Q16　オカマ野郎リップ・ロジャースが持っている資格は何でしょう？　A.体育の教員免許　B.英検2級　C.宝石鑑定士

Q17　6／18現在、本誌編集長も愛読している、漫画『フォアマン』に連載中の女子プロレス漫画のタイトルを答えよ。
A・ビバ！思春期…　B・ちんぽ刑事　C・チェリー

Q18　次のレスラーの中で片目が義眼というハンディキャップを持ったレスラーは誰でしょう？
A・ビル・ロビンソン　B・ハクソー・ヒギンス　C・レイ・キャンディ

Q19　エル・カネックの出身地はメキシコの何州でしょう？　A・チワワ州　B・タバスコ州　C・リキチョウ州

Q20　東洋の巨人・ジャイアント馬場がドロップキックをすると32文ロケット砲、では頭部にチョップを入れる時の技の名は？　A・ヤシの実割り　B・脳天唐竹割り　C・アポッ

Q21　タイガー戸口あるいはキム・ドクがWARに上がっていた時のリングネームは？　A・赤鬼　B・青鬼　C・餓鬼

Q22　昭和59年2月頃新日本プロレスの一部で流行っていた遊びは何でしょう？（最初に始めたのは、藤波とケロちゃん。その後アントンも参加）A・将棋　B・ジャンケン　C・野球拳（1984年発行の「エキサイティングプロレス」より）

Q23　次の中で、現UFO総帥・アントニオ猪木からフォール勝ちしたことがあるのは誰でしょう？
A・ジャイアント・グスタブ　B・キングコング・バンディ　C・キューバン・アサシン

Q24　デビル雅美率いるデビル軍団が解散を表明した場所は？　A・自宅　B・全女SUN族　C・相模原市立体育館

Q25　南海の黒豹、リッキー・スティムボートの母親の名前は？　A・孝子　B・ナターシャ　C・フジ

賞金 ￥50000！ コース応募券

賞金

￥100000!!

プロレスクイズ中級問題

（三択問題はA、B、Cで答えるように）

Q1 大仁田厚が生まれて初めて作った料理は何でしょう？ A・カレーライス B・親子丼 C・ロールキャベツ

Q2 全日本プロレスの世界ジュニア・ヘビー級王座、初代王者は誰でしょう？
A・ヒロ斉藤 B・小林邦昭 C・百田光雄

Q3 次の中でコブラツイストの別名ではないものは？
A・アブドーラ・ストレッチ B・グレープパイン・ホールド C・スタンディング・フィギア・4・シザース

Q4 ザ・ブッチャー、ホセ・フェレ、ジーン・フェレ。これらのリングネームを使っていたレスラーは誰？
A・アドリアン・アドニス B・キラー・ブルックス C・アンドレ・ザ・ジャイアント

Q5 元全日本女子プロレス、永友香奈子はレスラーになれなかったら何をしていたと言っていたでしょう？
A・占い師 B・自殺 C・大恋愛

Q6 初代タイガーマスクが全盛期の頃、嫌いだった言葉は何でしょうか？ A・アイドル B・友情 C・一期一会

Q7 現在全日本プロレスの三冠ベルトの一つ、UNヘビー級王座。初代王者は誰でしょう？
A・ジョン・トロス B・アントニオ猪木 C・レイ・メンドーサ

Q8 爆弾小僧・ダイナマイト・キッドの日本マット初戦の対戦相手は誰でしょう？
A・阿修羅・原 B・タイガーマスク C・寺西勇

Q9 山本小鉄がワールドプロレスリングのTV解説を始めて困ったことがあります。さて何でしょう？
A・トレーニングする時間が減った B・仲人の依頼が増えた C・選手から恨まれるようになった

Q10 右のレスラーのリングネームは何でしょう？

Q11 紙のプロレス本誌創刊号～22号までで表紙になっていない人が次の中に一人だけいます。さて誰でしょうか？ A・山崎一夫 B・リック・スタイナー C・ヒクソン・グレイシー

Q12 次の中でIWGPヘビー級王座に挑戦したことがない選手は誰でしょう？
A・トミー・レーン B・ケリー・フォン・エリック C・ビクトル・ザンギエフ

Q13 今号で二瓶組超美人マネージャー・ダイアナが着ていたドレスはいくらで買ったものでしょうか？ A・1万円 B・2万円 C・5万2500円

Q14 チャカール、アブドーラ・デイ、ボーイ・デンジャー。この三選手が共通して上がった日本の団体はどこでしょう？ A・IWA B・FMW C・WAR

Q15 上田馬之助は俗にいうセメントマッチのことを平仮名4文字で○○○○試合といいます。その4文字を当ててください。 A・ゆかいな B・つめたい C・くだらん

Q16 1985年12月、クラッシュギャルズはじめ女子プロ軍団が総出演したミュージカルのタイトルは何でしょう？

Q17 ディック・マードックといえば“狂犬”、モンゴリアン・ストンパーといえば“踏みつぶし野郎”、サニー・オノオといえば“金権企業頭脳”、ではアルティメット・ウォリアーといえば何でしょう？

Q18 紙のプロレス本誌10号色紙プレゼントでユセフ・トルコが色紙にしたためた素晴らしいお言葉とはズバリ何？

Q19 前田日明、ヒクソン・グレイシー、この二人と対戦経験（エキシビジョン含む）のある現覆面レスラーは誰でしょう？

Q20 リバプールの風になったのは山田恵一。ではミズーリ川に身を投げて死んだのは誰？

Q21 “神様”カール・ゴッチは愛犬家としても有名だが、いままで一番かわいがっていた犬の名前はなに？

Q22 風雲昇り龍・天龍源一郎の日本でのデビュー戦はジャイアント馬場と組んでのタッグマッチでした。ではその対戦相手は誰と誰でしょう？

Q23 昭和47年、若き日の馬場さんが国会議員へ立候補という話が一部で報じられた。その時、馬場さんをとくに大憤慨させた某誌の表現とは何でしょう？

Q24 ザ・デストロイヤーの覆面世界一決定戦、第2戦の相手、ザ・トルネードの正体は誰でしょう？

Q25 ラストは予想クイズです！ ～前田日明リングスラストマッチ～VS山本宜久の勝者はどっち？

賞金 ￥100000!! コース応募券

賞金
¥150000!!!
プロレスクイズ上級問題

（三択問題はA、B、Cで答えるように）

Q1　昭和58年度東京スポーツ新聞社制定プロレス大賞、新人賞を受賞したレスラーは誰でしょう？

Q2　プロフェッサー・イトウというリングネームを名乗っていたレスラーは誰でしょう？

Q3　世紀の一戦・アントニオ猪木VSモハメド・アリ戦。日本でのテレビ生中継の開始時刻は？

Q4　昭和42年7月21日、名古屋市金山体育館、対仙台強戦でデビューした選手は誰でしょう？

Q5　米国マット界初のPPV（ペイパービュー）のメインのカードは何でしょう？

Q6　1979年1月全日本プロレスに初来日したブルーザー・ブロディ。第2戦で行われたバトルロイヤルで何と5人掛かりのフォールを跳ね返していますが、その5人のレスラー全員の名前をあげて下さい

Q7　昭和57年3月19日、後楽園ホールで行われた三沢光晴＆？対百田光雄＆菅原伸義戦。さて三沢のタッグパートナーは誰でしょう？

Q8　1996年11月、藤波辰爾がファッションモデルとして参加したのは誰のファッション・ショーでしょう？

Q9　日本にも数回来日している、本名マイケル・ロバート・ジャクソンのリングネームは何でしょう？

Q10　右の写真はあるマット界超大物関係者です。さて誰でしょう？

Q11　破壊王・橋本真也の掌を割り箸で突き刺したレスラーは誰でしょう？

Q12　誠軍団1号と同じ生年月日の日本人格闘家を1人あげよ

Q13　狂乱の貴公子・リックフレアーと年齢、誕生日まで同じ元力士がいます。その力士とは誰でしょう？

Q14　ジャイアント馬場の32文ロケット砲、日本マットでの第1号犠牲者は誰でしょう？

Q15　ミル・マスカラスといえば千の顔を持つ男、シエン・カラスといえば百の顔を持つ男、ではエル・ハルコンといえば何でしょう？

Q16　ザ・トルーパーというリングネームで全日本プロレスマットに上がったレスラーの現在のリングネームは？

Q17　リック・フレアーの本当の髪の毛の色は何色でしょう？

Q18　東洋の巨人・通称馬場さんが以前よく通っていた札幌の寿司屋に行くと必ず出てきた寿司ネタ以外の食べ物は、さて何でしょう？

Q19　まだら狼・上田馬之助のテーマ曲『地獄へ堕ちろ！ゴー・トゥ・ヘル』のシングル盤のライナー・ノーツを書いた人は誰でしょう？

Q20　ジャイアント馬場・元子夫妻が初めて媒酌人を務めたのは誰の結婚式でしょう？

Q21　バトラーツ島田レフェリーがマレンコ道場で指導した日本人覆面レスラーは誰でしょう？

Q22　映画『ロッキー』シリーズの中で北尾光覇が一番印象に残っているのはシリーズ何作目のどのシーンでしょう？（『勝利へのステップ』・田中良明著より）

Q23　元日本プロレス会長、平井義一氏の現在の職業は何でしょう？

Q24　1987年、ロイヤルアルバートホールで引退試合を行った女子レスラー、ミッシー・ハイアット。引退試合（タッグマッチ）の対戦チーム二人の名前を挙げよ？

Q25　ラストは予想クイズです！～前田日明リングスラストマッチ～VS山本宜久の勝者と試合時間を選んで下さい（解答例：Aとe）

A・前田日明　B・山本宜久　C・その他　　a・0～5分　b・5～10分　c・10～15分　d・15分以上　e・その他

紙のプロレス RADICAL

PRESENTS

応募券
ここに貼る

プロレスクイズ解答用紙

A1

A2

A3

A4

A5

A6

A7

A8

A9

A10

A11

A12

A13

A14

A15

A16

A17

A18

A19

A20

A21

A22

A23

A24

A25

【RADICAL 1 行劇場】チョロ「編集長、ど、どうですか、ボ、ボクの作ったこのクイズ?」　山口「角度が違う、角度が!(バキッ)わかったかッ、コツが!!　ア〜ン?」

RADICAL BOUT REVIEW

紙プロ的RADICAL観戦記

つちゃー観戦記なんですけどね

新名物!!

蘇えれ金狼!
上田馬之助
©ツネ

1998 ADVANCE TOUR
6/2(後楽園ホール)
PANCRASE

極私的ベストバウト

1位　鈴木みのるの一挙一動
(試合はもちろん、入場だけで銭の取れるプロレスラーであることを再認識させた)

2位　窪田幸生のプロ意識の芽生え

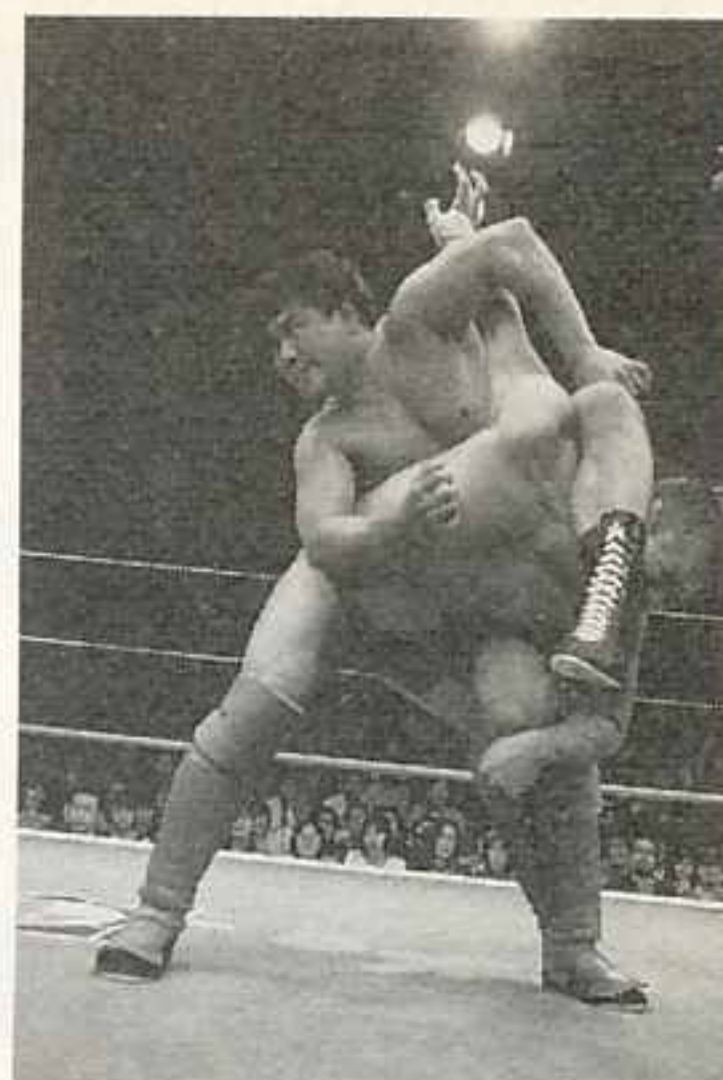
番外　國奥麒麟真の入場時の「ナイトライダーのテーマ」のアレンジ盤

あのリング上で起こったことを隠蔽してはならない!!

事件はリオン・ダイクvs國奥麒樹真の試合後に起こった。國奥のタックルに合わせて、ダイクの顔面キックが炸裂。大の字となった國奥を心配して柳澤がリングにかけ上がる。そして柳澤は、なんと梅木良則レフェリー(のレフェリング)に対して食ってかかったのだ。あらためて、パンクラスが死と隣り合わせにいることを垣間見た瞬間だった。梅木レフェリーは人目を忍んで涙していたし、僕には憮然としていた柳澤に事情を聞く勇気もなかった。『紙プロRADICAL』8号のインタビューでも、柳澤はレフェリーに関して苦言を呈していたが、理由はどうあれ、柳澤の感情のムキ出し方には大賛成。あの姿に専門誌がスポットを当てさえすれば、パンクラスに問題提起を起こすきっかけにもなり、そこから選手はもちろん、観客にパンクラスの見方を確立するための"気付き"を与えることができる。

断言する。あのリング上で起こったことを、決して隠蔽(いんぺい)してはならない!!(えっそんなことしてない!?)

ところで、メインに登場したジョン・ローバーだが、入場テーマ曲に使用した『アイアンマン』と雰囲気はピッタリ。あとはコスチュームにもう一工夫あれば、といったところか。試合はローバーが何度か反則をとられたが、今度は他流試合要員としてローバーの再登場を望みたいと思わせる闘いぶりだった。確かに、この日も観客は決して多くはなかった。ただし、船木誠勝不在のいま、フロントを含め、それ以外の人々のやる気は伝わってきた。ここで個々の甘えが出なければ、そしてマスコミも甘やかさなければ、パンクラスは必ず面白くなる。僕も頑張る。船木もパンクラスも頑張れ。

(”Show“大谷泰顕)

Mr.Bの大逆襲

5/27（後楽園ホール）
格闘探偵団バトラーツ

極私的ベストバウト

1位　石川雄規vs池田大輔
2位　臼田勝美vs松永光弘
3位　モハメド・ヨネ&本間朋晃
vs小野武志&日高郁人

すべての道がプロレスに通ずるなら バトラーツよ、デタラメに行け！

本誌には、約1年半前の創刊号で、〝ブチ抜き32ページ・バトラーツ大特集〟を組んだという輝かしくも気の狂った実績がある（しかも表紙はターザン山本だ）。

そしてその後も、なぜかバトラーツをしつこく観察し続けてきた。だからなのか、この興行が終わった後には「なんであんなにファンが熱狂してるの？」とよく質問された。

そういえば4年ほど前にこんな話を聞いたことがある。

まだ藤原組の若頭だった頃の石川雄規は当時、デッサンを習っていて、90歳になるおばあちゃん先生に「コップを描くにしても、コップそのものを描くんじゃなくて、〝陰〟を書け」と言われたという。

「つまり、〝実〟を描くんじゃなく、〝実〟の裏に潜んでいる〝陰〟を描けって。人生における〝陰〟のデッサンというのは、〝人間とはなんだろうか？〟〝自分はどうして生きてるんだろうか？〟――そういうことを考えることだと、その先生に教わったんです。人生における〝陰〟のデッサンは、自分への〝問いかけ〟なんだって」

石川雄規はリング上で身体を軋ませながら、〝プロレスとは何か？〟〝俺はなぜプロレスをやっているんだろう？〟〝闘いとはなんだろう？〟と常に対戦相手と観客と自分自身に対して問いかけてきた。

ブツブツブツブツ、と。

〝問いかけ〟とは考えることである。

〝考えること〟は実にエネルギーがいる。

当然のようにリング上で肉体をぶつけあうのにも常人の想像を絶するエネルギーが必要だ。

石川雄規のプロレスからは、〝肉体〟と〝精神〟の両方から放出されるエネルギーが尋常でないことがハッキリと読み取れる。

話はいきなり変わって、新日本プロレスの6・5日本武道館大会。久しぶりにアントニオ猪木のいない新日本をタップリと堪能させてもらった。リングから放出されるレスラーたちのエネルギーも、すさまじく盛り上がる客席のエネルギーも相当な量であることは間違いない。

しかし、〝新日本という巨大なテーマパーク〟には〝問いかけ〟は必要ないのだ。テーマパークに行くのに、〝このジェット・コースターの坂の角度の意味はなんだろう？〟とか、〝ミッキーマウスの館にはなぜミッキーマウスがいるのだろう？〟とか考えるアホはいないからである。

ファンは、テーマパークに好きで楽しみに行っているのだから、客席は盛り上がって当然だ。嫌いな人はハナから行かない。それだけのことである。

さて、バトラーツのメイン。石川雄規vs池田大輔戦。

この試合には――、

「精神のピュア性」と「肉体のグロテスク性」

「精神のグロテスク性」と「肉体のピュア性」

この四つがクルクルクルクルと入れ替わりながら異なる顔を見せていた。

プロレスが好きだという「精神のピュア性」と、ゴツンゴツンと頭突きや蹴りをブチかまし合う「肉体のグロテスク性」。

人生の陰の部分が噴出するときの「精神のグロテスク性」と、練習で培ったタフさと技術が素直に出る「肉体のピュア性」。

その四つが瞬間瞬間に重なり合って、異様なエネルギーとなってリングから放出され、客席にも「バトラーツってなに？」という体勢がいつの間にかできていたのだ。

つまり、リング上にも客席にも〝問いかけ〟が存在したということである。

先述した90歳のおばあちゃん先生は、石川雄規にこうも言ったという。

「いまの時代、〝実〟ばかりを追ってる人がいる。それは〝陰〟のデッサンをしてないからだ。だから人に感動を与えられない」

〝実プロレス〟の裏に潜んでいる〝陰プロレス〟を、これまでバトラーツは〝ドサ回り〟をしつつ描いてきた。

この日の熱狂は、バトラーツというコップが、これからシッカリと描きされるんだな、という予兆が呼び起こしたということである。（日昇）

インディー・ワールドvol.1 "FUCK DEM UP!"

5/21（後楽園ホール）
インディー活性化委員会

極私的ベストバウト

1位　佐藤竜騎士の
クラッシャーな蹴り
2位　なんだか楽しそうな
キニョネス
3位（ウォーリー）
ヤマグチサンの行動

活性化されたのはインディー？ それとも新宿二丁目界隈？

これで活性化できると本気で思ってるのか？　感想はこの一言だ。

会場全体に緩みきった空気が漂う中で緊張感のない試合が続く地獄の責め苦はハッキリ言ってヘヴィこの上なく、これまでボクが生涯見てきた中でも1、2を争う「眠気を誘う興行」であった。

剛竜馬が「良かったのは海援隊と浜田だけ」と言い切ったように、もはやレスラーが一部のインディーマニアに踊らされているようなそのダメさ加減はバカにでもわかるほどなのである。

……と言っても、決して他の選手が悪かったわけではない。

そもそもボクはチョロが絶賛するA・クーガーの品定めに行ったわけなのだが、彼氏は細かい動きにも天性のセンスを感じさせてくれたし、月光、R・メンドーサ、佐藤竜騎士なんかも確かに良かった。それでも試合になると越境タッグが多すぎて、相方や対戦相手のセンスの悪さばかりが目立ってしまうから始末が悪い。シングルは「次の試合じゃ覚えてろよ！」系の予告編ばかり。

なぜか『週プロ』では無難な扱いだったが、温和な『ゴング』でさえ「インディーは活性化されたか？」と見出しに打ち、「試合は、ちょっとひどいね」という藤原組長の毒舌コメントも載せたように、これじゃ活性化されるのはインディーじゃなくてWWFというかキニョネスでしょ。あと出場選手の多かったIWAジャパンね。要するに、これは新宿二丁目（IWA事務所の住所）活性化委員会であり、もはやターザン後藤とカクタス・ジャックが抗争していた頃のIWAと大差ないのである。

まあ、こんなことはわざわざ私に言われるまでもなく、彼らが一番よくわかっていると思う（アーリー・カタブツ調）。（豪）

RADICAL BOUT REVIEW

'98大日本武闘派宣言～闘覇～

5／20（後楽園ホール）

大日本プロレス

極私的ベストバウト

1位　試合後に堂々とダァーをかます石川雄規
2位　朴訥とした表情のMr.デンジャー
3位　客に手を出しかけた臼田

石川のライバルは対戦相手じゃありません。お客様です。

上田馬之助じゃないが、この日の石川雄規の敵は対戦相手じゃなく、お客様だった。ホントに見事に会場全体を敵に回していたのだ。セミの松永＆山川vs石川＆臼田はそれぐらい凄かった。

客席には「インチキ猪木粉砕」などと書かれたプラカードが踊り、太刀光を見て「やっぱスケールが違うよなぁ」と真顔で呟く輩がいたり、レスラーのマイクにツッコミの野次を入れてゲラゲラ笑っている連中がたくさんいた。そんな客層が相手である。

W★INGフリークスや大日本ファンは、有刺鉄線バットで殴り掛かる松永や山川に大声援を、キックやサブミッションを繰り出す石川や臼田には場内一斉にブーイングを飛ばすのだ。「プエルトリコってこんな感じ？」というぐらい日本離れした雰囲気だったことをご理解いただきたい。

試合が始まると「待ってました」とばかりに客席からは「インチキ～」の大合唱。ところが、その中で、石川はいつも通りの猪木殺法を連発し、客席を見渡して不気味にニヤリと笑った。この笑顔ひとつで石川は、見事に観客を相手に闘い、ハートの強さを見せつけた。

試合後、臼田の正面切って1人のファンがなにやらわめいていた。臼田がそのファンの持っていた「インチキ猪木粉砕」のプラカードを破り捨てると、客席からは「客に手出していいのかよ！」と野次が飛び、破られたヤツは客にアピールしだす始末。レスラーは絶対ファンに手を出さないと思っているのだろうか？　だとしたら、「インチキ」レスラーの力を見せつけるためにも、臼田はあそこで手を出すべきだった。

（ノブ）

Las Grandes Viajes（大航海）

5月13日（後楽園ホール）

ワールド修斗

極私的ベストバウト

1位　藤原正人vs田中幸一
2位　マセロ・アグアvsフランク・トリッグ
3位　とびきりの美女を両脇にはべらして観戦していた藤原敏男先生

ぶざまとかっこいいは地続きだゼェ～！

まずは右の顔を見ていただきたい。この顔にでっぷりした身体と短い手足をつけたモンゴリアンが田中幸一である。おしゃれなシューティング勢の中にあって、この顔、身体から漂うダメっぷりはタダごとではない。実際のところパンフレットの選手紹介では「なんでもいい、一つでも印象に残る動きを見せてほしい」とお願いされるありさまなのだ。

こんなかませ犬然とした田中であったが、試合が始まると事態は一変。彼の独壇場と化す。常にマウントを取り、三角絞めは強引に立ち上がってパワーだけで振り落としたりと、おいしいところを完全に独占。試合後にはバク転をかまして、リングアウトする時にはロープに足を引っかけてこける。ホントに何をやらせてもカッコ悪い。そして、その一挙手一投足に注目させられる。

マイナスイメージがでかければでかい程、それをひっくり返した時の反響はものすごいものになる。何を言われようと、どんなに叩かれようとも、リングという人様の前で自己表現する舞台に一度立てば、そこからはすべてがテメエのやりようだってことである。

シューティングはいまノリにノッている。選手はもちろんのことセコンドまで「選手に指示するオレってカッコいいでしょ」って感じで背中で主張している。

その思い込みが自信につながり、熱につながり、会場全体を熱くしているのである。まさに有頂天！　翼があったらアッという間に天まで舞い上がるだろう。

6月2日、同じく後楽園ホールで、ある団体の風好きの人が必殺技を〝四分の一〟公開したらしい。こんな風にチョコチョコと出していっても伝わりゃしねぇってことです。

（ブチ）

1998 ADVANCE TOUR

5／12（後楽園ホール）

PANCRASE

極私的ベストバウト

1位　柳澤龍志vsオマー・ブイシェ
2位　髙橋義生vsセーム・シュルト
番外　柳澤の入場時の「移民の歌」

あれから丸10年。メッツァーの挨拶と義に生きる髙橋

丸10年前の5月12日、あの新生UWFが旗揚げした。場所も同じく後楽園ホールである。あの日の挨拶で前田日明は「選ばれし者の恍惚と不安二つ我にあり」と、太宰治の『葉』から言葉を引用した。僕は、まず誰がどんな挨拶をするのかに注目した。出てきたのは新王者、ガイ・メッツァー。不謹慎かもしれないが、僕は思わずほくそ笑んでしまった。

さて、休憩前の山宮恵一郎vs伊藤崇文の試合中、観客同士の野次が交錯した。そういえば、旧UWFの頃にも観客同士が「プロレスやれー!!」「そんなことを言うヤツは帰れ!!」と言い合っていたような記事を、当時の専門誌で読んだ記憶がある。もちろん、この日の野次は当時のそれとは質は違うのだろう。それでも観客同士がこれほど熱を発する光景がパンクラス史上あっただろうか。今度は観客同士ではなく、リング内の攻防で観客を魅了させる光景が見たい。そのためには観客も、ただ試合を凝視するだけでなく、いろいろと実験をするべきではないか。パンクラスには、いやプロレスには「こう見なければならない」という正式な見方はない。裏を返せば各々が思い巡らせた見方をしなければ意味がない。もっと×10、である。選手が物足りなければ、観客が乗せてやるくらいの度量を持てばいいのだ。

ところで、メインに登場した髙橋義生は、見方によっては死をも覚悟しているかのような闘いぶり。名は体を現す通り、髙橋は「義に生きている」。怖い。率直にそう思う。ただ、その生き方を本人が選んでいるのだから誰にも止められない。髙橋は試合後、肩をかつがれて退場した。10年前に肩をかつがれていたのは前田だった。ここにも時の流れを感じた。

（Show）

第1回インディー・ジュニアカップ・トーナメント

5/12（鶴見青果市場）
国際プロレス

極私的ベストバウト

1位　二瓶&鴨居&幻vsモンゴルマン&T・鳥羽&佐野直

2位　インディーJrトーナメント決勝戦での鴨居長太郎のレフェリング

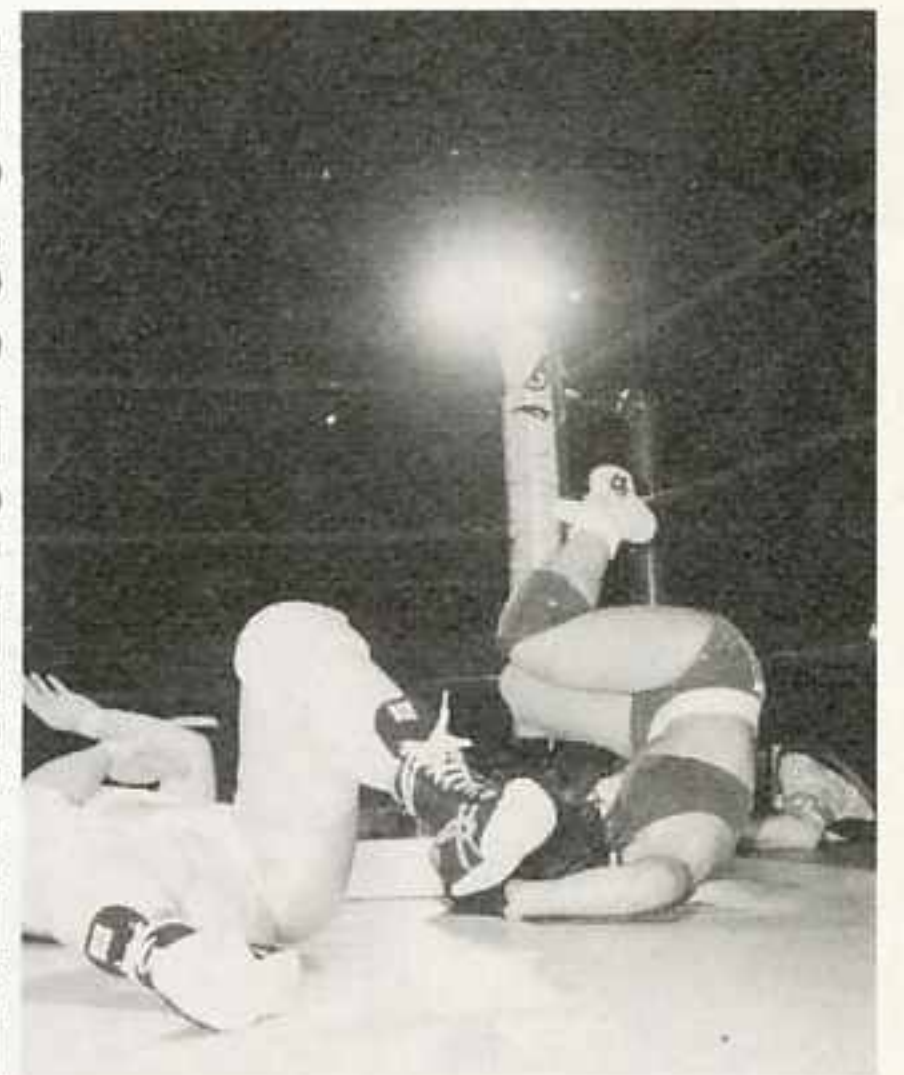
3位　鶴見五郎、二瓶組長の怒り

これが鶴見で生きる道

国際プロレスというのは、一言、鶴見五郎ワールドなのである。

鶴見五郎と言えば、アフロヘアに象徴されるその風貌、そして昔ながらの怪奇派レスラーをこれでもかといわんばかりに登場させたりと、時代遅れの感は否めないが、〝神様〟ゴッチのいうところの「古いことは新しいことであり、新しいことは古いことでもある」に則って考えると、やはり鶴見の考えることは新しいのである。アフロヘアは街のオシャレさんにも多く見られるし、ここ何年かの刺青（TATTOO）ブーム!?に先駆け二瓶組をリングに上げるというところもやはり新しいし、怪奇派のマミーなんて、若者に人気のグレートR&Rバンド〝マミーズ〟みたいなもんだし、ゴローちゃんはとってもクールってことなんだと思う。

この日も、FMWのエンターテーンメントプロレスも顔負けのそれを見せてくれた（もちろん舞台装置に金を掛けたり、大物レスラーを呼ぶことは出来ないが）。亡くなったばかりのhideを追悼してトウカイブシドーX－Japanを登場させたり（鶴見のアイディアじゃないか？）、売店に「プロレスマニア館」の強盗を登場させたり（不謹慎？）、元プロボクサー鴨居長太郎をレフェリーにしてのタイソン、渡辺二郎のパロディ等々……。

それに加え、市場内のタマネギ山に選手が激突し市場関係者が眉をひそめると、鶴見はすぐさま関係者へ謝罪&選手へは激怒といったボスとしての行動力、更に観戦していた二瓶組長が試合中のファントム船越、アポロン・リーをボコボコ（マジ）にしてしまうといったリアリティー溢れるハプニングなども見れて、ボクは大満足。鶴見五郎の考えは新しい。そして今でも充分通用する。アレッ？　今日は鶴見も怪奇派も出てねェや。（チョロ）

ARS '98 TOURNAMENT

5/5（川崎市体育館）
アルシオン

極私的ベストバウト

1位　クールな吉田

2位　レジーのパワー

3位　府川の気合い

ビッグマウスはレスラーの特権　今後の吉田に注目せよ！

吉田万里子の全選手を敵にまわしたクール&無礼な発言の数々が非常に頼もしく、楽しみだったこの大会。復帰後初めて見る吉田はすっかり体型も変わり、ビッグマウスもよく似合う、まさにビジュアルファイターであった。

なにしろ、「優勝宣言は大した事ではない」だの「このメンバーで負けたらちょっと…」だの以前のマリちゃんからは考えられない強気な発言炸裂なのである。おまけに代名詞とも言える飛び技も封印しているらしい。どうしたの、マリちゃん……

と、私の気持ちなんて彼女は勿論知る訳もなく、全く飛ばない試合をやってのけた。変わった。態度もふてぶてしい。（1回戦終了後には二上に対し、またしても「大した事ない」と発言）結局、2回戦でレジーに敗れてしまうのだが、最後までクールな態度は崩れなかった。全試合終了後の記念撮影でさえも。

復帰から僅か2週間余りだが、貫いたのは見事である。全く余計な事だが、同性としては「反感買ってんだろうな」等の心配もしたものだ。悪く言うと、反抗期の中学生チックな発言も多かったし。今回の変化が今後どうなるか、要注目である。

ところでその他の試合だが、相変わらず技のミスは目立ったものの、「一つの技に対する執念」という点では評価したい。さすがに府川のムーンサルトは怖かったけど。しかしアレでは怪我人続出も無理はない。観客が求める「新しいモノ」を見せる事も大切だが、未完成の技を無理矢理出して失敗、欠場となっては本末転倒である。私がアルシオンの選手に伝えたい事は、「そんなに慌てなくても大丈夫」の一言である。（無責任）

（デカメロン改めジャイ子）

全女“乱”'98

5/5（後楽園ホール）
全日本女子プロレス

極私的ベストバウト

1位　ZAP・Ivs豊田真奈美

2位　中西百重vs高橋奈苗

3位　ZAP・Tvs前川久美子

キミは、中原が叫んだ禁断の一言を聞いたか？

ZAPの隠し玉、磯崎ともかがデビューした。本名のままだがZAPのコスチュームを身にまとい、マスクまで着用している。試合の方も、新人離れした身のこなしとセンスがキラリと光ったいい試合だった。合格点は軽く超えている。

昨年の夏の選手大量離脱から半年以上経ったいま、全女の新人たちの面白さは抜群である。ベテラン選手が大量に抜けたお陰で、キャリアだけでは手の届かない素晴らしいものを持った選手が次々と頭角を現してきている。特に光るのは、柔軟な体で美しすぎるジャーマンや三角飛びブランチャを放ち、そのうえ社会人柔道出身の坂井澄江（J'd'）に押さえ込みで勝ってしまう強さまで持ち合わせた中西百重。大量離脱がいい方向に転がった結果であろう。災い転じて福となす、転んでもタダじゃ起きない全女の底力である。

ZAPの中原&磯崎も素晴らしい。2人はこの日、豊田真奈美vsZAP・Iのセコンドに付いていた。いつも通り、正規軍セコンドとZAPセコンドが大乱闘を繰り広げるハチャメチャな試合展開の中、豊田が「ノータッチ・ロープ飛び乗りブランチャ」を失敗した。その瞬間、中原が会場中に響き渡るでかい声で叫んだ。**「豊田、バ～カ！」** 技を失敗した選手にこんなこと言うヤツは初めて見た。じつに見上げた根性だ！　その声に烈火の如く怒り、中原に殴り掛かる豊田の大人げのなさも評価したいが、その上を行く中原は逆ギレして高橋奈苗にケンカ腰で突っかかっていった。その隙に磯崎は豊田の膝関節をガンガン蹴っている。もうメチャクチャだ。

こんな無邪気で逞しい新人は全女以外では育つまい。（ノブ）

全日本プロレス創立25周年記念興行
5/1（東京ドーム）全日本プロレス

1位　三沢光晴vs川田利明
2位　馬場さんへの大「ババ」コール
3位　全日の中で"新日"を見せたベイダー

極私的ベストバウト

耐え続けてきた者が謳歌する今世紀最後の祭り！

「馬場さん、俺の挑戦を受けろ！」――。
アントニオ猪木の馬場さんへの挑戦劇。
「時期尚早」「クリアすべき問題をクリアしてから」――。
馬場さんの答えはいつもノラリクラリで、その対応は、「どっちが強いかリングで決めればいい」という猪木の姿勢を支持するファンからは臆病者呼ばわりされる原因となった。
猪木の馬場さんへの挑発は、実に30年近く続けられた。
「腕立て伏せもできないヤツはプロレスラーとはいえない」「馬場さんのプロレスはコミック・ショー」!!!!!!!!!!!!!!
馬場さんは巨大な時間軸を耐え続けた。
リング内外で話題を振りまく"猪木プロレス"という名のスキャンダル。それに対抗して、地味ながらも長い間培養してつくりあげた"馬場プロレス"という名の無菌空間。
馬場さんがリングで体現できなかった"馬場プロレス"は、「三沢光晴」という存在が引き継いだ。
馬場さんも三沢も忍耐の人だ。
つまり、全日本のプロレスとは、耐え続けることができる者でなければ、「できない」し、「見れない」し、「伝えられない」ものなのだ。
そして1998年――。耐えに耐えた者たちの宴が催された。
「プロレスを決して飛び越えることのないプロレス」を"やる者"と"見る者"と"伝える者"が謳歌する今世紀最初で最後の巨大な祭り！
それが5・1東京ドームである。

（日昇）

エンターテイメントレスリングライブ ～スーパーマッチin YOKOHAMA～
4/30（横浜文化体育館）FMW

1位　冬木弘道vs大仁田厚
2位　新崎人生vs金村ゆきひろ
3位　渡辺二郎の勇姿

極私的ベストバウト

かゆいところに手が届く客商売の基本を見た！

冬木の登場で、ついに本格的エンターテイメント路線を歩むことになったFMW。大会名にエンターテイメントとついたプロレスの興行は初めてである。ここまで堂々とやられたら誰も何も言わないだろう。大仁田にはかみついた日明兄さんでさえ、冬木やブリーフ・ブラザーズには何も言わないのだから。知らないだけかもしれないが。
さて、この日は『ディレクTV』が全面的に大会をサポートし、PPV（ペイ・パー・ビュー）で生中継している。花道には立派なゲートが作られ、巨大なモニターがセットされていた。冬木が主張する「プロレスの前後を変える」というのは、こういうことなのだ。試合以外の部分での楽しみが増えるのは、金を払って見に行くお客さんにとって嬉しいはず。ブリーフ・ブラザーズはプロレスを「客商売」と言い切ったが、客商売の何たるかを熟知した、かゆいところに手が届くような演出だった。
ところで、この「エンターテイメント・レスリング」だが、ポイントは、やはり試合内容だろう。プロレスファンが喜ぶような演出があったとしても、試合がしょぼければ演出も台無しである。そういう意味じゃ、従来よりも大変なはず。演出を自分でやりながら、素晴らしい試合も見せなければならないのだ。他のインディーとはスケールが違うなという感じである。
そういえば、この日、ボクシングの元世界チャンプ、渡辺二郎氏の登場も、タイソンの歩んだ道のりをなぞっただけのようなものだったが、結構楽しめた。FMWのリングではどんどん新しい実験が行われているのだ。二郎さんの再登場は希望します。

（ノブ）

旗揚げ3周年記念大会第3弾
4/29（川崎市体育館）ガイア

1位　広田紗久良の入場シーン
2位　里村明衣子vsシュガー佐藤
3位　広田紗久良vsシュガー佐藤

極私的ベストバウト

里村を後継者に指名？ ボクは広田を推すんです！

この日、行われた若手のみのトーナメント、『ハイスパート600』で里村が優勝した。そのご褒美が、長与千種のパートナーとしてメインでアジャ・コング＆尾崎魔弓と闘うというものだった。そこで、里村は予想以上の大健闘。見事、長与から「後継者」の3文字を引き出すのだった。
これに異を唱えるものはいないのだろうか？ 若手中心で均衡を保っていた実験的な状況から、里村が頭ひとつ抜きんでた状況となった。均衡が破られたのだ。いままではいい試合をしてさえいればよかった若手という存在から、客を満足させて帰すメインイベンターへと変身しなければならないのだ。
誰もがなろうとしてなれなかった長与千種という存在。里村を後継者に指名したが、ボクらが見たいのは長与に牙を剥く存在だったりする。別に、練習が嫌だから反旗を翻すとかいう次元じゃなく、長与の価値観を壊せるだけの新しい価値観を持った選手に育って欲しい。お仕着せでもらう後継者のイスよりも、プロレスラーならば力で長与を蹴落としてでもトップの座を奪い取るべきだ。
他の里村以外の選手で、やってくれそうなのは広田紗久良だろうか。笑える面も持ちながら、ひたむきな姿はファンを魅了できる。一生懸命とは、わりと自己満足に陥りがちな世界であるが、広田の視界にはしっかり観客が入っている。この日も、1人コスチュームにこだわりを持っていた。結構、味気ないコスチュームが多いガイア軍団の中で、艶かしいものがあったのだ、いや、これホント。試合の方も、何とも形容しがたいブチ壊れた面白さがあり、個人的には大絶賛。もうちょっと体が大きければ、という注文も付けたいところだが、現時点でもかなりイケてます。（ノブ）

オラッエッー最近のマット界のながれっちゅうのをナァ教えてやろうじゃネェかアーッ!?
ど新人・チョロが締切直前の6／9午前1:35～午前7:11迄でまとめたコーナー！

マット界 nちょうの出来事！

マット界の流れが一目瞭然！

ど、どうも、チョロです。余りにも反響がないもんだから、無くなるはずだったんですよ、ちょうの出来事！　たまにあっても「殺す!」とか「つまんねぇ～！」とかそんなんばっかり。一応会場や記者会見に行っては写真を撮ってるんだけど、無意識のうちにヤーブローばっかり撮ってしまうんですよ。リングスで撮ってもパンクラスで撮っても現像するとヤーブローが写ってるんですよ。新しい病気なのかな～。（撮影・ちょろ）

1998 4.22～6.5

①「オイオイオイ! こんなイスじゃしっくりこないっちゅうの！帰っちゃうよ！」

②「オッケーオッケー！ やっぱりコレぐらいないとな～ダメなんだよな～」

③ジパングレフェリー・なかじょうただし。哀愁の漂うレフェリングは絶品！ そして必見!!

④見てみ、この絵、絵、えーッ！　吉村道明じゃなくても「あんた誰やっけ？」でしょ。

4・22
【SB会見】後楽園飯店●おかま戦士パリンヤー、巨大空母ヤーブローが来日記者会見。会見後にパリンヤー、ヤーブローを審査員としてオーディションが行われた。パリンヤーはさすがに興味がなさそうだったが、ヤーブローは真剣だった。

4・26
【SB&ST・ダブルクロス】横浜アリーナ●VTルールで行われたE・ヤーブロー対中野龍雄の一戦は、ヤーブローが中野を上四方固めで敗る（レフェリーストップとタップが同時）。吉鷹弘、ラモン・デッカーに判定で敗れ、突然の引退表明。試合後の会見で吉鷹に「パリンヤー選手は闘ってみてどうでしたか？」などと質問した、おバカさんがいた。すぐさま吉鷹&他の記者から「それは若宮選手！」という突っ込みが入った。①②

4・27、28
【ネオ・レディース】ネパール遠征・プリクティマンダールエキシビョンホール（ネパール国の武道館）●椎名由香、田村欣子、タニーマウスの3選手がネパールで試合を行う。ネパールの天皇陛下からスポーツ大臣、皇太子妃なども観戦。④

4・27
【ジパング】北沢タウンホール●この日のレフェリーはなかじょうただし。選手から突っ込まれるわ（しかも全試合）、試合中メガネを落として「メガネ、メガネ……？」という横山やすしばりのギャグを披露するわと大忙しのナイスミドルだった。アジアン・クーガーが足立知也に勝ち、「これからは俺がジパングを引っ張っていく！」というマイクアピールにもち賛同！（Show氏風）③

4・29
【みちのく】新潟フェイズ●この日より参戦のサスケ・ザ・グレートとマスクド・タイガー。アメリカの独立団体からの選手らしいがその正体は？　みちのくプロレス事情にも詳しいバトラーツ島田レフェリーに聞いてみると、「なにがなんだか……。」

4・30
【スポーツ平和党再始動会見】ホテルオークラ●アントニオ猪木は会見の冒頭で「混乱期の今こそ私の出番」「もう一度、裸になって頑張る。自民党にも野党にもできないことをやりたい」という抱負を語った後、突然の党首辞任を発表。会見終了後、「見学者」として会場に来ていた堀田祐美子がこれまた突然の出馬表明。「私は猪木さんを尊敬してプロレスに入門した。私も人の期待にこたえられることをしたいと思った」エッツッ！（初耳）。取り組みたい分野は？「まだ何も分からない」エッツッ！　そこで松永会長「立候補できるのが堀田しかいなかったんだよ。30歳越えてるのはな」「当選したら2億ぐらい手に入るんだぞ」さすが会長言うことが違う！　とにかく頑張れ、堀田！　健悟！　カズ!?

4・30
【大日本】後楽園ホール●松永光弘&山川竜司vs石川雄規&臼田勝美が決定し記者会見。臼田はジャージ姿で会見に現れ、記念撮影でも一人手を合わせず、山川を激怒させた。カッコイイッスねー⑩

4・30
【DDT】北沢タウンホール●ボクがライガーならアジアン・クーガーを『ベスト・オブ・ザ・スーパージュニアV』に間違いなく出すんだけど。⑯

4・30
【新日本】後楽園ホール●『保永昇男引退記念試合』保永はライガーとのシングルに敗れたが、直後に金本、大谷、高岩が乱入して決着戦をアピール。サムライを加えた6人タッグが敢行され、保永自ら高岩を仕留め、18年間の選手生活に別れを告げた。お疲れさまです。後、引退試合のポスターは最近の新日のポスターの中では一番良かった。

5・1
【全日本】東京ドーム●松山千春の君が代斉唱で始まった全日初の東京ドーム大会。川田利明が悲願の三沢超えを果たし第18代3冠王者となる。この日のベストバウトは文句なしで秋山準対馳浩。ヘッドハンターズの試合を島田レフェリーが裁いていた。高田vsヒクソンからヤーブローvs中野そしてヘッドハンターズまで、まさにレフェリー版ニック・ボックウインクル！

5・5
【プロレス・マニア館】この日プロレスショップ「プロレスマニア館」に黒っぽいレスラー用の覆面（サスケマスク？）をかぶった男が押し入り、使用済みのマスク約30枚（約210万円相当）と現金約10万円を奪って逃走した。同日夜、その店の常連（身長170センチほどで太め、茶髪のロン毛）の男が逮捕される。次はペイントだ！　S容疑者（30歳）。なんて考えないように！

5・6
【ネオレディース】後楽園ホール●会場で入江秀忠（キングダム？）がビシッとしたスーツ姿で観戦していた。観戦理由を訪ねると「会場で鈴木社長と待ち合わせしてたんですけどね……来なかったですね。ハハハ……。」5月6日、鈴木

⑤ネオ・レディース観戦後の入江秀忠。さて次に上がるリングはどこだ

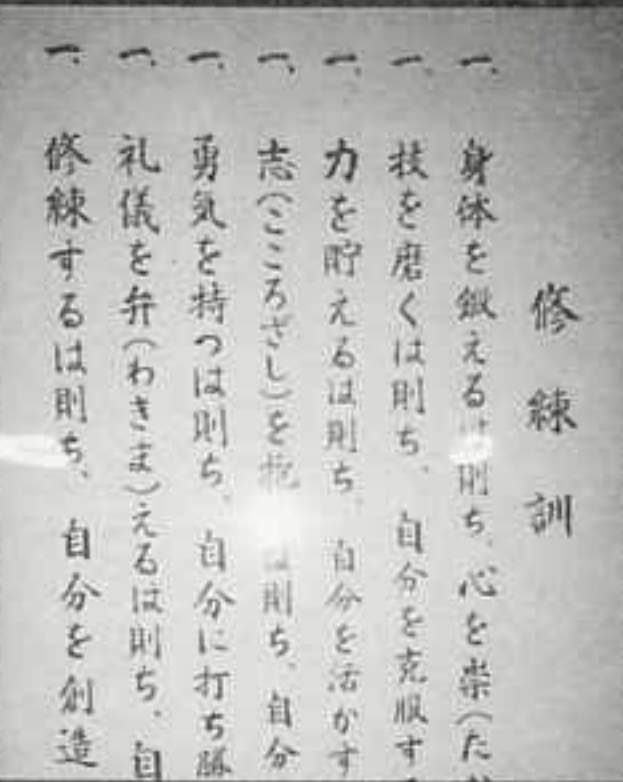
⑧前田「人が人前で何かをやるにしても、闘うにしても歌うにしてもカッコいいことじゃないんですよ」

⑥5・7冬木軍・会場外で発見した、野沢、佐々木、三上のDDT3人衆

⑦この道を行けばどうなるものか危ぶむなかれ。危ぶ……それは新日道場か。

⑨ただごとじゃない対談ついでに、ただごとじゃないボンクラ軍団と記念撮影

⑩「バットで殴ってきても、殴られる前に関節を決められますから」と、ひとり手を合わせることを拒む臼田。

⑪今号の『紙プレ』に登場している二瓶組超美人マネージャー・ダイアナを会場でキャッチ!

健はどこに…⑤

5・6
【UFO】京都府の寺●アントニオ猪木の「小川には体質改善が必要。腹回りの脂肪を全部取ってやろうじゃネェか、ダーッ！メシ喰うな！」という指令により、この日から断食に入る小川直也。目標は3週間で20キロ減。むしろ注目は同行した佐山聡の体質改善の方だろう。

5・6
【UFO】●アメリカ滞在中のアントニオ猪木が小川直也の新日本プロレス6・5日本武道館大会参戦に〝待った〟をかけた。「試合より肉体改造。その結果を待ってからにしてほしい。とにかく本人次第。やれんのかーッ!!」と通告してきたという。

5・10
【国際プロレス】鶴見青果市場●休憩中で賑わうグッズ売場に、黒覆面の男が乱入！　スモーマンの頭部を棒状の凶器で一撃すると嵐のように走り去っていった。マニアのファンからは一斉に「マニア館！　関●君！」とコールが起きた。おそるべし鶴見五郎（なんで!?）。⑪

5・11
【UFO】猪木事務所●京都のお寺で断食にチャレンジした小川直也が猪木事務所に姿を見せた。「食事をした時は涙が出たよ。3日間食べないと、音にも敏感になり、体が軽くなった」という小川は、約10キロ減量し頬もゲッソリ落ちた。小川は空港の本屋で『葉月里緒菜写真集RIONA』をまぶたに焼き付けアメリカの猪木の元へ向かっていった。

5・12
【UNW】●午後3時37分、一枚のFAXが流れてきた。そのFAXはセッド・ジニアスからの興行告知だった。●6／24（水）北沢タウンホール★『太陽の光をいっぱいあびて〜光合成完了〜』（センスのいい大会タイトル例その1）★ジニアス君の核爆弾トークショー・消滅したアントニオ猪木戦、プロレスリング世界ヘビー級チャンピオンベルト約6650万円で売却!?　他、★マニア必見！　超㊙ビデオ発売！　★アントニオ猪木に対する新たなるアクションはあるのか!?　というジニアス君（32歳）の手書きのFAXを見て、プライドを捨て光合成してこようと固く誓った。

5・12
【東京スポーツ】●「王者だから風当たりが強くなるのはしょうがない。何を言われても柳に風だよ。次のシリーズも前々からのスケジュールがあって、2〜3試合抜けるよ」と力強く言い放った藤波。所用のため毎シリーズコンスタントに欠場する藤波。その所用とは一体何なのか？　誰か教えてチョンマゲ！（マツカク）

5・14
【リングス】赤坂東急ホテル●前田日明のリングスラストマッチ対戦相手は山本宜久に正式決定した。Q「前田さん9月のラストマッチの相手は？」　前田「自分よりでっかくて、しかも重いヤツ」。誰だ？　北尾？　安田？　G・ドス・カラス？⑧

5・18
【スポーツニッポン】●5日に起きた「プロレス・マニア館」の強盗事件で被害に遭った女性従業員が三沢光晴トークショーに姿を見せた。事件に関しては「硬い鈍器のようなもので殴られたと思っていたけど、後で聞いたらエルボー（三沢の必殺技）だったんです」と秘話まで披露し、三沢に「災難だったね」と慰められた。一躍時の人となった女性従業員（28）ホントに災難だったたね。

5・20
【高田道場】●『PRIDE．3』にて桜庭和志vsカーロス・ニュートンの対戦が正式決定した。この日、高田道場ではたくさんのキッズファイターが汗を流していた。すっかり打ち解けているらしく、キッズ達はコーチ陣とタメ口で話していた。ボクもやるなら高田道場、それもキッズファイター！⑦⑫

5・21
【インディ活性化委員会】後楽園ホール●ボクの一押しアジアン・クーガーはこの日も良かったが、出来れば海援隊あたりと絡ませてあげたかった。他の試合は見ていて辛い試合が多く、観戦している剛竜馬、藤原喜明が気になってしょうがなかった。案の定、途中で席をたってしまった……。⑭⑰

5・23
【読売新聞夕刊】「プロレスマニア館」に強盗に入った無職Sの自宅から、使用済みのマスクがさらに約五十点見つかった。S容疑者はプロレスマニアで、初代タイガーマスクの佐山聡さんのファン。「佐山さんがリングに復帰したのを知ってマスクがどうしても欲しくなった」と供述しており、同署は窃盗容疑で追送検する方針。調べによると、S容疑者は4月末、埼玉県草加市の会社員宅に侵入し、マスクなど約五十点（約三百万相当）を盗んだ疑い。容疑者と会社員は、千代田区のプロレスグッズ販売店の常連で、顔見知りだったため、

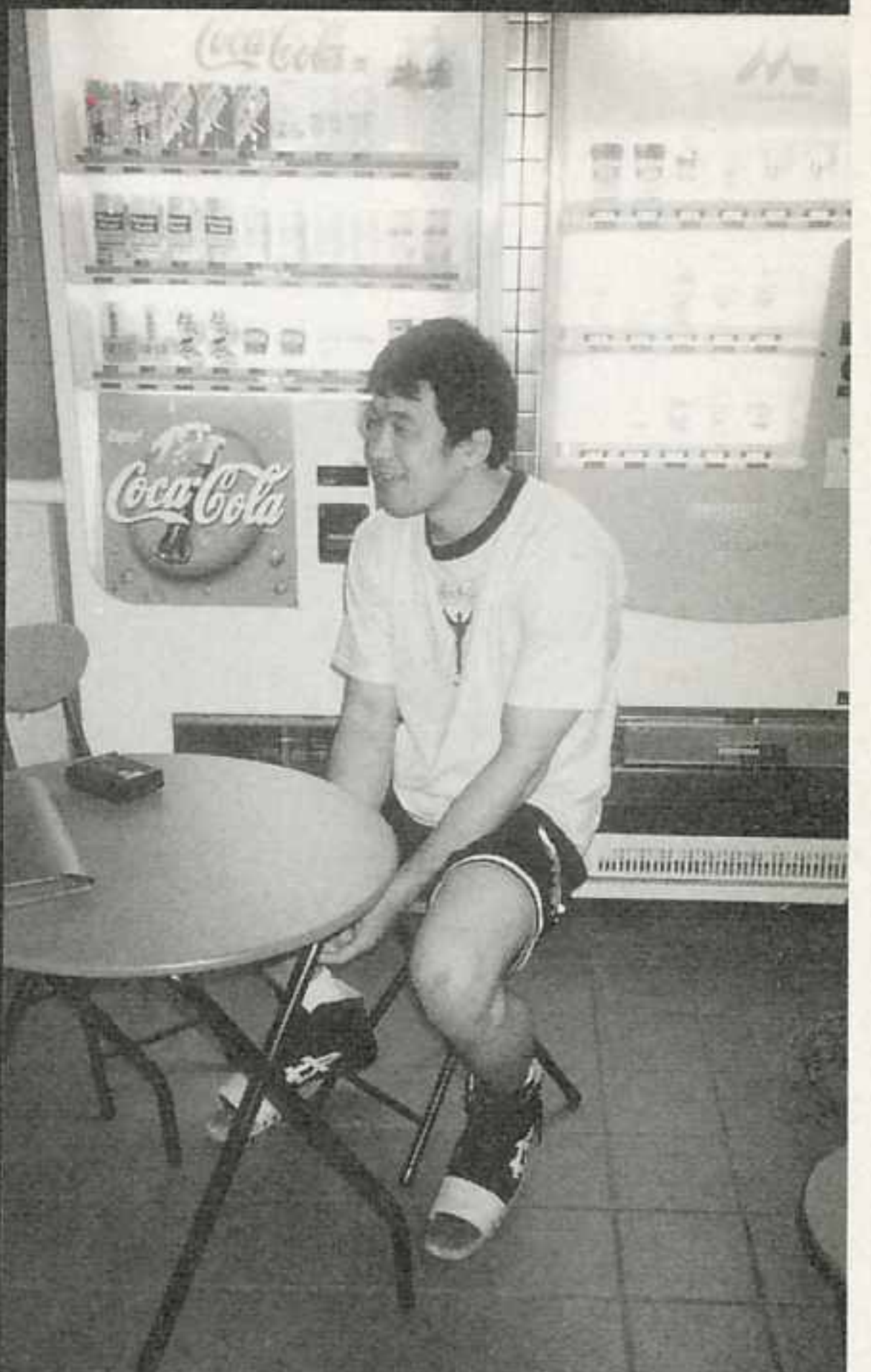
nちょうの出来事!

⑬スーパー宇宙パワー、折原昌夫、小野武志というもの凄いスリーショット! 今後に期待!

⑯“DDT新技キングの座”は最初からアジアン・クーガーのもとにある

⑰とんだ一杯食わせ者グランプリ受賞サモアン・ブルドッグ「イエ〜イ!」

⑮噂のニコニコファミリー・スマイリー。中身は相当な実力者だ!

⑭テリーはともかく有刺鉄線ボードが酷すぎた（P50参照）

⑫レスリングシューズのままサンダルも履いちゃう微笑青年・桜庭和志　まったく何をやらせてもさまになるから不思議

会社員宅にマスクがあると狙いをつけていたとみられる。ここに本物の虎ハンターがいた!

5・24
【新日本】●WARに参戦することが決まった安田忠夫。WARの荒谷信孝との対戦に不満を訴えた。荒谷は、大相撲時代は安田と同じ九重部屋で、幕内力士だった孝乃富士（安田の四股名）の付き人を務めていた。「荒谷のことは覚えている。ある時、巡業から帰ってきたら、すでに脱走していた」と、記憶の隅に残っている程度。安田は「天龍との対戦を狙っていたのに残念。いや荒谷が相手じゃ拍子抜けだよ。荒谷との実力差を示して必ず天龍を引っ張り出すよ」とまで言い切った。最近の頼もしすぎる安田のマイク。次は「ヤスタダと呼んでチョンマゲ!」希望。

5・24
【K-1】マリンメッセ福岡●試合後、石井館長は今年のK-1GP98の予選となるジャパンGPに、安生洋二の参戦が決定的と発言。他にも長井満也、柳澤龍志、橋本真也にも参戦を呼び掛けた。キックボクシング・元インディアナ州認定暫定王者、二瓶組組員“幻”にも参戦を呼びかけるべきだ。

5・25
【DDT】北沢タウンホール●ボクの一押しDDT。この日も会場は若者でいっぱいだった。6／20には スポンサーのかまだ屋さん（宇宙パワーの勤務先）のご厚意により群馬・かまだ屋にて食べ飲み放題のファン感謝デーを行うことが決定している、DDT。ついでに次回の北沢タウンホール大会は女性入場無料だ! 女性ファンよシモキタに集え! ⑬⑮

5・25
【日刊スポーツ】元NWA、WCW、WWF世界王者リック・フレアー（49）が「TIME」誌の選ぶ“今世紀の人”の初回ランキングトップになった。同誌が始めたキャンペーン第1回集計で27%に相当する3万6457票を獲得した。ファンの組織票のようだが、6位キリスト、7位ヒトラー、10位ガンジーなどを抑えてダントツの首位。キリスト、ヒトラー、ガンジーをも上回るとは、フレアーファンおそるべし!

5・26
【LLPW】埼玉県川口市●長いこと道場のなかったLLPWに念願の道場が完成した。道場開きでは、『ナイタイスポーツ』の円山和則氏の口から「次のシドニー・オリンピックにハーレー斉藤を出したい」との爆弾発言も飛び出した。オリンピック管理理事長も兼務する円山氏は、なんでもハーレーのシャープな蹴りを見てオリンピック出場を推進したとのことだが、その競技とは、テコンドー? サッカー? それとも聖火ランナー? なにがなんだか……。

5・31
【WAR】群馬安中市中央体育館●大相撲時代の兄弟弟子対決はストンピングをやらせたら天下一品・安田が荒谷を圧倒した。試合後、安田は「荒谷くん、しょせん付き人は付き人なんだよ」といった粋なマイクアピールを披露してくれた。ヤスタダ、最高!

6・1
【WAR】後楽園ホール●『感動伝導団VOL2』（センスの良い大会タイトル例その2）この日行われた“大相撲下克上マッチ”は荒谷信孝が安田忠夫をラリアート3連打で無理矢理フォール。荒谷は雪崩式フランケン、ムーンサルトと立て続けに失敗。後頭部から真っ逆さまに落下した荒谷は「第7ケイ椎棘突起骨折」と診断された。ヘラクレス荒谷、不運にも重傷!

6・1
【新日本】●平成維震軍の木村健悟（44）が参議院議員選挙に民主党から出馬することが内定した。「できるなら教育問題にかかわりたい」とのことだが、本当に出来るかどうかは別として健悟兄ィ頑張れ! 中村敦夫も頑張れ!?

6・2
【パンクラス】後楽園ホール●鈴木みのるがジョン・ローバー戦で新必殺技“風スペシャル”を一部公開した。鈴木は「今日見せたのは4コママンガで言えば1コマ目。本当にこの技が決まったら相手は確実に失神する」とコメント。まあ4コママンガの1コマ目だけ見せられても当然面白くはないが、“風スペシャル”なんて、確かに技の名前を聞いただけで失神しそうになる。今後に注目!

6・5
【全日本】札幌中島体育センター●みちのくプロレスのS・デルフィンと愚乱・浪花が全日マット初参戦。馬場さんも「面白い!」と足を踏みならして喜んだ。

6・5
【新日本】日本武道館●メインのIWGPヘビー級選手権は藤波辰爾が橋本真也を敗り初防衛に成功。今年のG1は橋本お前に任せた! しかしなんと言ってもこの日の目玉は、やはり小川直也vs坂口社長の一戦。惜しくもリング上での抗争は見られなかったが、バックステージで小川が坂口社長に殴りかかるという非常に素敵な抗争が見られた。これが荒鷲・坂口征二の復帰に繋がれば言うことなしなのだが……。

選手離脱、借金もなんのその！　平成の会長社長漫遊記onクルーザー

昭和プロレスの凄みに触れる
実録！　豪傑一代記！

紙のプロレスRADICAL

スーパースター列伝

このインタビューを読み終わったら、20世紀も、もう終わっていい。

谷津嘉章

(SPWF)

PART 2

「グレイシーよりもアマレスの方が強い!」
「三沢、川田は俺の後輩だぞぉ。目ぇつぶって30秒で勝てるよ!」
「ガチンコだったら俺は負けねえぞ!」
「新日の道場で1回だけスパーリングやったけど、バカバカしくなっちゃってよぉ」

こんな素敵な爆弾発言を颯々とカマしまくった前号のインタビューで、谷津人気が大爆発。読者アンケートの人気投票も後方に大きく水を開けてブッちぎりの独走をしてしまった。

猪木、長州が引退し、前田も間もなく引退する平成10年。言葉の豪速球を投げ続けたプロレスラーたちが、続々とマット界を去りつつある。じつに寂しい限りではないか。レスラーの豪速球に飢えた『紙プロ』読者的には、ストライクだったのだろう。

今号では、前号を遥かに上回る毒舌豪速球がキミを直撃すること受け合い！　女子供には刺激が強すぎるので、取り扱いには十分注意すべし！　ボヤボヤしてるとケガするぜ！

聞き手&構成／吉田豪
interview by Go Yoshida

撮影／松永源さん
photographs by Gensan Matsunaga

——谷津さんは前田さんみたいに、引退試合でA・カレリンとやりたいとかって思いませんか?

谷津 あぁカレリンねぇ。カレリンはアマレスだったら強いかもしれないけどな。だけど、そういった打撃系とかミッション系（サブミッションの意）とかは、多分わかんないと思うよ。

——ミッション系ですか（笑）。

谷津 倒してからが、わかんないでしょ。カレリンは、力とかアマレスに関してはやっぱり凄いよな。ピカイチだよ。ただ、あいつが得意でやってるのはグレコローマンだから。

——ああ、谷津さんはフリースタイルですもんね。

谷津 フリースタイルは脚が使えるんだから。だってルスカなんかも昔、アマレスでグレコローマンだったからねぇ。高校卒業してから柔道始めたわけだから。

——谷津さんがプロレスやってて、この人は強いなって思った人っています?

谷津 プロレスやってて強い奴かぁ。う〜ん……やっぱり長州力かなぁ。

——それはやっぱり、基礎としてのアマレスの強さが大きいわけですか?

谷津 プロレス的に言ってるんでしょ? それともガチンコのことを言ってるの?

——両方です。どちらもバランスが取れている選手ということなんですかね。

谷津 だけど、プロレス的に言ったら、アントニオ猪木だよ、やっぱり。あの千両役者にはかなわない。

——プロレス的に言ったらですか（笑）。まあ、リングに上がったら誰も勝てないですよね。

谷津 勝てないよぉ、あのカリスマには。絶対勝てない。あんな人いないでしょ。

——性格的な問題が大きいんですかね?

谷津 っていうかカリスマはね、オーラが凄いもんね。存在感が凄いもん。

——猪木さんは、リングに上がったら何をしたっていいんだっていう発想がありますよね。

谷津 うん。ある意味では、新日本プロレスの流れっていうのは、カール・ゴッチから始まってさぁ、ストロング系でどこにも負けないっていう軸で来てるわけだから、な? キング・オブ・スポーツって言ってるんだから。だから、ある意味では新日本からU系に出させればいいんだよな。誰か、責任者がさぁ。

——責任者が（笑）。

谷津 他流試合だなんだってやって来たんだから、いままで。それが新日本なんだから。な? ある意味ではファンにとっては裏切りになっちゃうだろ?

——まあ、だけど最近は方向転換しましたからね。

谷津 うん。だからPRIDE.3でも、出たらいいんだよ、誰か。

——新日から（笑）!

谷津 だってそうじゃん。キング・オブ・スポーツなんだから。それを継承してるんだから。カール・ゴッチからずっと並々とね。アントニオ猪木から藤原喜明。藤原喜明からU系に行くわけでしょ。系図からいったら。そりゃやるべきだよ。本家本元なんだからさぁ。

——皮肉にも、新日の方向性を変えたのは、谷津さんの盟友の長州さんなんですよね?

谷津 う〜ん。だから、長州もある意味では、その辺の感覚が俺と似てる部分があって、プロレスはプロレスだと。こっち（シュート）はこっちだという部分があるから。

——アルティメットとかバーリ・トゥードは大嫌いですもんね。

谷津 そうそうそう。だからこの間やったことあるじゃんよぉ。なんかほら、200%とかいう連中と。

——ああ、安生（洋二）さんですね。

谷津 かなわなかったでしょ、安生たち!

——やっぱりグラウンドのコントロールは凄いですよね、長州さんは。

谷津 かなわないでしょ! でも長州は俺より5つも上なんだよ。で、アイツのキ

今考えると非常におそろしいタッグだったJ・鶴田と谷津の五輪コンビ。この2人がバーリ・トゥードに挑んでいたら日本の総合格闘技界の歴史も変わっていただろう

選手離脱、借金もなんのその！　平成の会長社長漫遊記onクルーザー

新日から誰かをPRIDE.3に出せばいい

ャリアより、俺のキャリアの方が上なんだよ。
——ガハハハハハ！　なるほど。そこから何かが見えてきますね（笑）。
谷津　安生なんて、目つぶったって勝てるよ！
——またですか（笑）！
谷津　本気になってやればだよ。何もルール無しでな。勝てないよ、長州とやったって。何やらしたって。プロレスだってプロじゃないから出来ないだろ。プロレスから見てもこんなに低いんだからな。じゃあ、こっち側（シュート）で見たって低いんだからな。「誰でもいいぞ！」なんて言ってた時期あったじゃん。ねぇ？　インタビューか何かで。パンクラスのことか何か、中傷的に言ってたことあったじゃん。勝てないよなぁ。
——やっぱりアマレスが最強ですか！
谷津　最強っていうよりもさぁ、全ての基本っていうか、ルーツだよな。相撲もそうでしょ。やっぱり元をたどれば、相撲なんかもレスリングになっちゃうわけだよね。相撲レスリングっていうんだから。やっぱりレスリングっていうのが付いて相撲も強くなった。そうでしょ？　固有名詞はやっぱりレスリングなんだよ。だからサンボレスリングっていうの？　レスリングっていうのは、有史以前からあるからな。護身術っていうかさぁ、攻めが最大の護身術だから、発祥は。それがだんだん流れていって、モンゴル相撲になったり、日本の相撲になったりね。うん。
——でもアマレスセンス溢れる谷津さんは、新日でプロデビューしてからしばらくして自分のことを「俺にはプロレスセンスがまったくない」って言ってたことがありましたよね（笑）。
谷津　う〜ん。ないと思うよ、俺は。
——いまでもですか？
谷津　うん。プロレスセンスはないわぁ。
——ガハハハハ！　ないんですか（笑）？
谷津　ないない。そこそこには内容やってるけどさぁ。センスまでいかないなぁ。
——それはやっぱり、横で猪木さんとかを見てると、そう思っちゃうもんなんですか？
谷津　う〜ん……。
——こっちでは、かなうわけないやみたいな。
谷津　そうだよな。やっぱりなんちゅうのかなぁ。プロレスってのは答えはないんだけどなぁ。これでいいっていう満足感は、1回もないなぁ。入ってからな。
——1回もですか？
谷津　1回もない（キッパリ）。プロレスではね。あそこをこうすれば良かったとか、そういうのはあるけどな。
——昔は「高田さんとやった試合が印象に残ってる」とか言ってましたよね。
谷津　あの頃の高田は、飛んだり跳ねたり、あとキックをやり始めた頃だから。だからさ、プロレスだけやってれば良かったんだよなぁ、高田は（笑）。でもやっぱり、藤原の一番弟子みたいなもんだからな。何かやっぱり人間って、暴走というか、目立ちたがりって気持ちがあるじゃないよ。俺なんかあちこち団体を転々としてたけど、すべて誰かいて、転々としてんだからね。例えば、長州がいて出ていったとかさぁ。例えばそこにジャンボがいたから、ジャンボと組んじゃったとかさぁ。全て俺は、みんなサポートしてるわけだから、タッグとかにしてもな。
——徹底してそうでしたよね、本当に。
谷津　うん。絶対、俺は出しゃばらなかった。
——それはどうして？　性格なんですかね？
谷津　性格だろうな。だから人を乗らせるのは得意だからね。
——得意なんですか（笑）。だけど、それで板挟みになることも多かったと思うんですよね。たとえば全日時代、天龍さんのSWS入りが決定した直後のインタビューで「これから後に続く選手が出て来る方が、俺は怖いよ。俺、馬場さんのところへ今日にでも行ってみるよ。それで、カードのこととかいろいろ話してみるよ」って谷津さんは言ってるんですよね。その後、なぜか谷津さん自身が出て行ってしまうわけなんですけれども（笑）。
谷津　みんなあの当時はね、高野俊二、仲野信市、今は嵐になってる高木とか、自分の仲良しだったわけだよな。谷津派だったわけだよ。ところがみんな全日本を出ていったじゃない。その連中は。俺を出し抜いて、出ちゃったじゃない。そしたら三沢と川田はね、全日本プロレスの生え抜きだよ。ねっ？　俺はあの連中の先生なんだよ。アマチュア時代から。やっぱやりづらいだろう、俺がいたら。
——谷津さんは「あいつらとはやりたくなかった」って言ってましたもんね。
谷津　やれないと思うよ。俺がいたらコイツらさぁ、裏では「谷津先輩、谷津先生」ってなっちゃうわけだからさぁ。そりゃ、出て行かなきゃ可哀想だろう、そんなもん。最後はそれで出たんだよ、あいつらのために、俺は（ちなみに「全日本では不発弾で終わってしまったような気がする」とのこと）。いても良かったんだけどさぁ。だけどあの連中は生え抜きでね。だってタイガーマスク（三沢）のマスク取れって言ったの、俺じゃん？
——え〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜っ!?　そうなんですか!?
谷津　馬場さんに言ったのはね。
——ガハハハハハハ！　それもまた初耳ですねぇ（笑）。
谷津　東京体育館のときだよ（90年5月14日）。東京体育館でやったでしょ？　そんでマスク取ったでしょ？
——はいはい、取りました。
谷津　アレは俺が言ったんだよ。「もう取ってもいいや」って。
——そんな伝説的なアドバイスまで（笑）。
谷津　「もう取れっ」て言ったんだよ。「俺は出てくからよ、ここを。全日本プロレスはお前の時代だ」って。馬場さんにそう言って取らしたんだから。
——それもまた、いい話ですねぇ。
谷津　（馬場さんのモノマネで）「それじゃあカブキに聞いてみる」って、それでカブキに聞いたんだから！
——ガハハハハハハハ！　しかし谷津さんってホント、プロレス界の歴史的な瞬間に必ずいますよね（笑）。
谷津　だから俺がいたらあいつら、いまで

昭和プロレスの凄みに触れる
実録！　豪傑一代記！
紙のプロレス
スーパースター列伝

⑬スーパー宇宙
リーショットト
⑯"DDT新
もとにある

も小さくなってるよ、きっと。俺は、彼らの素性知ってんだから。強いだの弱いだの言ったってさぁ。俺は何のチャンピオンになりましたってさぁ。あいつらの素性知ってんだよ！

――素性ときますか（笑）！

谷津　だってアマレスの先生なんだからさぁ。目つぶっても30秒で勝てるんだからさぁ。

――またですか（笑）！

谷津　あいつらからしてみれば、谷津さんは俺たちの先生だって、絶対言わねえだろ。プライドがあるもん、あいつらだって。全日本プロレスを背負って立ってるわけだからさぁ。「谷津先輩にはかなわなかったです」なんて言うわけないだろ、そんなもん。

――あと、全日離脱の理由としてはスティーヴ・ウイリアムス戦での怪我もありましたね。

谷津　うん。あのとき、全部自分のポケットマネーで入院費出したからな。やってられねえと思ったな。（当時、肋骨を3本折り、頚椎と脊髄も痛めた谷津は「いくら俺が強くたって、こりゃ駄目だよ」とカッコいいことを言いながらも、「馬場さんはどこまで俺の面倒を見てくれるんだよ。入院費、くれたか。医療費、くれたか」と激白。「領収書を持ってくれれば払った」と語る馬場と対立することとなる）

――ウイリアムスはあの頃、凄い不器用でしたからねぇ。

谷津　うん。また、馬場さんていうのはねぇ、生え抜きの選手を凄い可愛がるからね。これはみんなに言っといてよ。いま、いろんなインディー団体が、馬場さんの所に行ってるけどなぁ。みんな馬場マジックに掛かってなぁ、気が付いたらこうなってるよ。

――ガハハハハハハ！　馬場マジックですか（笑）。

谷津　ホントだよ。馬場さんの所に行ったって何にもなんねえよ、インディーの連中は。これからは自分達の時代を築いて行くしかないんだよ、インディーでも。出来ない奴は、もうプロレス辞めるしかないよ。俺、そう思うよ。だから、馬場さんの所に出たってさぁ、1年やったらポイだよ。だって俺達は生え抜きじゃなかったわけだから、それで初来日の外人が来たとき、みんな怖いもんだから、どんな試合やるかわかんないから怖いでしょ？

――そりゃ怖いですよね。

谷津　（馬場さんのモノマネで）「谷津、やってくれ」って言うんだよ。

――ガハハハハハ！　ポリスマンだったんですね（笑）。

谷津　ああ。寺さん（寺西勇。現在SPWF所属）もそうだろ。新しい外人が来れば、必ず俺たちがやらされるわけだよ。そりゃ生え抜きの選手は、みんな温存しておくから。

――やらされるのはポリスマンだった、と。

谷津　そうそう。そうだよ。モニターなんだよ、新しい選手の。生え抜きじゃない奴は、みんな。それで終わったらポイだからな。

――それがきっかけでレスラーの在り方を考えて、仕事を持った上でプロレスをする社会人プロレス団体をやるという発想になったんですか？

谷津　だけど自分が社会人になっても、周りがなんないとしょうがないよね。たまたまあのとき、平成維震軍ってのがあったでしょ？

――はいはい。まあ、いまでもありますけど（笑）。

谷津　で、昭和の維新軍ってのも昔あったわけだよ。それで長州から電話があったんだよ、ホントは。「谷津、黙ってお前

谷津も「あれは失敗」とあっさり断罪した昭和維新軍vs平成維震軍の抗争。そんな中で、95年6月24日、SPWF群馬太田市民体育館にインディー嫌いの長州が参戦。谷津と長州も不思議な関係である。

…選手離脱、借金もなんのその！　平成の会長社長漫遊記onクルーザー

から言ったことにしとけ」なんて言ってたけどさぁ。

―そうなんですか（笑）！

谷津　「谷津、お前上がってくれ」ってなったんだよ。「いいですよ、先輩」って。そんときには、仲野とかいたわけだよ、部下が。あの連中も専業でいままでプロレスをやって来たわけだから、やっぱり新日本プロレスのムードとか匂いを嗅いじゃうと「谷津さん、専業でやりましょう」ってなっちゃうわけだよ。「専業やるっていったってどうすんだよ、こんな団体でよぉ」ってなったわけだよ。「新日本なんて、そんないつまでも俺達を使わねえよ。一つの山のアングルだけであって、越中の当て馬なんだから、そんなのスグに終わっちゃうよ、お前」って言ってやったんだよ。

―それがSPWF分裂の真相でしたか（笑）。

谷津　ああ。そしたら、いつの間にかウヤムヤになっちゃったじゃん。昭和維新軍なんか、ここでやったことあるよね？　イリミネーションマッチ、昭和維新軍対平成維震軍で。

―はいはい。（この一連の抗争によって、インディー嫌いの長州がSPWFに参戦するという歴史的な事件も勃発することとなる）

谷津　ここだよ。大田区体育館だよ、奇しくも。ねえ。やったことあるでしょ。だから結局は、「じゃあ越中詩郎って何なの？」ってことよ。答えが出ないのに終わっちゃったじゃん、そんなもん。ねえっ！　昭和維新軍ってやってたって、続かなかったでしょ、結局。

―前にも言ってましたよね。「プロレスラーは使い捨てのライターじゃない！」とかって。

谷津　まぁだから、そういう時代でもないんだよな。あの抗争劇は失敗（キッパリ）！

―ズバリ言いますねえ（笑）。

谷津　俺があのとき新日本に出たのも失敗！

―それも失敗（笑）。でもその後、引退寸前の長州さんに対戦表明しましたよね？

谷津　だって、取りあえず引退するっていうから、そりゃお前、「引退するんだったら俺と闘わなかったら何にもならないだろう、長州！」って思うじゃん、こっちだってさ。だからそれは、たとえば興行だから、お客さんを呼ばなきゃならないんだけど、俺とやって、お客さんが来ないんだったら、俺のギャラあげる。俺はギャラは要らないって言ったんだよ。

―男らしいですね（笑）。

谷津　だって俺は、これでメシ喰ってるんだから関係ねえじゃん。自分で団体持ってるんだから。なあっ。

―そういえば長州さんが全日から新日にカムバックした時も、谷津さんだけ全日に残されたっていうイメージがあったんですよね。

谷津　だからあれは、ある意味ではもう時効だけどさぁ。ホントは向こう（新日）に行くつもりだったんだけど。だけどなんか……。猪木さんって俺、嫌いなんだよ（キッパリ）。

俺、猪木さん嫌いだよ ペテン師みたいでさあ

昭和プロレスの凄みに触れる実録！　豪傑一代記！
紙のプロレス スーパースター列伝

谷津嘉章

―ガハハハハハハ！

谷津　ペテン師みたいでさぁ。（ちなみに猪木はデビュー当時の谷津のことをセンスのなさから「百姓レスラー」と表現。ペテンじゃないが極悪である）

―それはクーデター（83年8月に勃発。そんな裏事情と共に結成された昭和維新軍に加入すると、谷津は猪木に「あいつは我慢のならない人間だ」とまで言われてしまう。一体、二人の間で何があったんだ?）のときとかに痛感したことなんですかね（笑）。

谷津　そうそうそう。もうなんとなくなぁ、嫌いなんだよ。プロレスやってる猪木さんを見てるのはいいんだけど。一緒にやってると、私生活とかそこまで入ってくるでしょ。な～んかウサン臭いとこあるんだよ。

―ガハハハハハ！

谷津　ウサン臭いことやってんじゃない、いろんなこと。

―そこが魅力でもあるんですけれどね（笑）。

谷津　そう？　俺からなんか見たら、冒頭に言ってたじゃん。「谷津さんはエリートって感じがする」って。俺は常識人なんだよ！

―ですよね。そう思います。

谷津　あの連中はペテン師なんだよ！　俺はそれ猪木さんにだって言うよ、そんなもん。

―ガハハハハハ！　まあ、確かに猪木さんはいい意味で非常に非常識なんですよね（笑）。

谷津　俺、名古屋で猪木さんと行き会ったんだよ、2、3年前。プロレスの営業やってた頃。「谷津！」「おぉ、猪木さん」って。なんか話あるみたいだったけど、俺は「忙しいから」って行っちゃうんだからさぁ。関係ねぇだろって思ったもんなぁ、俺。

―どうしても新日に戻りたくなかったんですね、谷津さんは（笑）。

谷津　嫌だったけどな。でも、その辺が長州にしてみれば、「谷津、お前はまだ猪木さんの凄さがわかんないんだよ」ってことなんだよ。そういう捨て台詞を残して別れたんだけど。

―それは非常にいい話ですねえ……（しみじみ）。

谷津　長州はね、猪木さんの前では煙草は吸わない。指輪とかも全部外して行くから。

―そうなんですか（笑）。そういえば最近、長州さんの昔の本を見てたら、「谷津は現代っ子よ。あいつ貯金でもしてんだろ」っていう表現があったんですけれど。

谷津　（急に）貯金なんかしてるかぁ！　あんなの自分でやっといてなぁ。

―ガハハハハ！

谷津　（興奮しながら）ふざけんじゃないよ！　いまのインディーの状況を知ってるかぁ、お前！　なぁ。

―いや、いまじゃなくて昔の話ですよ、ジャパン時代の（笑）。やっぱり谷津さんには、そういう堅いイメージがあったんですかねえ。

谷津　そんなことないよ。やっぱり自分には後輩がいたからねぇ。それはSWSなんかでも、みんなオーナーに意見言うには、派閥を持たなくちゃならないから、

⑬スーパー宇宙… リーショット…
⑯"DDT新… もとにある

谷津派、天龍派とか作ってさぁ。みんながあぁでもない、こうでもないって言うわけだろ。

――SWS時代は、完全にそれで疲れちゃったわけなんですか?

谷津　疲れちゃったよな。俺は選手会長だったからな。俺は幸か不幸かあっちっこっち渡り歩いたでしょ。みんなの団体の気持ち分かるからさぁ。俺の所にみんな来ちゃったからなぁ。「選手会でやってくれよ」なんてな。

――いちばん辛い立場ですよねぇ。

谷津　冗談じゃねえって思ったよ。

――谷津さんがSWSを辞めたのは、アマレスの世界選手権を目指すためだったんですよね。(正確には「FILAがプロレスの選手も参加できるというオープン化を発表したので2年後の世界選手権を目指す」というもの)

谷津　まぁ、あれは建て前だよな。

――建て前ですか(笑)。

谷津　だってあの時、生え抜きの選手がちょうど出かかった頃だろ。でも、その内の8割は生え抜きじゃなくて、あっちこっち引き抜き、一本釣りでしょ。みんなその選手のポリシーとか、育った土俵が違うんだよな。そうするとやっぱりハチの巣をつついたみたいになっちゃうよな。

――足の引っ張り合いですね。

谷津　そうそうそう。これからSWSの進路を決めるにあたって、あぁでもない、こうでもないとかさぁ、色々なってくるんだよ。全日本プロレスの気質が入ってきたり、新日本の気質が入ったりさぁ。それで疲れちゃった、もう。勘弁してくれって言ったの。

――それで一年間休業するわけですか。

谷津　それにあのとき、●●さんの奥さんがノイローゼになっちゃって。●●さん、あんとき干されちゃったからさぁ、田中八郎に。だからもう冗談じゃないって思って、田中八郎にある日言ったんだよ。選手会長として。「もうこのままじゃ出来ないわ」って言ったんだよ。そうしたら「谷津、そんなんだったら、最近メガネの利益も上がんなくなっちゃったから、潰しなさい」ってなっちゃったんだよ。

――潰しなさい(笑)!

谷津　それでまぁ、潰したんだけどさぁ。

――谷津さんが潰したわけですか(笑)。

谷津　そうそう。それで潰したら、「谷津が潰した」ってなっちゃってよぉ!

――ガハハハハハ!

谷津　なあっ。冗談じゃないよな。俺が自分でさぁ、年収3000万のギャラなんか捨ててねえだろ。そんなもの。結婚してまだ1年なのに何で捨てちゃうの? 自分で潰すバカいないだろ。なあっ? 常識から言ったら、自分で潰すバカいないよなぁ。俺は温存した方がいいんだから、金になるんだから。「何とかしなくちゃダメですよ」って言ったんだ。

――谷津さんって、そういうふうに善意で動いても必ず貧乏クジ引いちゃうタイプですよね(笑)。

谷津　そう。いつもそんな感じだからね。まぁ、しょうがないんだよなぁ。なんか、そうなっちゃうんだろうね。だから自分でやるのが一番いい。自分で。

――自分で誰かを盛り上げて?

谷津　そう。それで自分の理想のプロレスを作ってさぁ。あのぉ、昔の黄金時代のバスを引っ張ってるレスラーとかいるじゃんよ。ゲテモノみたいなの。あぁいうのがいいやなぁ。外人も2メートル位の奴ばっかりにしてさぁ。

――谷津さんってデカイの好きですよね。

谷津　だって最近のプロレス団体とかはね、み～んな君らと同じくらいの奴が、プロレスやってんだよ。

年収3000万のギャラ自分で捨ててないよ

――中にはボクよりちっちゃいのもいますからね。

谷津　なっ? それでお客さんに「俺でも勝てるんじゃないか」と思われたら、これはプロレスラーじゃねえよ、ハッキリ言って! だから、デカくて1000円だから。その選手の付加価値で、2000円だから。

――そうなんですか(笑)。

谷津　ご祝儀で2000円だよ。デカくても1000円貰っちゃうんだから、こっちは。そうでしょ? 「うわぁ～っ!」って、これでもう1000円取れるんだから。

――なるほど。そういえば谷津さんがSWSに行ったときに、「JOCのラインでアマレス界やバレーボール、バスケットボールから2メートルぐらいの選手をどんどん引っ張って来る」って言ってたじゃないですか。その発想って凄いなあって思ってたんですよ(笑)。

谷津　だけど、それにはやっぱり支度金がいるからね。名前があるのを引っ張ってくるのは。いまは俺は、スポンサーがいなくなっちゃったから、支度金出せないわなあ(笑)。

――じゃあ、あとは埋もれた外人でも引っ張って来て。

谷津　そう。引っ張って来てねぇ。あとは日本の後継者を入れるようにしてね。

――後継者はいるんですか?

谷津　まぁ、やっぱり後継者っていうのは改めて一から育てるっていうのは時間が掛かるもんなぁ。だからもう、いまからじゃ間に合わないよな。ハッキリ言って。だからあれだよ、(レッスル)夢ファクトリーの福田(雅一。当然、アマレス出身)なんか面白いな。

――上手いですよね。

谷津　あれは、やっぱり才能があるわ。そこそこれ(シュート)もできるしな。だけど夢ファクトリーとかは、まぁあそこは多分出ちゃうと思うけど、あいつは。

――出ちゃうんですか(笑)。

谷津　でも、新日本なんか行っちゃダメだよ。

――また、美味しいとこ取られちゃうってことなんですかねぇ(笑)。

谷津　そうそうそう。取られちゃうから。新日本プロレスと契約するんならいいんだけど。客人扱いで職人になって、1年間とか。ある意味、契約選手だよな。人材派遣じゃないけどさぁ、あぁなったらダメだよ。新日本プロレスに入るんならいいけど。入れてくれないんなら、新日本なんか行っちゃ駄目、絶対! 利用されて終わりだよ。

――それはいろんな苦労を経たからこそ、言える言葉なんでしょうねぇ(笑)。

谷津　あぁ。絶対言えるよ、それは。入っちゃ駄目。だから、福田なんかもそういう意味では、新日本に入るって表明しちゃったけどさぁ。契約選手だったら入んない方がいいよ。使われて終わりだよ。

平成の会長社長漫遊記onクルーザー

倒産、選手離脱、借金もなんのその!

やってることは正しかったが、どうにも方向性の定まらなかったSWS。これはプロレス界に大きな問題提起と課題を残す結果となった。

昭和プロレスの凄みに触れる
実録! 豪傑一代記!

紙のプロレス

スーパースター列伝

アイツも不運なんだよな。日大レスリング部のキャプテンやってて、リングスに行っちゃったでしょ? で、リングスで練習生やったらば、「な〜んだか、●●●●だな」って思ってさぁ。あれは夢ファク入ったわけでしょ。で、夢ファクに行ったらさぁ。あそこは北関東グループってスポンサーがあったからさぁ。給料ちゃんと貰えると思ったんだよ。ところが北関東、バックしちゃったもんだからさぁ。不運なんだよ、あれ。

——まるで昔の自分を見てるような感じなんですかねえ（笑）。

谷津　うん。だって北関東なんてそもそも俺の後輩なんだから!

——ああ。そもそも高田龍さんを引っ張ってきたのも、谷津さんなんですもんねぇ。

谷津　あいつが要らないこと言って、失敗しちゃったんだから。

——そうなんですか!

谷津　挙げ句の果ては一億も引っ張って、パーじゃん。なあ? プロレスはそんな甘くないよ。いま俺はスポンサー無しでやってるんから、そう思うんだよ。だから福田なんかも、ホントにやる気になれんのはウチぐらいだろうな。メジャー入るのが一番だよ。だけどメジャーには一杯いるだろ、いろんな選手が。

——ええ。人が多すぎますからね。

谷津　うん。そこに入ってると、人生わかんなくなって来るよ。新日本プロレスの選手の1日の過程を言ってやろうか! まず朝10時に起きる。バスに乗る。寝る。1時に着く。パチンコやる。4時半に会場入り。試合が終わったら、また今度は酒飲んで終わりだ!

——ガハハハハハ!

谷津　あんなん、みんな狂っちゃうよ!

——危なくなってきたので話を変えましょう（笑）。谷津さん、最近は副業の方は?

谷津　副業って何?

——外車のディーラー（『ガレージマニア』というゴキゲンな名称の会社。他に『ラテンアメリカ総合扶助協会』でも活動していた）とか。

谷津　ああ。あれは友達がやってるよ。俺は辞めた。儲かんねえからなぁ（キッパリ）。やっぱりプロレスラーは頭いいふりしてないでさぁ。やっぱり食べ物屋とか、飲食店とか、ああいう客商売がいいよなぁ。一番だよ。なっ。

——外車は難しいですか?

谷津　うん。不動産屋とか無理だよ。

——ガハハハハハ!

谷津　プロレスラーの頭じゃ（笑）。そこまでは回らないよ。

——一時、吉本興業に入りましたよね?

谷津　あれも、出演依頼5回断ったらクビになっちゃった（笑）。

——断っちゃったんですか（笑）。

谷津　そうそう。営業やってるからさぁ。断ったら怒られちゃったよ。「じゃあ、いいですよ」って言って。

——面白いですねぇ（笑）。

谷津　2、3回出たことあるけどね。

——本当に波瀾万丈ですね（笑）。今後、やりたいこととかありますか?

谷津　取りあえずいまは、しがみついて、この業界に生きてるけどさぁ、やっぱり選手の充実とさぁ、お客さんに夢を与えられるような選手を育成してさぁ。なかにはこれから、団体潰れるとこ多いからなぁ。いい選手だけ来てもらえるようにしてさぁ。多分、団体いっぱい潰れるよ、これから（笑）。

——まあ、そうでしょうね。

谷津　うん。潰れるけど、プロレスラー

上手いだろ、口が。語りが上手いからさぁ。また小金を持ってスポンサー探して。また潰れて、また潰れて（笑）。その繰り返しだよ。だからある意味ではさぁ、もうゴキブリみたいなもんなんだ。だから、俺は潰したくないんだ。

――ゴキブリ（笑）。前から思ってたんですけど、谷津さんの言語感覚って面白いですよね。

谷津　そうじゃん。だって、あっちに美味しい餌があったらピッピッピッピッピーって喰いに行って。喰い終わったらまた逃げちゃってサッサッサッサッサーっていなくなっちゃうだろ。ゴキブリだよ（笑）。

――また、これがしぶといんですよね。

谷津　あぁー。しぶといんだよ（笑）。なかなか死なないんだよ。結局、スポンサーに「儲かります」なんて言ってるからさぁ。み〜んな干されちゃうんだよ。

――昔、谷津さんは全日を辞めた時も、「SWS以外の契約書は、全部、人身売買みたいなものだ」って言ってましたよね（笑）。

谷津　あぁ。人身売買なんだからなぁ。

ゴキブリみたいなもん だから潰したくない！

谷津嘉章

昭和プロレスの凄みに触れる
実録！　豪傑一代記！
紙のプロレス
スーパースター列伝

――ガハハハハ！　そうでしたか（笑）！

谷津　俺んとこも契約書なんて無いんだから。

――そうなんですか（笑）？

谷津　出てく者は去りなさいだから。来る者は来なさいと。ただし、お客さん呼べるような選手が来ないとダメだよな。絶対そうだよ。やっぱり自己満足じゃ駄目。

――これからは、選手としてよりも団体運営に力を入れていくわけなんですかね。

谷津　やっぱり淘汰されていくんだ、選手も。団体も淘汰されていくし。ホントはプロレスはコミッショナーがないでしょ、力道山時代からずっと。コミッショナーが。ボクシングはコミッショナーがあるでしょ。プロレスでも供託金に1000万円でも積んでさぁ、それが払えないんなら辞めりゃいいんだよ！

関係者　（申し訳なさそうに）角川博さん入りました。そろそろ記者会見の時間です。（この日、千春の芸能活動のために角川博が協力するという会見が試合前に行われた）

――じゃあ、今日はありがとうございました。

谷津　ああ。（歩き出しながら）だからさぁ、2ヶ月半に1回とか、1ヶ月に1回しか出来ないような団体は、もういいんだよ！

――いらないんですか（笑）？

谷津　いらないいらない。定期的に出来ない団体はダメなんだよ！　俺、そう思うよ。（ここですっかり興奮して喋りながら歩いて行くためか、どんどん見当違いの方向へと突き進んでいく

関係者　ちょっと、谷津さ〜ん！　谷津さ〜ん！　そっちじゃないですよ！

【98年3月17日、大田区体育館にて収録】

不況、倒産、選手離脱、借金もなんのその！　平成の会長社長漫遊記onクルーザー

世間の荒波を突き抜けろ！

平成のズンドコ船長が揃い踏み！

全日本女子プロレス

松永高司会長

vs

みちのくプロレス

ザ・グレートサスケ社長

「不景気、不景気」といわれて久しい昨今のプロレス界。みんな元気が足りないんじゃない？　というわけで、こんなご時世だからこそ『紙プロRADICAL』は不景気の最前線で窮地に立たされながらも、どういうわけかいつも元気が売り物なお2人の対談を組んだのです！　しかし！　日頃の行いが悪い『紙プロ』のせいか当日は朝から雨。「今日はダメか…」と思ったものの、2人が夢の島に着いた途端、パ〜っと晴れてしまった。この2人が奇跡を呼び込んだのだ！　しかも、場所は超ゴージャスなクルーザーの上！　え？　「なぜ貧乏な『紙プロ』がこんな豪華な企画を出来たんだ」って？　元気があればなんでもできるんです！　全国1千万の『紙プロ』読者のみなさん、この2人の狂ったような元気さを見習うべし！

司会進行／山口日昇
interview by Noboru Yamaguchi
撮影／遠藤政文
photographs by Masafumi Endou
構成／坂井ノブ
construction by Nobu Sakai

この世に生まれて、やりたいことは全部やった！自分としては男冥利に尽きる（松永会長）

——今日はわざわざ遠いところを夢の島までいらしていただいて、ありがとうございました。去年、倒産直後の松永会長にインタビューしたら、「今の夢はクルーザーを買うことだ！」っておっしゃってましたよね。今回は、ささやかながら夢を叶えてさしあげようということで、クルーザーの上で対談を組ませていただきました。会長的にはどうですか、この超豪華クルーザーの乗り心地は。またクルーザーがほしくなったんじゃないですか（笑）。

会長　いまでも毎年、クルーザーの展示会は見に行ってるんですよ。いまでも「♪船がほしい～、船がほしい～」って歌ってるからね（笑）。

サスケ　ガハハハハ！　奇遇ですねぇ～。ボクも毎年、リムジンの展示会に行ってるんですよ！

会長　サスケさんもこれを機にクルーザー買わない？

サスケ　いいなと思いましたね。でも、本気で買おうとはあまり思わないです。というのはね、ボクはまず泳げないんですよぉ（笑）。

会長　こりゃダメだあ（笑）。

サスケ　水が苦手なんですよ（笑）。

会長　オレは子供の時から潜りをやってきたからね。逆に高いところはダメなんだよね。それでサザエとかアワビをゴソゴソ取るわけですよ（笑）。

サスケ　僕なんかは山ですもんね。

会長　だから、体力があるんだね。

サスケ　いやいやいや（笑）。

——山の神と海の神みたいだ（笑）。

サスケ　いやぁ～（笑）。

会長　うまくまとまりましたね（笑）。

サスケ　ガハハハハ！　まとまってどうすんの（笑）。始まったばかりですよ（笑）。潜りと言えば最近のプロレス界もモグリみたいなヤツも出てきてますけど、どうなんですか？　最近の全女さんなんかは（笑）。

会長　ダメだ（笑）。

サスケ　ガハハハハハ！　ボクはレスラーになった頃、なんといっても全女さんにお世話になってますからね。

会長　この間も（97・11・21）、ノーギャラで試合を提供してもらって、恩返ししてもらった（笑）。

サスケ　いや～、これからも恩返しさせてください。

——社長から見て全女の魅力ってなんですか。

サスケ　それはね、なんといっても多角経営ですよぉ（笑）。

会長　ワハハハハハ！

サスケ　これはね、僕らの教科書ですよ（笑）。全女さんは常にベクトルが「対世間」に向いてますからね。みちプロも目指すべきはそっちだなと思うわけですよ。

会長　確かに、都内で焼き肉屋とかラーメン屋とかをやってたけどねえ、可哀想だなあと思うのは食材屋さんだよ。売上は全部プロレスに使っちゃうから、金は払わねえし（笑）。家賃も払ってねえな。だからこそ、生き延びてきた！　だって毎月1億円の手形決済するんですから（笑）。

サスケ　へぇ～、凄いなあ（笑）。

会長　いやあ、もうまいった（笑）。借金しまくってね。その挙げ句に潰しちゃった（笑）。ワハハハハ！

サスケ　うんうんうん、ガハハハハ！

会長　生き延びる時にはしょうがねえもん、みんな共倒れだあ！（笑）

——ガハハハ！　倒れちゃいけませんよ（笑）。だけど会長、多角経営やってたから全女が倒産したんですよね？

会長　違うの！　バブルがそうしたの（笑）。うちだけじゃねえんだから（笑）。だいたい、うちより先に銀行が潰れちゃうんだから。多角経営を全女だけがしてたのかっつうと、そうじゃない。やはり全日空でも日本航空でもホテル作って、ダメになって。

サスケ　そうですね、うんうん。

会長　そういうことだから。逆に言うと、それを手放して生き延びてるわけですよ。

サスケ　そうかあ、うんうん。プロレス界にとっては多角経営ってのは異色かもしれないけどね。でも、やっぱりやるべきですよ。

会長　サスケさんの会社は最近どう？

サスケ　う～ん、どうなってるんですかねえ（笑）。

——ダメだこの経営者も（笑）。似た者同士だ。

会長　ワハハハハ！

サスケ　なるようにしかならないでしょ（笑）。いまは不景気ですから、どこの業種も厳しいんじゃないですか。

会長　たかが知れてるよ、プロレスだけで儲けるといったって。だから、オレが悪いんじゃねえんだ。世間が悪いんだから！

サスケ　（手を叩いて喜んで）ガハハ！　そうですね、世間が悪い（笑）。

会長　国が悪いんだよ（笑）。プロレス一本で食っていくっていうと日本人好みだぁね。でも、そりゃ難しいよ。プロレスもいまはドン底でしょ？

サスケ　プロレスだって流行りすたりがあるんだからね。

会長　だから、興行をやればやるほどドンドン赤字。それをわかりながら赤字でもやらなきゃいけない。それだと、資金が途絶えたら終わっちゃう。そのためにも多角経営が必要だということなんですよ。生き延びるためにね。その時にはやっぱり、いろいろと捨てていけばいいんですよ。

サスケ　それで会長はクルーザーも買ってたりしたんですね。

会長　それで頭が狂っちゃった（笑）。でも、自分としては、この世の中に生まれてきてやりたいことは全部やってきたし、人が出来ないこともやってこれた。だから、自分としては男冥利に尽きる！（キッパリ）。みんな、やりたいことを全部はできないでしょ。ねえ？

サスケ　そうですねぇ。クルーザーがほ

「オレがクルーザーを持ってたころは大島に行ってサメを釣ったもんです」と言いながら、身も心もサメなってしまった松永会長と、オレンジジュース片手に、話に耳を傾けるサスケ社長。自前のアロハが決まってるぜ！

BIG対談 サスケ社長 松永会長

しくても買えないですからね。

会長　でも、いまはもう生命保険も解約しちゃった。

サスケ　あらら？　保険さえも（笑）。

会長　ワハハハハ！　だから、老後は大変だわ、オレ（笑）。その前にもう遊んじゃったからね（笑）。

サスケ　ガハハハハ！

会長　どっちが得だったかといえば、先に遊んだほうがいいやね（笑）。

サスケ　いやいやいや、こりゃまた凄い話が出たね（笑）。

会長　だから、若いうちに好き勝手なことをしといた方がいいんじゃねえかな（笑）。

サスケ　ボクもまったく同感ですね。

会長　だから仕事は大勢ですよ。うまいモンは一人！

サスケ　うまい汁は一人で吸えばいいと、ガハハハハハ！　会長は経営者の鏡だね、うん（笑）。

会長　その代わりにダメなときは自分の身を切ってでも投資しないとね。いまのインドネシアでもねえけど、大統領が裸になって、持ってるものを全部投げうたないとダメだ。それだけの器量がないと倒産してもみんなついてこない。

サスケ　だから、全女さんにはあれだけ選手が残ってるんだよね。

――全女が倒産したとき、いろんな団体に分散したじゃないですか。その時にサスケ社長が名言を吐いたんですよ。「これからは全女の時代だ」って（笑）。

会長　ああ、どうも（笑）。（とサスケ社長に深く頭を下げる）

サスケ　いやあ（笑）。急に頭を下げなくてもいいじゃないですか（笑）。もう、うふ、うふ、うふ（と恐縮しながら照れ笑い）。

会長　だからね、倒産したでしょ？　オレとしてはホッとしたんだよ。●●がいなくなって（笑）。

一同　ガハハハハ！

サスケ　（机をバンバン叩いて）わかるよ、それ（笑）。猪木さんが昔さあ、選手が大量離脱したときに「これで大掃除ができた」っていう発言したでしょ？　あれと一緒なんだよね（笑）。

――ガハハ！　そうですね（笑）。

サスケ　でもねえ、それは企業の宿命ですよ。大きくなったら、どっかで大掃除しなきゃ！　ね？

会長　だから25歳定年があるんですよ。ババアのプロレスなんて見たくもない！

サスケ　あ～あ（笑）。

会長　昔なんかひどいよ。水着だって昔はいい水着を買えないわけ。だから中にズロースみたいなパンツを履いててさ。横から色のついたパンツがチラチラ見えて、横から紐がズルズル出てきてるんだから（笑）。たまらないよ。

サスケ　でも、そういうのが逆にエロチックだったのかもしれないね（笑）。そういうことを乗り越えてくると逞しくなりますよね、みんな（笑）。

会長　なんでもありだよね（笑）。

サスケ　競技としてのバーリ・トゥードよりも人生としてのバーリ・トゥードですよ（笑）。

会長　もう人生、苦しいけどこんな楽しいことないと思う！

いまの男子プロレス界はカッコつけすぎる きれいごとばっかりいってちゃダメ！（サスケ社長）

サスケ　いまでも毎日借金取りとか来るんですか？

会長　取りには来ないけど電話でガンガン来るわ。でも、オレが殺されても払えねえ。

――ガハハ！　サスケ社長はどうですか、こういう会長の生きざまを見て（笑）。

サスケ　いやあ、見習いたいねえ（笑）。あのですねえ、ボクが思うに全女さんが飲食店をやったというのは凄いことなんですよ。欲望産業ですよ、人間の欲望の一番目には食欲がありますからね。

――サスケ社長は性欲も激しいですけどね（笑）。

サスケ　激しいけどね（笑）。でもね、そこに目をつけたっていうのは凄いです。だから、プロレス界も不況、不況って言ってないでやんなきゃダメだ。

会長　そう、やんなきゃダメだ。

サスケ　だから、みちプロもいずれも飲食店をやりたいなと（笑）。飲食店をやるときの注意とか、ありますか？

会長　コックを使わないこと。

サスケ　え？　どういうことですか。

会長　レスラーに教えてやらせるんです。道場でメシ作らせて、それで「うめえ」って言われるもんを店で出せばいいんですよ。いまのSUN族が開店した時もコックを使わなかったら、女房とかババア連中に怒られてね。「コックはどこにいる」でどうすんだ！　コックはどこにいる」って（笑）。だから言ってやったよ、「どこにいるもなにも、オメエらがコックだ！　コックはどこにいる？　家でメシを作って食わしてるだろ。それを出せ！」ってね（笑）。

サスケ　ガハハハハ！　うんうん。

会長　そしたら「そんなことできるわけないでしょ！」って怒られた（笑）。だからいまのSUN族も副会長がコックやって、お昼にオレも入るわけよ。

サスケ　会長が自ら（笑）。それは僕が道場に通ったころからですか？

――社長がメデューサの着替えを覗いてたころからね（笑）。

サスケ　（大慌てで）だぁ～から、見てないっていうの！　そういう話をよく言われるんだけど、な～んでそうなっちゃったのかなあ。もう、ホントにねえ（笑）。いや、だからね、欲望産業なのよ（笑）。うちも飲食店やりつつ、風俗店もやりたいなという野望があるんですよ（笑）。

会長　あ、それはオレもやりたいなって考えてた（笑）。

サスケ　ガハハハハ！　やろう、やろう！　やらなきゃ、やらなきゃ！

会長　ノーパンしゃぶしゃぶを見てひらめいた！　21世紀はノーパン・プロレスときたもんだ（笑）。

――くだらねえなあ（笑）。

サスケ　ガハハハ！（大喜びで）やろう、やろう。面白い、面白い（笑）。

――ノーパン・プロレスって、それじゃストリップじゃないですか（笑）。

会長　どうせ、ストリップから来たんだもん（笑）。どっか沖縄かどっかの無人島を一つ貰って。東京からツアー組んだりしてね。

おもむろに操縦席に座った松永会長。「大島ってどっち？」とサスケ社長にナビを依頼。サスケ社長も仕事を忘れて、すっかりリゾート気分だ。すると前方の海面から巨大なヒレが！　「サ、サメだぁ！」とほぼ同時に叫んだ２人。やはり、年齢は離れていても心は同級生なのである。

ノーパンしゃぶしゃぶでひらめいた！21世紀はノーパンプロレスときたもんだ（松永会長）

サスケ社長
松永会長
BIG対談

いいですねえ（笑）。だけど、普通の神経だったら会長みたいに10億ぐらい借金があったら精神的に参っちゃいますけど、会長はすごいわ（笑）。

会長　参ってるよ、オレ。

サスケ　参ってる人がノーパン・プロレスとは言わないですよ（笑）。

会長　そうか、ワハハハハハ！

――もし、いま会長のとこに1億円が転がり込んできたらどうします？

会長　やっぱりプロレスに使いたい。

サスケ　なんだかんだ言って会長はプロレスが好きなんですね。

会長　だけどね、試合は見ない。

サスケ　なんでですか？

会長　つまんねえ！（キッパリ）

――またそんなことを（笑）。社長はどうしますか、1億円が入ったら？

サスケ　やっぱりリムジンを買いますよぉ～（笑）。なにせ毎年、リムジンの展示会にはいきますからねえ（笑）。

――外人の展示会もね（笑）。そういう点ではサスケ社長も精神的にタフなんですよね。会長から見たサスケ社長ってのはどういう人に見えます？

会長　似てるなって思うよ。真面目な人ですよね。サスケ社長は。

サスケ　いやいやいや！　うふ、うふ、うふ（と照れ笑い）。

――まあ、ある意味ではね（笑）。お2人は親子ほどの歳の差ですよね。

会長　いや、同級生だよ（笑）。

サスケ　ガハハハハ！　親子だけど同級生なんですよ、うん（笑）。会長も40何年もやってるんだから、日本プロレス界では日本一じゃないですか。

会長　古きゃあいいってもんじゃないよ（笑）。

サスケ　いやいやいや（笑）。男子プロレス界もそういう全女さんの生きざまを学び取らなきゃダメだよね（笑）。やっぱり、きれいごとばっか言ってちゃダメだよ。いまの男子プロレス界はみんなカッコつけたがるからね。

会長　一時的にはそれはいいかもしれないけど、どうせ年を取っていくからね。

サスケ　やっぱり選手が売店に立ってさ、会長が自ら焼きそばを焼くとかね（笑）。そういうのを男子プロレスでもやんなきゃダメだよね（笑）。

会長　会場は、ホント楽しみにくる場所だからね。だんだん日本もサーカスみてえなもんもなくなってきたからさ、代わりみてえなもんだね（笑）。

サスケ　ガハハハハ！　サーカスの代わりみたいなもんだって。いいなあ（笑）。そういう意味じゃあ、全女さんは絶頂期の頃でも地方巡業を大事にしてましたよね。あれはびっくりだった。

会長　そうなの？

サスケ　バスで巡業して、ちょっとした広場でも青いブルーシート張って目張りして。選手は、どんな地方に行っても全力ファイトをやってたんですよ。みちプロも学ばせてもらいました。

――ボクも横浜アリーナで見る全女より、府中競馬場横駐車場で見る全女の方が全然面白かったですよ（笑）。

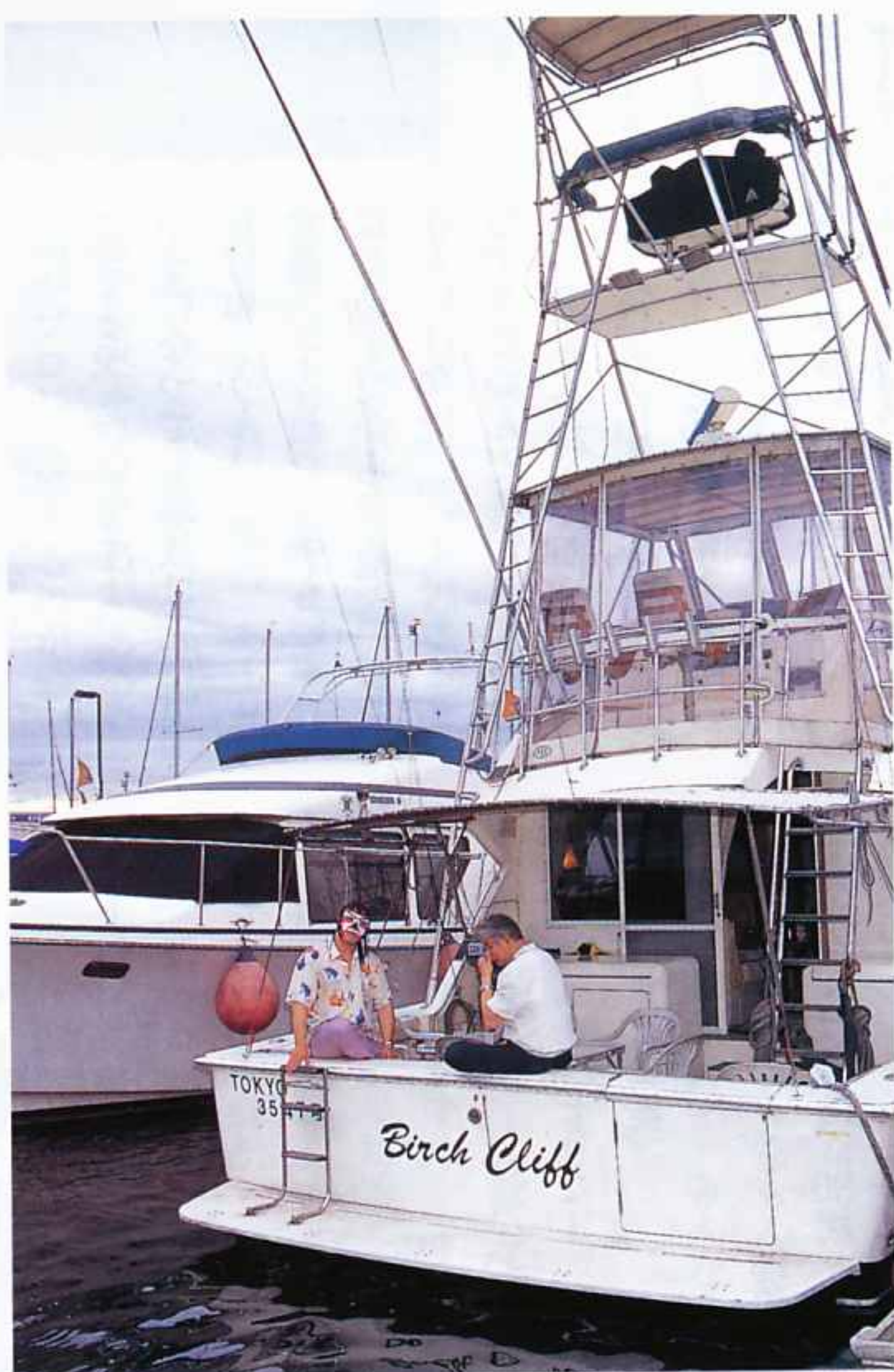
サスケ　そうそうそう（笑）。ナントカ青果市場とかね（笑）。オレも大好きなんですよぉ～。

会長　ある程度年齢のいった人っていうのは地方に行くと遊ぶ選手がいるわけですよ。まあ、手抜きだな。これが一番困るのね、みんな右に習えになっちゃうから。そのためにも我々が常に行って目を光らせないと。

――いまでも、サスケ社長はリングの設営撤収を自らやってるんですよ。「なんだか見慣れない人がいるな～」と思ってると素顔の社長なんですよ、タオル被ってね（笑）。

会長　ワハハハハ！　そういう姿勢がね、やっぱりリングに上がっても出てくるんじゃないかね。みんなを引っ張ってく上でも先頭に立っていく人の方がお客さんに伝わるわけですよね。親近感も出るしね。知らなくても自然とそういうものが身体から出るんです。

――苦しい時にも選手がついてきてくれると。

サスケ　う～ん。ついてきてくれるとい

この撮影はすんばらしくかっこいい豪華クルーザー『Birch Cliff』号のオーナー・福田氏の協力のもとに行いました。

松永高司■全日本女子プロレス会長。昭和11年6月6日、東京都目黒区出身。趣味は鮫釣り。座右の銘は「死にくたばるまで一日も休まない！」。全女は今年で30周年を迎えるというのに、毎日ＳＵＮ族で厨房に入るスーパー経営者

いんだけどねぇ。

会長　こないだも選手たちに「金くんなきゃ、私たちもうやれないわ！」って怒られたんだけどね。だから「そんならオレは辞める」って言った（笑）。そしたら「会長がそんなことを言っていいんですか！」って、また怒られちゃった（笑）。「辞めたほうがよっぽど楽だ！」って言ったんだけどね（笑）。

サスケ　ガハハハハ！　全女さんはそういう意見をぶつけあえるからいいよね。うちは意見をぶつけてこないから。ぶつける前にみんなアメリカに行っちゃったから（笑）。それでオレは黙々とリング作ってるしな（笑）。どうなってるんだってね（笑）。

会長　サスケさんだって選手から文句が出た方が面白いわけでしょ。

サスケ　そうですね。それでよくなってけばいいわけだからね。

――やっぱ、みちのくもちょっといい思いしたから、選手もそれにはまっちゃったんじゃないですか。

サスケ　うん。甘やかしたとは思いますよ。まあ、いいですよ、バラバラになっても最後は元に戻ればね、うん。

会長　そうね。ウチもいずれは女の子だから辞めていかなきゃいけない。「一生居ることはできないんだよ」ってオレはいつも言ってるからね。だから、25歳定年っていうのは心の中にはいまでもある。25歳過ぎたら、その人を売り出そうとかメインイベンターにさせようとか、そういう気持ちはないんだよね。

サスケ　その点は女子プロレス界は特殊ですよね。

オリンピックで審査員の前であんなことをするハーディングはプロレス向きですよ（松永会長）

会長　ほっといたらいつまでたってもいられちゃうからねえ。

――ちょっと話は変わりますけど、サスケ社長は今年後半はどうやって盛り返していくつもりですか。

サスケ　う～ん。会長、どうしたらいいですかねぇ？　そうだ！　合同興行でもやりますか。

会長　いいねぇ。

サスケ　ガハハハハ！　即決だ（笑）。

会長　今年はうち、30周年だからね。

――全女とみちのくの合同興行はいいですよね。単純に見たいですね。

会長　ミックス（ド・マッチ）をしようって言われるんじゃないかと思ってドキドキしたよ。

サスケ　あれ？　ボクはそのつもりでいましたよ（笑）。

会長　アメリカで女子のプロレスがダメになる間際にミックスのプロレスが盛んだったのね。それを最後に消えていったわけ。だからミックスをやるのは、もう最後だ（笑）。

サスケ　それを出したら最後なんですね（笑）。ガハハハハ！　やったらマズイんだ（笑）。でも、いまと時代が違いますからね。ボクもミックスドマッチはやってますから。

会長　なるほど。でも、サスケさん自身を下げるみたいでダメですよ。

サスケ　う～ん。実際、下がってないですよ（笑）。でも、ミックスを敢えてやらない合同興行もいいかもしれないです

対談は、クルーザーの中のゴージャスなリビングの中で行った。金はなくても、溢れんばかりの夢と元気があるじゃないか！　ということで、対談も熱が入りまくり、暴走し、脱線しまくった。

サスケ社長　松永会長　BIG対談

アラン（・リード）はなんとしてもみちプロにからませたいよね（サスケ社長）

ね。

会長 （真顔で）だってさ、ミックスやって女の股から顔を出してベロベロって舌出したら、サスケさんが下がっちゃうでしょ？

サスケ ガハハハハ！ そんなこと誰も言ってないですよ（笑）。

会長 （さらに真顔で）そしたらイメージが壊れちゃうじゃない？

サスケ 誰もそんなことやるとは言ってないじゃないですか（笑）。できないですよ（笑）。

――メチャクチャだな、もう（笑）。

会長 オレも昔、横田基地とか行ったんですよね。だけど選手なんかいないから、見つけて3時間ぐらい教えて連れていったこともあったよ（笑）。

サスケ ガハハハ！ 凄い凄い（笑）。

会長 ジャンボ宮本っていたでしょ、あれがウチの親戚なんだけどさ。学校から「ただいま」って帰ってきたときに、「ちょうどいいや」と思って四畳半で受け身を教えて。こうやってやるんだって3時間教えて、それで試合に連れてった。

サスケ うわあ（笑）。

会長 プロレスでよくあるでしょ？ 上から首絞めて「まいったか」って聞くでしょ？ そしたらジャンボが「まいった」って言っちゃったもん。これにはマイッタ（笑）。

――いいのか、こんな話して（笑）。

会長 もうメチャクチャだったよ（笑）。昔のどさくさの時代だから、そんなこともありましたよ。

サスケ 昔はそんなメチャクチャでも、いまでは組織をしっかり築いてますからね。東京ドームで興行もやったし（笑）。

会長 東京ドームもなにも感覚は一緒だから。東京ドームでやった時も当たり前だと思ったもん。

サスケ あのときは、スケートの（トーニャ・）ハーディングを連れてくるとかいう話もありましたよね（笑）。あ〜れは、ホントおもしろかった。

会長 あれはテレビを見ててね、ああいう神経の人間がプロレスに来るのがいいうのはプロレスと一緒ですよ。あんな神経の持ち主はプロレス向きだ。

サスケ ガハハハ！ やっぱり彼女はプロレスに来るのが一番いいと（笑）。

――サスケ社長はどうなんですか、アラン・リードは？

サスケ アランね（笑）。ハーディング並みの神経があればいいんじゃないかなあ。接点ができたからにはなんとしても、みちプロにからませたいよね。

会長 アラン・リードって誰？

サスケ 松田聖子と付き合ってた人で「セイコに逆セクハラされた」って暴露本を書いたんですよ。

――サスケ社長は、その人をみちのくに引っ張りこもうとしてるんですよ。サスケ社長の場合も新聞報道が先走ったと。

サスケ うん。だけど、彼は真面目過ぎるんで、ちょっとレスラー向きではないですね。「逆セクハラされて、ホントに嫌だったん」と思ったわけよ。で、そういうことを言ったら、みんなバタバタって書いて、それであんなことになっちゃった。みんなに踊らされたようなもんだよ（笑）。

――ガハハハハ！ みんなを踊らせたのは会長ですよ（笑）。

会長 だいたいオリンピックで、審査員の前で足を上げて、どうとかこうとか言

サ・グレート・サスケ■みちのくプロレス社長。昭和44年7月18日、岩手県盛岡市出身。趣味は外車の展示会見学と映画鑑賞。昨年のみちプロ経営危機もなんとか乗り切り、選手としての復帰も待たれる。日本の中小企業の輝ける星

サスケ社長　松永会長　BIG対談

だ」って（笑）。じゃ、ヤるなっていうんだよねえ（笑）。

会長　ワハハハハ！

サスケ　それで「松田聖子にイヤらしいことをされた」って裁判で訴えちゃうんだからさ（笑）。

会長　まあ、そういう女だよね、アレ。

サスケ　ガハハハハ！

会長　ああいうタイプは、しなきゃいられないんだよ（笑）。

サスケ　ガハハハハ！　もう、女性を見続けてきた人だからね、言うことが違う（笑）。

会長　ああいうタイプは一晩に100回ぐらいイクんだから（笑）。

サスケ　ガハハハ！　ホントかよ！

――さ、このへんで次の話題にいきますか（笑）。今度、全女さんから堀田選手が参院選に出馬するって話がありましたが。

会長　オレはよく知らねえ（笑）。

サスケ　ガハハハハ！　そんな（笑）。なんで堀田さんは選挙に出ることになったんですか？

会長　ボクの友達の西銘（一）という男がスポーツ平和党の幹事長になってね。あれとは25年の付き合いなんですよ。もう腐れ縁（笑）。まあ、助けたり、助けられたりでね。で、「一位指名をもらった。誰かレスラーがいないかね？」って言ってきた。資格が30歳以上だって言うから、堀田が30歳過ぎてたでしょ。で、「堀田しかいねえんじゃねえの」って、2人を引き合わせたわけ（笑）。

サスケ　受かればいいですね。受かったら儲けもんですよね。

会長　まあね。受かるとけっこう儲かるんだって。でもそれはムリだろ（笑）。

――借金返せますね（笑）。

会長　そんなことといったって、それはオレの金じゃないからね（笑）。

――議員になる人もいればヌードになる人もいますからね（笑）。女子プロは、ホントになんでもありだよなあ（笑）。会長は選手のヌードをどう思いますか？

会長　オレはどっちでもいいや。最初は反対したけどね。そういうものは見せるもんじゃないと思ったから。

サスケ　ビジネスとして考えた場合はいいと思いますよ。なんてったって、多角経営ですからね（笑）。いや、でもね真剣な話、それこそきれいごとじゃないですよ。裸一貫で稼ぐわけですからね（笑）。

会長　本一冊で1000万ぐらいの金が入ってくるんだからね。飲食店やなんかで1000万の利益を出すっていったら大変ですよ。

サスケ　ああいう芸能仕事も女子プロの特色の一つですよね。

会長　そうですね。だからビューティーペアの時は365日1日も休みなしでしたよ。フジテレビのプロデューサーがね「ホントにスターになりたかったら一日も休むヒマも寝るヒマもない。そこまでやったらお前は完全にスターになる」ってビューティーに言ってましたけどね。

サスケ　いまの選手にそれをやったらついてこれないんだよね。

会長　だから、クラッシュギャルズの時も同じようにやったわけ。そしたらマネージャーの（ロッシー）小川がヒーヒー言ってたから（笑）。「殺してやる！」とかね。でも、最終的には本人が一番いい思いをするんだから。だからクラッシュは年収1人5000万ぐらいあったんじゃないのかな。

――それだけ会長も当時の小川さんも選手に対して悪者になってたわけですよね。

会長　誰が悪者になっても、最終的には本人が一番いい思いをするんだから。それは憎まれても仕方ないわな。

――その思いがサスケ社長の場合は選手に伝わらないんですよね。

サスケ　そうなんだよな～、うん。だからさあ、全部の仕事をオレがやっちゃってさ、オレの知名度だけ上にいっちゃう。そうするとますます他の選手との格差が出てきてしまうんだよね。

――まあ、みちのくに限定せずに、いまの選手はなんでそういうことを嫌がるんですかね。

サスケ　昔、パンクラスの船木さんが「なぜ自分は人気が出ないんでしょうかね」って質問する近藤選手に言ってるわけですよ。「それはさあ、与えてないからだよ」って。お客さんに対して何かを与えるっていう気持ちじゃないと人気っていうのは上がらないしさ。いまは、おいしいところだけ取って人気を得ようとするレスラーが多いんじゃないの？

会長　そうだね。

サスケ　極端な話、ノーギャラでも汚い仕事でも喜んでね、有名になるためにはやらなきゃいけないときもあるんですよ。スターになるためには喜んでやらないと。そういう気持ちを持ってるレスラーってほとんどいないんじゃないかな。少なくともみちプロの中にはまだまだ出てこないね。

会長　ホントに一般大衆がやらないようなことをやっていかないと。

サスケ　そうですよ、ホントそうだよ。

会長　はぁ～、銀行強盗やっても10億も20億もねえしなあ（タメ息）。

サスケ　ガハハハハ！　たしかに一般の人は銀行強盗しないけどね（笑）。

会長　1億、2億じゃ足りないよ（笑）。

サスケ　でも不況でも活気がある業界ってのもあるわけでしょ、ゲーム業界とかさ。だから抜け道はあるんですよ。

会長　不況の時代こそプロレスが国民にエネルギーを与えなきゃいけないわけですよ。力道山がやってたころは敗戦直後で、それによって元気をもらったんです。その点、サスケさんは現役レスラーだから、考えは違うかもしれないけど。

サスケ　そうですね、不況仮面とかを呼んで退治するしかないよね（笑）。

会長　ワハハハハ、そりゃいいや。

サスケ　あとは消費税ですね。5％になってから観客動員が落ちましたからね、ガクンと。

――じゃあ、堀田選手の代わりに参院選に出ますか（笑）。「消費税にラ・ケブラーダ」って（笑）。

サスケ　ガハハハハ、初の覆面議員でも狙いますか！　まあ、時代とか不況のせいにしても何も始まりませんからね。なんとか突破したいですねえ。

会長　それに、いまは猫も杓子もレスラーになっちゃうからね。

サスケ　猫も杓子もレスラーにしてたのは会長ですよ（笑）。3時間教えただけ

ノーギャラでも汚い仕事でも
スターになるためには喜んでやらなきゃ
（サスケ社長）

不況の時代こそプロレスが国民に
エネルギーを与えなきゃいけない
（松永会長）

BIG対談

サスケ社長
松永会長

時代とか不況のせいにしても何も始まらない！なんとか突破したいですね（サスケ社長）

でレスラーにしてたんだから（笑）。

会長　ワハハハハ！　まあ、それでも最終的にはジャンボ宮本もＷＷＷＡのチャンピオンになったからね。

サスケ　そう考えるとジャンボ宮本っていうのも凄い人材ですね（笑）。

会長　まあ、昔は誰も教える人もいなかったからね。見よう見まねで「足上げたらそれがもうレスリングだ」って言ってたよ（笑）。だからレスラーもコックと一緒だ。コックも教えないんだから、見て盗めってね。

サスケ　そういう教えはやっぱり猪木イズムですよね。「プロレスは盗むもんだ」って藤原組長も言ってたしね。だからいまの人はどこのジャンルでもそうだけど、「それは教えてもらってないからできない」って結構言いますよね。

会長　そういう時代なんだよ。

――時代っていう意味で言うと、全女はいちばん時代の影響を受けてますよ。

サスケ　時代によってお客さんが変化してますからね。

会長　いまは男が多いけど、ビューティーやクラッシュの時は小中学生から高校生の女の子だったね。

サスケ　理想型でいったらそっちの方が理想的ですよね。

会長　結局、その人たちにとっては、あの子たち（ビューティーやクラッシュ）が一つのＬＯＶＥなんですね。

サスケ　ＬＯＶＥっていうかね（笑）。猪木さんも言ってましたからね、やっぱり基本はＬＯＶＥだね。

会長　だから、プロレスよりもその人だね。昔、ジャッキーに会いたいために田舎から出て来た子がいて、オーディションも受けたんだけど最終的には落としたの。そしたら田舎帰って自殺しちゃった。

サスケ　えぇ!?!?!?　いやいや、でもね、そこまで惹きつける力っていうのも凄いよ！　そういう意味じゃＸ－ＪＡＰＡＮのｈｉｄｅも凄いしね。

会長　だから、それだけのエネルギーをプロレスにも取り入れられねえかってことだよね。

サスケ　猪木さんも言ってましたよね、「好きになることも大事だけど好きにさせることが一番大切だ」って。いまのレスラーは一生懸命やってれば好きになってくれるもんだって思ってるわけですよね。だから、みちプロの中にもホントのスターが出てきてほしいよね。

会長　サスケさんがそうじゃないの？

サスケ　いやいやいや（笑）。

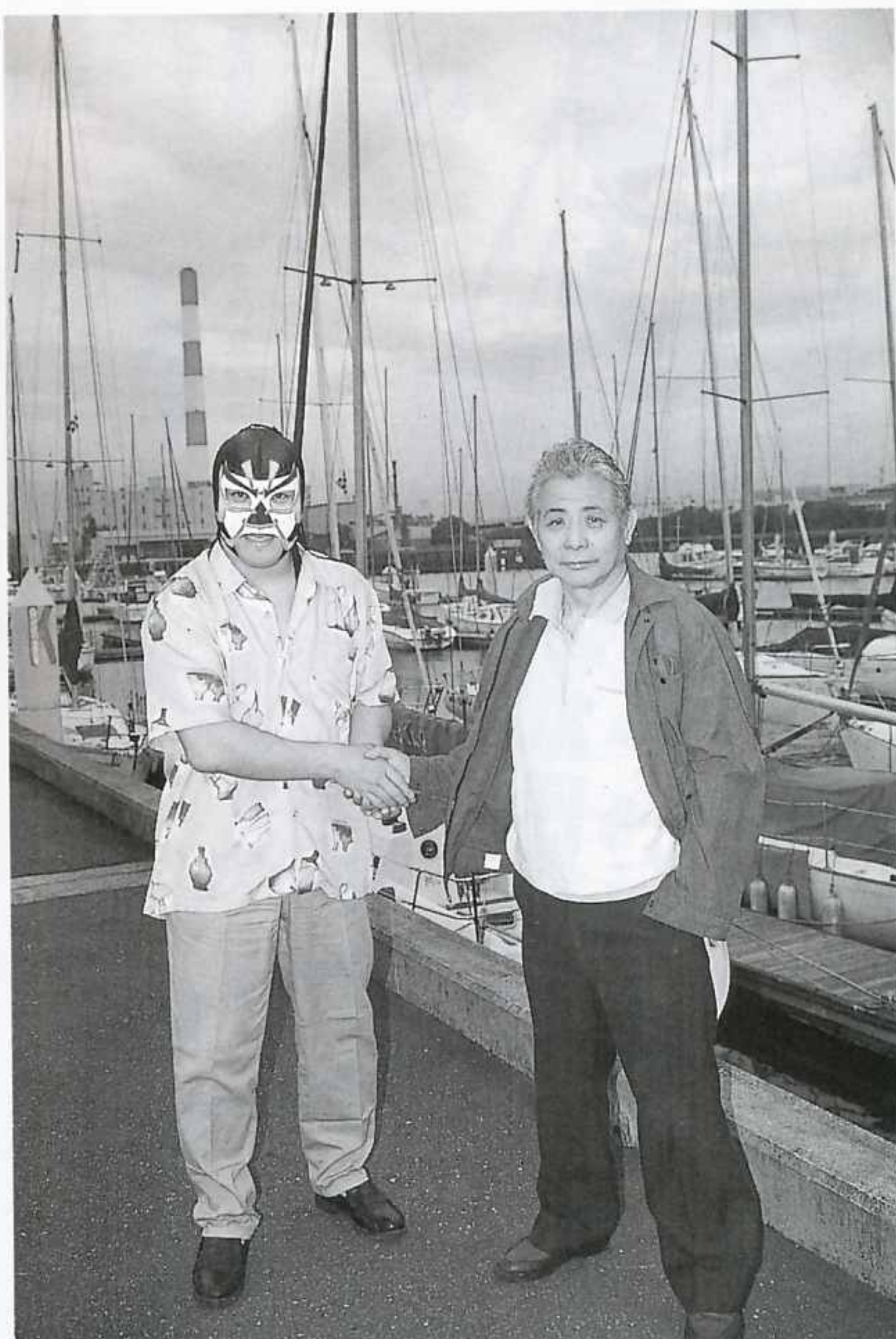
会長　長嶋（茂雄）が引退した時もみんな泣いたでしょ。こないだ、死んだフランク・シナトラとかね。そうならないとホントのスターって言えないよ。スターは死ぬまでスターなんだから。

サスケ　１人ビッグなスターが現れればね、借金なんて帳消しですよ（笑）。

会長　そうだね。オレなんかひたすら、その夢ばっかり見てるから（笑）。

サスケ　うちもそうですよ。早く次のスターを見つけてクルーザーでも買って隠居したいですよ（笑）。じゃあ、そのきっかけを作るために全女さんと合同興行をやりますか（笑）。

会長　やろうよ（笑）。

【98年5月18日、ゴミとクルーザーと夢追い人の楽園・夢の島にて収録】

こんな素敵な人間たちがいるからこそ、プロレス界は盛り上がっていくのである。この２人ならどデカイことをやってくれることだろう。ＶＩＶＡ！　サスケ社長！　ブラボー！　松永会長！

みちのくプロレス・今後の日程

「ちゃぐちゃぐルチャっ子 '98」

6月19日(金)秋田・昭和町勤労者体育センター(18:30)
6月20日(土)山形・尾花沢市体育館(18:30)
6月21日(日)福島・白河市中央体育館(15:00)
6月26日(金)福島・会津高田町民体育館(18:30)
6月27日(土)宮城・鳴子町総合スポーツセンター(18:30)
6月28日(日)福島・サンシャイン浪江(15:00)

そして、不死鳥・サスケが復活する！

7月18日(土)岩手・矢巾町民総合体育館(18:30)

全日本女子プロレス・今後の主な日程

6月20日(土)北海道・札幌中島体育センター(18:30)
7月19日(日)東京・後楽園ホール(12:00)
8月 8日(土)東京・後楽園ホール(18:30)
8月 9日(日)東京・後楽園ホール(12:00)

因縁のWWWAシングル戦・神取vs豊田が遂に決定！

8月23日(日)神奈川・川崎市体育館(15:00)

Q 前田日明の人生相談が単行本で出るってホントですか?

A ホントです。できれば7.20横浜アリーナの「前田日明～リングス・ラストマッチ～」に間にあえば、と～ってもシアワセです。できますかね、前田さん?

前田 知らんわ! 俺に聞くな、自分に聞け!!

前田日明の
WORLD MEGA-BATTLE 人生相談
人生は語らず
本編は次ページより

単行本発売発表間近!!!
寸止めなしの殺戮連載!

構成／山口日昇
text by Noboru Yamaguchi
撮影／遠藤政文
photographs by Masafumi Endo

第6回

人生は語らず

久しぶりに、なんとなく物思いに耽った。そういうときついついインテリな俺は”自分とは何か?“という哲学的なことを考えてしまう。

そんなことを考えながらフラリと立ち寄った本屋で、”自分とは何か?“というテーマに答えになるような本を見つけた。

それは免疫学の本だった。

免疫というのは、自分じゃないものから自分を守る。例えば白血球やリンパ球は自分じゃないものを排除する。

つまり、免疫のメカニズムは”自分とは何か?“をよくわかっているということだ。

免疫の世界で面白い話がある。

「自らの免疫をコントロールしてつくっているのはどこか」という問題。

つまり、免疫は脳みそがつくらせてるのか、それとも脊髄にある白血球やリンパ球をつくっている増血幹細胞と呼ばれる細胞がつくらせてるのか。

それは長い間、科学者の鬼門だったらしい。

それを試すための、”キメラ“という実験がある。

ある時、ヒヨコの脳みそを取り、ウズラの脳みそをつける”キメラ“をつくった。

ふつう、ヒヨコは下を向いてピヨピヨと鳴くが、ウズラのように上を向いてピーピーと鳴く。

その”キメラ“は、そのうち脳を移植した部分、つまり頭のテッペンにはウズラの毛が生える。

しかし”キメラ“はある程度大きくなると突然死んでしまう。

それはなぜかというと、骨髄や脊髄の中にある増血幹細胞が”自分のものではない脳“を攻撃するからだ。

実験の結果わかったのは、免疫のための白血球やリンパ球をつくる細胞の増血幹細胞は、脳に影響されない部分で独自に自分というものを判断している。

つまり、”カラダが認識する自分“と”アタマが認識する自分“は違うということだ。

ここまで読んで、俺はかつてよく読んでいた小説家が書いていた、あるフレーズを思い出した。

「エヘヘヘ、姉ちゃんよ、口ではイヤだって言ってても、カラダは欲しがってるじゃねぇか……」

このセリフは免疫学的には正しい。

なるほど……。

ん? 待てよ。

これは免疫学的に言うと”キメラ現象“じゃないか（たぶん）。

川上宗薫はエライ!

さすが昔、芥川賞を取っただけのことはある!

科学者が何年も思考と実験を繰り返してようやくわかったことを、かなり前からわかっていたのだ。

俺はこれで自分の読書歴に自信を持った……?（こういう日々を過ごしているある格闘家は、人並みはずれた体力なのに、知能は人並みに近いと言われるのだった）

Q 前田さん、こんにちは。私は中2の頃からずっと前田さんのことが好きで、処女を前田さんに是非！と思ってましたが、前田さんがちっとも私の前に現れてくれないので、いまのダンナに食われてしまいました。ダンナも前田さんのファンで、高田のノブ兄さんに「お前、前田さんに似てるな」と言われ、「前田さん、コイツ前田さんに似てますよ」とノブ兄さんが言うと、「似てねえよ！」と前田さんに一言で片づけられたという輝かしい経歴も持っています（いまはもう意識してないんで、まったくの別人のようです）。

さて、そんな私たちにも子供ができました。いま、妊娠6カ月です。そこで前田さんに子供の名前を考えていただけたら……と思い、ペンを取りました。ちなみに私たちは男の子なら"アキラ"、女の子なら"アカネ"（共に漢字は未定）と考えています。何かいい名前があったら教えてください。お願いします。

PS 「女の子やったらオ●子や!!」とかは期待してません（笑）。よろしく。

（神奈川県・藤嶋誠良もう人妻よ・女）

A へっへっへ。甘い甘い。**それを言うんやったらウン子や。**というのは冗談で、まずは顔を見ないことにはインスピレーションが湧かんやないけ。だから、生まれたらすぐに写真を送りなさい。顔のアップの写真と、おチンチンかオ●ンコも入った全身のアップの写真を送ってくるように。あくまでも子供のやで。勘違いして**自分の使い古した部分アップの写真**を送らないように。それからの話やね。以上！

Q 日明兄さんはラーメンとか食べますか？ 私は最近、雑誌とかTVで紹介されている超有名なラーメン屋に行きました。最初にネギラーメンを頼んだんですが、30秒後に気が変わって、「もやしみそラーメンに変更してください！」ってお願いしたんです。そしたら「まいったなぁ！ 全然、違うじゃねえかよ～！」と超イヤミを言われて、しまいには出すときに「はい！ もやしみそザーメン、お待ち！」とかセクハラまでオマケしてくれたんですよ。もちろん、食べずにお金だけ置いて帰ってきましたよ！ 有名だからって客をなめるんじゃねえ！ 日明兄さんは、こういう体験あるんでしょうか？ こういう場合はどうすればいいんでしょうか？

（群馬県・由紀子・18歳・学生・女）

A 「全然違うじゃねえかよ」って言われたら、「味も全然違うじゃないのよ！ テレビでおいしいって言ってたけど、どこがおいしいのよ！」とかカウンター食らわしてやればええやんけ。

だけど、キミの頼み方もあったかもわからへんで。「すいませんけど」とかがなかったから店の人はふくれたのかもしれへんしね。これは、いわゆるモーションをかけてきたんでしょ。「もやしザーメンお待ち」ねぇ……。キミの気を引こうとしてるんでしょ。

……はぁ。しかしね、なんじゃ、**この質問は!?** 「どうしたらいいでしょう?」ってね、もうそこに行かへんやったらええやんけ！

なんで、俺がいちいち分析して、「モーションをかけてきたんでしょ」とか真剣に考えなあかんのや。39歳のオッサンが……**ああ、アホらし！**

だいたい俺らの若い頃ってウマイとかマズイとかっていうよりも、まずは量だったからね。18歳ぐらいで、味なんかわかるわけないんだよ。

毛ェ生えて5年ぐらいで何がわかるんや！ **メシの味も人生の味も、毛ェ生えて最低10年！** そこから徐々にわかるようになるもんや！

まるで毛の生える時のように。

AKIRA MAEDA

Q 中学生がバタフライ・ナイフで人を刺し殺す事件が相次いでますが、バトラーツの石川雄規選手は「どっかのバカが中学、高校でも持ち物検査をしっかりするべきだとか言ってるが、持ち物検査をするよりも、『刺すなら俺を刺してみろ！』って言える大人が必要だ」というようなことを言ってました。前田さんはバタフライ問題についてどうお考えですか。

（福岡県・誠勝より勝一、みのるよりマンモス・24歳・男）

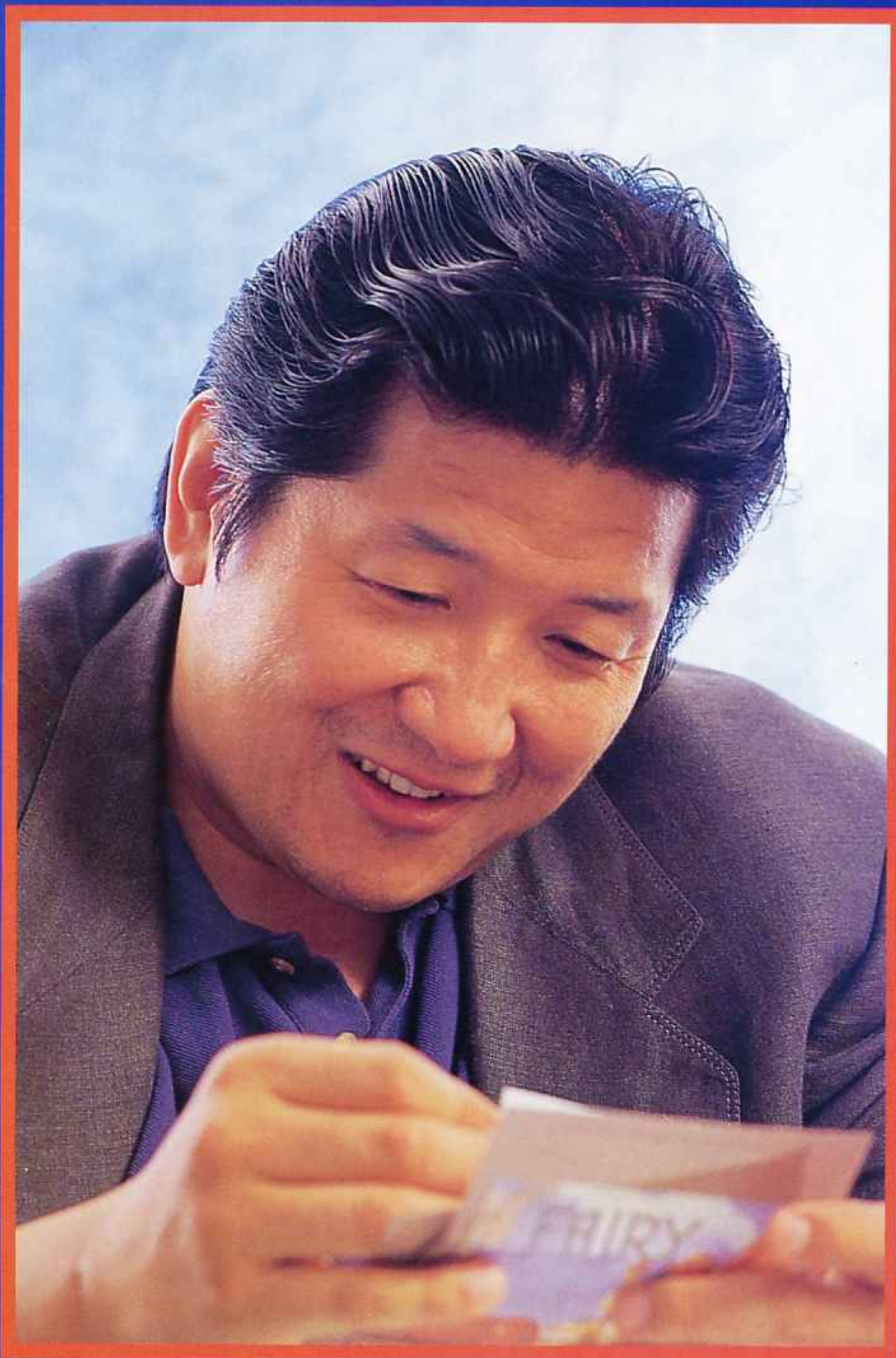
A 石川雄規は単純やけど、なかなか何も考えてないオモロイこと言うね。まるでバカやんけ。だけど、ブルックリンあたりの学校で、こんなこと言ったら、**ハリネズミのファンクラブ**ができるくらい刺されるで。

いまの日本では「刺すなら刺してみろ！」って言われて刺すヤツもいないだろうけど、カッコいいと思うヤツも誰もおらんやろ。熱がないんだよ、熱が。いまの連中は冷えてるから「超ムカつく～」とか言って終わりでしょ。だから、**誰かが熱くならなきゃいけないんだよね。**

大人が、イエス、ノーをハッキリ教えてないよね。「ナイフは持って来ちゃいけないよ。勉強には使わないでしょ。鉛筆削るのにナイフなんか必要ないでしょ」みたいなことしか言わないでしょ。俺らの時代だったら「なんや、これ！」と言ってバシバシッてシバいて終わり。そういうもんですよ。

思春期っていっても、やっと大人のスタートラインを一歩越えただけだからね。完全に関わってないんだよ、世の中と。

子供って残酷なところと優しさみたいなところがゴチャゴチャになってるでしょ。やっぱり言ってわからん時は、痛みを使ったショックと共に、どさくさにまぎれてモノを教えなきゃダメやね。

仮に、**ナイフで人を刺すにしても、**

人を刺す道があるはずですよ。昔のヤクザは、親分の仇をとるために、我慢に我慢を重ねてみんなの罪を一身に背負って刺したもんですよ。でも、いまは意味もわからんと、「ただ刺せばいい」って感じでしょ。

人を殺める道、泥棒の道、いろんなもんが狂ってきてる。ということは、道徳が乱れてる。

”正義の道徳“ばかりじゃなくて”悪の道徳“も乱れてる！

昔の人殺しはチンケな殺しはしなかったよ。人殺しの道徳とか、殺人の哲学がしっかりあった。グレるにしても不良の哲学があったんや。

これをなんとかするには政治家に頼んで、国立の学校を建ててもらうんやね。

国立殺人大学とか、国立チンピラ専門学校とかを作って、おかしなヤッらを放り込む。で、ここでもダメなヤツはどんどん落第していくでしょ。悪い学校で落第したら、あとは良くなる以外はない。ということは、いい人間がいまの2倍になると。

そういう根本的なショック療法を**馳浩とか松浪健四郎**あたりにケシかけて国会に提出させたら……この二人がたぶん思いっきり**バカにされる**と。そうすると俺は一粒で二度おいしいというこっちゃね。

Q **どうも。僕はイギリスに留学する17歳の学生です。いやー、いま大変なんですよ、兄さん！　実は僕は中学3年の時に”このまま日本におってもしゃーないな“って思って英語を勉強しにイギリスに来たんですけど、これがまた思ったより大変なんですよ〜。僕の学校には日本人が2人しかいないんで、よくみんなからバカにされるんですよ〜。ほんで、この前、食堂で”Fack You,you are fucking jap!!“って言われて喧嘩したんですよ。って言っても僕はめったなことじゃ手を出さないんですよ。その相手は190cmくらいで110kgのラグビーのスター選手。僕は186cm、80kgなんで天と地の差ですよ。ほんでイザ喧嘩が始まったら、タックルから始まって2人共寝転がってとうとう上に乗られたんですよ。”こらアカン“と思って、耳を2発殴って腕ひしぎ逆十字で相手は”ギャー、Fucking Hurts（痛い〜）“って言って泣いてました。ほんで、それから、他のイギリス人は僕と一切口を聞いてくれません。僕は正しいことをしたと思うんですけど、兄さんはどう思います？　もういまメチャメチャつらいですよ〜！　それでこの前、イギリス人の空手やってる奴から”俺と勝負しろ“って言われてやったんですよ。結果は僕が耳を連打して失神させたんですけど、今度はそいつの友達が、僕を”殺す！“って言ってるんですよ。でも僕は男です。自分のためなら何でもやろうと思ってます。日明兄さんからのアドバイスお願いします。**

（大阪市＝現在イギリス・リョージ・17歳・男）

A これは大いによろしい！　**花マルです。**大いに正しい！　だけど、中途半端はアカンで。俺だったら腕ひしぎで「ギャー！」って言わせて、相手の心を潰した状態で「さっきの言葉をもう一度言ってみろ！」って言うな。周りのヤツらに、なんでこういう喧嘩になったか、ハッキリわかるようにするよね。そうやって後押しすることによって、そいつはもう何も言えんようになるから。**「正義は我にあり」**って立場をアピールすることや。

で、ちょっとカマして、「私は日本という侍の国から来た。だから、こんなふうに侮辱されたら黙っていない。あなたたち以上に名誉のために闘う。そういう民族だ」とか言うんや。さらにそこで余裕があったら、「僕はイギリスをナイト（騎士）の国だと思ってきた。それが礼儀も正義もなくて、人を侮辱しているだけじゃないか。それがナイトの国の人間がやることか！」とかね。

やるんだったら徹底的にやって相手の心を潰す！

俺もイギリスに行ってたからわかるけど、イギリス人という人種もけっこう島国根性で、陰でコソコソ言うヤツが多いんや。ちょっと注意したら「絶縁」とか言うヤツらがね。

ただ、見知らぬ土地に行ったら「こいつはどういう人間なんだろう？」ってみんなが注目してるわけだから、いつも**ジェントリーでフェア**じゃないとアカン。そうした態度を取ってれば、トラブルに巻き込まれても絶対に大きくならないし、必ず味方が出てくるもんだよ。

だから、彼の喧嘩もこの文面だけ見たら非はないんだよね。でも、なんで「ファッキン！」って言われたかってことを考えないとね。

それを糧にして今後、そのような喧嘩の種をまかないように生きるんだね。

でも自分のプライドがかかった時は喧嘩でもなんでもやらなダメや。**「批判」と「侮辱」は違う**からね。

リングスにもホームページがあるんだけど、掲示板とか見てると、けっこう侮辱的なことを書いてくるヤツがいるんだよ。「ヒクソンとやらないってことは逃げたんですね」とか。

「なんでやらないんですか？　やった方がいいと思います」っていうのは批判のうちなんだけど、**「逃げた」っていうのは侮辱だからね。**その辺のところがよくわかってない、いまの子は。

なにが「批判」で、なにが「侮辱」なのか、まあ、彼はいまそういう目に遭ってるんでよくわかると思う。

でも、そこで調子に乗って「オレは二人もやっつけて喧嘩に強いんだ」って思いこまないこと。一歩引いて、自分の足下を見て、そういう侮辱的なことを言わせる芽が自分になかったかよく考える。ないんであれば、なんでこんな喧嘩になったのかってことをよく見つめる。

そうやって、いつもジェントリーでフェアに物事を考えていれば、自然と**金髪女**がパンツを脱いでキミの元にやってくるというこっちゃ。その時は忘れずに一人くらい回すんやで、この**小僧！**（うまくやれよ）。

Q **前田さん、どうしてプロレスファンの男の人って、プロレス技を掛けたがるんですか？　今の彼は、試合を見る度「痛くしないから」なんか言って、「これはヒールホールド」とか「これがマウントからの腕ひしぎ」とか言って、しまいには「関節技**

って力じゃないんだよね」などと、どうでもいいことばっかり言いながら技を掛けてきます。前の彼もそうだったんですけど、こういう人達の扱い方を教えて下さい。ホントに邪魔！（札幌市・ボインちゃん・21歳・美容師・女）

A

昔は男同士でこういうことはやったもんだよね。

でも、俺も昔、テレビを見てる時に、いきなり彼女がテーブルを飛び越えてニードロップを後頭部にかましてきたことがあったな。もう頭がクラッときて、目の前が真っ暗になったんだけど、「大丈夫よね、アキラくん♥」って聞かれて**「うん♥」**って答えたら、「スッゴーイ！」って言われてね。……ツライ過去やね。

つまり、彼はかまってほしいんやね。これは甘えてるだけ。ジャレてるんやな。それプラス「オレは物知りなんだ」と知識をひけらかしたいんだよね。

彼女も、「そんなつまらないことで私に自慢したいんだったら、もっと他のことを身につけなさい」って言うこっちゃ。

しかしなぁ、こんなしょうもないイチャイチャ話を人に言うか!?

黙って二人で乳くり合ってればええんや。

"ボインちゃん"っていうんだったら、その胸で彼氏を窒息させなさい。関節技より絞め技の方が強い！「オッパイ固め～」とかやっとけばええやんけ……しかし、ホンマ今回は答えようのない質問ばっかりやなぁ。アホらしくなってきたわ。あのね、キミたち！　俺は**忙しいの!!**

前田日明の WORLD MEGA-BATTLE 人生相談 人生は語らず

Q

日明兄さんお久しぶりです。初投稿の悠記子です。私は現在16歳の女子高生です。私はいま、本当に悩んでます。それはバストサイズのことなんですが、これのおカゲで私の16年間メチャクチャです。男の日明さんに相談するのもなんですが、悠記子のバストサイズはヤバイです。大小言いませんでしたが、大きいんです。日明さんじゃなきゃ真剣に聞いてくれる人はいないんです……。友達に言っても妬まれるだけだし、男友達になんて言えません。

小学校6年の頃で88cmあって、中学にあがるにつれて93・96になって、現在のサイズは98cmです。身長は158cmで、人並みの体重だと思います。そりゃあ男の方にしてみれば、大きいのを好きな人が多いでしょうし、女の方にしてみても、うらやましいと思う人が多いと思います。私も小6の頃は人にホメられてる気がするし、人より少し大きいくらいだな、って思って悪い気はしてなかったですよ。でも中学校にあがって男の人とつきあうようになると、カラダ目当てなんじゃないかとか、悠記子が好きじゃなくって、悠記子の胸が好きなんじゃないかなって思えてきて、Hをする段階がきたりすると、嫌になってしまって（相手のことが）結局別れてしまうんですよ。

AKIRA MAEDA

胸が大きいからって、いいこともないです。肩こりは小学校の時からヒドかったんだよ！　あと、悠記子童顔なんです。（写真なかったのでプリクラ入れときました！）だから胸とのギャップがヒドくて、好きだった人に「お前、カラダが外人なのに顔は全然子供だよなぁ」ってゆわれたこともあるんです。そりゃあもっと大きくて困ってる人だっていると思うんですよ。手術すればいいとか答えられても、できるだけそういうのは嫌じゃないですか。あ～～～。老いておばあちゃんになったりすれば、やっぱしタレちゃうのかな……。

巨乳好き（じゃない？）の日明さん！　どうしようもないのはわかってます。せめて慰めの言葉を私にください。

あと、是非、なぜ巨乳が好きなのかも教えてください。このままだと悠記子は一生男の人とつきあうことができません。読んでくれてありがとう―大好き

（岐阜県・悠記子・女子高生・16歳）

A

ちょっといいから**プリクラ**見せてみ。早よ、見せてみぃって！………**ウッ……ウウッ……**。

あのね、「胸が大きい子はバカだ」っていう迷信が昔からあったけど、いまこの文章を読んで、なかなか昔の人は鋭いことを言うやんけ、と思ったな。これは冗談だから気にせんように。

だいたいね、胸が大きいとか小さいとかは関係ないよ。

昔、アントニオ猪木が、アゴが長いことで悩んで東大の整形外科に行って整形しようとしたらしい。だけど、その先生に**「キミはプロでしょ。キミの顔は一度見たら忘れられないんだから、非常にいいことじゃないか」**って反対に言われたらしい。それで猪木さんは「俺は余計なことにコンプレックスを持ってたんだな」と思って整形するのをやめたらしい。

だから、この子も同じことで、人がパッと見て、胸が印象に残るんだったらいいことだと思ったほうがいいということです。**大事なのはその次**で、アホなことばっかり言ってたら「ああ、こいつただのヤリ●ンや」って思われるだけだけど、いろいろ話して「頭いいじゃん」って思わせたら、これはもう勝ちですよ！

この子は、これから本とかたくさん読んでもっと知性的にならんといかんね。

第一印象で、男にとって最強に印象に残るものを持ってるんだから、**第二印象からの侵攻作戦用のアイテムを考えて生きる！**

そうじゃないとペンペン草も生えないくらい蹂躙されるで、いろんな男に。

それから、うちの家系は全員巨乳なんや。みんなそうだったたから、女性はオッパイが大きくないと不安というか不自然な感じがするんだよね。**ワタシの巨乳好きは、DNAがそうさせてる**っちゅーこっちゃ。

Q

日明兄さん、こんにちわ。私事で申し訳ありませんが、僕はズッと日明兄さんのファンですけれども、それなのに一度も日明兄さんの自伝、『パワー・オブ・ドリーム』を読んだことがありません。ファンとしては失格かもしれません。どこの本屋、古本屋を回っても、角川書店に問い合わせても在庫がないということです。どうすればいいですか？　どうしても読みたい（手に入れたいので）ので、よろしくお願いします。

（無記名）

A

あのな、耳をかっぽじって（掃除して）よく聞きなさい！　**俺は忙しいの!!**

このバカタレ!!　聞こえたかぁ～？

前田日明の

WORLD MEGA-BATTLE 人生相談

人生は語らず

Q 私は19歳で公務員をしています。いま許せない人がいます。彼は半年ほど先輩で、後輩は私しかいないのですが、ことあるごとに明らかに見下した態度をとるのです。仕事のことを聞いても教えてくれないし、それで失敗すると鼻で笑ってくるし、いままで何とか耐えてきたのですが、この間、彼のミスを指摘して直すように頼んだら、「自分で直せ。こっちは休憩してるんだ」と逆に怒られました。人は激怒すると体が震えるのだと知りました。奴をブン殴ってやりたいといつも思っているのですが、そうもいきません。でも、何とか報復してやりたくてしょうがないです。何かいい方法はないものでしょうか。（岩手県・Gウィルス・公務員・19歳・女）

A 身体が震えるって感覚はわからんな。俺は震える前に**身体が動いてる**からね。

オレの友達で山田詠美ってのがいるんだけど、彼女が直木賞をとってしばらくしたあとに、『平凡パンチ』が昔のヌードモデル時代の写真を本人の承諾も得ないで勝手に載せてしまった。

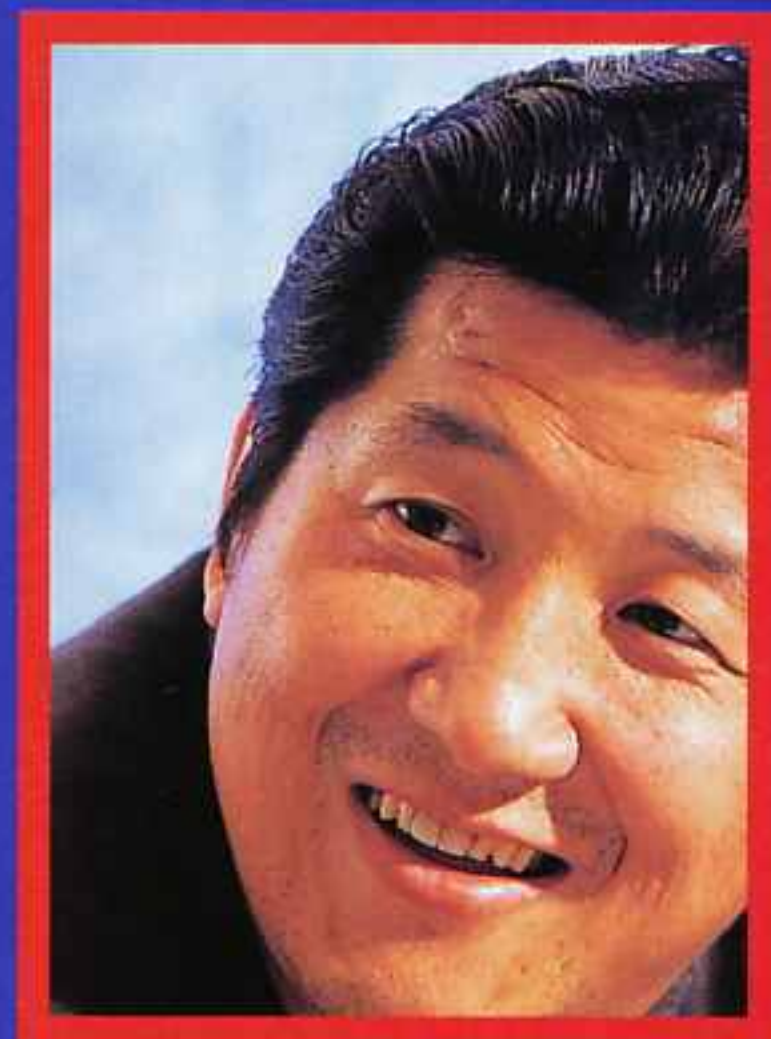
彼女はどうしたかというと、編集長のところに乗り込んでいって、「なによアンタ、これは！」って、いきなり水をパシャッ！　とかけて、髪の毛を掴んでパシンパシンッてひっぱたいた。そうしたら、その編集長は「すいません」って謝ったらしい。

彼女にはこんな話がたくさんあって、昔、横田基地のディスコかなんかで飲んでたら、米兵が乱暴に引っ張ってきたらしいんだよ。彼女はそれをグッと引き留めて「あなたたちはアメリカでもこんな人さらいのような方法でしか女の子をエスコートができないの！　もし、そうだとしたらあんたたちは哀れな人ね」って言った。そしたら米兵はパッと手を引っ込めて、あらためて紳士的に「MAY、I……」とかなんとか言いながら、ちゃんとエスコートしてくれたらしいで。

これはさっきの喧嘩の話と同じで**「なぜ私が怒っているのか」「なぜ相手を怒らなければいけないのか」をアピールしなければいけない、**という見本やな。いきなりわけもわからずにカーッとなって言ってしまったら、単なる失礼女やからね。だから、どんどん怒りをアピールすべきです。大きな声で自分の主張を周りにわかるように述べる。

この間、戦国武将がいかに呪術に頼ってたかっていう本を読んだんだよ。例えば上杉謙信が武田信玄を攻め込もうとして戦勝を祈願するとき、**まず自分の信仰するご本尊**に行く。「あいつはこういう悪いことをしている」って願文を書くわけや。それで、さらに**相手の信仰するご本尊**にも「武田信玄はこんな悪いことをしてるから、倒しに行くが力を貸してください」って頼む。相手のご本尊にまで頼むなんて、なんか律儀やろ。織田信長ですら、そういうことをやったそうやからね。

だからこの子も、自分の味方と思われる人にも訴え出て、上司の味方と思われる人にも訴え出る。そうやって根回ししておいた上で「ひどいじゃないですか！　バシンバシン」とやるといいね。しばらくは耐えるふりして、味方を増やすようにするわけや。

こういう戦法を**「ハメコにする」**（策略のために根回しする）と言います。ハメ込んでしまえってことですよ。

戦略的に「ハメコ」にしてやれば、いろんなことがカタがつく。そういうつもりで、レッツ・ハメコや！（大人って汚い。**ア、**俺も大人やった！）

AKIRA MAEDA

Q ボクは、世の中には「強い人はダジャレ好き」という法則があるのではないかと思います。アントニオ猪木、故・大山倍達、そして日明兄さん！　他にもボクが「この人は強い！」と思った人はたいがいジョーク好きです。そこで日明兄さんのダジャレ仕入先、またダジャレ最新ネタを教えてください。（横浜市・シャレなんかいいなしゃれ・公務員・22歳）

A 仕入先は森羅万象。強い人っていうのはナルシストが多いから自分の作ったものが一番面白いと思ってるわけや。自分がカワイコぶれば、人がカワイイと思ってくれると思うし、強ぶれば強く見えてると思うし、自分が面白いことを言えば面白がってくれると思ってるわけや。他人は関係ないな世界なんやね。関係ない世界なんやけど、チラッチラッて周りを見てる。その周りとのコミュニケーションの一方法がジョークというこっちゃろうね。

ダジャレっていうのは即興で言うもんだけど、なんとなく考える時っていうのもあるね。頭の体操だね。

いつだか、東京に雪が降った時に女の子としゃべってて、「東京の雪は山で見る雪とは別の雪に見えるわね……」って女の子がロマンチックに言うから、「だから、**ヨソゆき**って言うんだよ」ってオレは言ったね。彼女？　もちろん感心してたで。

ダジャレとなぞなぞが入ってるのもあるんや。「昔、奥多摩にイギリスの魔女協会が支部を作った。どういう名前か知ってる？」

「奥多摩は魔女」。

俺は自分の才能がコワイ（ホントに）。

そういうことで、リングに上がる人間は身体が柔らかくなければいけないが、頭も柔らかくなければならない。そういうこっちゃ。

【日明先生の総括】
俺はいま非常に忙しい。引退に関するいろいろな動き――。来年やることに関する動き――。新しいネットワークの監督――。リングス・ジャパンの運営・マネージメント――。
スーパー・ビジネスマンと言いたいところだが、実体は『男はつらいよ』に出てくるタコ社長のように「毎月毎月赤字だよ」と言いながら、目をつぶってダッシュしている。
だから、その忙しい俺をつかまえて、つまらないことを聞くんじゃない！　キミたち、反省しなさい。自らを省みなさい。
自らを省みる――ちなみにこれを"明"（めい）という！　"明"は"アキラ"とも読む。だから俺はいつも自分を省みてる。そういうこっちゃ。

どうしてもっていうんなら相談、受け付けてやってもええで！

「エヘヘヘ、姉ちゃんよ、口ではイヤだって言ってても、カラダは相談したがってるやんけ」というわけで、免疫学的な相談待ってます。以上、敬礼!!

〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷3―11―3―702
(株)ダブルクロス　RADICAL編集部
『毛ェ生えて最低10年!』係まで。

格闘伝説最終章

猪木&前田を見続けた日プロ出身の大物がついに『紙プロ』登場!

ありがとうそしてお疲れ様
実録! 豪傑一代記!

紙のプロレス RADICAL
スーパースター列伝

聞き手／吉田豪
interview by Go Yoshida
撮影／松永源さん
photographs by Gensan Mtsunaga

北沢幹之

おつかれさまINTERVIEW

アントンが引退し、日明兄さんも引退する平成10年。北沢さんと言われても、「リングスのレフェリー」というイメージしかない読者も多いのだろうか? しかし実際には、レスラー20年、レフェリー10年を生き抜いたマット界の生き字引だ。在籍した団体も、日プロ→東プロ→日プロ→初期新日→旧UWF→ちょっとブランクを挟んで→リングスと、コクがあるのにキレもある団体ばかりなのである。そう、北沢さんの傍らには常に猪木がいて、前田がいた。そんなスーパースターたちののちょっといい話を交えながら、北沢幹之のプロレス人生を振り返る、超スペクタクル思い出話に耳を貸すべき!

前田選手は力道山先生に似てるかもしれません

——北沢さんとは1回だけ接点があったんですよね。『週プロ』が主催したドーム大会で、うちの会社の人間がウンコのかぶりものして撮影してたら、北沢さんが入ってきて、ジーッと眺めていらして（笑）。そういう接点はあったんですけど、今日は猪木さんと前田さんという、プロレス界のスーパースターを間近で見てきて、北沢さん自身も引退されたということで、じっくりこれまでのプロレス人生を振り返って頂きたいと思います。

北沢 はい。

——最初はまず、日本プロレス時代の話からうかがいたいんですけど、そもそもプロレスを始めようと思ったキッカケは何だったんですか?

北沢 自分は15歳の頃から家を出て、1人で生活してたんですね。

——それはまたなぜですか?

北沢 「なぜ?」って、そういう時代だったんですよ。最初は福岡県の八幡にいて沖仲仕（船の荷の積みおろし）やって暮らしてました。で、沖仲仕をやりながら段々、東に行って大阪で初めてプロレスを見たんですよ。

——日本プロレスですか?

北沢 ええ、その時は日本プロレスしかなかったですから。大阪で初めて見て、「おもしろいなぁ、自分もやってみたいなぁ」と思って、大阪・西成の道場で柔道を練習したんですよ。力には自信ありましたから。15歳のときは、50キロのセメントを3つ担いで船の積みおろしを朝7時から夜6時までやってましたから。

——はあ〜。

北沢 力だけは誰にも負けないと思ったんですけど、プロレスに入ったら誰にも勝てないわけですよ。15歳で大人にも負けたことなかったのに。

——15歳で日プロ入りしたんですか?

北沢 いや、19歳です。それまでいろんなところをさまよい歩いてました。

——どういう形で日プロ入りしたんですか?

北沢 最初、力道山先生に会ったんです。そしたら「体が小さいから、もっと大きくなきゃダメだよ」って言われて。そこで、同郷の片男波親方（二代目・玉の海）を頼って上京したんですけど、そのとき親方が二所ノ関部屋から独立していたのを知らなくて途方に暮れちゃったんですよ。「親方がいないんじゃ、しばらく沖仲仕やろう」ってことになって。3ヶ月くらい横浜で沖仲仕やって、ようやく入門を認められました。

——体が大きくなったんですか?

北沢 いや、そんなに。

——あっ、なってないのに（笑）。

北沢 なんでですかね。熱心さを認められたのかもしれないです（微笑）。

——その頃の同期というと誰ですか?

北沢 星野勘太郎ですね。1年半後に山本小鉄が入ってきました。

——短気な人ばかりですねえ（笑）。

北沢 自分は運が良かったですよ。自分が入った直後に新弟子がたくさん入ってきましたから。その頃、ボクシングジムの若いヤツらと同じ合宿だったんですよ。

——力道山先生のボクシングジムですね。その頃、「プロレスラーはこうあるべき」っていう教えは受けましたか?

北沢 仕事でも何でも、「負けるってことは許されないんだ」って言われましたね。そんな先輩の中で猪木さんと気が合うようになったんですよ。みんな猪木さんの練習相手は嫌がってね。あの人は強かったですよ（しみじみ）。立ち技でも寝技でも強かったです。私は、いっつも練習にかり出されてね。

——ギューギュー言わされてたんですか。

北沢 お陰で他の選手を怖いと思ったことはないですよ。3年ぐらい猪木さんと一緒に練習してたからですね。自分は90キロぐらいあったんですけど、ブリッジした猪木さんめがけて、トップロープの上からボンボン飛び降りる練習をしてたんです。だけど、もう自分の体重じゃ軽すぎてダメなんですよ。いま思うと凄い練習やってましたよ。

——スパーリングするのは同じ世代の方だけだったんですか?

北沢 いや、誰とでもやってましたよ。

——馬場さんはどうでした?

北沢 何回かやりましたけど、極められたのは1回だけかな?

——「ケンカやらせれば大木金太郎、レスリングが強いのは猪木、プロレスやらせれば馬場」って、よく聞きますもんね。

北沢 ……（微笑）。

——はい、わかりました（笑）。力道山先生とはそんなに接点はなかったんですか?

北沢 1週間に2回ぐらい道場に来てましたよ。酒飲みに連れてかれたことも2回ぐらいありましたけど、大木さんや猪木さんが飲まされるのを後ろで見てましたねえ（しみじみ）。

——じゃあ力道山先生が亡くなったとき、北沢さんはどうしてたんですか?

北沢 2日間、ミツ・ヒライさんと一緒に病院に付いてましたね。でも、まさか亡くなるとは思いませんでした。今だから話せるけど、その時、新宿に日本刀を買いに行かされました。

——いろいろと危ない橋も渡ってきたわけ

[北沢さん秘蔵写真館PART1]
これは昭和38年、映画『駅前茶釜』に日プロ勢が大挙出演したときの記念写真。いい顔の人たちばかりの奇跡のような1枚。中心に座っている吉原功さんの右でいい顔しているのは、フランキー堺だ！ オッパイをさわろうとしているのか？ その右は先日、引退した星野勘太郎。熊さんの笑顔もたまらない。若き日の北沢さん、笑顔は今も昔も変わらない。

格闘伝説最終章

ありがとうそしてお疲れ様
実録！ 豪傑一代記！
紙のプロレス
スーパースター列伝
北沢幹之

［北沢さん秘蔵写真館ＰＡＲＴ２］
これまた貴重な日プロオールスターが総登場している写真。昭和39年の力道山１周忌の際に、池上本門寺にある力道山の墓前にて。よ〜く見ると、なぜかみんな明るく笑っているのか、不思議な写真だ。北沢さん曰く、「この時、『次は九州山の番だな』と豊登さんが冗談を言って笑わせたんですよ。まあ、ホントにそうなっちゃいましたねえ」とのこと。力道山１周忌の墓前で、そんな冗談が言える豪傑・豊登の素敵なエピソードである。ところで、マサ（斉藤）さんがどこにいるかわかりますか？

ですね。

北沢　まあ、前田選手は力道山先生に似てるかもしれないですね、手の早いところなんか（微笑）。

――前田さんも日本刀が趣味ですからね（笑）。日プロでは付き人はされましたか？

北沢　さんざんしました。一通り全員付きましたね。吉村（道明）さん、芳の里さん、遠藤（幸吉）さんとか。

――一番印象に残ったのは誰ですか？

北沢　豊登さんですね。

――ヤマっ気のある人ですよね。沈没船を引き上げるのが夢だったって聞いたことありますけど（笑）。

北沢　面倒見のいい人でしたけどね（しみじみ）。東京プロレス時代から日本プロレスに復帰してしばらくは猪木さんに付いてましたね。

――北沢さんが東京プロレスに行った理由は、猪木さんが行くからですか？

北沢　それもありますけど、トヨさん（豊登）に付いていったんですよ。当時、付き人でしたから。

――東京プロレスといえば、リングを焼かれた事件（昭和41年11月21日元都電板橋駅前広場大会で、興行主のオリエント・プロモーションが約束していたギャラを選手に支払えず、怒った猪木が全選手を足止め。試合開始時間を1時間過ぎても試合が始まらないことに怒った観客が暴動を起こし、リングに放火した事件）がありましたけど。そのときは現場にいたんですか？

北沢　ええ。あのときは猪木さんの「よし、やめよう！」っていう一言であいうことになったんですけど、周りの者が止めるべきでしたね。

――新日の暴動よりも凄いですよね、リングを焼かれるっていうのは（笑）。東京プロレスが崩壊した時点で、日プロに戻るのはかなり勇気が必要だったと思うんですけど。

北沢　はい。まあ、でも、自分は芳の里さんにもかわいがっていただいてましたから。そのときも「いつでも帰ってこい」って言ってくれましたよ。

――あの頃、北沢さんのリングネームが高崎山猿吉でしたよね（笑）。上田馬之助さんとか林牛之助とか動物の名前シリーズで（笑）。あれを名付けたのは、もちろん……。

北沢　トヨさんです（微笑）。

――付き人してると有無を言わさずリングネームを付けられちゃうわけですね（笑）。実際、嫌だったんですか？

北沢　う〜ん、あんまり（微笑）。でも、その後は猪木さんと馬場さんでプロレス界は変わりましたよね。それまでは、若手の試合にしても、ただがむしゃらにやるだけでしたから。

――それまでの若手の試合は、ケンカみたいだったという話はよく聞きますよ。

北沢　そうですね。力道山先生は、本当のケンカにしても何にしても勝ってくれば、非常に機嫌が良かったです。

――逆に負けたらシャレにならなかったわけですよね（笑）。

北沢　まあ、今はそういう時代じゃないですからね。

【北沢さんのリングネーム豆知識】高崎山猿吉→高崎山三吉→新海勝弘→ミスター・キタザワ（海外）→魁勝司　どれもステキだ！

—あの当時、猪木さんと試合をしたことはあったんですか？

北沢 試合はないですね。

—その後、どういう経緯で新日に参加することになったんですか？

北沢 昭和46年にメキシコ遠征しましてね、3年ぐらい帰らないつもりだったんですよ。それが10ヶ月たった頃ですか、「日本で揉めごとがあって、猪木さんが団体を旗揚げするから帰ってこい」って言われて新日に入ったんです。

—じゃあ、新日旗揚げに至るまでの流れは何にも知らずに、メキシコにいたわけですか。

北沢 はい。新日時代はなかなか太れなくて苦労しましたね。

—あの頃の新日はいい時代でしたよね。いまとは何かが決定的に違うというか。遊びもダイナミックだったんじゃないですか？

北沢 当時の合宿所が門限11時でしたけど、けっこう破りましたねえ。そんな悪い遊びはしなかったですけど、ブラブラしたかったんですよ。

—ブラブラって（笑）。ブラブラしながら何してたんですか？

北沢 六本木に屋台のおでん屋があったんですけど、ここの親父が酒好きなんですね。そこで大熊（元司）やヒライさんと自分で親父が酔っぱらって寝てるすきに、全部食べちゃうんですよ。そして、また出直してきて、寝てる親父を今来たようなフリして「おじさん！」って肩叩いて起こすんですよ（笑）。

—ダハハハハ！ そういうやんちゃなイタズラをするのは大熊さんなんかが一緒だったんですね？

北沢 そうですね。大熊が「タクシーに頭からぶつかっていく」って言うから、賭けをしたこともありましたよ。

—ダハハハハ！ レスラーらしいですね。

北沢 そのときはお酒がだいぶ入ってたんですよ。1升ぐらい。

—1升ぐらい（笑）。

北沢 「ああ、そうか、やってみろ！ ホントにやったら500円やるよ」って言ったら、大熊がホントにやっちゃったんですよ。走ってるタクシーに突っ込んで行って、バコーンと当たって。それで伸びちゃったんですよ。

—ダハハハハ！ すげえ。

北沢 で、自分は「こりゃいかん」と思って、逃げちゃいました（微笑）。

—ダハハハハ！ ひどい（笑）。

北沢 電柱の影に隠れて様子を見てたんですよ。そしたら誰かが「人が跳ねられて死んだ！」って大騒ぎになって、119番に連絡したんですよ。

—死んだ（笑）。

北沢 救急車が来ちゃって。「これはまずいな」と思って、大熊の顔をひっぱたいて起こして2人で逃げたこともありましたね（しみじみ）。

—北沢さんはそういうことやらなかったんですか？

北沢 自分は悪いことをやらせるのが専門でしたから（微笑）。新弟子を殴ったりはしませんでしたけど、言ったら事件になるようなイタズラは、よくやらせてましたねえ。

—ダハハハハ！ 新日出身のレスラーはイタズラ好きが多いですからね。

北沢 そうですねえ。（ユセフ・）トルコさんなんか悪いことばっかりしてましたね。

—どんなことしてたんですか？

北沢 のぞきが好きなんですよねえ。

—ダハハハ！ 新日にはのぞき好きが多いですよね。ドン荒川さんとか。

北沢 荒川は特別ですよ。

—あっ、特別（笑）。荒川さんとか藤原組長とか佐山さんとかは一緒になってのぞいてたらしいですね。

[北沢さん秘蔵写真館ＰＡＲＴ３]
（上）いつの頃からか、レスラーのファイティング・ポーズが、拳を握っただけのつまらないものになってしまった。それにひきかえ、どう、この力強さは!? これは昭和49年頃、新日本の初期のもの。『紙プロ』はファイティング・ポーズの原点回帰を提唱します！ （下）やっぱりいまでも北沢さんのファイティング・ポーズはかっこいい！

北沢 あの連中は別です。新日はホントはマジメなのが多いんですよ。

—猪木イズムが入ってるとあんまりそういうことはしないんですか？

北沢 やりたいなと思っても猪木さんを見てると出来ないですよ。だって藤波や木戸はすごくマジメでしょ。

—北沢さんはマジメ派だったんですか？

北沢 う〜ん、中間（微笑）。

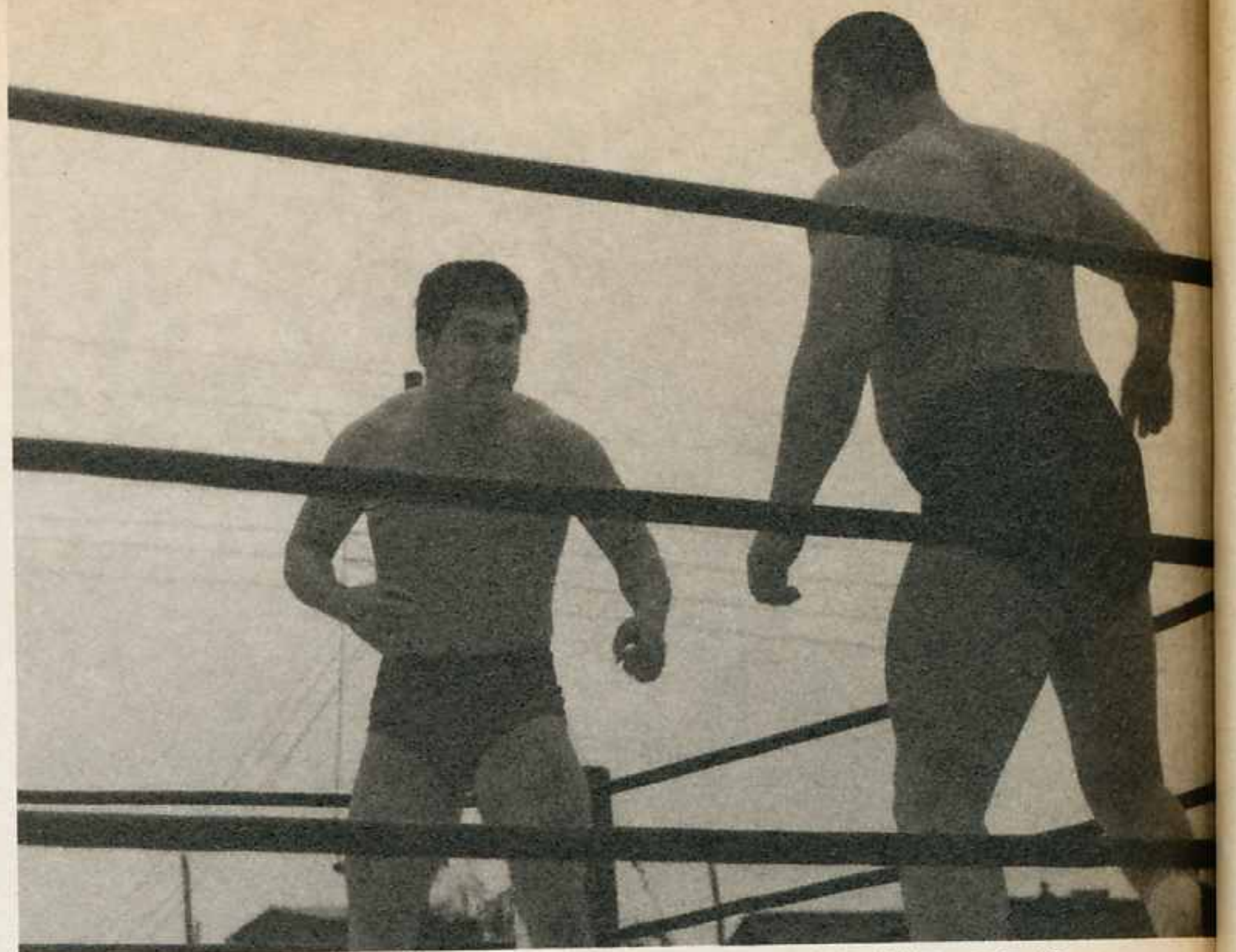
—ダハハハ！ 昔のプロレスラーって「酒・女・ケンカ」というイメージが強いですけど、北沢さんはそういう部分をまったく感じさせませんよね。

北沢 そうですね、猪木さんにしてもお酒は飲めるんだけど、深酒はしないですから。それに、凄いモテたんですけど、あんまり遊ばなかったですね。他の選手に比べたら自分もそれほど遊んでないですよ。

—それほどね（笑）。北沢さんは新日の新弟子を数多く見てらっしゃるわけですけど、その中で「こいつは違うな」という人はいましたか？

北沢 藤波は別に……。藤原はある程度、歳をとって入ってきたからどこか違いましたね。あいつは若い女の子に興味ないの知ってます？

—荒川さんから聞きましたよ（笑）。

北沢 福岡の飯塚っていう炭坑街で、

格闘伝説最終章

大熊が頭からタクシーに突っ込んでいって……

歳のババアと……（笑）。その2年後にバスで1時間揺られながら、そのババアに会いに行ったんですって。そしたら、もう死んでいなかったって。

――ガハハハハハ！

北沢　あと、松山の旅館に60歳は超えてるすごい太った女将さんがいたんですけど、みんながメシ食ってるときに女将さんがポロッとオッパイを出しちゃったんですよ。そしたら藤原が、いきなりそれをベロベロベロってなめるんですよ。

――ダハハハハハ！

北沢　みんなメシ食えなくなっちゃって（笑）。そのおばさんも1年後にコロって死んじゃいました。みんな藤原に手を付けられて死んじゃいましたねえ（しみじみ）。

――はあ（笑）。北沢さんは若い子がお好きだったんですか？

北沢　そうですね（微笑）。って、何言わすんですか！

――ダハハハハハ！

北沢　荒川もトンパチでしたね。ドンブリ15杯メシを食って、バケツ1杯味噌汁を飲んだりしてましたからね。おだてられたら何でもやるんですよ。そのときはバケツ3杯吐いてました（笑）。

――スケールがデカイですねえ（笑）。あの頃は騒ぎ方もハンパじゃなかったって話ですもんね。旅館壊しちゃったりとか。

北沢　う～ん、新日はそれほどひどくなかったと思いますよ。

――そうなんですか？

北沢　やっぱり日プロに比べたらね。新日では「飲まないで食え」なんて言ってましたからね。猪木さんもレスリングに関しては、素直でマジメな人でしたから。アリとやるときにも、スパーリングで来た6回戦ボクサーのアドバイスにも耳を傾けてましたからね。他の人は「あんなのに教えられるわけがないだろ」ってバカにしてたけど、そういうところが違いましたよ。

――そうか、北沢さんはアリ戦も内側で見てたんですもんね。

北沢　そのとき「誰かが爆弾を仕掛けてる」とかデマが流れてね。2時間おきに見回りましたよ。今となっては懐かしいですけどね。

――物騒な試合を数多くやってますよね。ウィリー（・ウイリアムス）戦もやってるし。

北沢　あの頃、（ウィリアム・）ルスカが来ましたけど、そのとき一緒に今はリングス・オランダの（クリス・）ドールマンも来てましたね。「ルスカはプロレスを知らないから相手をしてやってくれ」って言われて、藤原と2人で相手してやりましたけど、ルスカはあまり強くなかったんです。その1年後ぐらいにまた、ルスカとスパーリングしたんですけど、ナメてかかったら、今度はどこで関節技覚えたのか凄く強くなってたんですよ。

――前は柔道だけだったから極めることも知らなかったんですね。

北沢　坂口征二選手を見てて、「柔道ってあんまり強くないんだな」っていう先入観もありましたからね。

――ガハハハハハ！　爆弾発言ですよ、北沢さん！

北沢　やっぱり、柔道とプロレスは違いますからね。

――はあ～、北沢さんの方が先輩ですしね（笑）。で、前田さんが入門したのは、その頃ですか。前田さんを初めて見たときはどうでした？

北沢　生意気なところしか見えなかったですよ。「随分、生意気なヤツだな」と思いましたね。

――当時の前田さんはプロレスをやる気もないまま入ってきた状態ですよね。

北沢　こんなエピソードがあるんですよ。その頃、メシ食ってるときにローキックの話になったらしいんですよ。そこで前田が栗栖に「ローキックを1発やっていいですか？」って言って、まさか本気で蹴らないだろうと思って気軽にOKしたら、ズバーンっと思いっきりやられたって（笑）。「効きますか？」って聞くから、「効くわけねえだろ」って答えたらしいですよ。前田は「うわぁ、スゲエなあ」って驚いたんですって（笑）。栗栖は「あいつには用心した方がいい」って言ってましたけど。

――レスラーだなぁ。前田さんとスパーリングしたことはありますか？

北沢　はい。新弟子の頃、あんまり強くない頃にやってましたけど、強くなってからは……（笑）。試合もけっこうやりましたけど、蹴りは強かったですね。

――前田さんは不器用でしたよね。

北沢　でも、マジメにコツコツやってましたね。

――猪木さんにしても器用っていうイメージはあるんですけど、試合を見るとすごく不器用ですよね。

北沢　小回りがきかないところはあるかもしれないですね。

――それなのにこれだけハートを掴むのが

[北沢さん秘蔵写真館PART4]
これは貴重だ！　昭和41年、東京プロレスの江戸川区あたりで行った野外興行の模様。対戦しているのは大磯武。有名なリング焼き討ち事件の前だそうだ。

ありがとうそしてお疲れ様
実録！　豪傑一代記！
紙のプロレス
スーパースター列伝

まっすぐしか見えない前田の性格が好きです

［北沢さん秘蔵写真館ＰＡＲＴ５］これは新日本プロレスが伊豆大島に行ったとき、熱海で撮った写真。大勢の中で写真に写ると、いつも眼光の鋭い猪木さんだがこの日はいつになく普通に、大勢の中に交じっている。それよりも光るのは永源の早すぎた渋谷系といった感のファッションセンスだろう。

ありがとうそしてお疲れ様
実録！　豪傑一代記！
紙のプロレス
スーパースター列伝

不思議でしょうがないですよね。

北沢　表情だけでお客さんのハートを掴むのは凄いですね。だけど、ああいう大型の選手は細かいことをやったら大物になれないんじゃないですか。

――そのぶん北沢さんとか小鉄さん、星野さんは動いていくしかないわけですね。

北沢　そういえば、小鉄さんがなんでハゲになったか知ってます？　当時、前田が付き人やってたんですよ。風呂で小鉄さんの背中を流してるときに、温度を確かめないで、熱いお湯を思いっきり頭からかけちゃったらしいんですよ（笑）。

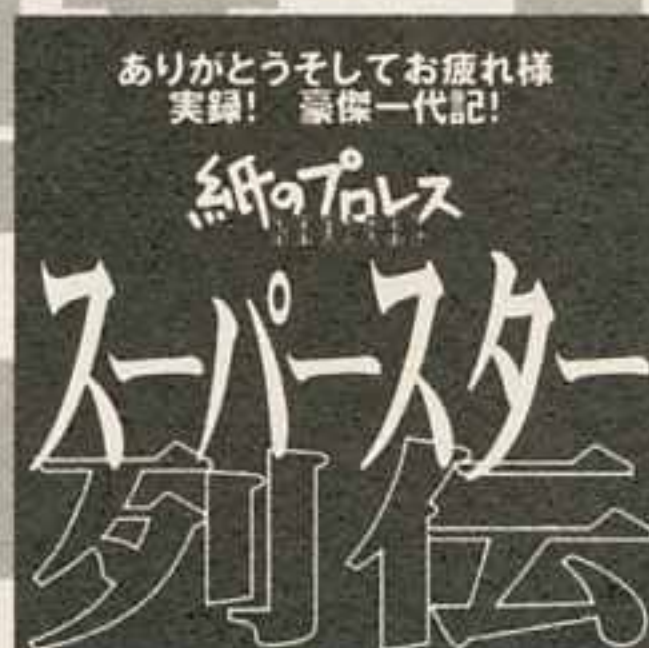
――ガハハハ！　前田さんらしいっちゃあ前田さんらしいですね（笑）。

北沢　それでハゲたんですよ。その時『19の春』っていう沖縄の歌で替え歌ができたんですよ。「♪ハゲだ、ハゲだと言うけれど、もともとハゲじゃありません～。前田の日明に熱湯かけられハゲになりました～」っていう。

――ガハハハハ！　前田さんらしいですねえ（笑）。じゃあ、生意気だった前田さんよりも、北沢さん的にかわいかったのは誰ですか？

北沢　高田はかわいかったですね。調子がいいんですよ、あれは。前田は調子いいところなんかないですもんね。逆にそれが魅力ですけど。前田選手は自分に対していい思い出はないんじゃないかと思いますね。あんまりかわいがらなかったんですよ。

――そうなんですか？

北沢　旧UWFに行ってからですね。「あ、こういう人間なんだ」と思ってね。それまではあんまり一緒にいなかったからわからなかったんですよ。

――で、新日本で引退なさったわけですけど、引退の原因はなんですか？

北沢　首が相当悪くなってて、握力が全然なくなっちゃったんです。隠してやってたけど、最後はダメでしたね。

――引退後にアントンハイセルやらクーデター事件が起こりましたよね。北沢さん的にはいかがでしたか？

北沢　まさかあんなふうになるとは思わなかったですね。長州も猪木さんには絶対逆らわなかったですから。佐山が辞めたのも、「また、ふざけてあんなことして」って感じで信じなかったですから（笑）。

――ダハハハ！　その佐山さんとは第一次UWFで再会するわけですよね。北沢さんはどうしてUWFに行ったんですか。

北沢　最初、UWFを知らなかったんですよ。ちょうどその頃、神奈川の綾瀬市で新日本が試合をやってのをたまたま見に行ったら、坂口征二が来て「前田がいなくなったんですけど、知らないですか？」って聞くんですよ。「俺に聞いたってわかるわけないだろ」って。その後ろで猪木さんが黙って座ってるんですよ（笑）。その晩、猪木さんに電話して、「前田どうしたんですか？　裏切ったんですか？」って聞いたら「裏切っちゃねえよ！　他のヤツの方がよっぽどタヌキだよ」って。

――ダハハハハ！　猪木さんらしいですね（笑）。新日を辞めて、UWFに行かれたのは北沢さんの意志ですか？

北沢　違います。当時、新日本の営業の吉田っていう仲のいいヤツに頼まれてね。何回も「ダメだ」って言ったんですけど、断りきれなくなっちゃって。

――当時のUWFを内側から見ててどうでした？

北沢　みんな一生懸命やってましたよ。

格闘伝説最終章

——UWF以前からゴッチさんとのつながりはあったんですか？

北沢　日プロからですね。猪木さんとゴッチさんにサブミッションを教わりましたから。もう、1日中レスリングのことしか考えてないんじゃないかと思うぐらい凄いですよ。

——去年、ウチの雑誌で取材しにフロリダまで行ったんですけど、いまだに「これだけの練習用具があれば人を殺せるんだ」って言ってましたからね。

北沢　そうですか、昔から、「前からでも後ろからでも、捕まえれば5秒で人を殺せるんだよ」って言ってましたよ。もう、スパーリング中に何回、口を引き裂かれたかわからないですよ。ホントに24時間レスリングのことだけを考えてた人ですね。あと人の嫌がることをすごく言いますね。

——ダハハハハ！

北沢　だけど、強くないレスラーは魅力がないですよ。自分が新日にいる頃、いろんな人が「馬場さんの人間性はいいけど、猪木さんの人間性はイマイチだ」って言ってましたけど、高い金払って人間性を見に行ってるわけじゃないですから。

——その通りですね（笑）。で、旧UWF崩壊後は、しばらくブランクが空いて、また北沢さんがプロレス界に戻ってきたのが、リングスでしたよね。旧UWFのレフェリーを引退して、プロレスから完全に離れたイメージがあったんですけどね。

北沢　益荒雄っていう関取がいたんですけど、その断髪式のときに前田に何年ぶりかに会って、そのとき「今度、リングスっていう団体を旗揚げするんだけど、しばらくレフェリーやってくれないか」って言われたんですよ。

——前田選手がひとりぼっちの旗揚げ戦をしたときに、唯一、北沢さんが前田さんの横にいましたよね。

北沢　新日時代の後輩ですからね。まっすぐしか見えない人なんですよ。そういう性格が好きですから。

——ある意味、昔のレスラーに通じるものを持ってる人ですよね。

北沢　気心が知れると、あんなにいい男はいないですよ。

——ええ、ええ。敵に回すとシャレにならないけど（笑）。

北沢　（仏のような微笑）。

——ダハハハハ！　リングスは北沢さんの目から見てどうですか？

北沢　リングスは練習生がもうひとつ育ってこないですよね。厳しすぎるんですかねえ？　田村もよそで育った人間ですから。

——髙阪さんも完成してから入ってきましたからね。

北沢　髙阪は心構えがいいですね、大物ですよ。まあ、ケガだけはしてほしくないですよ。山本（宜久）もいいですね。極めるのがうまいし、打撃にも一歩も引かないし。あれは才能ですね、いいもの持ってますよ。

——聞くところによると、リングスの飲み会はものすごいらしいですね。忘年会で店のトイレを破壊したりするとか。

北沢　あ、しますね（笑）。親分があぁいう人ですからね。

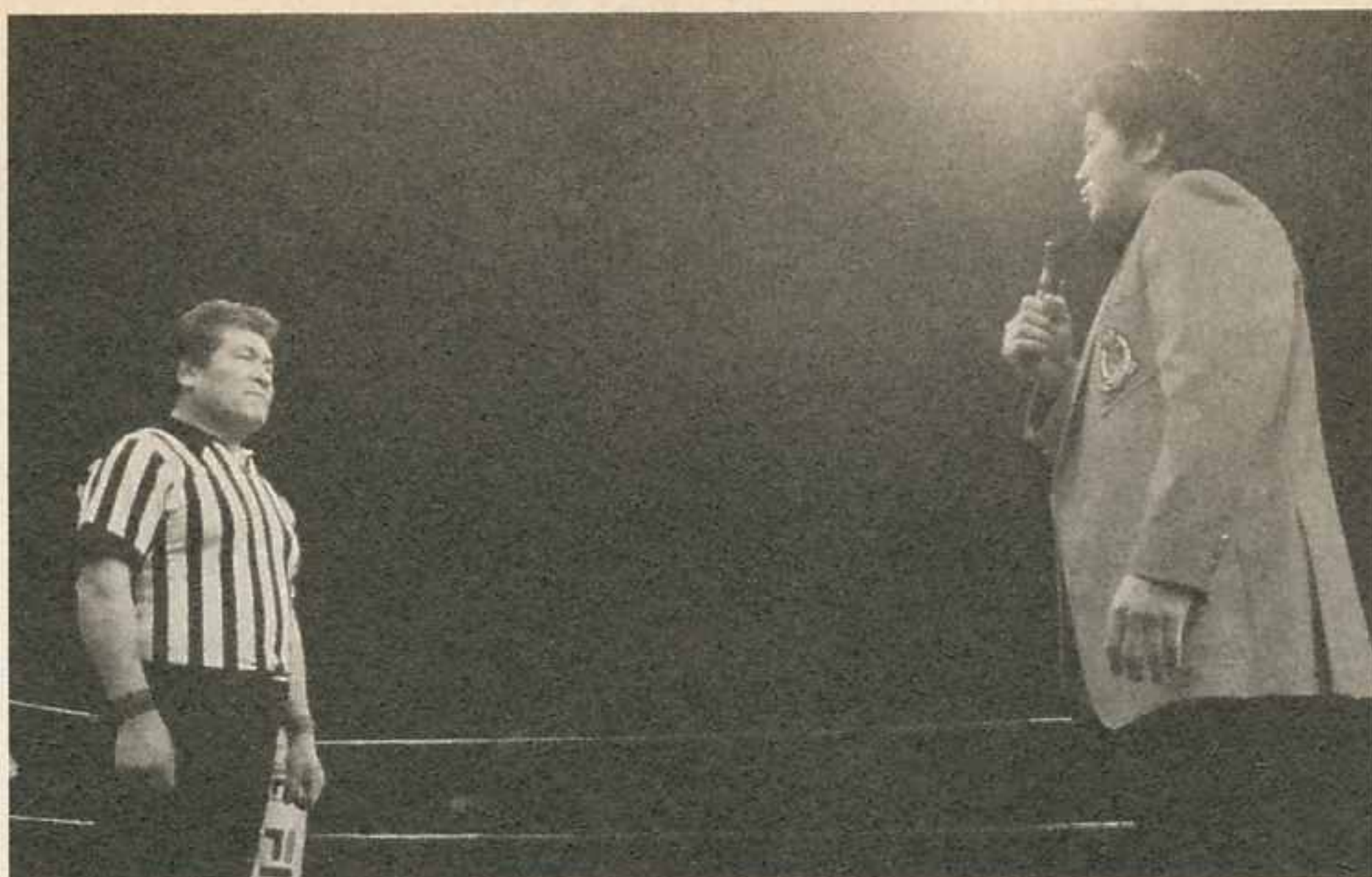
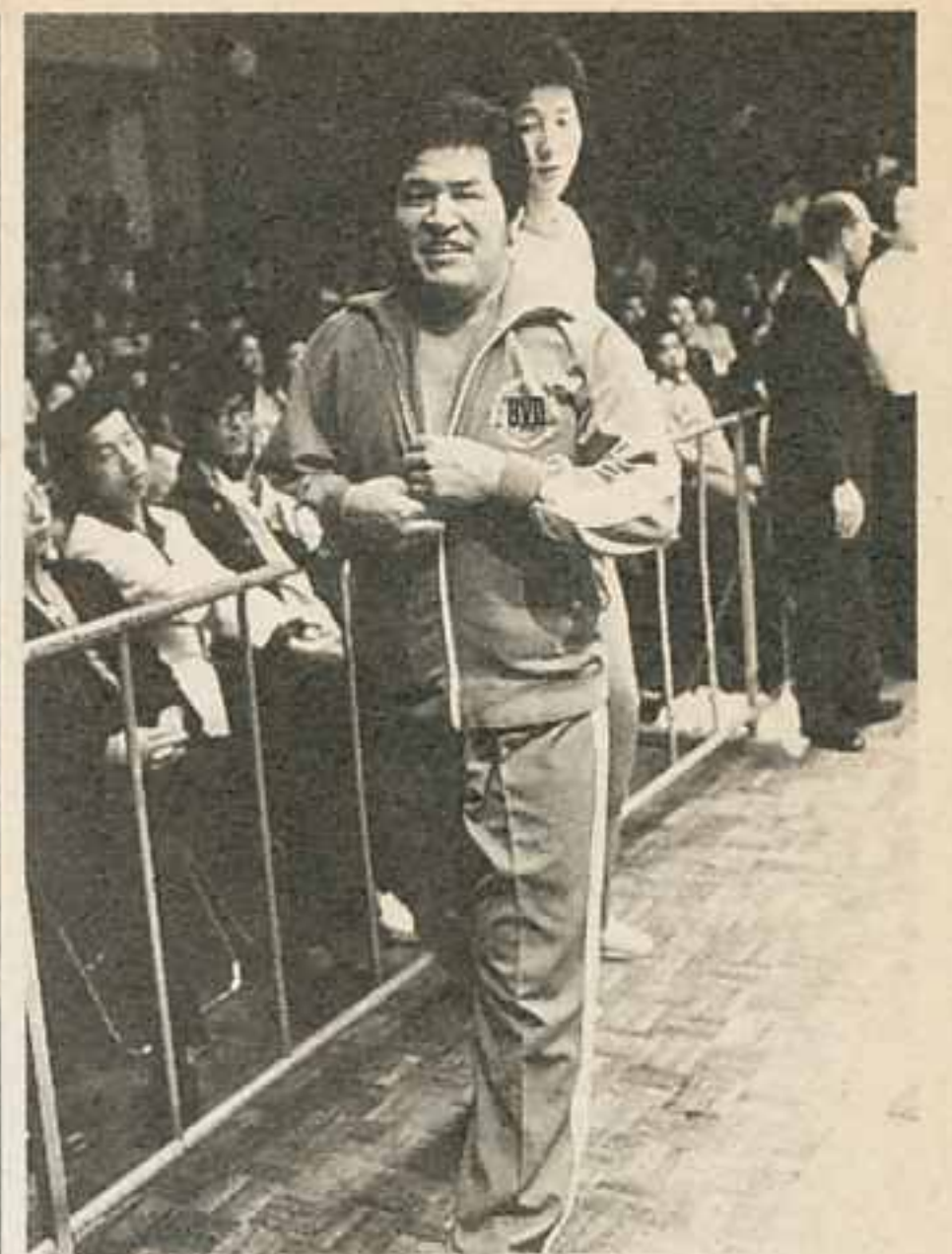
——ガハハハハ！　前田さんは試合会場でも何度もキレてますけど、北沢さんはそういうときどうするんですか？

北沢　見れば止めますよ。そうですね、マスコミの人に突っ掛かったりしてましたからねえ。まあ、だんだんわかってくるんじ

[北沢さん秘蔵写真館ＰＡＲＴ６]
若手の登竜門的な意味合いを持っていたカール・ゴッチ杯。その第３回目に北沢さん（当時のリングネームは魁勝司）が優勝。昭和51年12月７日に岡山武道館で行われた決勝戦の相手は先日、参院選出馬を決意したばかりの木村健吾（この当時は聖裔）。レフェリーのアントンの髪形にも注目だ！

[北沢さん秘蔵写真館ＰＡＲＴ８]
これは昭和43年当時、ハワイに住んでいたゴッチの家の前で撮った写真なのだが、ゴッチさん、いつみてもいかついな。トレーニングは相当ハードだったらしく、北沢さんは夜も遊びにいけなかった。

[北沢さん秘蔵写真館ＰＡＲＴ７]
昭和50年２月に行われた新日の若手強化グアム合宿の模様。錚々たるメンツである。左下の北沢さんの上にいるジョージ高野の体もすごけりゃ、いちばん右の上に乗ってる佐山のかわいらしさも筆舌に尽くしがたい。

一番印象に残ってるのは猪木さんの離婚と糖尿病！

［北沢さん秘蔵写真館ＰＡＲＴ９］（右）昭和56年4月3日、後楽園ホールで引退した北沢さんの後ろには若き日の日明兄さんが！（左）時は流れて平成10年3月28日ＮＫホールでレフェリーを引退。そして、北沢さんのそばにはまた日明兄さんがいた。

ゃないですか（微笑）。

――もうすぐ引退するのに、まだですか（笑）。リングスとパンクラスが昨年、もめましたけど、温和な北沢さんとしてはいかがでしたか。

北沢　向こうも頑張ってるんだし、仲良くやってもらいたいですよ。でも、やっぱり、リングスがどうしてここまで伸びたかというと、コマンド・サンボやキックのコーチを連れてきたりしてお金かけてますから。そこでガマンする選手は強くなるんですよ。

――前田さんの下じゃ相当なガマンを強いられるんでしょうけどね（笑）。

北沢　そういう部分もありますけど、前田選手はＮＫホールで試合があるのに有明コロシアムに行っちゃったりして、そういうところが彼の魅力ですよ（微笑）。新日の新弟子の頃は、朝起きたら庭に水をまかなきゃいけないんですけど、雨の日も水まいて（笑）。ホント、正直です。

――良くも悪くも単純というか（笑）。北沢さんとしては、今の仕事とレフェリーの両立は難しかったですか。

北沢　そうですね。リングスに迷惑をかけちゃいますからね。いろいろ協力してあげなきゃいけないと思いながら、逆にいろいろ面倒見てもらいましたね。最初、前田にレフェリーやってくれって言われたときは、ノーギャラでやるつもりだったんですけど、すごいギャラ出してくれて。

――すごいギャラですか（笑）。

北沢　それだと、かえって迷惑になっちゃいますよね。

――新しいレフェリーも入って、北沢さんとしてはこれで心置きなくまた引退できるって感じですか。

北沢　後任の和田（良覚）さんも人柄がよくて安心ですね。でも、リングスのレフェリーはいちばん難しいですよ。最初は失敗ばかりしてましたから。

――レフェリーも練習は必要ですか？

北沢　動けないとダメですからね。試合が近くなると、走り込んだりしましたよ。失敗は許されないですからね。普通のプロレスなら少しぐらい大丈夫ですけど。

――日プロ時代から見てるとプロレスはだいぶ変わったと思うんですけど。

北沢　すべて変わってますね。でも、日プロ時代の前座試合は、今のリングスにちょっと近いですね。

――前田さんがやろうとしてることは、昔のプライドを持てる形に戻すことだと思うんです。ＵＷＦもそういう運動でしたからね。

北沢　だから、猪木さんもリングスやパンクラスには魅力を感じてると思いますよ。猪木さんの弟子だからああいうスタイルがやっていけるんです。

――そういう場が出来たことで、猪木イズムを持った選手が新日に少なくなってますよね。最近、猪木さんも「前田を後継者に考えていた」って言ってますからね。そういう意味で猪木、前田を間近で見てきたっていうのは凄いですね。

北沢　……そうですね（微笑）。幸せだと思いますよ。猪木さんのいちばん元気なときを見てるんで、引退されてホッとしました。あんまり老いぼれた姿は見たくないですからね。

――好きだからこそですね。前田さんも同じような発言をしてましたよ。

北沢　そうですか。前田選手の引退は少し早いんじゃないかと思うけど、こればっかりは自分が決めることだから何も言えないですよね。寂しいなと思うけど、しょうがない。

――同時期に北沢さんも引退するわけですけど、プロレス界で1番印象に残ってる出来事はなんですか？

北沢　自分が現役の選手を辞めた後のことなんですけど、猪木さんと（倍賞）美津子さんの離婚は信じられなかったですね。それと猪木さんが糖尿病になったのは、ショックでしたね（しみじみ）。

――離婚と糖尿がショックでしたか（笑）。

北沢　猪木さんと美津子さんは凄く仲のいい夫婦でしたからね。別れたって聞いたときは1週間ぐらいおかしかったですね。

――北沢さんが？　なぜ、そんなにショック受けちゃったんですか（笑）。北沢さんはいろんなことを我がことのように受け止めちゃうんですね（笑）。

北沢　それだけ凄い人だったんですよ、ホントに。

――こうやって話を聞いてくると北沢さんはプロレス界にホント数少ない常識人の1人ですよ。

北沢　そんなことないですよ（微笑）。

【98年5月16日、世田谷・北沢さん御用達のお好み焼き屋「ぼんち」にて収録】

北沢幹之（きたざわ・もとゆき）■昭和17年2月15日、大分県出身。日本プロレスのマットで昭和37年1月22日、台東体育館・vs駒秀雄戦でデビュー。先日、リングスのレフェリーを引退し、現在は内装業を営む。

池袋コミュニティ・カレッジ

青空プロレス道場

第1回、第2回 道場リポート

池袋コミュニティ・カレッジの山口さん（うら若き乙女）がRADICAL6号の表紙（蝶野正洋）を見て、「この本はオシャレだわ！」という、ちょっとした勘違いから決定したこの企画！　これまで読者を突き放し、プロレス業界とも関わりを持たなかった本誌が、これを機に生まれ変わります。利害を超越して、プロレスマスコミが出来ないこと、やらないことを読者と共に、夢としてそれに挑戦する!!　それが私たちのロマンである。それじゃ行きますかーーッ!!　（チョロ）

第1回 4月22日 晴れ 「猪木とは何か？」 特別ゲスト 石川雄規

誰の挑戦でも受けます。一般の人でも構わない!!（石川雄規&『紙プロ』編集部）

常日頃から、「編集とは豊富な資料を集めてそれをいかに切り捨てるかが勝負だ」などとほざいている山口日昇だが、この日のために用意した資料は、な、なんとその日発売されたてのRADICAL9号ただ一冊。切り捨てるどころの騒ぎではない。果たして受講料4000円も払ってくれた道場生を満足させるテクニックを持ってるのか？　周りの不安をヨソに、山口は「踏み出せば、その一足が道となる、迷わず行けよ、行けば、わかるさ!!」とかブツブツ言っていた。

本番でウォーミングアップする男（山口日昇）

いざ始まってみると山口は、RADICAL9号の石川社長インタビューをペラペラめくりながら、それとまったく同じ質問を次々とぶつけていくという、手探りな試合を展開していった。それも自分のインタビューならまだしもノブのやったものである、アレは。石川社長は、イヤな顔ひとつせずしっかりと答えてくれたから助かったが。さすが社長。それに引き替え、本番でウォーミングアップをする男・山口日昇。一見かみ合っていないように見えるが、実はイカレた男同士、息はピッタリ。

猪木のことを語り始めたらマイクを離さない石川社長と、本誌編集長"大和魂"山口日昇、そしてなにがなんだか……中村カタブツ君（35歳＝左）

テーマが「猪木とは何か？」だからだろう。2人のイカレ男を熱くさせる"猪木"とは一体なんなのか？　とても2時間では語りきれない。

途中から島田レフェリーを輪に加え脱線トークを繰り広げるに至った。こういう場では沈黙恐怖症・島田レフェリーは非常に重宝な存在である。山口は苦し紛れに最後は質問コーナーを設けた。何人かが一斉に手を挙げた。石川社長に次々と鋭い質問をする道場生。「お前、オレを刺してみろ！　ナーシャ！」見事に締めてくれた石川社長に乾杯！

社長の猪木に対する熱き思いを、これ以上ない真剣な表情で聞き入る道場生たち。緊張感さえ感じられる。

見てみ、この講座風景！　見てみ、この埋まり具合！　超満員札止め!?

第1回 青空プロレス道場の感想

●面白かったけど「猪木」というテーマに惹かれてきたのに脱線が多かったのが残念。【風間輝樹・32歳・ギャンブラー】

☆テーマが「猪木」だからこそ脱線が多かったんでしょう、きっとね。次は頑張るぞ！

●こういった場で手に汗握ったのは、多分初めてです。質問することを事前に考えてきたのですが、雰囲気に飲まれてしまいました。私もまだまだ青いです。【荒井康弘・25歳】

☆ボクはアガリ症なのでいつも手に汗握っています。どんどん質問して下さい。

●島田レフェリーの隣の美人が気になった。ところで中村カタブツ君（35歳）は何のためにいたの？【滝下哲也・24歳・会社員】

☆島田さんの隣の美人はズバリ言って奥さんです。カタブツ君（35歳）はズバリ言って暇なんです。

●何か石川さんのインタビューになってしまった感じです。『ラジカル9号』の記事とかぶっていたので、もっと仕込みをして新しいネタが聞きたかったです。【石橋昌人・28歳】

☆全くその通り！ 編集長も反省したのか、2回目は朝7時まで仕込みをしていました。

●お話がとびまくっていましたが、結構面白かったです。山口さん、もう少しゆっくり話して下さい。【宮川美香・27歳・画廊勤務】

☆しょうがない。何をやらせても早いんです。

第2回 5月13日 小雨 「プロレスマスコミの現在と未来」 特別ゲスト ターザン山本

せっかく来てくれたんだからオフレコ話をしてあげないと駄目なんですよオオオ！

講座というよりは、むしろトークショーとなってしまった感のある第1回『青空プロレス道場』。多少は反省しているのか、今回、山口は講座当日朝の7時までせっせと資料作りに励んでいた。ここで問題がもう一つ。ターザンは来るのか？

ターザンの生炎上(ドンドンドン)で大興奮の道場生！

今回は気合いが入っています。吉田豪の秘蔵プロレス本からの資料も大盤振る舞いし道場生も喜んでもらえただろう。所用で始まる寸前に会場に飛び込んだボクはスライド係を任命された。使い方も聞いてないのに「違う！ そうじゃネェよ！」なんて言われても、わかるカッ！ ついでに写真も撮ってたんだけど、やっぱり至近距離でターザンを見ると、ただ者じゃないってことがよくわかるね。ターザンはプロレスマスコミについて危ない話も含め片っ端から定義しまくっていった（もちろん山口日昇、吉田豪も）。

ひとしきり炎上すると、時計の針はとっくに予定の時間を過ぎていた。ターザンの周りを二重にも三重にも取り囲み、みんな目をキラキラさせながら質問をしている。物好きな人たちだ。ここでは話もできないので急遽近くの居酒屋に移動することにした。そしてRADICAL炎上飲み会（仮）へ。

キャラクターに忠実に、常にハイテンション、30秒に1回は大炎上したターザン山本。とても50過ぎとは思えないゾ。

突然ムクッと立ち上がり独り語りを始めたターザン。

口コミか、『紙プロ』効果か、はたまた教室を間違えたのか道場生も着実に増えている。

これが山口日昇（実は病弱編集長）が当日朝7時まで掛けてこしらえたプロレスマスコミ年表だ。

第2回 青空プロレス道場の感想

●4・4のIWGP戦で藤波が放った延髄斬りを見て凄く嬉しかったのだが、『週プロ』を読むと「ジャンピングしてのハイキック（延髄斬り、ではない）」とご丁寧に書いていて凄く悲しくなった。リアリズムを追求して本当のことを書くのはいいが、「猪木へのメッセージ、藤波の延髄斬り！」と書いて「感動させて」欲しかった。【恒遠聖文・25歳】

●プロレスの広さ、大きさに、やっと気付いたみたいです。目からウロコはもちろんのこと、目玉すら落としそうになりました。【武田いづみ・17歳・高校生】

●今日の講座はターザンと山口編集長、吉田豪さんの3人がいいグルーヴを醸し出していた（あれッ、グルーヴの使い方あってる？）。【中村カタブツ君（35歳）】

2回目参加道場生へのレアなお土産「ターザンと一緒にポラロイドでドン！」厄除けにはなるんじゃないかな。

そして、ターザン山本と行くRADICAL炎上飲み会（仮）

堀田祐美子の参院選出馬表明の様な突然の発表にも関わらず20名以上もの方に参加して頂きました。皆さんアリガトーッ！講座に引き続き落武者ターザン山本&バトラーツ島田裕二レフェリーをゲストに迎え、「RADICAL炎上飲み会（仮）」は始まりました。開始早々いきなり質問攻めに遭うターザン。とても誌面では載せられないオフレコ話のオンパレードでしたね～。勉強になりましたね～。そんな中、マスクド・タイガー&サスケ・ザ・グレートの正体を聞かれ、困りつつも「ん～、ちょっとどころか、これっぽっちもわからない。よろしく哀愁！」と言い張る島田レフェリー、可愛かったですね～（ポッ）。平日だというのに宴は朝の5時まで続きました。その後みんなで電話番号交換したりして、いいことしたって感じ。約半数の人が残っていましたが、翌日は大丈夫だったんでしょうか……。RADICAL炎上飲み会（当然ワリカン）は今後もガンガン開催するぜェェェ!!（アンドレ・ザ・ジャイ子）

大好評につき、秋から再び『青空プロレス道場』開設決定

ラスト2・ゲストは、トルコ!? サスケ!? キッド!?

講座名 青空プロレス道場！

講師 『紙プロ』編集長 山口日昇＋『紙プロ』編集スタッフ 吉田豪、坂井ノブ他＋特別講師 or 特別ゲスト（プロレスラー）

講座内容	日時（毎回 第2 or 第4水曜日 18:30～20:15）
3 UWFとは何か？ 今年4月で第2次UWFが旗揚げして丸十年。その記念に、Uの理念と功績を通してプロレスを考えます。もちろん「マエダアキラとは何か？」という大命題もあります。Uに縁の深いあの人も登場します！	6月 終了
4 「格闘技」と「プロレス」の愛憎関係！ アルティメット、バーリ・トゥード、K－1。新日本、全日本、FMWにみちのく。そしてUWF。そこにはどんな関係があるのか。その謎を解けばプロレスがますます面白くなる。『紙プロ』といえばあの人です！	7月1日
5 プロレス者（もの）って何だ？ 「プロレスは哲学である」などと言うインテリゲンチャもいれば、ただ大騒ぎするだけの人もいる。そもそも人はなぜプロレスに入れ込むのか。プロレスの生命力と神秘に迫るツッコミ講座。特別ゲスト有り！	7月8日

●受講料【1回】一般・CC会員共通4000円（消費税別）※それだけでもお得な、レアなお土産付き！ それから、「炎上飲み会またやって」なんて声があれば、すぐにでも予約を取りに行ってきます！

●申込み方法 池袋コミュニティ・カレッジ8F総合受付にて受け付けます。申込書に必要事項をご記入の上、受講料を添えてお申し込みください。定員になり次第締め切らせていただきます。受付時間 10:00～18:20（日曜は18:00まで。祝日は休館）

★問い合わせ 池袋コミュニティ・カレッジ TEL.03-3988-9281★

RADICAL バックナンバーは いかがですかーッ!

バックナンバー くださいいな

お買いあげ アリガトーッ!!

創刊号

◎特集「プロレスラーとは何か!」
5大ロングインタビュー
高田延彦／船木誠勝／初代タイガーマスク／橋本真也／タイガー・J・シン
◎巻末超ロング・インタビュー前田日明
◎本誌だから実現できた危険騒然対談
ターザン山本vs鈴木健
◎売れ行き無視のバトラーツ特集
石川雄規／小野武志／田中稔ほか
バトバト勢総登場

第2号

◎特集「プライドとは何か!」
過激で素敵な脳髄直撃師弟対談
アントニオ猪木vs初代タイガーマスク
高田延彦スペシャル・ショット
田村潔司／高山善廣／TAKAみちのくロングインタビュー
◎パンクラスとは何だ!?
近藤有己／國奥麒樹真他の若手選手徹底解剖!
パンクラスを解剖する炎上対談
◎特別寄稿
井上義啓「熊殺しの墓標」
新連載・石川雄規の「闘いの美術館」

第3号

◎とうとうRADICALに神様降臨!
カール・ゴッチ完全独占インタビューinUSA
◎特集「針の穴にラクダを通せ!」
船木誠勝19ページぶち抜きインタビュー
山本宜久／安生洋二／池田大輔／臼田勝美
ロングインタビュー
◎過激で素敵な師弟対談パート2
アントニオ猪木vs初代タイガーマスク
◎賛否両論!　業界騒然のタブー特集
八百長論議と闘え!!「プロレスの敵は世間だ!」

第4号

◎特集「落とし前」と「世界征服」97
前田日明衝撃ロングインタビュー
高阪剛／近藤有己／山本健一／アレクサンダー大塚
ロングインタビュー
◎神様降臨!　騒然インタビュー・パート2
カール・ゴッチ
◎昭和世代の凄み!　酒、女、ケンカ超過激対談
ドン荒川vs藤原喜明
◎世界格闘技連盟プラス1最強カルテット座談会
村松友視／アントニオ猪木／小川直也／佐山聡

第5号

◎特集『RADICALは高田延彦を応援するぜ!』
高田延彦ロングインタビュー
Puffyほか有名人33人が高田vsヒクソンを大予想
◎戦慄の新連載　前田日明の破壊的人生相談
◎リングスvsパンクラス局地戦勃発!
長井満也／柳澤龍志セメントインタビュー敢行
◎酒・女・ケンカ超過激対談パート2　ドン荒川vs藤原喜明
◎怒涛の6大ロングインタビュー
ビクター・クルーガー／長与千種／ライオネス飛鳥
ディック東郷／愚乱・浪花／ザ・グレート・サスケ
◎世界格闘技連盟を語る超ロングインタビュー　タイガーキング

第6号

◎特集「"プロ"と"レス"融合か分裂か!」
蝶野正洋に大胆ロングインタビュー
TAKAみちのく／テリー・ファンク／桜庭和志／近藤有己
◎前田日明の人生相談&プチッ!　インタビュー
◎総力特集　高田×ヒクソン戦、終わる
RADICAL観戦記　ガッツ石松／浅草キッド
花くまゆうさく／仮面シューター・スーパーライダー
試合直後、Puffyに独占インタビューを敢行!
◎打倒!　八百長論議!　ザ・グレート・サスケが素人相手にお説教!
◎全女分裂!　激烈インタビュー4連発
井上京子／井上貴子／角掛留造／松永高司

第7号

◎特集「反骨の剣」
田村潔司に鮮烈ロングインタビュー
◎そしてUWFの同窓生が集う!
冨宅飛駈／垣原賢人ロングインタビュー
◎みちプロ経営危機の真実とは?　ザ・グレート・サスケが独占告白!
◎もはや敵なし!　前田日明のメガバトル人生相談
◎祝!　復帰記念「プロレス界にモハメドあり!」
モハメド・ヨネインタビュー
◎ひっそりと大胆に反響を呼ぶ新企画　ラジカルバウトレビュー
◎ラジカル初登場2連発!　冬木弘道／MEN'Sテイオー

第8号

◎特集『格闘技世界大戦前夜!!』
アントニオ猪木「元気」と「気づき」のロングインタビュー
桜庭和志／高田延彦／柳澤龍志／ヒカルド・モラエス?
エンセン井上／村浜武洋ロングインタビュー
◎波動砲!　前田日明の人生相談『人生は語らず』
◎黒いパンツの心意気PART2
木村健悟、「昭和の新日魂」大いに語る!
◎男プロファンに根強く残る「女子プロ嫌い」の正体を暴け!
ファンのアンケート回答に玉田凛映&府川唯未が大激怒!!
◎アレクとのものもはホントに結婚したんです!
結婚披露宴インサイドレポート&独占手記×2

第9号

◎「アントニオ猪木・闘魂連鎖!　無礼講大特集!!」
[4・4猪木引退試合観戦記]
前田日明／ザ・グレート・サスケ／高田文夫／春一番
久々に大炎上!　ターザン山本／燃える情念!　石川雄規
◎衝撃宣言!　さらばプロレスマスコミ　業界病を吹き飛ばせ!!
◎高阪剛　TK表紙奪取記念!!　超ロングインタビュー
◎前田日明　ラス前ロングインタビュー&炸裂人生相談
◎スクープ座談会　吉村道明&ユセフトルコ&遠藤幸吉&駿河海
◎各方面で大反響!! [格闘家からみたプロレス!] 朝日昇
◎『紙のプロレス』スーパースター列伝　谷津嘉章
◎佐野友飛／ラスカチョ（下田美馬&三田英津子）インタビュー

【THE・購入方法】

●現金書留と郵便振替の2種類があります。
（バックナンバーは通販でしか買えません。書店じゃ買えないよ!）
●現金書留の場合は希望号数を明記したメモを同封の上、
〒151ー0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3ー11ー3ー702
（株）ダブルクロス『RADICAL通販』係まで
●郵便振替の場合は用紙裏面の通信欄に希望号数を明記し、
00130ー3ー769154（株）ダブルクロスまで。
代金は創刊号=610円　2号=660円　3号〜9号=680円
送料1冊=310円　2冊=340円　3冊〜4冊=450円
5冊=520円　6冊以上=700円

他人の苦労を噛みしめて味わう新連載

女子プロ人生劇場

第1回

磯崎ともか

構成／坂井ノブ
interview by Nobu Sakai
撮影／戸成嘉則
photographs by Yoshinori Tonari
試合撮影／平工幸雄
photographs by Yukio Hiraku

主力選手たちの大量離脱により、全女が完全に息を吹き返した。10代後半から20代前半の若くて活きのいい、ちょっとおバカな新人たちが続々とデビューしている。女子プロ全体を見渡しても、同じような状況が各団体で生まれている。あの団体対抗戦時代から、もう何年も固定されていたトップ選手の序列が崩壊し、若手中心の世界に変わりつつあるのだ。「ババアのプロレスなんか見たくもない」と全女の松永会長が力強く言い放っていたが、こと女子プロに関して「若さ」というのはそれほどに大きな武器なのである。そんな時代の中心にいる若手を本誌独自の視点で紹介します。

目のことを深刻に書かれるのは嫌です 明るく書かれるぶんにはいいですけど

98年5月5日、全女・後楽園大会で謎の新人・磯崎ともかがデビューした。そのデビュー戦は、各プロレス誌で取り上げられ、一様に「目の障害を克服してリングに立った」と書いてあった。パッと試合を見ただけの観客には何のことだかわからないだろう。マスクを被っているのでそれが観客の目に届くことはないが、磯崎の左目には視力がない。じつは、義眼が入っているのだ。

「目のことを深刻に書かれるのがイヤなんです。明るく書かれるぶんにはいいんですけど。これを売りにはしません。だけど、個性だと思って、「ラッキー！」って感じで（笑）」

なぜ視力を失ったのか明るく振り返ってもらった。

「3歳の頃ですか、お父さんがダッコしたときに『目が黄色く光った』って言い出したんですよ。お父さんは心配症なんでね（笑）。何件か病院を回って、結局、近畿大学付属病院に連れていったら「これは網膜腫瘍だ」ということで、腫瘍を摘出しました。自分の中で『目が悪いからアカンねんな』と思ったことはないんですよ。しゃべっててもひとごとみたいで（笑）」

子供には相手が傷つくからやめようという発想はないから残酷である。目のことでいじめられたことはなかったのだろうか？

「笑われたり、傷ついたりしたこともありますけど、だからってメソメソ泣くのはイヤなんですよ。実際、自分はしょうもないことばっかり言ってたんで、面白いタイプの人間に見られてて、いじめられたことはないですね。リーダーシップを取って遊んでましたから」

「人間は平等だが、人生は平等ではない」と誰かが言っていたが、人それぞれ生き方がある。磯崎は卑屈になることなく、元気に強く生きてきたようだ。小学生の頃から始めた空手（寸止め）で、大学時代には世界選手権にも出場した経歴を持っている。元気すぎて、中学時代は男のヤンキーグループのボスともケンカしたらしい。女とケンカしたのは一度だけとか。

「自分と友達で吉本の漫才を見に行ったんですけど、そこで全身シャネルで固めたヤンキー女と席の取り合いになって（笑）。で、終わった後に、そいつら後ろをつけてきて自分を羽交い締めにして殴ってきよったんですよ。そんときだけはマジで殴りました（笑）。そしたら向こうが、「アンタ、彼女がおるからってそんなに殴らんでも……」って（笑）。男だと思われてたみたいですわ（笑）」

……とにかく元気だったようだ。そのうち、女子プロに興味を持つ。

「女子プロで憧れたのは堀田さん。一目見ただけで、憧れちゃいましたよ。私もあんなふうにキックしたかったんですね」

親にも相当反対されたらしいが、学校（国際武道大学）は卒業するということで、話をまとめた。そこで、磯崎は12年間続けた空手を辞め、授業の合間を縫って名門・アニマル浜口ジムに通い始めた。

「じつはその前に、某団体のオーディションを受けたんですよ。腕立てとかスクワットは数をこなせたんですけど、後日、電話が掛かってきて「目が危ない」と説明されて。●●選手にも話をしていただいて、「あなたのためを思って、私たちはあなたを取れません」って直接言われました。その時、「死んでもいいから自分をプロレスラーにしてください」って言ったんですけど」

プロレス入りを志した磯崎にとって、これが最初の挫折となる。プロレスは死と隣り合わせの危険なもの。昨年も、JWPでプラム麻里子選手の事故があったばかりだ。「死んでもいいですから」と言われても、団体としては迷惑だろう。

チョークでカバーを返したりしていたが、側転エルボーもビシッと決めた。他にも、目潰し攻撃を敢行していた。動きは非常にしなやかだ

Tomoka Isozaki

ZAPが入って来たときは「全女にお金を貸した男の人だ!」と思いました

「その次に某団体のオーディションを受けたら、合格したんですよ。あっさり受かって「アレッ?」っと思ってたら、「上の選手から『磯崎と試合したら、ケガさせそうで怖い』って意見がでてきたら辞めてもらいますよ」という条件がついたんです。その言葉が頭から離れなくて、浜口ジムで練習してるときも不安でした。「こんだけしんどいことしてて、報われへんかったら嫌やな」って思ってきてしまって」

心にポッカリと穴の開いた状態の磯崎にちょっと運が向いてきた。

「その頃病院に行ったら、ちょうど新日本プロレスの蝶野選手がいらしたんですよ。自分は「うわぁ〜、蝶野やぁ」って感じだったんですけど(笑)。そこで、話しかけたんですよ。「こんな自分でもプロレスラーになれますか?」って。最初は「無理だ、危ない。キミがどんなにやる気でも相手が手加減をしてしまうとプロレスではなくなるんだ! だから、俺だったらやらない」って言われてしまって……」

プロの言葉である。

「自分はそのとき泣いてたんですよ。緊張と嬉しさとで感極まっちゃって(笑)。蝶野さんはいつもしてるサングラスを取って、ハの字眉毛状態で話を聞いてくれて(笑)。「どうしてもやりたいんですけど!」って言い張ったら、最後は「ダメだったら仕方ないけど、やったら跡は残るから。やれるとこまでやってみろ」って言われました。そこから、また火がつきましたね」

蝶野の高いプロ意識と、無邪気な磯崎の姿を思い浮かべるだけで、泣ける。いい話である。これがキッカケとなったか、磯崎に一気に運が回ってくる。

「ZAP軍団の先輩にはお世話になってます。こんな新人にも気を掛けていただいて」と恐縮する磯崎だが、セコンドとしての働きぶりもめざましいものがある

Tomoka Isozaki

「その後たまたま近所に全女が来たんですよ。そこで話を通してもらってオーディションを受けることになりました」

オーディションの際に全女から言われたことはあるのだろうか?

「自分の顔を見るなり、「目はどうしたの?」って。「義眼で視力ないんです」って言ったら、会長とか社長とかは「ダメだ、ダメだ! 使えないよ、そんなんじゃ」って感じだったんですけど、一応オーディションはやったんですよ。そしたら、浜口ジムでやってきた腕立てとかスクワットが役に立ちましたね。空手の型もやって、そしたら「じゃあ、合格、合格!」だって(笑)。「何日から練習来て!」って言われました」

松永会長に磯崎のことを聞いてみた。目のハンデもあって、他の団体が敬遠する中、松永会長はなぜ磯崎を採用したのだろうか。

「目とかそういうものは関係ないや。彼女は空手を何年かやってきてるから。プロレスっていうのは、例えばの話、体のハンディがあっても、やろうと思えばできるよ」

そ、そういうもんなのか?

「過去に心臓弁膜症の子が来て、試合中に倒れちゃったことがあったのね。病院で初めて病気がわかって、「試合を続けたら死ぬよ」って言われた。それでもとうとうやり通したら、心臓弁膜症が治っちゃった。それで医者がびっくりしちゃってね。これはプロレスやったのが良かったんだろう」

これが常識や世間の論理にとらわれない、ゴーイング・マイウェイな全女の凄みである。プロレスを単純にスポーツ競技という一面だけで捉えたら、とんでもない話なのかもしれない。だが、プロレスは違う。人間風車ビル・ロビンソンも13歳のときから片目の視力を失っているが大成した。本人次第でカバー出来るものなのだ。こうして、磯崎は全女の一員となった。

ZAPに入ったキッカケは何か?

「1月10日の大会に初めてZAPが入ってきたとき、全女にお金を貸した人が取りに来たと思ったんですよ。「サリン撒かれるかもしれん」って(笑)。新人の選手がワァ〜って掛かっていっても、投げ飛ばしてましたからね。「ウソやん? 強いの?」って思って(笑)。そこからはZAP一直線ですね」

憧れのプロレスラーとなって、磯崎自身は変わったのだろうか?

「前は「プロレスラーになったら死んでもいい」なんて言ってましたけど、いまは死にたくない。死んでる暇はないんですよ! こんな無名なのに。「やっぱりな」って言われるのも嫌だし。まだまだやりたいこともあるんで、頑張りますよ」

磯崎ともかとは、かくも強い人間なのである。

磯崎ともか■昭和49年5月21日、兵庫県出身。161cm、60kg。全女初の大卒レスラー。アニマル浜口ジム出身。平成9年入門。同10年5月5日、デビュー。

さましいものがある

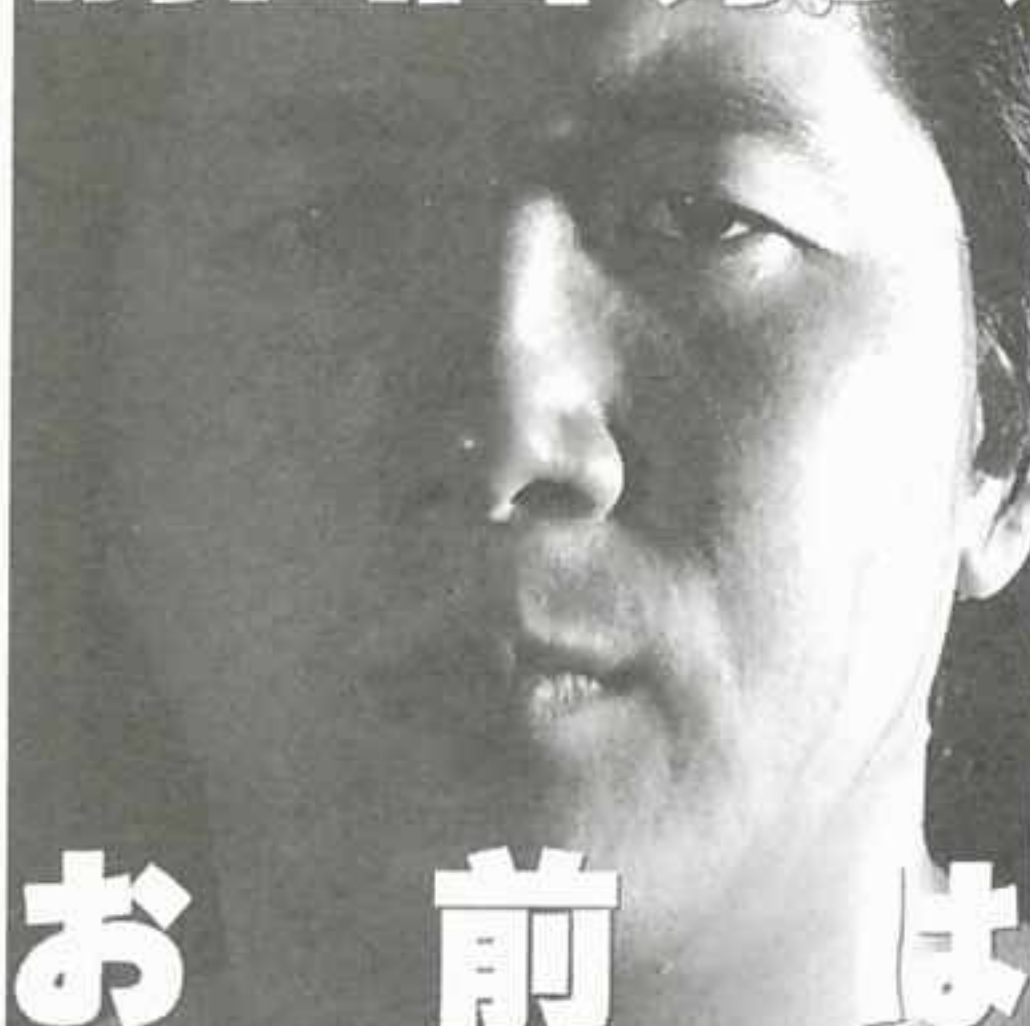
気は遊び回ってくる

間風車ビル・ロビンソンも13歳のときから

書評は平和ではない
書評は戦いである
武器のかわりが毒舌であるだけで
それは地上における最も激しい厳しい
自らを捨ててかからねばならない
戦いである――（ネール元インド首相の娘への手紙）

吉田文豪人生劇場

書評の星座 PART2

前号で内容をソフトにしておいたので、とりあえずもう安心？　一部読者からの「ガンガン行け！」という要望に応えるべく、ほとぼりが冷めた頃にひっそりと路線を戻す、決して懲りることのない寝た子を起こす書評コーナー。

前田日明よ、お前はカリスマか！（ローリングストーン／フットワーク出版社）

自分の会社をローリング・ストーンと名付けるだけあって、これまで「全女は府川のワカメ酒を客に飲ませなきゃダメだ」と赤裸々なことを言い出してみたり（＝SEX）、「初代タイガー対ウルトラセブンの試合は酷すぎて、俺は卵を投げた」などと妄言を吐いてみたり（＝DRUG）、海外マットに八百長があると聞けば勇気を出して天山に直接尋ねてみたり（＝R&R）と、その名に恥じない裏街道のならず者ぶりを発揮して転がり続けてきた大沼孝次君（35歳）の新作が、またもや登場。

どうにも「お前、何様のつもりだ？」と感じさせずにいられないタイトル（日明兄さんにこんなことを聞いたところで「俺はカリ高！」と答えるに決まってるが）だけでも、長州的に言えば「この業界にいちゃいけない人間」であり、日明兄さん的に言えば「害虫」と認定されがちな彼氏らしいダメ仕事だと思うことだろう。

まぁ、肝心の中身もタイトルとは全く関係のない、ファンなら誰もが知ってるような話を上っ面だけなぞっただけの代物なので、ズバリ言えばわざわざ読むまでもない。これまでの前田本を熟読しておけば充分というか、もはや『週刊プレイボーイ』の連載を1回読んだ方が、よっぽど初耳な話を知ることができるはず。

……と言いたいところだが、それでも大沼君はやっぱりケタ違いなのであった。

なにしろ大沼君によると、高校時代の前田は**「ブラウン管に映し出される猪木と新日プロに熱い思いを抱いて」「高校を卒業したら新日プロに入りたい」**と心に抱き、それも**「全日本プロレスではなく、絶対に猪木の率いる新日本プロレスだと思っていた」**そうである。

要するに、前田のプロレス入りに佐山や新間や田中正悟先生は全く関係なくて、もともと空手ではなく大の新日本プロレスファンだったと。そりゃまた衝撃の新事実発覚だ。

それで新日に入って長州革命が勃発すると、**「正規軍の中に藤原、前田、佐山、高田らも加えられ」**たために、**「前田の心の中で何かが弾けた。何で俺がこんな試合に出されなきゃいけないんだ。もう、まっぴらだ」**と激怒し、**「嫌気がさして飛び出した佐山聡に続くように、前田も新日プロを後に」**して旧UWFは結成されたそうだ。

ここでも新間は関係なくて、悪いのは維新軍との抗争だったという誰も知らない新事実が勝手に明らかにされているのである。

これほどまでにSEX、DRUG、R&RのDRUG部分だけが大爆発したような妄想原稿を前田本として堂々とリリースする、その根性はまさにロック。転がりまくりである。

「猪木、前田がヒクソンと対戦できず、そして倒せないとなると、UWF神話ばかりでなく、これはプロレス史の崩壊を意味する」と結ぶのも、なんで歴史が崩壊するのかよくわからないが、さすが大沼君としか言えやしない。

ついでにローリングストーンの一員として参加している竹内規和君の視野の狭さも、かなりのものだ。

ヒクソン対山本宜久戦で、フロントネックロックを仕掛けてきた山本をロープの外に放り投げて蹴りを入れたというヒクソンらしからぬ極悪な行為を**「戦士らしい積極的な戦いをしようとしなかった山本への怒り」**と言い切ったりと、完全に格闘技側のスタンスに立って前田本の原稿を書き殴るから、これもロックなのである。

たとえば**「前田がパンクラスに対して暴言を吐いたことがあった。その際、パンクラス勢は戦いを辞さない構えを見せる」**が、**「リングス側からの返答がなかった」**ため絶縁することになった、と。でも**「あくまでも自分の道を信じる船木」**は**「一時期の前田を思い起こさせる」**男だし、**「パンクラシストが大挙してアルティメットに参戦するプランも進行中」**で**「客観的に考えても、恐らく、そのプランは成功することが予想される」**。**「そう、前田が見た夢の続きは、船木が、そしてパンクラスが受け継いでいるのだ」**とのことなのである。

……もしかしたらキミたち、日明兄さんのこと好きじゃないね？　褒めるなら褒めろ。叩くなら叩け。あからさまに前田引退に便乗した商売で中途半端なことばかりしてるのが、ボクに言わせれば最も不快な行為なのである。でしょ？

……と書いてきたところで裏情報が入った。どうやらこの本、リングスに無許可で出したブート本らしい。「せめて送本ぐらいするように」と事務所サイドが電話を入れると、彼らは「取材を受けてもらったわけではないので、ご購入下さい」と力強く言い放ったそうだ。

そういう経緯を踏まえた上で、この本をご購入するのかどうか判断していただきたいものなのである。

裸のジャングル・衝撃の告白（府川唯未／芸文社）

「私は控室に入る事すら許されず着替えは暗くて寒い、今は使われていないような部屋や控室前の廊下でした。なぜって？それは先輩に嫌われていたから……。ただそれだけ」

そんな調子の**「衝撃の告白」**ばかりが並ぶ府川の初単行本。雑誌などに掲載された学生時代の写真がどうにもヤンキー臭いとは思っていたのだが、彼女やっぱり元ヤンであった。

兄貴が**「あんまり学校行かないで」「お母さんの事を殴ったり蹴り飛ばしたり」**していたせいか、いつの間にやら**「周りからは不良」**と呼ばれるようになっていたという府川。

中学生にして教師やPTAとのバトルを繰り返し、ヤンキーの先輩と交際していたという典型的ヤンキー道を突き進むが、**「初恋の相手は女の子」**だったという。

全女に入ったら入ったで、**「いつ辞めてくれるんですか？」「あなたは全女の名を汚す」**だのという差出人不明の手紙が届くわ、前述のように控室が使えず**「CDを出した時、歌の衣裳に着替えるのも、外の売店とリングトラックの間」**。おまけに**「後輩と話をしていれば『用事頼むな』『先輩ぶるな』と言葉の暴力なんて当たり前。いつも『気持ち悪い』って言われて」**いたそうである。まさに全女イズム。

ちなみにギャラの遅配が続いて**「事務所にお願いしにいくと『金食い虫だな』なんて言われ」**た（やっぱり会長にか？）とのことで、**「もぉ!!　あの赤のベンツどうにかしてって感じ」**とヤンキーらしく激怒してたりもする。

そんな状況に救いの手を差し伸べた、つまり着替える場所と、ついでにアルシオンというイジメのない理想的な新団体を用意してさしあげたのがアジャだったというわけなのである。

「技だって規制されて、ビデオを見て『これをやりたい』と思って研究しても、やらせてもらえない。得意技なんて、みんなやってみて一番きれいな人、説得力のある人がやるものだと思う」という府川の意見が通ったらしきアルシオン。「だったら、何の技も使えなくなるんじゃないか？」と

いう疑問もあるが、府川の得意技は「ビジュアル」なんだからノー問題。なにしろこの本も**「ビジュアルブックス」**と銘打たれていたりと、かつてはアイドル扱いされるごとに腹を立てていたビジュアルファイター・府川の最大の武器を、嫌がらせのようにフル活用しているわけなのである。

猪木イズム
（アントニオ猪木／サンクチュアリ出版）

数え切れないほどリリースされた猪木引退本の中でも、桁違いに酷いと断言できるだめな出来。……と、わざわざボクの知人が怒りの電子メールを寄こしたほどの一冊がこれである。

要するに猪木の知られざる暴走発言のみを小さな文字で紹介しまくった『悶プロ2』でのボクの記事とは対称的に、ファンなら誰もが知っている話だけをとにかくデカい文字で紹介しまくっているわけなのだが、それでも猪木引退試合の日にドーム周辺でビラを巻きまくったおかげで後楽園の書店で記録的なバカ売れぶりだったというのだから、世の中ホント間違っている（まあ、洒落にならないほどの混雑だったので中身を確認できたとは思えない以上、もはや事故みたいなものなんだが）。

実際、名目上は猪木名義ながらも本人が実際に書いているらしいのは前書き3ページ&最後の6ページだけでしかなかったりと、猪木本の中でも群を抜いてレベルが低く、少なくとも猪木イズム皆無なことだけは誰が見ても確実だろう。

過去の名言コーナーで同じ発言がダブって紹介されてたりと内容以前のミスも多いが、そもそも**「猪木イズム＝アイアンハート」**というチンケな図式の副題を付けている時点で、すでに何もわかっちゃいないのだ。**「世界でいちばん強く、いちばん優しいメッセージブック」**という帯の一言も明らかに猪木を勘違いしているとしか思えないし、**「レット・イット・ビー」「ビー・ヒア・ナウ」「バニシング・ポイント」**といった曲名を各章のタイトルに使うロック魂も不快。つまり、いいとこなしなのである。

いくら25歳の社長が作った出版社からのリリースだからといって、この程度の本を『SPA』だの何だのので絶賛しまくるのは問題だろう。……と思っていたのだが、この本に挟み込まれていた**「アイアンハートを受け継ぐのは、キミだ！」**とかいう不可解なビラの**「サンクチュアリ出版のトムソーヤ社長よりひとこと」**と名付けられた発狂コーナーを見た瞬間、ボクはすっかり反省した次第なのである。

つまり、こういうことだ。

「オッス！高橋歩（25）だぜ。俺は20代の仲間たちと『サンクチュアリ出版』という出版社を作り、熱い本を出版し続けている男だ。2年前に宝物だったバイクやギターを売り払い（略）今では『猪木イズム』みたいなイカした本を堂々と出版させてもらえるまでになった。アントニオ猪木に負けないくらい、強く優しいアイアンハートを手に入れるために、この3冊（名付けて「ホット・ユース・シリーズ」だそうである……）をぜひ読んでくれよな」

最高にゴキゲンじゃないか、トム！

で、そのウンザリするほど暑苦しそうな青春本シリーズでは**「夜の街でのギター弾き語り」「潜在能力開発合宿での涙シャウト」「神秘のドルフィンスウィム」「聖者サイババと語ったインド旅行」**といった自分の赤裸々すぎる体験について語りまくっていたりと、もはや完全にサイババと手相が同じと自負する将軍KYワカマツ級。明らかに宇宙のパワーか何かが頭にステイしているとしか思えないね、彼氏。

この手のデンジャラスな人種もブラックホールのような磁場でどんどん引き寄せてしまう猪木は、やっぱり尋常じゃない男なのである。

ゴング増刊号 30YEARSグラフィティー
（日本スポーツ新聞社）

見てみ、このジャケ！ キックボクシング系の増刊号がないのは惜しいとはいえ、現在ボクが必死にコレクトしている最中の『プロレス写真画報』や『ミル・マスカラスその華麗なる世界1&2』『燃える闘魂アントニオ猪木』『猪木—アリ夢のスーパーファイト展望号&詳報号』などをキッチリとカラーで紹介する、非常に有り難い一冊。親が死んでもマスカラスなボクや、元マスカラス・ファンクラブ会長の山口昇的には、これだけで合格なのだ。

ただ、当時の記事をガンガン再録してくれたらもっと面白くなったとは思うので、いつかは「カンフースターは俺様と違って全員ニセモノ！」だのと適当なことを吠えまくる初期のマスカラス記事&カラーグラビアをまとめた別冊でも出して欲しいものなのである。

超時代的プロレス闘論・われらプロレスジェネレーション
（岡村正史・川村卓／三一書房）

良くも悪くも初期『プロレスファン』のムードを色濃く感じさせる一冊。表紙こそnWoだが、現在40代半ばの著者がタッグを組んでプロレスを**「あさま山荘」「つげ義春」「南沙織」**なんかと一緒に語っちゃったりするアナクロな本をnWoファンは決して読むこともないだろう。

八百長問題に関する各媒体での記事を集めているのは評価に値することとは思うが、なかでも最もボクの心を撃ったのは**「山本編集長が解任されてからの『週プロ』に変化はあったのか？ 浜部編集になってからトップ記事に破天荒なところがなくなったものの、基本的にはそれほど変わってないように思う」**とかいう岡村正史君の問題発言であった。

変わってないらしいですよ、山本さん！

アントニオ猪木引退記念・ファイト縮刷版
（双葉社）

旧『ファイト縮刷版』マニア（もう続きは出ないのか？ 昔のファイトは表紙がタイガー・ジェット・シン&花の応援団&日活ロマンポルノ女優で志賀勝インタビュー収録だったりと、ポルノと野球とプログラム・ピクチャーと芸能が渾然一体となっていて実に最高であった）なボクのみならず、予想以上に安いのでとりあえず男なら「買わねば！」な一冊。

双葉社発行ゆえか、プロレス雑誌の取材はほとんど受けない小林まことがコラムを書いているのと、ミスター高橋が猪木のことを**「狂っていて手が付けられない」**と断言しているのもポイントである。やっぱり間近で見ていれば、そういう感想しか出てこないのだろう、きっと。

完全版・格闘技スカウティングレポート1998
（近藤隆夫／ぶんか社）

スポーツジャーナリストの近藤隆夫君が独断と偏見で総合&打撃系格闘家の強さを測定しまくる、装丁の割には値段が高め（ファイト縮刷版との差は300円）な一冊。読み物ではなく実用書なので書評するようなもんじゃないが、近頃の格闘家は覚えづらい名前の輩ばかりなので、便利っちゃあ便利。

個人的には**「あまり知られていないようだが、小路は実は元プロレスラーである。かつては誠軍団の一員として『誠軍団1号』という名でリングに上がっていた」**と初めて活字化したことを評価したい。

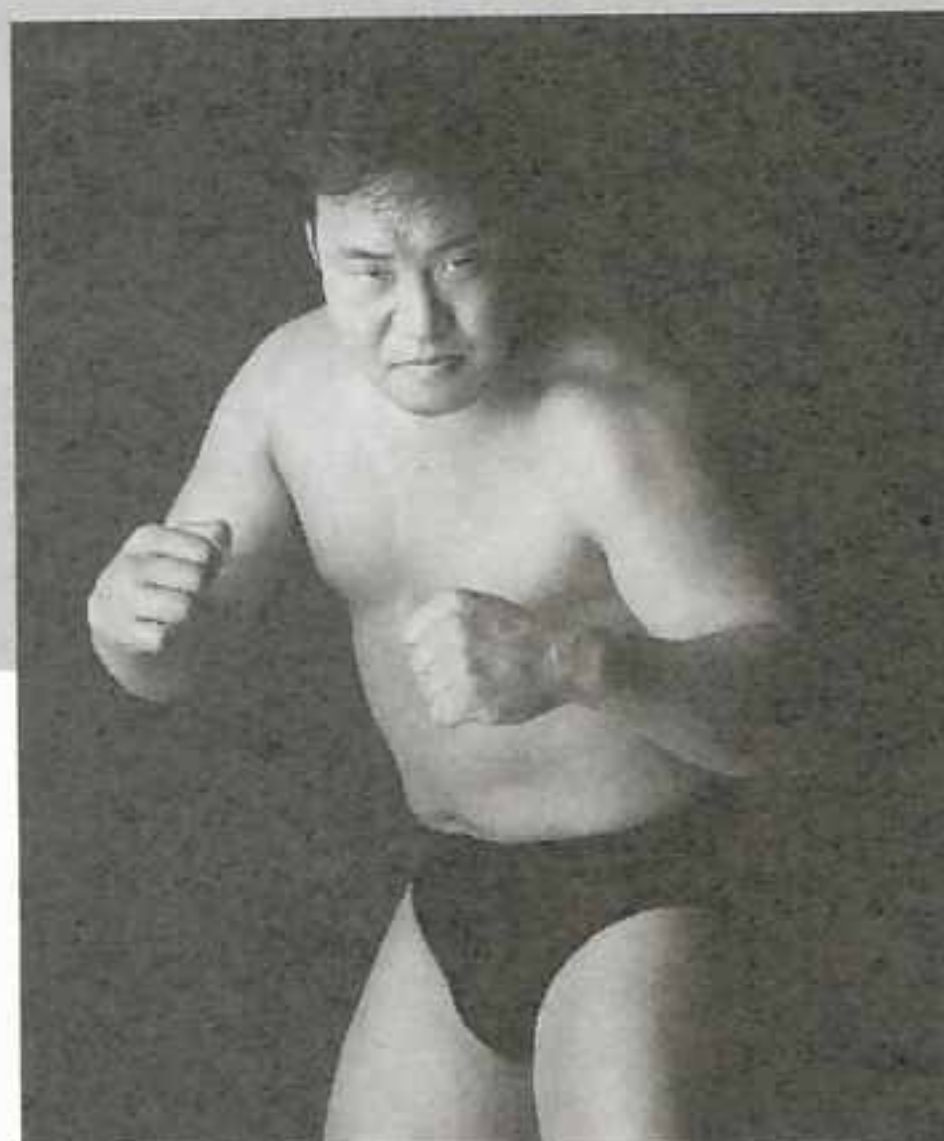
そう、高田がヒクソンに負けたあの日。プロレスや20世紀を勝手に終わらせたつもりになってる単純な輩も多かったものだが、実はインディーがグレイシーと引き分けた記念すべき日でもあったのである。誠軍団1号がヘンゾと引き分けたぐらいなのだから、誠心会館のボス・青柳館長はきっと「バカ強い」（高田調）はずなのだ。

やったれ館長!! ハクソン君を誘拐してでもいいから対戦をせまれ!!

必読連載第8回

石川雄規の『闘いの美術館』

あるいは『奇跡の街 オデッサ』

『それじゃ、行って来るから』

無言の母の背中にそう言って家を出た。新緑が目に眩しい穏やかな春の日だった。成田空港までは、高校時代の友人が車で送ってくれる。スーツケースをトランクに詰め込み車に乗り込む。『それじゃ、行こうか』少し緊張ぎみにそう言って、彼はアクセルを踏み込んだ。小田原の海岸沿いのバイパスを走る。視界に広がる海辺の風景に誘われて窓を開けると、潮風の懐かしい香りが車内に満ち、私は深く息を吸い込んで目をとじた。

世間体や常識に縛られた大人たちによる理不尽な圧力をぶち破るには、ひたすら強靭な肉体を造ることと、なにより"時"を待つしか手段はなかった。高校を卒業する時点で既に己の道を確信をもって決めていた私にとって大学進学するつもりなどまったくなかったし、ましてや親から聞かされ続けてきた、学歴がどうの教養がどうのといったくだらない話に異常なほどに反発していた私にとって、大学に進学するなどこのうえない屈辱であった。ある時、某団体と連絡が取れ面接をしていただいたのだが、私の体が小さかったことや、未成年で親の承諾を得ていない等諸事情により『大学でアマレスでもやって名前を上げて来なさい』と言われた。つまりはそれは体のいい門前払いだった。

それでも頑なにレスラーになることを諦めない私に両親はこう言った。

『大学さえ出たら、後は好きにしていいから。子供を大学にやらないとなると、親として納得がいかない』『俺本人が行く必要がないって言ってんだ。そんな所に行っている時間もったいないんだ。なにも人殺しになるとか、泥棒になるとか言ってるわけじゃないんだ。俺の人生なんだ、自由にさせてくれ』『いや、親の人生として子供には大学にいってもらわないと困る』『親の都合で何年も遠回りしてその後、俺の人生はどうしろってんだ!』『好きにすればいい』『………』

結論を延ばせばそのうち私の決心も変わるだろうという親たちの浅はかな読みが見え見えであった。

車の揺れでふと目がさめた。ほんの少しの間眠ってしまったようだ。つい2週間前大学を卒業し、ようやく私は自分の信じる道を歩きだすことができた。22歳。年齢的にもう後がない。今回の旅がおそらくプロレスラーになるための最初で最後の賭けになるであろう。世間体やつまらない常識、そういった一切の雑音から離れたかった。そして余計な気兼ねをすることなく、とにかく自由な風に吹かれてとことん夢を追いかけてみたかった。

私はタイガージム在籍中に一度だけ会ったゴッチさんを訪ねて、フロリダまで行くことにした。やはりプロレスラーになるためにはどうしても"神様"に触れてみたかった。手掛かりは一枚の写真とフロリダ州オデッサという地名だけだった。当時プロレスに良い感情を持っていなかった佐山先生に、プロレスラーになるためにゴッチさんに会いに行くとも言い出せず、ましてやそのために佐山先生からゴッチさんの住所を聞くのも筋違いで申し訳ない気がして、結局『週刊プロレス』の当時の編集長ターザン山本氏を訪ねて情報を分けて頂くことにしたのだ。しかし、残念なことに山本氏から手に入れることができたのは『行けばわかる』という言葉だけだった。

手掛かりの写真にはゴッチさんとエラ夫人、家、そしてその裏の大きな湖が写っていた。フロリダ州のオデッサまで行き、大きな湖を探せば必ず見つかる。そう確信した。まさか、あんなに苦労するとは、フロリダの土地をまだ知らない当時は想像だにしなかった。『会えるといいな』写真をチラリとのぞき込んで友人がそうつぶやいた。『そうだ、奴からの餞別があったんだ』そう言って彼はカセットテープをセットした。スピーカーからは俺たちが好きだった松田聖子の懐かしい歌声が流れてきた。車は習志野インターを過ぎて東関道にさしかかった。

成田空港の出発ロビーで友と別れ、搭乗口に向かった。いよいよ独りだ。初めての飛行機、もちろん初めての海外。アトランタ行きのデルタ航空の便に乗り込む。飛行機は滑走路に入り、一旦停止してから改めて力強い滑走に入った。エンジン音が高くなり、急に体がシートに押さえつけられたと思った瞬間、窓の外の景色が斜めになり、日本があっという間に小さくなった。かつてない解放感に訳もなく涙があふれて来た。そう、やっと独りになれたのだ。約11時間にわたるロングフライトも、全てが初めての体験で退屈を感じなかった。

米国入国。まずアトランタ空港の税関で止められた。往復のチケットはあるものの、行く先の住所も電話番号もわからず、渡航目的も『プロレスラーになるため』ではあまりにも理解不可能な世界だったらしい。しばらくの押し問答の末、別室に連れていかれ、本職の通訳の人に漸く理解してもらい、税関の職員のGOOD LUCK! という声とウインクに送られて晴れて自由の身になった。アトランタで一泊した翌日は、国内線でフロリダ州タンパまで約3時間のフライトである。

タンパ空港に到着すると、とりあえず格安の宿を予約した。ホテルに入りまず地図を入手して、オデッサの地名を

プロレスラーになるためにどうしても神様に会わなければならないんだ

探した。本当にあるのか心配だった。もし情報がガセだったら一巻の終わりだ。しばらく地図とにらめっこした後、無事オデッサの地名を発見。どうやらここまでは順調のようである。翌日タクシーに乗りオデッサに向かった。タンパ市内から約40分の場所にある田舎町だそうだ。

オデッサに近づくにつれ嫌な予感がした。なにやら湖やら沼やらがひっきりなしに視界に飛びこんで来るのだ。タクシーの運転手がルームミラー越しに私に尋ねた。

「さて、この辺がオデッサだけれども、ここからどうすればいいんだい？」

『大きな湖を捜してくれ』

運転手は予想通りの答えをしてくれた。『何〜！ ここは湿地帯だから湖は無限にあるよ』『住所は？ 電話番号は？』私は首を横に振って答え、代わりに持って来た写真を見せた。『ひょっとして、ユーはこの写真だけを頼りにここまで来たのか！』うなずく私に、『オー、マイ・ゴット』彼はそうつぶやいて車を止め、天を仰いだ。

『ユーがそうまでして捜すこの老人は一体何者なんだ』彼の問いに、『神様なんだ。私はプロレスラーになるためにどうしてもこの人に会わなければならないんだ』彼は暫く考えた後、今度はまっすぐ私を見て『OK BOY。わかった。俺が必ず見つけてやる』髭だらけの赤ら顔でそう言ってくれた。

消防署に聞いても役所に聞いても、一向に情報は得られない。運転手のドン・ドーチェも途方に暮れた。今度は片っ端からオデッサの町を走ってみることにした。やはり、見つからず、私はだんだんドンに申し訳ない気持ちになってきた。『もういいよ、ありがとう』まさにそう言いかけた時。『コーヒーでも飲むか？ 奢るよ』そう言って彼は車を止めてコンビニに入っていった。私がすぐに後から行くと、彼は店のお客に写真を見せていた。『誰か、このじいさんを知らないか？』すると、『知ってるわ。私の家の隣のおじいさんよ。間違いない』そう答える女性がいた。私とドンは飛び上がって喜んだ。ドンは彼女に家の場所を聞き終わると、私に向かって右手の親指を立ててニッコリと微笑んだ。

しばらく走ると、写真の通りの庭が見えて来た。高い木にロープが吊るしてある。そして白い壁に赤っぽい屋根。裏庭には湖がみえる。

そして表札には"Karl・I・Gotch"。夢にまで見た風景がそこにあった。ドンは家の前に車を止めると、『ちょっと待ってな』そういって庭を横切り玄関に向かって行った。呼び鈴を押して何やら言葉を交わした彼は、私の所に戻って来て『ハッピー・イースター』そう言ってにっこり笑うと軽く私の肩を叩いて車に乗り込んだ。去って行く車に手を振り、振り返ると、エラ夫人が笑顔でこちらに向かって歩いて来ている。そして玄関では"神様"が不思議そうにこちらを見てたたずんでいた。

ハッピー・イースター…そうだ、今日は復活祭の日だった。

格闘探偵団バトラーツ　石川雄規

地上に降りた最強最後のレスラー

本格格闘プロレス小説

無比人

Mubito

(24)

虚構と現実が交錯する

壮大な格闘ロマン

【前号までのあらすじ】
生まれ持った格闘センスをプロレス専門誌編集長・千堂に見出されプロレスラーへと転身した万無比人。
同じ様にマット界へと転身した元柔道世界チャンピオン小川直也。
異種格闘技戦路線へ突き進む無比人にとって小川は避けては通れぬ相手であった。闘いはドローに終わったが、異種格闘技緒戦としては納得のいく成果をあげた――。
次なる標的を空手と定めた無比人は、実績を積むためフルコンタクトカラテトーナメントのリングに空手着姿で上がることとなった。

氷見子が席を起ってきた。

千堂は、リングサイド最前列のなかほどに席を占めており、そこは無比人の佇つ青コーナーからするとかなりの距離があった。右手に望むそのコーナー下の同じ列の端に氷見子はいて、千堂同様に招待を受けた身とあっておとなしくしているようだったが、ふいと立ち上がると近づいてきたのである。

「氏家さん、今日は見えないの？」

右隣の空いたシートを顎の先で示して言った。満員のSRS席で、そこだけ歯が抜けたかのようであった。

千堂は頷いて、

「午頃まではくるつもりでいたようなんだがね、どうにも外せない急な打ち合わせが入って残念なんだけどと電話で――」

「ではノープロブレムよね」

氷見子は八重歯を覗かせ、肩を軽くぶつけるようにして腰を下ろした。

四月最後の日曜。横浜アリーナでのワールドシュートボクシング協会主催のビッグイベント"シュート・ザ・シュート！・ダブルクロス"もすでにカードの半分を消化し、グローブ空手対プロレスリングというスペシャルマッチの開始を待つばかり。

正式にはこれが異種格闘技戦デビューとなる無比人の対戦相手は、"心臓破りの拳"の異名を取る的場毅一郎で、グローブ空手の世界にあっては前の年の秋に行われた全国大会を制している。それから半年のうちに賞金マッチに二度出場し、二度とも早い回にKO勝ちしていた。

無比人に続き的場がコールされて、赤コーナーからリングへ上がった。二人は似た年格好で、体格面でもさしたる差はない。無比人が例によって黒タイツに跣で、的場は空手着に十オンスのグローブを着用。コスチュームの違いが異種格闘技戦への期待をいやが上にも掻き立てるのか、待っていたように満場が沸いた。

千堂もおぼえず身を乗り出していた。空手やボクシング、キックなど立ち技系の格闘技には食指が動かない、とはいうものの異種格闘技戦路線を突き進むことでプロレスの強さを改めてファンに示したいと念ずる無比人が、もしも初戦のここでこけたらと考えると平静でいられなかった。的場毅一郎なる名前も今回、本カードが組まれるまでは聞いたことがなく、

――"心臓破りの拳"てえのは誇張でもなんでもなく、奴さん、何年だか前に地元の名古屋で行われたフルコンタクト系の空手の選手権で相手の心臓に得意の逆突きを叩き込み、ショック死させているんだとさ。

と、そのすぐあとで無比人に聞かされ、少なからず脅威をおぼえたことも尾を曳いているかと思われた。

空手といえばシドニーでの'98カラテワールドシリーズ一回戦、第四試合で無比人はマンソン・ギブソンを相手に圧し気味の攻防を展開するも、不運にも反則負け。というのもギブソンが後ろ回し蹴りを放ったのに合わせて出した前蹴りが、どうしたことか流れて股間の急所を直撃してしまい、ファールカップを割って悶絶せしめたのだ。

いかに実戦スタイルの大会といえども、目突きと急所攻撃だけは御法度とされていた。

――後ろ回し蹴りが振り切られる前に前蹴りを腰に当ててカットしようとしたんだが、金的に入っちまったのは、あいつが低空ながらも跳ぶつもりでいたからだな。ジャンプへの準備段階で軸足が伸びきってて、それで腰の位置にキンがきちゃってたんだ。あそこで蹴りを止めろったって、それは無理というもんだぜ。

リングを下りた無比人は、まっすぐ千堂たちのところへやってきて以上の通り説明を加えた。低くジャンプしての後ろ回し蹴り、すなわち跳び後ろ回し蹴りに相手はいくつもりで、ためにこちらの狙いにも狂いが生じたということらしかったが、あっけらかんとして勝者かとも見紛いかねぬ始末。反則勝ちを拾ったギブソンは、なおリング上にぐったりしたままであり、無比人に敗けたとの実感が湧かないのも当然かもしれなかった。

結局、同大会ではこのマンソン・ギブソ

巨匠入魂 第10回

真樹日佐夫

本格格闘プロレス小説

無比人

ンが優勝して一万五千豪州ドルの賞金を獲得、日本勢としては士道館の新鋭阿部修治が三位に食い込むのが精一杯だったが、ここでもしかし無比人はまた大いに名を挙げることとなる。

アメリカ代表のギブソンはシカゴ出身で、マーシャルアーツ、キックボクシング、空手と最盛時には都合七つものチャンピオンベルトを巻いていた立ち技系格闘技界有数のビッグネーム。K－1の前年度覇者であるアーネスト・ホーストとも対戦してダウンを奪っており、それほどの強豪を反則とはいえ文字通り一蹴してのけたとあっては、知名度アップもむべなるかなといえようか。

帰国して、千堂が無比人を連れ巻道場へ挨拶に赴くと、巻は格闘技雑誌の編集部よりその日のうちに結果を電話で知らされたとのことであり、

――マンソン・ギブソンはよく知っているが、あれでもうひと回り巨きかったら、それこそK－1を制していてもおかしくない逸材中の逸材だ。大方の視るところ金的攻撃が飛び出すまでは優位にあったとのことだし、前にも言ったように実績を積むという観点からすれば、大いなる前進ではあろう。けれども、いかに不運でも負けは負け。極真のトップクラス、あるいはK－1戦士とのカードを実現させるとなるともう一試合、空手のしかるべき選手にはっきり差をつけて勝ってから、ということであれば話の持っていきようもあろうというもので。

そこでK－1事務局の方からも出場について打診があったらしい、とされる的場毅一郎に白羽の矢が立てられた。そして巻が、これまた旧知の間柄だというシュートボクシングの総帥シーザー武志に渡りをつけてくれ、本日のこのカードが決定した次第。

試合は三分五ラウンド制で猿臂（肘打ち）ありの金的攻撃なし、場外なし、ロープブレークありでフォールはファイブカウントと、どちらかというと空手に有利なルールではあったが、

――最初の三分間は相手の出方を見てかかり、第二ラウンドで極めるかね。ギブソン戦と違って蹴りを出さなくてすむわけだから、金的で反則を取られる心配はないし。

無比人は意に介したふうもなく、平然とそう言ってリングへ上がったのだった。

試合開始のゴングが鳴ると、待っていたように氷見子が千堂の耳許へ顔を寄せてきて、

「帰りは彼と別にするから同伴して。久しぶりだし、いいでしょう？」

と熱い息を吐きかけた。

千堂は聞き捨てにした。リング中央、二メートルほどの距離を置いて互いに相手の左へ小刻みに歩を送る両者の動きを目で追った。

「ねえ」

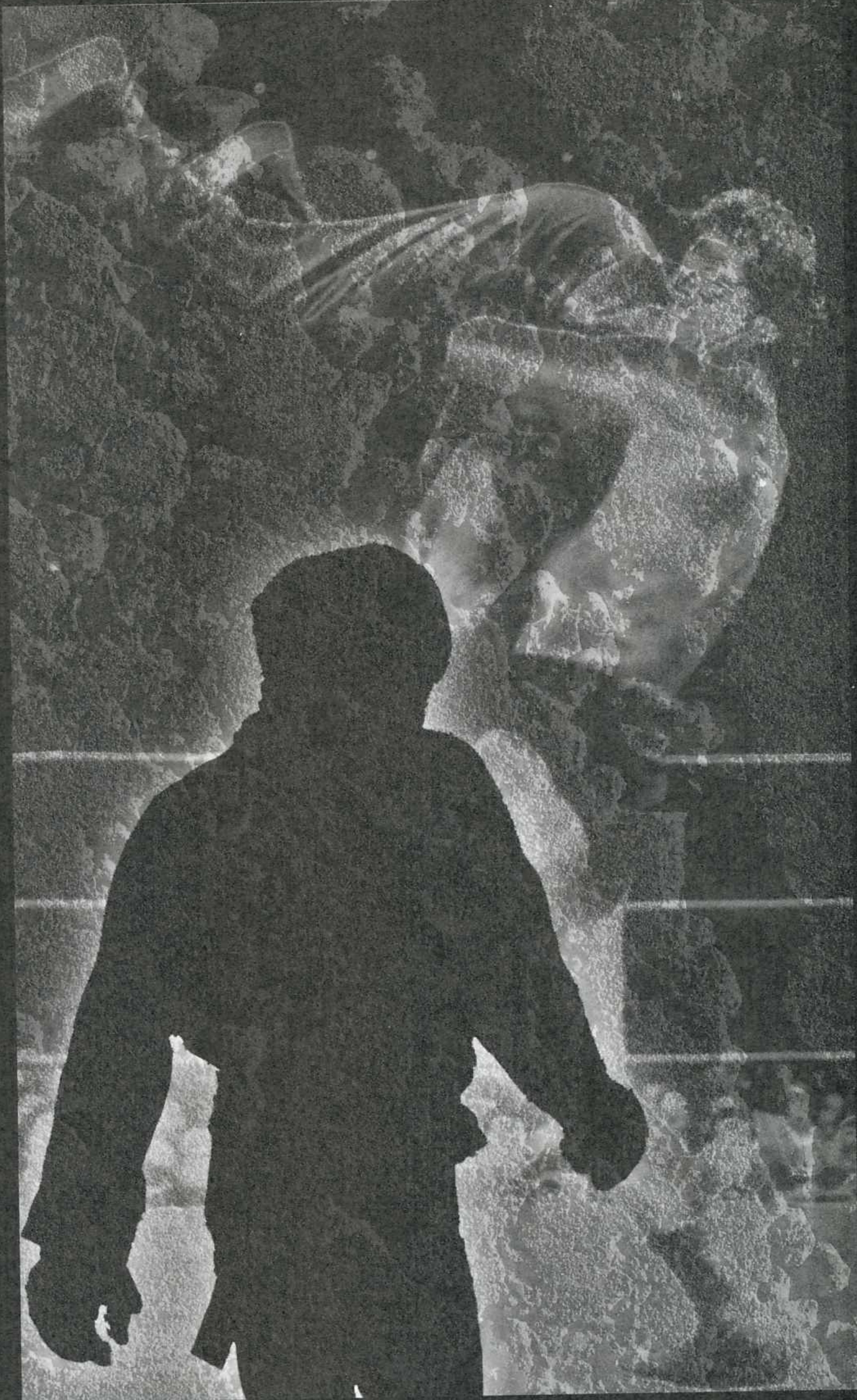
手が膝へ伸びてきた。〈SMパブ　ピンヒール〉へ同伴出勤して欲しいということなのだが、千堂としては意地でもここですぐ顎を縦に振ってしまうわけにはいかなかった。無視したままでいると、

「あの夜のことをまだ怒っているわけ？」

声が尖る。シドニーでの一夜、氷見子はホテルで真澄の部屋へ押しかけて彼女をプレーに引き込もうとしたのである。

マーキュリー・ローソンホテルでは千堂も真澄も無比人も氷見子も、部屋はそれぞれがシングル使用とされてい、選手たちの手前を考えてのプロモーター側の配慮かと察せられた。大会が無事終了した夜、祝賀会で飲んだアルコールがほどよく効き、自室で熟睡していて千堂は電話で起こされた。

――すぐきて。

との真澄の切迫した声に眠気も吹っ飛んで駆けつけ、ドアをノックすると開けたのは氷見子で、驚いたことに女王さまルックで鞭を携えて。

真澄はベッドにいて半身を起こし、パジャマの胸許を両手で掻き合わせており、
――なにをされた。
氷見子を押しのけて入った千堂が訊くと、
――まだなんにも。でも、その気は充分過ぎるほどあるんだから、ちょっとだけ我慢しなさいなって鞭を振り上げ、それで急に怖くなって手が勝手に電話へ伸びてしまって。
――悪いのは部長よ。無比人の部屋で彼とプレーしてたんだけど、酔いのせいか途中で眠ってしまわれ、それでピンチヒッターを務めてもらおうとドアをいくら叩いても起きてきてくれないんだもの。
横から口を入れる氷見子に、二人の関係を真澄に告げたのかと目顔で問うと、彼女は小さくかぶりを振った。安堵する一方で、しかし、いつそういう羽目になるやもしれぬとの警戒心が頭を擡げ、それが千堂にまたぞろ痩せ我慢を強いることとなった。
氷見子に電話でプレーの出前を申し入れて以来、彼女の軍門に降った格好でM男となるひとときを密かな愉しみとしてきたものの、帰国後は必死の思いで身を慎み、五週間になんなんとしていた。
「ねえったら」
「――」
「謝るから―」
と遂に氷見子の方で折れて、いくぶん鼻にかかったような物言いになった。
千堂としてもそれでつい気を好くして、
「わかった。同伴するだけはしよう」
言った。言ってしまった。
第一ラウンドも終わり近く、的場が稲妻形の鋭い出足で間合いを寄せたかとみるや、左の鉤突き一発。ボクシングにいうところのフックであり、左肩へ内側から入った。グローブ空手では俗に肩パンチとも称ばれているもので、これにより左半身に構えていた無比人の上体が一瞬、ほぼ正面を向いた。
そこへ狙い澄ましたように右の逆突きがフォローされ、直突き――ストレートとなって丁度心臓部にヒット。無比人の躰が尻からゆっくり落ちるのを目の当たりにして、
(あれが相手の選手をショック死させたという〝心臓破りの拳〟……)
千堂は肝を潰したが、カウント8でなんとか起った。直後にゴングが鳴った。
無比人は苦笑いを浮かべていた。
そして第二ラウンド。無比人のダメージがまだ抜けきっていないと視てか、のっけから的場は再度左の肩パンチを振った。
続いての右。それに無比人がヘッドバットを合わせた。予期していたとみえて頭部を一杯に引いての振り打ちで、直突きにく

本格格闘プロレス小説

無比人

巨匠入魂 第10回 真樹日佐夫

るグローブの上からおっ被せるかのように浴びせた瞬間、骨の軋む鈍い音。手首を損傷したのが千堂にもわかった。
「誘いだったのよねえ、さっきのダウン」
氷見子が興奮を抑えかねた様子で言った。
さもありなん、という気持ちと、いや、好奇心からだとの思いが千堂の裡で交錯するのをよそに、引いた右腕を左腕で抱え込むようにして小腰を落とす的場の上から無比人はのしかかると、パワーボムに運んだ。次いですかさずフォールの体勢へ。
ファイブカウントが入った。

(25)

人工ペニスは天井を向いて屹立していた。
ベッドに仰向きに転がされた千堂が息を呑んで見上げるうちにも、
「懺悔をしたことも忘れ、性懲りもなくまた意地を張り続けた罰だ。二度と自分が雄だなんて思えないように、今日はとことん調教してあげるから覚悟をおし！」
と宣するごとくに氷見子。ボンデージの上にペニスバンドを着けて腰を跨いで立ち、激した言葉の割には冷ややかな目色だった。
「氷見子女王さま、それだけは――」
「なんだい、もうおっ勃てちゃって」
ハイヒールの爪先で股間を嬲られた。
「わふ……お願い、アヌスだけは」
千堂としては腰をもぞもぞさせるよりなかった。ただベッドに転がされているのではなく、素っ裸にされた右手と右足、左手と左足を二つの手錠でそれぞれ繋がれ、女だったらまんぐり返しとでもいうか、そんなあられもないポーズを取らされているのだ。
深更、千堂の自宅マンションの寝室。
横浜アリーナから五反田の店へ直行したら、すでにあらかた客席は埋まっており、ステージの際のテーブルには神州組組長梶の顔も見られた。
氷見子は壁寄りの席に千堂を坐らせると、じきに奥へ引っ込んで着更えをすませ、プレーを開始した。梶を名指して、ブリーフ一枚にさせステージへ上げた。
暴力団首領は、こわもての仮面をかなぐり捨て嬉々として鞭を受け、ロープを掛けられて宙吊りにされ、挙句の果てには犬の首輪をさせられて客席の間を這って回らされた。千堂のところへもきたが、目と目が合ってもその表情にはなんら変化はなく、ただもう氷見子に曳かれてM男の本性を剥き出しにできる陶酔感に身を浸しているかに見えた。
忘我の境をさ迷うような、そうした梶の姿に接したことが押さえ込もうと努めてきた欲求を一気にまた膨れ上がらせたか。閉店間際、席へ戻った氷見子に、
――どう、このあとまたプレーの出前をして欲しくなったんじゃない？
と囁かれて言下に頷く始末。梶と行き合わせたのは偶然ではなく、氷見子が呼んで置いたのでは……。ふとそんな気もしたが、後の祭りであった。
「お願いって、おまえ、本当に厭なのかい」
氷見子は不意にくぐもり声に変じて、
「実はこのペニスバンドを待ち焦がれていた――でなければ、どうしてここがいまからこんなになっちまってるんだろうねぇ」
「待ち焦がれるなんて、そんな」
判然としないまでも、梶がそれで氷見子によって蹂躙された、その光景が脳裡に焼き付いていることは動かせなかった。
氷見子が両膝を突いた。千堂は震えた。
「怖い……」
突然、頭の中が真っ白になった。
一ヵ月が過ぎて、無比人とK－1最強戦士との対戦が本決まりとなった。
（以下次号）

風俗体験取材コーナー［官能させてよ98］に模様替えを検討中!?

vol.6『どりんくばぁ〜』みんなまとめてゴッチャンです！

この前、JWPの会場でグリズリーさんを見かけました。現在は女王様として活躍中とか。このコーナーもプロレス関連の風俗にまで足をのばそうかと現在検討中です。じつは……いまはまだ言えないのだが、その際はタイトルを「官能させてよ98」にするつもりです。

構成＝坂井ノブ　撮影＝戸成ぶつぞう

見てみぃ、この笑顔！　後ろは奥さん・詩子さんの写真。お店にもたまに出ているので、運が良ければ会えるぞ。「ここで友達になるプロレスファンも結構多いですよ。それがボクは一番嬉しい」と語る力関。友達の少ないプロレスマニアのオアシスである。（右3点）ロゴは友人の漫画家（元・力士）が書いたもの。さらに業者の方が特製ボトルを作ってくれている。これをキープするのがマニアとしてのステータスであろう。

今回で6回目を迎えるこのコーナー。飽きることにかけては日本一早い本誌の中では立派な長寿コーナーである。過去に実現寸前でポシャってしまった企画がいくつかあったが、今回またしても素晴らしい企画が流れてしまったので、まずはその話から。

『ちょっとごはん食べにこない』というゴキゲンなタイトルの料理本をドラゴンの嫁・藤波かおり夫人が出したのは、『紙プロ』読者なら先刻承知だろう。プロレスファンの間では、ドラゴンとかおり夫人のオシドリ夫婦ぶりはもはや伝説。そのかおり夫人に「ちょっとごはん食べにこない？」と誘っていただいているのであれば、行かねば失礼にあたる。「行かねば！」ということで、出来た企画が「ちょっとごはん食べにいこう！」。安直だが力と熱のこもった企画であろう。すぐさま本の宣伝を担当している会社に連絡を取ってみた。すると、「この本を出す際の肩書きが『キッチンナビゲーター』といいまして、なるべく『プロレスラーの奥さん』というイメージは出さないようにしようというご本人の意向がありまして……」と、丁重にプロレス雑誌への登場を断られてしまった。

以前、「お笑いナビゲーター」竹本幹男氏がちっちゃい頃の『紙プロ』で大活躍していたが、現在では棚卸しのバイト生活をしているとか。かおり夫人には、是非ともプロレス界の外で頑張ってキッチンをナビゲートしてほしいものである。それが結果的にはプロレス界に跳ね返ってくるわけだし。

というわけで、前置きが長くなったが今回はレスラーのお店

「詩子ピザ」は詩子さんがパイ生地から作る特製ピザ。詩子さんが店に出るときは「詩子カレー」もある。味は、やっぱり激辛？　以前はグレート・茶漬け、ホイル・グレイシーなど、イカれた名前の料理もあったとか。

十両までいった力関の化粧まわし。余談だが、力関は今年のアマ相撲選手権に出場するそうだ

シャレた中にも化粧まわしがあったりして、和洋折衷な内装。そのへんが「バー」を「ばぁ〜」と表記する由来なのだろうか。

お兄さんが全日本プロレス勤務、義理の姉さんが元・新日本の社員、本人もバリバリのプロレスファンで、しかも嫁さんは元LLということで、店内はさながらプロレス界の縮図である

どこまでも
プロレスファンに優しいお店です

アクセス

[店名] どりんくばぁ〜維新力の店
[住所] 東京都武蔵野市吉祥寺南町1ー5ー10
武蔵フォーラムⅠ／6F（丸井の向かい、1Fが三和銀行のキャッシュコーナーのビル）
[電話番号] 0422ー45ー4933
[営業時間] 19：00〜だいたい1：00
[ドリンク]
●超レア焼酎・房の露（ボトル3500円）
●ボトルがかっこいいジム・ビーム（ボトル5600円）
●グラスが冷えてる生ビール（600円）
●八海山、越乃寒梅、など地酒は豊富に揃ってます
[その他]
●テーブルチャージは2000円でお通しは 3品もある。
しかも、アイス&ミネラルウォーターは無料。
カラオケも唄いたい放題!
●予約制だが相撲仕込みのリアルちゃんこも食べられる!
[マスター維新力から一言]
「技を掛けてくれ」と言われれば掛けます。「技を掛けさせてくれ」と言われれば喜んで掛けさせます!　是非、一度来て下さい。

なぜかトイレの前には維震軍の「覇」フラッグが！これほど男心にびんびんと響くインテリアは、そうお目にかかれない

「最初の頃は、生ビールを上手く入れられなくて」と語りながら、すっかりマスターしている力関。トークははずみ、仕事を忘れてガンガン飲まされてしまい、酔った勢いでカメラマンのカメラを強奪して撮った筆者のセルフポートレートが左の写真

の老舗「どりんくばぁ〜維新力の店」である。「なんか商売をしたかった」という力関の願望が叶ってお店を出したのが4年前。ところが力関自身はまったくの下戸だとか。シラフで酔っぱらいの相手をするのは酒乱のボクにとっては苦痛以外の何者でもないが、力関は『スクールウォーズ』の山下真司ばりの素敵な笑顔で酔っぱらいのヨタ話に耳を傾けている。その客も9割がプロレス&相撲ファンだという。常連さんが多いらしいが、クセの強いプロレスマニアという人種の心を掴んで離さない力関の人柄がしのばれる。業界から足を洗っても力関は、プロレスファンに優しいのである。「商売だから」の一言で片付けてしまえばそれまでだが、プロレスファンに目を向けている点では、キッチンナビゲーターよりは親近感が持てる。何よりも本人がプロレス大好きなのだ。

そんな力関だが居酒屋業だけでなく、現在はタレント事務所にも所属し、今秋公開予定の本宮ひろ志先生原作の『男樹』に出演するかと思えば、先月はミニスカポリスにも登場し、なぜかパンツ一丁でバトラーツの美穂ちゃんと競演を果たしたりもしている。その一方で近所のチビッコ相撲の指導員までかって出ているらしい。芸の幅も広けりゃ心も広い男である。ここまでフランクな活動をするプロレスラーはハッキリ言って見たことない。キッパリとプロレス業界から足を洗える人間はそう多くない中、力関のさばけっぷりが非常に清々しいと思えるのはボクだけではないはずだ●

POST CARD
〒1510051

渋谷区千駄ヶ谷
3-11-3-702
(株)ダブルクロス
ハガキ道場様

ハガキ道場

SAKAI NOBU

がんばるゾ♥（小さなガッツポーズで）

ハガキ道場

みんな、どう？　元気？　ボクは元気！　今号も相変わらずの忙しさだったんだけどね、助っ人で来やがった中村カタブツ君（35歳）。あいつは、ホントね、法律がなかったら「お前の人生終わらしたろか!」って感じだよね!!（怒）。入稿の終盤、ヤマ場に差し掛かったときにフラッとやってきてさ、風邪の菌を撒き散らして帰っていきやがったよ。おまけにブチいじりを生き甲斐とするウチの編集部ではアイドル気取りだからね、仕事を手伝いやしないから作業が遅れまくっちゃったよ、もう。会社を辞めてまで迷惑をかける、ホントにダメな人間だよ!

代表＝SAKAI NOBU

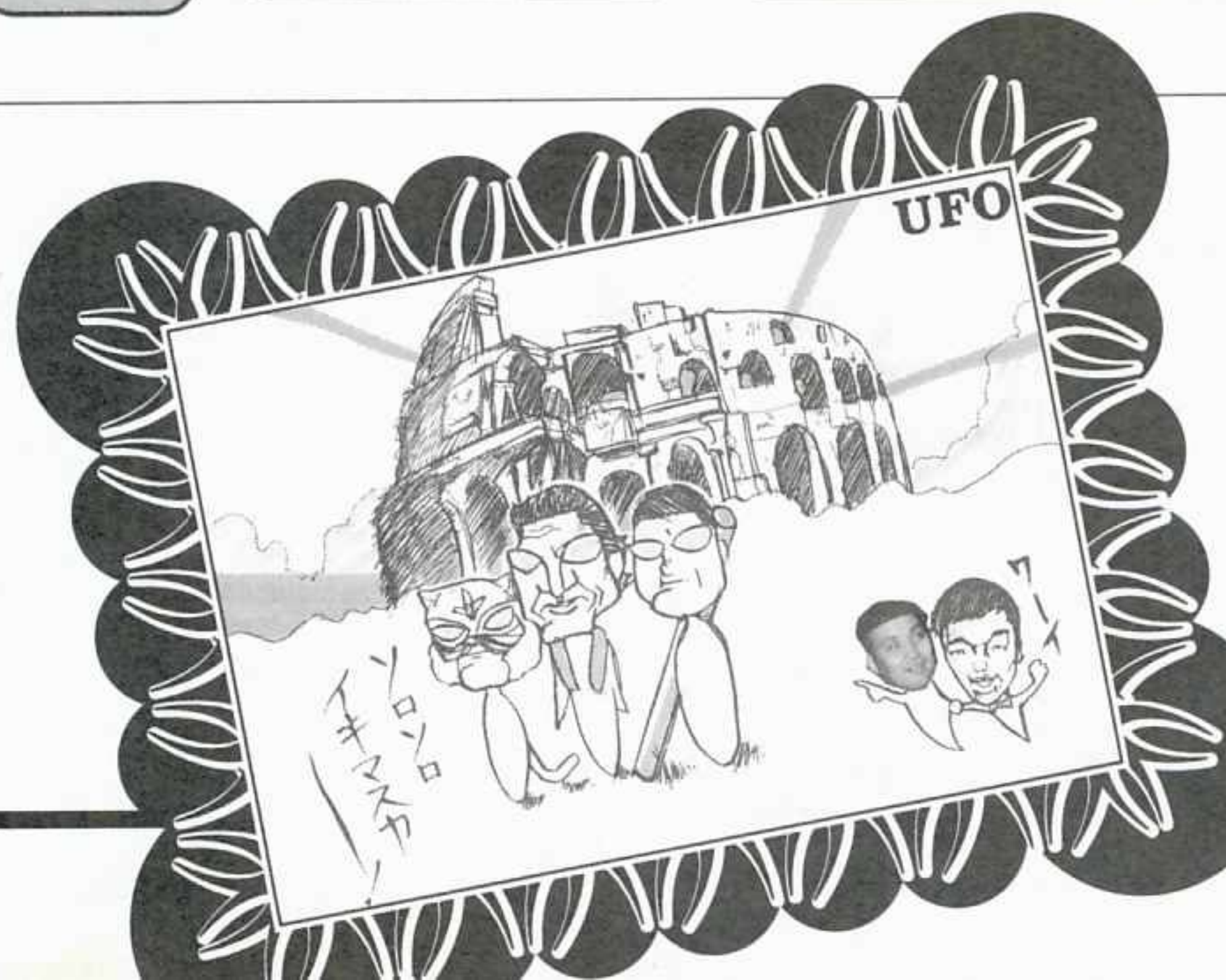
<ハガキ道場システムチャート>

＼　つまらない ➡ おもしろい

呼び方	キッズファイター	シニアファイター	プロフェッショナルファイター
賞品	イージーな粗品	ワンダフルな粗品	トレビア～ンな粗品
昇段資格	20点以上	40点以上	×

【ルール】
というわけで前号から、私SAKAI NOBUが道場主を務める投稿コーナーが新発進しました。世界に通用するハガキファイターを育てるべく、みなさんに頑張って頂きます。当然、ハガキファイターもランク分けします。毎号、面白いハガキを書いてきた人に段位をさしあげます。
●採用されたハガキには、それぞれ1～5点差し上げます。どんどんポイントを取って段位を上げましょう。
▽そこそこ面白い人＝キッズ・ファイター
▽けっこう面白い人＝シニア・ファイター
▽めちゃんこ面白い人＝プロフェッショナル・ファイター　となります。
●それぞれ採用されると
◇キッズ・ファイターにはそこそこいい粗品
◇シニア・ファイターにはけっこういい粗品
◇プロフェッショナル・ファイターには超豪華粗品を進呈します。

今号のお絵かき模範演武

（山口県　よシDaかnEかへセEeee 18歳）5点

いいね、元気！　いやいや、マジで。ホント、宇宙人の集まりのようなUFOに、日本の地球外生物ことターザン山本が寄っていくという構図が、いいね。さすが「ミスター深読み」って感じ？　あと、描きっぷりがいいね。まあ、ボクは飲みっぷりもいいから。負けっぷりもいいんだけどね。

ハガキ道場

SAKAI NOBU

★さあ、元気に今回のハガキを紹介します！

ヤスカクがM選手を脅すので、『週刊P』には絵を描くのをやめようと思います。だって、あんな「帰ってきたぜぇー」なんてバカ丸出し発言を聞いたら恥ずかしくなるのが普通です。M選手の方が正しい。M選手好きの『紙プロ』読者が『週刊P』を買わなかったらどうなることか。カチ喰らわしてやる！　と、思ったけど、フミ・サイトーが好きなので買い続けます。

（埼玉県　中川雅博　20歳）3点

☆フミ・サイトーさん、ボクも大好きです。なんだかんだ言ってもボクらは『週プロ』で育ったんですから、大恩を忘れちゃいけませんね。

ヤスカクさんの発言「だいたい体格も……」というのは、ファンを全否定しているものであり、その意識がプロレスを世間から隔離させる要因のひとつだと思いました。ま、しゃーないな、と。

（江戸川区　佐藤耳男　19歳）4点

☆そもそも同じような体格の選手がいる（ピー）とRが揉めたときには、一方的に「R断筆宣言」したヤスカクさんが、最も言ってはならないセリフなんです。

（熊本県　塩本祐介　32歳）5点
チョンマゲの書き方に一筋の光明を見た！　ポップでいてアバンギャルド！　チョンマゲでありながら柔ちゃん！　脱帽です

『紙プロ』は正しい。は山口日昇、吉田豪、坂井ノブは侍だ。これからも突っ走れ！

（差出人不明）1点

☆我が社にハガキを出してくれるのは非常にありがたいのですが、『週プロ編集部』と書かないように！　ま、ナイスボケ賞ということで。

ベスト・オブ・プロレスファンは安田拡了氏。ひいきの団体を「つまらない」と言われて思わず電話する熱意は、はぐれ軍団総帥ラッシャー木村の家に石を投げていた古き良き昭和プロレスファンに通じ、それもひとつの人生。

（練馬区　木村信之　29歳）3点

☆良くはないだろ、家に石を投げちゃ。それで愛犬も死んじゃったわけだし。じゃあ何かい？　村浜はラッシャー家の犬だってか？

谷津インタビューは面白かった。ヒクソンを倒せる日本人最右翼だから。

（埼玉県　中島貴幸　21歳）5点

☆これまた大人気だった谷津インタビュー。70キロそこそこでプロレスに噛みついてる格闘家もいますが、そういう人たちと谷津の対決は是非見たいですね。

（埼玉県　中川雅博　20歳）5点
相変わらず素晴らしいですな。『週プロ』にも、ヤスカクやシッシーの似顔絵を書いて送ってあげなよ

猪木引退を語ったターザンがめちゃ良かった。マスコミ界の超プロ格ファイター・ターザンを今、干しておくのは活字プロレスの損失だ！

（山口県　きのうの思い出ファイター　18歳）2点

☆狂乱の長髪貴公子・ターザン山本がいま熱い！　ター山の復権は近い……のかな？　わかんねえや。

ちょっとしたことなんですが、このまえ安田忠夫選手と私が同郷であることが母によって判明しました。母は間接的に子供の頃のヤスを知っていて、「ハナたれヤスと呼ばれていた」などと教えてくれました。なんか常にハナたらしてたらしいです。想像どおり!!

（千葉県　武田いづみ　17歳）5点

☆私、安田忠夫（ヤスタダと呼んでチョンマゲ！）の味方です。

レスラーに「どっきり」をしかけて反応を観察してほしい。

（大阪市　松山英生　22歳）1点

☆そんなレスラーを驚かせるようなイタズラ仕掛けて面白がってね、このまましゃプロレス界はドボンやで！　そうなったら誰が責任取るの？　なあ？でしょ？（怒）

サスケ劇場復活は大変嬉しく、小鼻がふくらみっぱなしです。

（大阪府　大西千穂　21歳）4点

☆他、同様のハガキが多数来ました！というわけで、みなさんの熱い期待に応えて爆裂サスケ劇場が完全復活しました。『紙プロ』はこれからもみなさんの小鼻をふくらませ続けます！

「ダイアナのすべて」という企画をやってくれ。プロレス週刊誌を買ってねえから初めて見たよ。ダイアナ裏ビデオも検証してほしい。

（神奈川県　笹原晋　22歳）3点

☆他、同様のハガキが多数来ました！

（山口県　いつかはキミも18歳　18歳）4点
これは「よシDaかnEかへセEeee」さん（18歳）と同一人物ですが、いいねえ。見てみい、この勢い！

（大阪市　WCRあまぐり　17歳）5点
『週プロ』などでも掲載されてるあまぐりちゃん。サスケ？サスケ、元気っ！

（名古屋市　原口孝洋　26歳）2点
4・4のアントンスマイルをコミカルタッチになってます。プロレス界屈指の名シーンをイラストで書いてもらうのも面白いかも。じゃ、Showちゃん、待ってるから（爽やかに）

というわけで、みなさんの熱い期待に応えてダイアナの爆裂セクシーグラビアが登場しました。『紙プロ』はこれからもみなさんの股間をふくらませ続けます！

『紙プロ』、手抜くなよ！　現在、パワーあんのはおめえのとこだけだよ。読んでておもしれえよな。

（埼玉県　石野充　44歳）1点

☆こういった熱いチンピラなハガキ、大好きです。みなさんの両手は何のためについてます？　ナイフをこうやって振りかざすことですか？　ボクの両手は熱いハガキを、ズーッと上の方にある熱いハガキをつかむためにあるんです！

※前回で、ダジャ専に載った塩本さんに5点あげるの忘れてました。許してチョンマゲ！

なぜ続けるのかって？ そこにダジャレがあるからさ
ダジャ専

ダジャレズム専門学校

講師＝河口ノブ

み〜んなよっといでぇ〜ッ。たのしくあそぼーよッ！ というわけで、終わりそうで終わらない長寿コーナーがやってまいりました。最近、終わりそうで終わらなかったものといえば、フランク・シナトラですか。何度も「危ない」と言われながら頑張ってましたけど、ついに先日、亡くなってしまいましたね。というわけで、ご冥福を祈りつつ、風前の灯火なこのコーナーも、驚異の粘り腰で続けます。心の底からハガキお待ちしてます。ハッキリ言って、採用の可能性は高いぞ。倍率が極端に低いから。

今号は大阪府のうしえもん（20歳）の1人勝ち。だって1人しかハガキ送ってこないんだもん。でも、レベルは高いです。エスプリがきいてるねえ。

NASA斎藤

かわいいけど怖いのだ〜。ニャハハハハ〜。うしえもんくん、ひょうきんなのだ〜。4点

アロハ〜、オエッ!!

怖いけどかわいいのだ〜。ニャハハハハ〜。うしえもんくん、お上手なのだ〜。4点

テンカウントゴング

ニャハハハハ〜。チャンコ屋の親父が10人集まって、テンカウント・ゴングが出来ちゃうなんて、面白いのだ〜。5点

UFO（ウホ）!!

高阪、UFO入り!?

ニャハハハハハハ〜。これはずるいのだ。高阪の顔は、写真かと思うほど似てるよ。バチバチバチバチバチバチバチ！ 5点

??????????????????????????????????????

キミの疑問を一発解決！ 『紙プロ』版こども電話相談室

匿名リサーチXX 2000

新日のリングアナウンサー田中秀和さんは、なぜ、「ケロちゃん」というのでしょう？

（国立市 ジャイ子 26歳）

「ケロちゃん」はいつまでケロちゃんなのだろう？ もういい歳のはずでしょ？ 見てても結構貫禄あるし。「あのね、いつまでもバカボンみたいなかっこでけへんで！」というわけで、最近の『週プロ』では表記も「ケロさん」になってたりするから大変だ。まあ、これからは「さん」の方向で統一されていきそうな気がします、なんとなく。で、今回の疑問は「なぜケロなのか？」ということでしたね。ばっちり、調べてきましたよ、ア・ガイ・コールド・ケロの本名を。田中秀和だと思ったでしょ？ しかし、それは間違いみたいです。この表紙のイラストが最高な初単行本『ケロのモノを投げないでください』には、こう書いてあります。

「田中秀和（中略）それは世を忍ぶ仮の名前。リングネームはケロリスト・タナカ。愛称は"ケロ"。これは有名（？）なんやけど、本名は田の中ケロ太郎というのです」新日本のファンがモノを投げたくなる気持ちもわからなくもない。むしろ投げたくなる。ケロリスト？ 田の中ケロ太郎？ ケロとは、本名だったのだ！ わかったかな、ジャイ子ちゃん!? ちなみにこの本の中で一人称は「ケロ君」。自らをあだ名で呼び、その上「君付け」までしてしまうグレートな男だったのだ。いや、いまでも、とってもグレートな人であることには変わりないのだが。

匿名リサーチでは、このような質問、疑問を募集しています。ズバリ答えます

抱腹絶倒 この一冊であんたのプロレス観が覆される ケロのモノを投げないでください 新日本プロレス リングアナウンサー 田中秀和

『ケロのモノを投げないでください』（みき書房）

¿¿¿¿¿¿¿¿¿¿¿¿¿¿¿¿¿¿¿¿¿¿¿¿¿¿¿¿¿¿¿¿¿¿¿¿¿¿

カウント4.5！ 反則スレスレRADICALランキング

激突 RADICAL版 カウントアップ・グル〜ヴ
BEST OF プロレスファンの芸能人

訴訟を起こすとか、営業妨害と騒いでみたりとか、ランキング表ひとつで大騒ぎ出来る平成10年という時代の平和さを謳歌しつつ始まったこのコーナー。毎号毎号、読者プレゼントのハガキに質問を組み込んで書いてもらっているのだが、最近は書かない輩も増えてきた。ダメだよ、書かなきゃ。応援できないよ！ というわけで、ベスト・オブ・プロレスファンは浅草キッドに決定！ 熱狂しつつもと冷静さを持つ人たちが多く上位を占めました。おまけに博士は個人でも6位にランクインしてます。あと、藍田真潮についての情報も募集します。教えて下さい。

さて、次号ですが、プロレスファンの心の郷里を知る企画「週プロ派？ ゴング派？ ファイト派？ 東スポ派？ キミは何を読んで育ったの？」のランキングを集計します。今までいちばんファン育成＆拡大に影響したメディアを決定します。エントリーは、前述の4誌（紙）のみ。ばっちり答えてくださいね。

BEST OF プロレスファンの芸能人は？

順位	名前	票数
1位	浅草キッド	38票
2位	南原清隆	29票
3位	森本レオ	17票
4位	関根勤	12票
5位	春一番	9票
6位	水道橋博士	7票
7位	大槻ケンヂ	6票
8位	勝俣洲和	4票
8位	つのだ☆ひろ	4票

新コーナー

日本一の手抜きコーナー

絵はがきor DIE？

絵はがきとは何か？ そもそもお土産である。その土地の名所や風景をハガキにプリントして、遠い地にいる人に見ていただくもの。もう、これは立派な表現行為である。となれば、雑誌の投稿などに、絵はがきを使うときは採用不採用の基準にもなるのが当然である。そこで、今回はコレ。採用されようと思ったら、なかなか使おうとは思えないシロモノであるが、スフィンクスの肩の力が抜けた感じが現代風ではある。ということで、面白い絵はがきを募集します！

スフィンクス（エジプト）

無記名なのがもったいない。いかした絵はがき、待ってるから（爽やかに）。

バカ日誌 RADICAL

2度あることは3度あるの巻

ハガキ道場 SAKAI NOBU

昨年11月に辞めたくせに、いまではすっかり会社に居着いてしまっている中村カタブツ君（35歳）。社員だった頃よりも、なぜかイキイキしがら、会社に来ちゃあエロ話＆女の子が来れば「ブラが透けて見えるねぇ、デへへへへ」などとセクハラを繰り返している。収入源であるはずのコンビニのバイトをサボってまで、編集部でバカ話している方が楽しいらしい。バカもここまで極めればひとつの芸になるということか。そんなブチのダメっぷりを間近で見ているせいか、松澤チョロ（26歳）が日に日にカタブツ化している。「ノー・モア・カタブツ」をスローガンに、チョロだけはしっかり育ててきたつもりだったのに……空の青さが目に染みる今日この頃である。

電話の応対は「えっ、あ、ちっと、ちっと」と非常にしどろもどろな上に、自分の生年月日をず～っと間違えていたり、誰も得をしないような小さな嘘をつきまくるのだ。例えば、今号では初のインタビューを任せた。こちらが心配して「先方のチェックは受けたのか？」と聞けば、受けてないのに「受けました」と答えてしまったりするのだから困りもの。「まだです」という一言が言えないのだ。ちっぽけなプライドを守るために虚言＆妄言を繰り返すタチの悪い男なのである。しかし、いい面もある、下ネタが尋常じゃなく好きなのだ。それまで、話の輪の中に入ってこなかったくせに、下ネタが出ると「ウヒャウヒャウヒャ」と素敵な笑顔を浮かべ突然、話に参加したりする。いいところは伸ばしてあげねばなるまい。

そんなある日、『週プロ』をパラパラめくっていると衝撃的な写真が目に飛び込んで来た（右下）。

見てみぃ、このマヌケ面！　腹を抱えて大笑いさせていただいた。おまけにペンネームが「ぴのこ・まっき」（?歳・東京都）だあ？　バンビ・バートンチョロなどというさえない偽名を持つチョロだが、この名前は笑えない上に意味不明。

「い、いやぁ、ちっと、違うんですよ。ちっと、それは彼女が送っちゃって、ちっと。『ぴのこ』ですか？　ちっと、それはボクのあだ名なんですけど……」うろたえまくってもはや言葉にならない様子。『週プロ』に載ったことのないボクらには未知の領域だが、このページに載るのはそんなに恥ずかしいことなのだろうか？　それよりも「ぴのこ」というあだ名が満天下に知れ渡ったことのほうが恥ずかしいのだろうか？　多分、後者だろう。

その数カ月後、今度はバカの先輩・中村カタブツ君（35歳）に関する衝撃的なハガキが編集部に舞い込んだ。差出人は埼玉県の佐藤恵一君。

「『週プロ』744号、投稿コーナー「リーダーズぼいす」に掲載されている「リングス6・29NK大会」という「北斗への伝言」（『紙プロ』本誌9号参照）ばりの作品を書いた「中村隆治・33」とはカタブツ君のことですか？」というタレコミだ。さっそく、本人に確認を取ると、顔を真っ赤にしてうつむいてしまった。

その、あまりに衝撃的な内容だが、リングスに登場したモーリス・スミスに対するどうにもならない思いを綴っている。「スミスのキックの実力が落ちてきているという認識以上に、打撃というか立ち技格闘技全体が"強さ"という価値観において低下している」などといけしゃあしゃあと書いていたりするから、もち必読（＝べつに読まなくもいいの意・Show氏用語）。打撃批判やリングス批判を繰り広げ、さんざん大風呂敷を広げた後で、その後「これは打撃を信じていたはずの自分に対する文句だ」と、主張のスケールを一気に落とすシメとなっている点にも注目。

この2人に共通するのは、『週プロ』に登場したという事実だけではない。チョロにしても、カタブツにしても、あまりにも隙だらけな行為を『週プロ』誌上で繰り広げておきながら、我が社ではそういう部分をひた隠しにしようとすることが一番問題なのだ。2人とも、むしろ『週プロ』に出た自分こそが、本来の自分なのだ。この2人のダメ人間が立ち直るにはどうしたら良いか、『紙プロ』編集部は本気になって考えた！

あなたの周りにも「『週プロ』に載ったときには、あんなに元気だったのに、いまはどうしちゃったのだろう？」っていう人はいませんか？　わかりました、『紙プロ』がみんなまとめて、そんな人たちを救済しましょう。『週プロ』に載るのは決して、恥ずかしいことではない！　読者の中にも『週プロ』に載った過去を隠して、後ろめたい人生を送っている人はいないだろうか？　だとしたら問題だ。

結論から言うと、また、『週プロ』に載ればいいのだ。どんなページでもいいから、みんなで『週プロ』に載ろうじゃないか！　そうすれば元気になれるはずさ！　というわけで、『紙プロ』編集部は責任を持って、チョロを立派な『週プロ』常連投稿者にしてみせます！　読者のみんなも一緒に頑張って載ってくれ！

というわけで、唐突に新コーナー登場！　題して「千里の道もぴのこから」

【ルール】
本誌・松澤チョロこと「ぴのこ・まっき（?歳）」と一緒に『週プロ』に載って、本当の自分を取り戻そう！　読者の人は『週プロ』に投稿する際は、ペンネームを使用してください。ペンネームは必ず「ぴのこ・●●●」というかたちにしてもらえると、より一層盛り上がるはず。載ったら報告して下さい。

あぶない木曜日

ホットライン　投稿ルール

ホットラインでは「文…明記の上、〒101東京都…します。なお、写真の…

投稿コーナー　リーダーズ・ぼいす　VOICE

リングス6・29NK大会　千葉県・中村隆治・33

6月29日のリングスNK大会は田村の大会だった。メインの山本VSモーリス・スミス戦はほとんど霞んでしまった状態だ。田村の初試合というだけでなく、話題的にもいま一つ訴えるものがなかった…

…い。
別にこれは、スミス批判ではない。打撃を信じていたはずの自分に対する文句だ。空手（打撃）こそ最強と信じていた「空手バカ一代」世代の自分に対するふがいなさに腹をたてているのだ。山本が勝って当然？　何言ってるんだ。グロ…

「週刊プロレス」NO.744号より。よりによって一番ダメなヤツの原稿が載ってしまった。これでNO.744号にプレミアが付くことは必至である

私のPHOTO自慢　きっとまた逢…

ぴのこ・まっき（?歳・東京都）
97・9・26／東京・代々木八幡会館
☆ビデオ上映会のオークションでヨネのTシャツ&トレーナーをGET。サインももらいました。

『週刊プロレス』NO.838号より。これまたマヌケ面全開のバンビ・バートンチョロことぴのこ（?歳）。これは入社後に発売された号だったので、かなり話題になった。

「それって立つの?」な募集!

ハガキ道場では、いろんなハガキを募集しま～す。

- ●本誌へのご意見、ご感想
- ●楽しいイラスト
- ●匿名リサーチ2000XXに聞きたいこと
- ●マヌケなダジャレ
- ●ぜひやってもらいたいカウントアップ・グル～ヴのテーマ
- ●紹介してほしい同人誌

などを送ってください。ちなみに合言葉の「ちっと、ちっと」を明記して下さい。宛先は
〒151－0051渋谷区千駄ヶ谷3－11－3－702
（株）ダブルクロス「ハガキ道場」係まで

ハガキ道場 ドスコイ番付表

順位	名前	点数
1位	中川雅博	18点
1位	うしえもん	18点
3位	いつかは君も18歳	16点
4位	塩本祐介	10点
4位	武田いづみ	10点

ここはマット界の著名人が『紙のプロレス』本誌のバックナンバーをおすすめするページです。指名手配じゃありません

WANIMAGAZINE MOOK
世の中とプロレスする雑誌
リニューアル
紙のプロレス
9
1994
ターザンに憧れ！
特集
『週刊プロレス』とは何か？
さらば！
みちのくプロレス
糸井重里
大仁田厚

『紙プロ』表紙史上の金字塔　第9号
表紙モデル　ターザン山本さん

おい！
この表紙はいいな！
85点ですよぉ～
バン！バン！バン！バン！
（と机を叩く）

プロレスファンの心に
放火する男
ターザン山本さん
（編集評論家）・談

ちっちゃい版型の『紙プロ』本誌は毎号、ターザンの原稿やインタビューが読めるんです！

だから、これが購入方法なんですよぉ～!!

○定価は『紙のプロレス』5、8、9号は700円、11号～22号は780円となります。『猪木とは何か？』は1320円、『極真とは何か？』は1530円となります。この9号以外にもバックナンバーも通販してます。ドンドン注文してください。内容は古本屋で立ち読みして確認してください。
○送料は1冊＝310円、2冊＝340円、3冊～4冊＝450円、5冊＝520円、6冊以上＝700円となります
＊なお1号～4号、6号、7号、10号、『大山倍達とは何か？』は完売しました。残念でした。
＊10号、『大山倍達とは何か？』は書店やプロレスショップで探せば若干残っているはずです。頑張りましょう。
○ちなみに本誌23号はカッパが川でおぼれる季節に発売予定！

〈申し込み方法〉
●現金書留　〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
（株）ダブルクロス「本誌バックナンバーなんですよぉ～係」まで
●郵便振替　00130-3-769154　（株）ダブルクロス

紙のプロレス RADICAL
No.10
1998年7月15日発行
定価：本体648円＋税

発売元：株式会社ワニマガジン社
〒160-0014　東京都新宿区内藤町一番地
TEL.03-3357-2911（販売・営業）
発行元：株式会社ダブルクロス
〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
TEL.03-3403-5188（編集・制作）
編集兼発行人：山口日昇
編集スタッフ：坂井ノブ／松澤チョロQ／吉田豪／八木賢太郎（梅雨はうっとおしいので非番）
助っ人：寺島ジャイ子／恒遠バカツネ
デザイン：ツースリー（出田さん、村松さん、ヒサくん、マツ、出前持ち入江、古川ゼリー）
カメラマン：斉藤ユーリ／戸成ぶつぞう／松永源さん／浜田孝一／遠藤政文
お勘定：林ヘックション一枝
ケツの小さな穴：中村カタブツ君（35歳）
フィニッシュ：ツー・スリー
印刷：図書印刷株式会社

編集内容等に関するお問い合せは（株）ダブルクロスにしてチョンマゲ♥

紙のプロレス RADICAL
No.11は
8月下旬
発売予定
※地域によっては多少発売が遅れます

突撃！ となりのマット界

プロレス界から足を洗った方が楽になれるぞぉ デヘヘヘ……

あ、ちっと、そのぉ ……や、やだ！

モデル・「ダメ街道」の歩き方をセミプロのチョロに伝授する中村カタブツ君（35歳）

リングの汁 RADICAL

花くまゆうさく

ウゴが負けて悲しむウゴラーの作文

ということで、5代目タイガーマスクはサスケではなく、プロレスマニア館強盗犯のSくんに決定! もちろん得意技は女子店員にお見舞いしたエルボースマッシュ♥ 出所後、どこかのインディーが声かけないかなあ……。

昔のおもしろかった黄金時代の『浅ヤン』なら、出所後のSくんに大日本のテストを受けさせたよな、絶対。あーあ、昔のおもしろかった『浅ヤン』を返してくれ、テレビ東京!

昔おもしろくて、今ぜんぜんダメなのは『浅ヤン』だけではない、プロレスもそうだ。と思っていたが、こないだ久々におもしろく感じました、5・1で。

5・1といっても、もちろん全日ドームではない。大日本の戸田大会です。会場で見たわけではなく、テレビで紹介されたのを見ただけなんですけど、なにか熱くなるものを感じました。

「話題になるもんならすべてに手をつける」、「利用できるもんはすべて利用する」といった小鹿社長のじつにわかりやすい経営方針で、これまで狂い咲きサンダーロードをなんども脱線・転覆・エンスト・ガス欠しながらも爆走しつづけてきた大日本プロレスのこれまでの集大成のような感動的な祭りに見えました。

いままでのデスマッチをすべて合体させた今回のデスマッチは、TV版『侍ジャイアンツ』の最終回でこれまでの魔球を全部合体させたミラクルボールのようで、もう終わりじゃないかと冷ややかな目を向けていた人も多いと思いますが(私も最初はそう感じてた)、しかし! 子供の頃の我々はあの最終回に熱くなっていたではないか。いくら年食った30の大人になっても、単純な男であることは永遠なのである。実際、こないだ衛星放送で見た『野球狂の詩』で広島を自由契約になりボロボロになった武藤兵吉がバックネット裏の席から「あった、あった」「ドリームボールはあったんだよ」と叫ぶシーンは、子供の頃何度も見たにもかかわらず、私は30才の現在でもまた泣いてしまっている。それでいいのだ。

そんなことで、こないだの大日本もデスマッチアイテムに自ら次々とつっ込んでいく松永らの熱い姿や、全日ドームがあるにもかかわらず戸田にやってきたファンの男たち、これらみんなが一体となりグルーヴを巻き起こしたこの大会の姿には、テレビでチラッと見ただけにもかかわらず私の中に熱いなにかがこみあげてきたもんです。

普通の人生を放棄した捨て身の凄みがにじみ出る男たちのバカ祭り(もちろんいい意味。バカにしてる訳ではない)のようでありました。この男祭りに当日行かなかったことを、私はちょっぴり後悔しています。

開き直って捨て身になった男といえば、今の高田もそうなりつつある。松永がデスマッチアイテムにつっ込んでいくように、高田は去年のヒクソン戦から真剣勝負の世界につっ込んでいった。こないだの『フライデー』で紹介されていたマルコ・ファス道場で、次々に関節技を極められ、うめき声をあげている姿はブザマすぎる。逆に評判のよかった桜庭とは大違いである。

〝最強〟を売りにしてたUインター時代からは信じられない正直者ぶりだ。しかし、カッコつけスカしていた昔より、ブザマだがフルチンでムキ出しな今のほうが、ほんの少し魅力が出てきたと感じるのですがどうですか、みなさんは。

しかし、今度の6月の相手が、いかにもかませ犬っぽいのは気に入らないですけど……ズバリ言ってあいつは、ただ体のでかい柔術白帯ではないのでしょーか?

しかし、過去かませ犬が勝った例はいくらでもありますからね。大日本もフレジャーにKOされちゃったし……。

花くまゆうさく■今年結成され、浅草お兄さん会でもうすでに2回優勝しているニトログリセリンは素晴らしい。加賀谷と同じく阿蘇山大噴火は、そのキャラだけではなく、ちゃんと喋れるところが感心である。大川興業の道場のレベルの高さがうかがえる。

ヒックスヴィル 木暮晋也の

メガネから見たプロレス!

小さい頃からプロレスが大好きだった。親も好きだったので、中継が始まると家族全員で1台の小さなテレビを囲んだものだ。それが食事中でも、箸を一旦置いて「よっしゃ〜」「やってしまえ〜」と超本気で応援し、心は正しくリング上という感じだった。試合が終わる頃にはすっかり料理が冷めてしまっていたが、プロレスを見て楽しんだという満足感でお腹いっぱいだった。子供だったので合体ものアニメ、例えばコンバトラーVやボルテス5、ガイキングなどと、仮面ライダーやキカイダーなんかも当然好きでおもちゃも持っていたぐらいだが、プロレスのおもしろさにはかなわなかった。プロレスからは、なにか特別なエネルギーを感じていたし、今でもすばらしい試合を見終えると、1本のおもしろい大作映画を見て感動するのと同じような気持ちになれる。

そんなプロレスに夢中だった小学生時代には、休み時間が来ると決まってクラスメイトとプロレスごっこをしていた。相手は自分より少し背が低くてタフなやつ。というのは、背が低いと技をかけやすく、体力があれば多少深く技が決まってしまっても相手は痛がらないから。コブラツイスト、さそり固め、卍固め、キーロックなんかが得意技だった。スープレックスやバックドロップはさすがに危険なので出来なかったが、ある時僕のエルボーが仲のいい友達にクリーンヒットしてしまい、大ゲンカになったことがあった。そんなこともあって、その頃の通知表には「友達との争いごとが多いようです。仲良くしましょう」と書かれたりしていた。まあ、それほどプロレスに夢中になっていたのだろう。

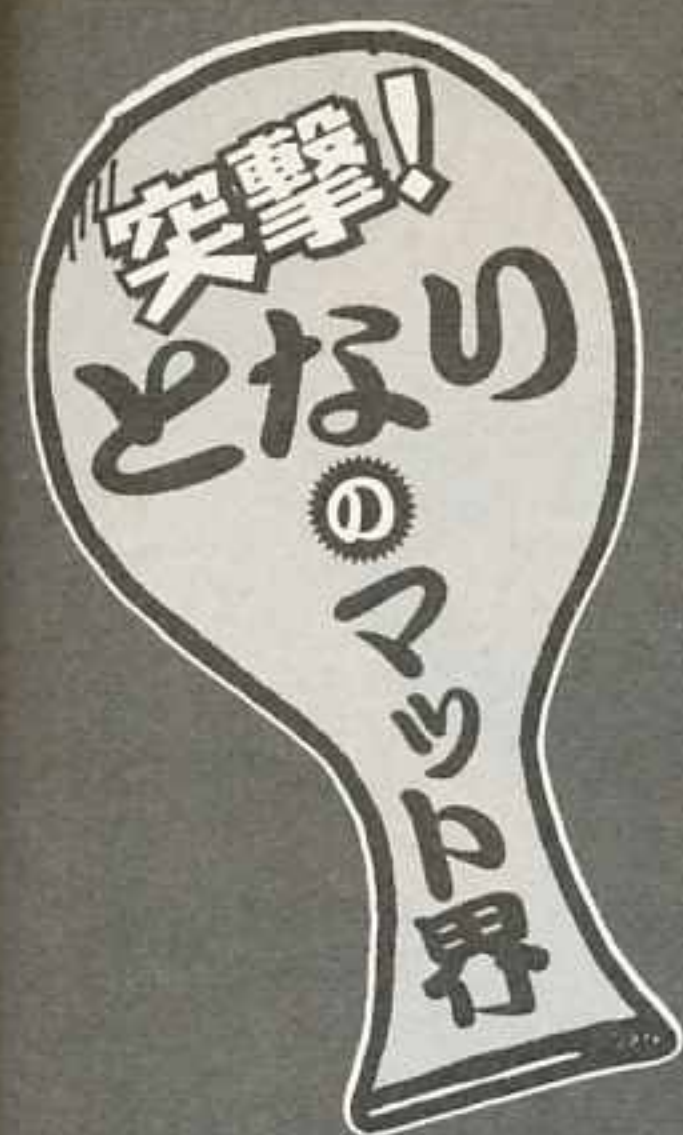
<ヒックスヴィルのリリース・スケジュール>6/20　4曲入りコンパクト・ベスト『こんな晴れた日には』発売!
未発表ライブバージョンの「バイバイブルース」、「ライダー」を収録

先日、アントニオ猪木が引退したが、ずっとファンだったので、さびしかった。もしかしたら猪木がいたからプロレスが好きになったのかもしれない。アゴの先からリングシューズのつま先までカッコ良かった。リングに上がって、ガウンを脱ぎ捨て、首に巻いたタオルをまるでヌンチャクをあやつるように見せる猪木。ちょっと前まで、その時七色の紙テープがリング上を舞っていたが、今はなくなってしまった。そのテープをちぎる猪木のしぐさも良かったのだが。そのちぎり方で、その日の闘志の強さを計っていたりしたものだった。試合の見どころはそんな小さなところにもたくさんあったのだ。リング上の猪木はもういないが、日本のプロレス界には、この先いつまでもその炎が消えることはないと思う。

まあ、こんなふうに僕の人生の中で、僕なりに楽しんでいるプロレス。これからどんなふうに変わってゆき、どんな出会いがあるのかとても興味深い。一生見続けさせてもらいます。

木暮晋也（写真左）■1966年生まれ。バンド「ヒックスヴィル」のギタリスト。その独特のキャラクターから各方面で重宝がられている。見た目とは裏腹(?)にじつは筋金入りのプロレス&格闘技好き。バンドは現在サードアルバムのレコーディング中。

突撃! となりのマット界

突撃！となりのマット界

21世紀型素人投稿ページ

PRIDE.0 ゼロ

6月24日は『PRIDE－3』。10月11日は『PRIDE－4』。『PRIDE－0』は何回やっても『PRIDE－0』。ちなみに右手 に見えるのが掲載者に送られる『紙プロ』認定・ライセンスカードです。ホントにたくさん作りすぎてしまったので、ジャンジャカ応募して下さい。

※これは実用化する前のデザイン状態のものです

紙のプロレス 認定
読者 ライセンス No.3
NAME 武田いづみ

前号の結果発表！

作品	得票
ライセンスナンバー0／中村カタブツ君（35歳）『いっつぁ〜Showた〜いむ』	66票
ライセンスナンバー1／武上康夫さん（22歳）『スコット・ノートンとは何か？』	66票
ライセンスナンバー2／佐藤耳男さん（19歳）『神様論』	48票
ライセンスナンバー3／武田いづみさん（17歳）『高原の空気』	91票

「この人は女子高生のステータスをあげたね」「武田嬢といい千春といい女子高生はまこと国の宝です」「一番次も読んでみたいと思った」「一緒に風呂に入ろう！」「援助交際希望！」等々の感想が寄せられた武田いづみさん（17歳）の『高原の空気』がぶっちぎりで1戦勝ち抜きという結果になりました。敗れた人たちも、ビバリーヒルズ柔術クラブに通うなどしてリベンジするべし！

「待ってるよ、カタブツ君（35歳）」

1戦勝ち抜き
ライセンスナンバー3

『プロレスのこと？』

千葉県 武田いづみ（17歳）

唐突だが、「全てのものは、プロレスに通じる」と思う。通じるから何だよっていうのも確かにそうだが、通じるものによっては、プロレスのいろんな部分が見えてくる。間違いない。

「ものによっては」と書いたが、それは例えば、ガチャガチャである。正式名称を知らないので、こういう呼び方しかできないが、100円入れて、レバーを回すと、丸いプラ容器に入ったオモチャが出てくる、あのシロモノ。私はついやってしまう。そして、顔の崩れたジャッキー・チェン…？のキーホルダーや、ACASIO（赤潮？）と書かれた、絶対防水しそうにないダイバーズウォッチを手に入れては喜んでいる。しかし、アレにもアタリハズレがある。ガチャガチャというものは、100円入れても、必ず欲しいものが手に入るわけではない。

ほら、このへんでガチャガチャとプロレスが通じていることを、少しおわかりいただけたかと思う。わかんないか？

プロレスにも同じことが言える。チケットを買ったところで、必ず自分が望む試合が観られるとは限らない。いくらあなたが、「感動させてよ！」と言っても、そこに絶対はない。つまらないハズレの試合になるかもしれないし、予想外の大アタリな試合が観られるかもしれない。しかし、それは始まってみるまでわからない。

再びガチャガチャの話になるが、最近ガチャガチャ業界（？）の方でも変動が起きているらしく、200円モノが登場した。この200円モノは文字通り200円なのだが、出てくるものも完全着色済みのガンダムや、仮面ライダーで、やたらクオリティーが高い。そりゃもちろんやってみるのだが、オモチャ自体はよくても、何か足りないと感じた。何か……？

100円モノと200円モノの大きな違いは、値段もそうだが、「ハズレがない」ことだ。言い換えれば、「全部アタリ」。

足りない「何か」の原因は、ここにあるらしい。出るものがわかっているので、スリルがない。ドキドキしたりもしない。これではまるでお買物ではないか。金を払って欲しいものを手に入れるだけでは、ガチャガチャの意味がない。

全部アタリなら損はしない。が、逆に言うと、損もしなければ得もしないことになる。200円入れて出てくるものは、予想通りで200円以上の価値はない。

なんせ「全てのものは、プロレスに通じる」のだから、無論この部分も通じている。

プロレスが〝200円化〟しつつある。チケットを買って、会場へ行き、「予想通りの試合」を観る。安心しきった流れ。戦いを観るにあるまじき空気。

昔から、「予想通りの試合」というのはあったと思う。しかし、全ての興行が損も得もないものになってしまったら、あなたはそれでも熱狂できるだろうか。

プロレスに金を出すのは、ある種のギャンブルだと思う。コンサートや演劇のように段取りの決まっているものではない。それでも観たい。それはアタリかハズレかわからなくても、ガチャガチャをやってしまうときの気持ちに似ている。

何が起こるかわからないのがプロレスなら、ハズレもあるが大アタリもあって、何がどう出るかわからないのが本来の姿ではないだろうか。プロレスは、お買物よりはギャンブルであってほしい。「いつでもアタリ」の試合が観たいのではなく、「大アタリ」が観たい。

私なら、アタリしか出ないものよりも、ハズレがあっても大アタリが出る可能性に金を出す。で、こんな感じ。

――ガチプロ？ それを含んだものが〝ガチャプロ〟だよ。

いつ、何時、誰の投稿でも受ける!!

（バンビ・アントン・チョロ）

ライセンスナンバー 4

『闘わずして勝つ鈴木みのる』

神奈川県 岡崎晶士（32歳）

「闘わずして勝つ」。鈴木みのるは凄いレスラーである。

闘わないレスラーは一体何をするのかと思いきや、マイクを持っていた。何やらでっかい夢があるそうだが、紅白の司会でもやりたいのか。はたまたニュースキャスター!? 『週プロ』も立派である。「闘わないレスラー」鈴木みのるの良さをわかってらっしゃる。4・26横浜文体の興行「良かったのは柳澤が勝った事と鈴木のマイク」と書いてしまうあたり流石としか言いようがない。全日の武道館で、「良かったのは鶴田が勝った事と木村のマイク」なんて事ほざいてる奴がいたら俺は呆れるね。「肝心の試合みてんのかよ！」と言いたくなるのが人情だ。しかし、パンクラス横浜文体の試合結果は、全試合ダウン0、エスケープ0。九試合中KO、ギブアップで決着がついたのはたったの二試合。残りは時間切れ引き分け判定。観客も消化不良に陥ろうというものだ。

そこで鈴木のマイクの重要性が、俄然クローズアップされてくるのである。

以前IWAジャパンの後楽園を見に行ったときの事。メインの竹槍デスマッチも不発に終わり、「あーつまらん、どこで飯を食おうか」などと考えていたらいきなり、セミで若手を秒殺（反則負けだが）した上田馬之助が、包丁を振り回して客席から乱入してくるではないか！ 観客はパニックに陥り、その日最高の盛り上がりとなった。馬之助のプロ根性見事なりである！

だらけた興行を一本の包丁でしめてしまうとは……まさにプロである。そして、鈴木みのるもプロである。

攻防にたいした見所もないまま終わった鈴木の試合。ここで鈴木は考える。「盛り上がってねーなー」。そこでまず、判定勝ちだというのに殊更大きなガッツポーズ。「なんだあいつ？」こう思った時点で、客は鈴木の掌に乗せられてしまっている。「ぼちぼちいくかー！」。のど自慢で勢い込んで歌い始める若者のように、鈴木はマイクを持つ。ここからはまさに「みのるオンステージ」。ナイフネタなど時事流行を盛り込む構成も計算済み。闘わずして勝つレスラー、鈴木みのるの真骨頂である。「試合は凡戦だってなー、俺にはマイクがあるんだよ！ でっかい夢があるんだよ！」凄い奴だぜ鈴木みのる！ ありがとう鈴木みのる！ 翼をください鈴木みのる！

観客は興奮の坩堝!? 試合統計タイムが二時間弱なのに、四時間のロング興行になったのは鈴木の努力の賜であろう。「秒殺ばかりじゃ芸がない。たまにゃ膠着でいこう」てなものだ。プロデューサー的な素質もうかがえる。選手の欠場は日常茶飯事のパンクラス。これもマンネリ防止策と考えれば納得がいく。いかねーか。まあいい。このへんも鈴木みのるプロデュースであると俺は考えている。

いつの日か、パンクラス会場に「マイクコール」が鳴り響くであろう。その時こそ「レスラー鈴木みのる」の完成である。「闘わずして勝つ」。奥が深いぜ鈴木みのる！

ライセンスナンバー 5

『男を探してブラリ旅』

埼玉県 恒遠聖文（25歳）

本物の男たちは何処へいったのだろうか？ 最近のVシネマに出てくるチンピラ俳優の寝ぼけたような面をみてもちっとも男は見当たらないし、マット界を見渡してもリングで闘っている人間よりも、リングサイドで解説している今年引退を控えた56歳のほうが精力漲る表情をしているのが現実である。まったくもってポスターにしてもTシャツにしても絵にならないような輩ばっかりである。（そんな中、前号の表紙の高阪はVIVA！ッス）そんな連中が溢れる中、先日私は総合不良雑誌『BURST』の取材で本物の男と出会うことが出来た。その男とは〝喧嘩プロレス〟二瓶組の組長であり500戦無敗、喧嘩十段の二瓶一将様その人である。

組長の〝男っぷり〟はピラニア軍団の志賀勝ばりの額の剃り込み、手には金銀財宝、縦縞のスーツにサングラスという梶原一騎を思わせるような素敵ないで立ちを見てもらえば分かっていただけるだろうが、そのうえ組長は高級外車を運転し（実は車マニア）、その助手席には超美人マネージャー（ダイアナ）を座らせるという羨ましいことこのうえない、現存する男の中の男である。

組長は弁も立ち、大いに楽しませていただいたのだが、詳しいことはその雑誌を見てもらうとして、一番印象に残ったのは、組長の口から出た〝地下プロレス〟という言葉である。『悶プロ』『マンガ地獄変』読者ならすぐにピンとくるであろうこの梶原用語。プロレスラーの口からこんな素敵な言葉が飛び出すとは思ってもみなかった。プロレスマスコミが大嫌いの組長は、「マスコミに載らなくていいから人がやらないようなことをやりたい、マニアだけが来てくれればいい」とのことらしい。

ところで「喧嘩、知っていますか？ 二瓶組は知っています。喧嘩、しています。」というのが二瓶組のキャッチ・フレーズである。実際、二瓶組はストリート・ファイト500戦無敗の組長をはじめ、キック・ボクシングでインディアナ州認定暫定王者に輝いた者など猛者ぞろい。先日も後楽園ホールであったキックの試合に出場した二瓶組組員を見た某格闘技系雑誌の記者が驚き、「二瓶組ってイロモンかと思ってたけど、凄いんだね！ 『週○○』なんかに載らなくていいじゃない、『格○』に載せるよ！」と言ったそうだ。

「キャラクターに走ってるからといって弱いと思われるのは嫌だ」と組長は語るのだが、ここまで特異なキャラが揃っているとそう思われる危険性も大であろう。実際に会場で組長に殴り掛かって来た客もいたようで、もちろんそんな命知らずの輩には組長の鉄拳制裁が下ったようであり、プロレスラーをなめた天罰である。そして「絶対素人には負けらんないし、相手が10人いてもやるし、絶対負けないっていうふうにいかないと明日からリング上がれないし、いつ、どんな時でも戦闘体勢をとってないといけないから」とおっしゃる組長はプロであり男ッス。

因に組長はサングラスを取ると鋭い眼光。最後の日本兵小野田さんだったらこう言うね「あなたの眼は闘う眼だ」と。また、組長は日常通りの極道スタイル以外にも元帥スタイルで登場する場合もあり元祖極道小鹿社長とのコスプレ対決も見てみたい。

さて、「本物の男たちは何処へいったのだろうか？」と文頭で自問自答してみたが、いるとこにはいるもんである。ただ世が世だけに陽の目を見ていないだけなのだ。今回の組長との出会いは私にとってカルチャー・ショックだった。これを機に私は男を探す旅に出てみようと思う。これは反文明的な行為かもしれないがやってみる価値は大いにあるようだ。（勝手につづく）

PS 橋本と中西も出演したVシネマに『極道プロレス』という作品があったが、二瓶組長と小鹿社長主演で今すぐ撮り直すべきだ。

写真：武闘派カメラマン菊地茂夫

ビジュアルライターまだまだ募集！

今回参戦の3名の中から、あなたのお気に入りの作品を1つ選んで下さい（応募方法はP143参照）。その結果1番支持を得た選手は1戦勝ち抜きとなり、自動的に次号参戦が決定します。見事5戦勝ち抜いた暁には、本社規定の原稿料をお支払いします。また掲載者全員に㊙プロレスグッズをお送りします。

なお『PRIDE－0』では、随時、参戦希望選手を受け付けています。応募要項は400字詰め原稿用紙3枚～5枚程度。内容は少～しでも「プロレス」にかかっていればOK！ さあ来い！ あなたのユニークなプロレス論を誌上で大爆発させてみませんか？ 住所、氏名、年齢、電話番号を明記の上（本人の顔写真があればなお良し）。

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
（株）ダブルクロス『紙プロ』編集部「光合成完了」係 まで

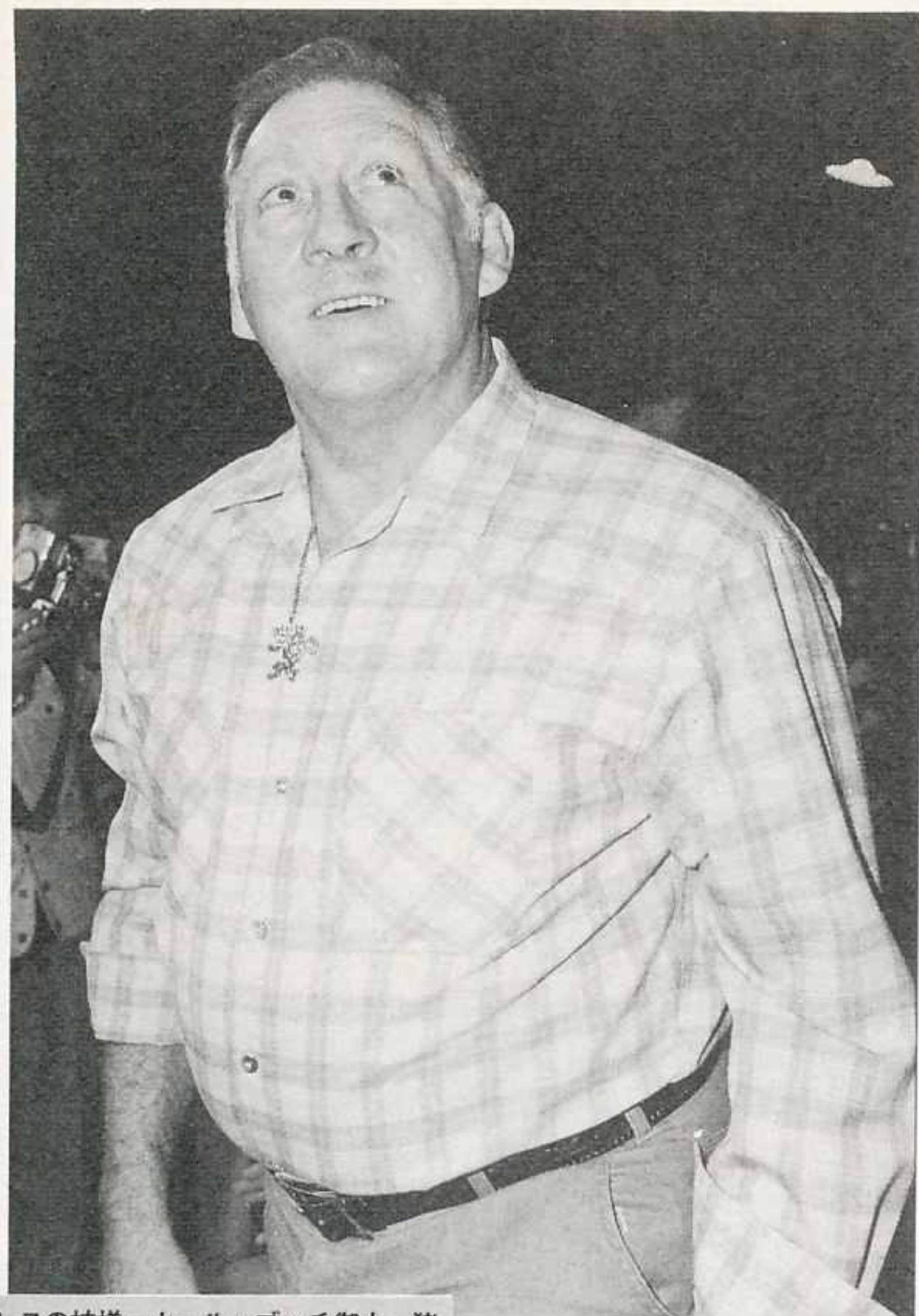
締切は7月15日（当日消印有効）作品が郵送途中で折れ曲がることのないよう注意して下さい。寝ないで待ってます。（バンビ・アントン・チョロ）

圧倒的なスケールで読者に挑むビジュアル巨編

プロレス界の どうでもいいことを どうでもいい態度で どうでもよく迫る！

ザ・検証 UFO

構成／椎名基樹

4月4日、飯塚実（芸名ダンカン。元TPG）はどこに!?　と、いうわけで、引退した猪木が立ち上げた団体UFOとは何か？　猪木は、UFOは、一体どこに行こうとしているのか？　そこで、今回の『ザ・検証』はそれとはまったく関係なく、独自のルートで入手したUFO写真の真偽を確かめてみることにした。下らねえ？　でも、やるんだよ!

プロレスの神様・カール・ゴッチ御大。猪木の提唱する『格闘芸術』の根底をなすものは、やはりゴッチイズムであろう。プロレスファンの最強概念の根底もまた、ゴッチイズムに支えられている。また、脈々と流れるゴッチイズムに「あだ名を付ける」がある（宮戸＝スカンク。小川＝モーちゃん等）。ＵＦＯは多分、本物です。

ザ・オリジナル・ＵＦＯの３人。数年後、ＵＦＯの掲げる、闘いのコンセプトが世界に浸透した時、この闘魂棒を持った写真は、ＵＦＯが何たるかを知る、貴重な一枚となるでしょう。オリジナル健康法＆鍛錬法開発は個性的で強い男のもっとも重要な特徴です（金やんの棒ストレッチなど）。ＵＦＯは、多分本物です。

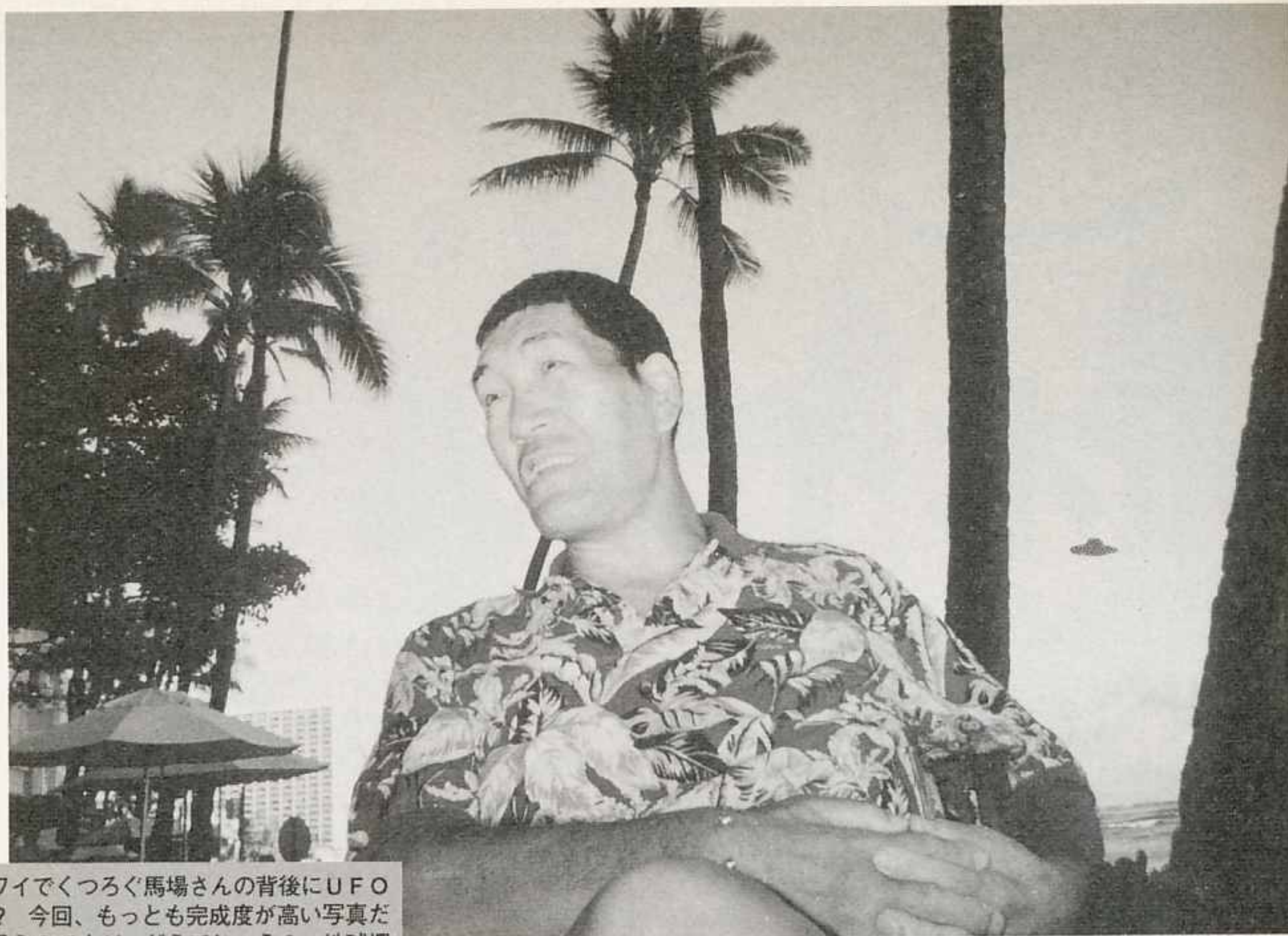
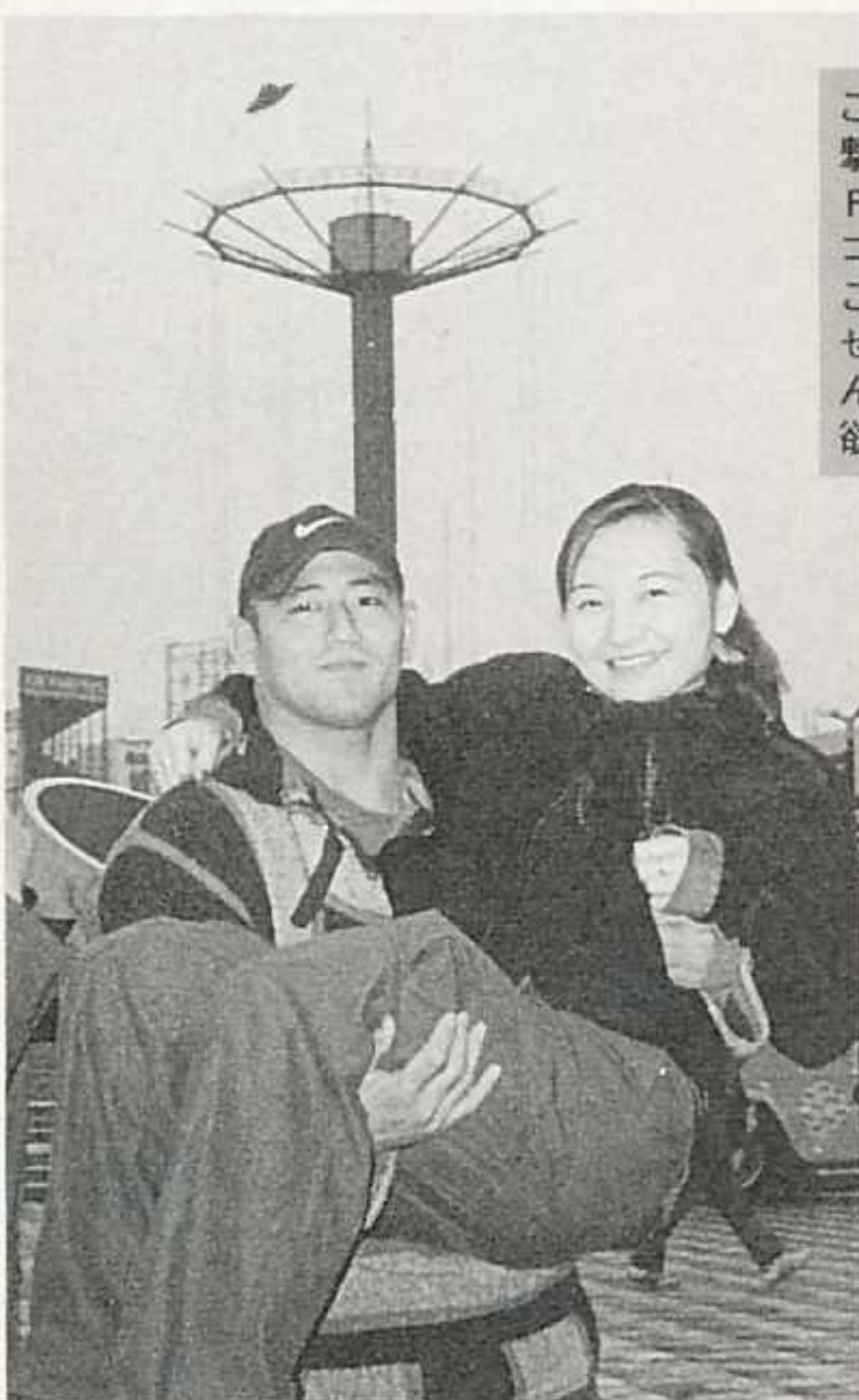
今まで、ＵＦＯの３人がリング上で起こした事件の中で、一番面白かったのが、このシーンだった。止めに入った、スーツ姿の佐山先生も良かったし、乱闘後のインタビューで「あいつ、許せねえよ」と、拳を手の平に打ち付けながら話す小川も「試合前に負けることを考える奴がいるかよ事件」の坂口を思い起こさせた。ＵＦＯは多分本物。

ぎょぎょ、ＵＦＯの上にＵＦＯが!?　ごめん、ただそれだけです。に、しても大阪ドームって他のドームに比べてどうしてもコミカルですね。さすが、大阪です。フランチャイズが近鉄ってところが、もうどうにもならなくて好きです。ここで、東尾ＶＳデービスの決着戦をどうでしょう？　ＵＦＯは多分、本物です。

天久聖一の
ニセスーパースター列伝

情熱の実験マウス

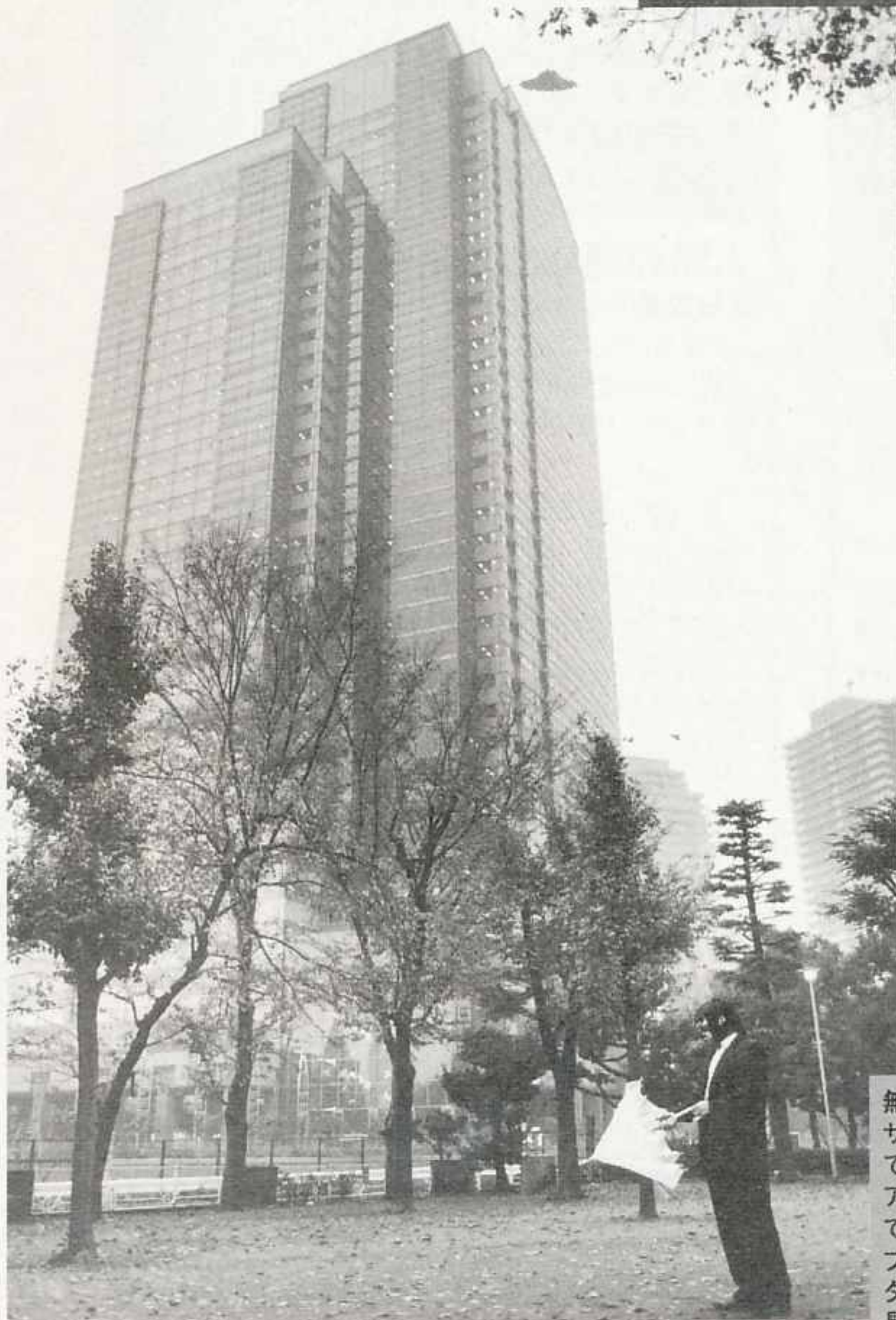
カタブツ=コルサドーレ

92年、某国の人体実験から逃れてきた、噂の童貞大学生というふれ込みでデビュー。黄ばんだブリーフにミッキーマウスの耳、背中には無数の洗濯バサミという痛々しいコスチュームで話題を集めるも翌年、プロレス史上初の去勢デスマッチ（敗者は去勢手術）に敗北。引退を余儀無くされる。

ハワイでくつろぐ馬場さんの背後にＵＦＯが!?　今回、もっとも完成度が高い写真だと思うのですが、どうでしょう？　地球探査に出た宇宙人が、最初に目撃したのが馬場で、あまりのデカさに恐れをなし、地球が救われた。そんなストーリー。ところで、猪木の中で馬場批判が高まるバイオリズムってない？　ＵＦＯは多分、本物です。

ご出産、本当におめでとうございます。電撃結婚したお２人の、ラブラブ写真にもＵＦＯが!?　そんなことは気づかずに、ニッコリ微笑む２人が、なんとマヌケに見えることでしょう。まったく勝手な意見を言わせていただければ、強い子供をガンガン産んで、日本のグレイシー一家の祖になって欲しいものです。ＵＦＯは多分、本物です。

ＵＦＯ名誉会長の座に就任した、モハメッド・アリ氏。猪木とアリの関係は、私たち凡人の知るよしのない、巨大な運命の力を感じます。「猪木アリ状態」なんて単語が、残ってしまうところも、なんか運命的っス。２人の運命の行方には、まだまだ期待しています。ＵＦＯの写真は、ドームの広告用飛行船ではないでしょうか？

UFO的、あまりにUFO的な総括

UFOの動向はとても気になる。何が飛び出すかわからないから、とてもワクワクする。どんな闘いが行われるのだろうか？　興行としては、KRSのPRIDEシリーズのような感じなのか？　格闘技の祭典みたいな感じじゃか？　と、考えたフリをしてみたが、本当はどうでもいい。出された物をありがたくいただけば、まず間違いないだろう。UFOは本物です。ただ、気になることが一つある。それは「1、2、3ダァー!」はやるのか？　ということだ。

突撃！となりのマット界

無類のＵＦＯマニアとしても知られる、ザ・グレート・サスケ社長。猪木が借金してまで、アリを呼んだように、無理をしてアンダー・テイカーやサニーちゃんを呼んでくれた、サスケ社長。私見ですが、今のプロレスで何が嫌かっていったら、外人がダサイこと。ストーン・コールド見てえ！是非、お願いします。ＵＦＯはもち本物。

プロレス界の
どうでもいいことをどうでもいい態度でどうでもよく迫る!

こんな検証をしていたら10年持つ体が3年で終わってしまう

ザ・検証

突撃!となりのマット界

構成/せきしろ

卯木イズム~卯木とは何か?

猪木の頭文字である"I"を"U"に置き換えると、UNOKI(卯木)へと変化する。猪木が撒き散らしたUの遺伝子が、東北弁を操る外人タレント、ダニエル・カールのように関西弁を操るプロレス団体代表、卯木基雄の中に存在したのである! などという仰々しい前置きはさておき、『猪木イズム』ならぬ『卯木イズム』、そう、単なるダジャレを今回は検証してみよう。

猪木イズムを肌で感じたい、そう思った私は、さっそくそこそこの知り合いである卯木氏にアポを取り、取材の日時を決めた。そして当日、手土産(雷おこし)持参で事務所を訪れたが、なんと卯木氏は不在。仕方なく待つこと1時間弱。やっと卯木氏は現れ、私に開口一番こう言った。

「約束は今日じゃないで」

どうやら私が日にちを間違えたらしい。しかし、ここで素直に謝ってしまうのは簡単だが、それでは私の変なプライドが許さない。上手く卯木氏が間違ったことにして、平然と切り抜け、無理矢理取材の時間をつくってもらった。

さて、猪木イズムの根底には『祖父』の存在がある。年少の猪木に「世界一の乞食になれ」と教え、「大きくなったら何になりたい? 寛至、"ソ"のつくものがいいぞ」と猪木に「総理大臣」と言わせようとしたが、猪木が「ソバ屋」と答えたためにがっかりし、「ゾーリから点々を取ってみろ」と強引に「総理」と言わせたあの祖父がいなければ、今の猪木はなかったことだろう。卯木氏はどうなのか? そのあたりをまず尋ねてみた。

「生まれたときすでに母方の祖父はいなかったんや。父方の祖父に会ったのは一度だけ。それも臨終寸前。自転車にはねられてな」

祖父と言葉を交わしたことはないという卯木氏。卯木イズムに祖父の影響は皆無であった。「自転車にはねられて」というところが気になったが、次の質問へと切り換えた。

成長期の環境は人生に大きく影響するものである。大家族の子供は不良ばかりというのが良い例だ。猪木の場合、ブラジルでの生活が後の人生を左右したわけであるが、卯木氏の場合はどうであろうか。外国での生活経験はあるのであろうか。

「生まれも育ちも大阪。東京にきて3年」

闘魂卯木のハイスクール

A・猪木の歴史的名著『闘魂ハイスクール』を卯木でやったらどうなるか? 読者諸君が勝手に猪木と卯木を比べていただければ幸いである。

なるほど、これといって特筆する点がないような環境だ。しかし狭い環境で育てば育つほど夢はとてつもなく大きくなるものである。私は卯木氏の夢が無性に知りたくなった。きっと「世界平和」並の尋常でないほどの夢があるはずだ。夢を見すぎての失敗から生まれた猪木イズム同様、卯木イズムの答えがそこにあるのでは、そんな期待を込めて質問してみた。

「Jd'が大成功するのが夢や」

その中小企業の社長のような発言に、私は卯木イズムの神髄を見た! 会社第一主義。卯木イズムとは日本のサラリーマンのお父さん的主義なのである。卯木イズムは思いもよらないほど等身大であったのだ!

「そういえば昔は映画監督になりたかったなあ。いや、今もなりたい」

続いて付け加えられた言葉が、古いロックを聴いているサラリーマン、鉄道好きがこうじて屋根裏を鉄道模型部屋にしたサラリーマン、船長になりたかった思いから娘に海をもじった名前を付けてしまうサラリーマンなどのお父さん達と卯木氏をダブらせる……。頑張れ、日本のお父さん! 頑張れ、卯木代表! いつしか私は心の中で卯木氏を応援しはじめ、やがて卯木氏の姿が涙でにじんで見えなくなってしまった……。

というわけで、取材をもとに大幅な捏造を加え、それらしく書いてきたが、所詮『卯木イズム』はダジャレから生まれたもの。これ以上語るには無理がある。「卯木イズムとは何か?」その答えは読者諸君に委ねることにして、私は楽することにしよう。

検証 猪木vs卯木①

Q.新年早々、ワタシ大ショック! 担任が去年とまた一緒で、コイツが死ぬほどイヤなヤツなの。一年間の辛抱だと思って泣く泣く学校に行ってたのに、もうワタシ学校やめたいッ! 猪木校長、ワタシ本気だからネッ!! (千葉市の少女A・14歳)

義務教育だって退学しちまえ!

猪木校長のA.ウ~ン、マイったなァ。確かにドアが開いて目が会っただけでもムカッとくるヤツっているからね。何があったか知らないけど、キミの気持ちは察しがつくよ。私も中学時代、一度センコーをブッ殺してやろうと思った時があるくらいだから。

月並みな言い方だけど、一度腹を割って話し合うべきじゃないのか。案外"A子、オレは全然そんな気なかったゾ"って先生が謝る場合だってあると思うゾ。で、想像通りイヤなヤツだったら、退学する以外ないな。義務教育だからって構うことはないよ。イヤなものはイヤなんだから。

セクハラされたら訴えればよい

卯木校長のA.だいたい担任なんてどうでもいい。部下は上司を選べないのと一緒で、仕方ないことと割り切り、他の楽しみを見つけること。例えば男を作るとか。もしその担任にセクハラされているんだったら、訴えればよい。

★「義務教育だって退学しちまえ!」と熱い猪木に対し、クールな卯木。若者の楽しみ=異性という親戚の気のいいオジさんっぽい考え方が卯木イズムの原点なのか? また「セクハラ」「告訴」などと意外に卯木イズムはアメリカンだったりする。

検証 猪木vs卯木②

Q.猪木さんはUFOの存在を信じますか、そして宇宙人はいると思いますか?(滋賀 石川圭一 15歳)

人類の超能力も宇宙人並だぜ

猪木校長のA.残念ながら今まで一度もUFOを見たことがないんだよね。ただブラジルにいるとき、一度だけ空に光が走るのを見たことがある。今思えば、あれがUFOだったのかな……。しかし、宇宙人の存在は信じているよ。

もっとも、超能力ということでいえば、人間だって捨てたもんじゃないと思うぜ。その証拠に、イースター島の石像は、誰がどうやって運んできたのか、いまだに謎とされている。現代の技術でも解明されていないんだ。私は当時の人間は、あらゆる物体を無重力にする超能力を持っていたと思うんだけど、石川君はどう思う? それとも石像も宇宙人の仕業なんだろうか?

宇宙人に会いたいなあ。でも恐いなあ

卯木校長のA.信じます。いるに決まってます。この前見た『コンタクト』でもそう言っていた。宇宙人に会いたいなあ。でも恐いなあ。

★何かと話題のUFOについての質問。両者とも信じるという結果に。たぶん卯木氏が『ロストワールド』を見た後に「恐竜はいるか?」という質問をしたら「いる」と答えるであろう。宇宙人に会いたいといいながらも「恐いなあ」と呟く、卯木イズムは母性本能をくすぐる手段として有効だ。

検証

ショーに限りなく近いプロレス

I ♥ ブリーフ

ブリーフ

コントならコントでもいい。
世界一のコントを目指してみろ!

なぜ、ブリーフが出るかって? 「プロレスとは闘いである」という本誌の基本方針とは相容れないかもしれませんが、まあいいじゃねえか。「迷わず踊れよ。踊ればわかるさ!」ということで、本誌はブリーフの今後に注目します。

プロレス界No.1の正直者

冬木弘道

Interview

「あのね、八百長でも真剣勝負でもいいの。客が金を払って見にくればいいんだ」

今年のゴールデン・ウィークにエポックメイキング的な出来事が2つあった。ひとつは、FMW。プロレス興行のタイトルに日本で初めて「エンターテイメント」という文字が使われたのだ。いままでのプロレス団体が頑なに否定し、避け続けた文字を大場所の大会名に持ってくるFMWのがめつさは素晴らしい。もうひとつは冬木軍の大会で行われた『B1クライマックス』だ。バカバカしいコントとシリアスな試合の対比もおもしろかったが、試合後に今後の展望を真摯に語る冬木に熱いものを感じてしまった。というわけで、本誌の「プロレスとは闘いである!」という基本方針とは相容れないように見えますが、逆もまた真なり！　ここはいっちょう、エンターテイメント・プロレスについてとことん掘り下げてみたいと思います。

聞き手／吉田豪&坂井ノブ
Interviewed by Go Yoshida & Nobu Sakai
撮影／斉藤ユーリ
Photographs by Yuri Saito

検証

ショーに限りなく近い プロレス

――冬木軍は「お金がない、お金がない」って話を聞いていたんですけど来てみると凄い事務所じゃないですか。

冬木　そんなことないよ。お金ないよ。元気ないよ。

――ガハハハハ！　しかし、この『理不尽大王の高笑い』（フットワーク出版社）はホントに面白かったんですよ。

冬木　全然売れねえや。

――ガハハハハ！　こんなに面白いとは思わなかったですよ（笑）。

冬木　読んでないよ。チェックすると全部やらなきゃいけないからね。

――やった以上は全部任すってことですね（笑）。しかし、ホントに「日本のプロレスは全部アメリカンプロレスだ」ってはっきり書き切ってあるのは衝撃的でしたよ（笑）。

冬木　そぉ？　言ったことなんか覚えてないよ（笑）。

――「そぉ？」ってはっきり書き切ってるじゃないですか（笑）。冬木さんにそういう考えはあるわけですよね。猪木さんにしても馬場さんにしても、あれはアメリカンプロレスだと。

冬木　当たり前じゃん。プロレスはアメリカから来たんだから。

――でも、それはこれまで受け入れられなかったわけですよね、その意見というのが。

冬木　受け入れられなかったって言うより、そうしてたんだろ。

――マスコミとかがってことですか？

冬木　マスコミとか選手がさ。

――最近、武藤敬司選手とかが「猪木さんは超アメリカン・プロレスだよ」とか言い始めて、みんな理解し始めたと思うんですけど。あれはストロング・スタイルという別モノっていう考え方だったじゃないですか、いままで。

冬木　あっそう。

――「あっそう」って（笑）。

冬木　やってる人間は全部一緒なんだから。プロレスはプロレスだよ。プロレスは全部一緒だよ。中身は一緒だよ。

――だけど、それがすごい色分けされてるように見えるわけですよね。

冬木　色分けした方が商売になるから言ってるだけだよ。仕事だから、これ。趣味でやってるわけじゃないから。ダメだよ、間違えちゃあ。

――逆に言えば、趣味のように見せてるところもあったわけですね。

冬木　趣味に見せて商売にしてるだけだよ。すり替えてるだけだよ。全部商売だもん。

見に来た客でもあまりにマナーを知らない輩には、たとえ女性であってもきっちり制裁を加える冬木。この翌日の『東スポ』には「冬木、婦女暴行」とトンチの効いた見出しが踊った。冬木が「『東スポ』大好き」と語るように、きっと『東スポ』も冬木のことが大好きなのだろう

――冬木さんがすごいのは、こういうキャラクターになる前からプロレスは仕事だって公言してたじゃないですか。ふつう、その割り切りを見せていいのかどうなのかってところで葛藤してると思うんですよ、みんな。

冬木　そんなこと誰も考えてないよ。商売と趣味の区別がつかないヤツが多いんだもん、この世界。長生きしてきたヤツには特に多いんだ。

――ガハハハハ！

冬木　仕事ってものがどういうものかわかってないんだよ。

――それはつまり仕事に徹しきれないというか。

冬木　徹しきれないというか、理解できてないんだよ。ただ、頭で理解はできていないんだけど、身体は理解できてるんだよ。だから、試合はできるよ、そりゃあ。だけど、「どうなんだ？」って聞かれても言えないんだよ。

――それで建て前的な話ばかりになってしまうと。

冬木　そうだね。まあ、建て前でもいいんだけどな、仕事になってりゃな。

――だけど、中には建て前を言うのが仕事だと思ってる人もいるわけじゃないですか？

冬木　そんな人いるの？（笑）。

――ガハハハハハ！　どうしてここまで素直になったのかっていうのが単純に興味深いんですよね。これまで冬木さんが接した中で、プロレス観とかの影響を受けた人っているんですか？

冬木　佐藤昭雄。

――それは全日に入ってからですか。

冬木　アメリカに行ってからだね。

――〝シンジャ〟さんには、どういうことを教わったんですか。

冬木　全部だね、仕事。

――仕事全部（笑）。じゃあ、国際のときとギャップがあったわけですか？

冬木　ギャップなんてないよ。国際のときの若手なんか、みんなそこまでモノを考えないから。一生懸命やってるだけよ。強くなろうとか、うまくなろうとか、カッコよくなろうとか、そう思ってやってるだけよ。自分をどうするかとか、会社のことをどうするかとか考えるわけないよ。そんなヤツがいたら気持ち悪くてしょうがない（笑）。

――ガハハハハ！

冬木　ねえ？　練習で精一杯だ、みんな。1日5時間も6時間も練習させられて、終わった後は雑用させられるんだ。だから、アメリカに行って、一気に自由になってからだよ。そこで移動の時は行き帰り合わせて5、6時間あるわけじゃない。

――そこで佐藤さんと一緒に話をしたわけですね。

冬木　うん。そうすると、その半分は仕事の話になってくるわけよ。さらに向こうは日本語を知ってるヤツって誰もいないから、リングの上がそのまま練習なんだよ。もう日本語で言えばいいだけ。「お前、違うよ。ほれ、手が下がってる！　ちゃんと上げとけよ」って、怒鳴られて教えられたよ、試合中に。「練習だよ、こんなもん、失敗

プロレスを退化させるとUWFになる 進化させるとWWFみたいにショーに近くなる

してもいいからやってみろ！」とか言っちゃってんだから。

―ガハハハ！　じゃあ、そういう試合以外のもので、アピールの仕方とかを教えてくれる人はいたんですか。

冬木　そんなもんは教えるヤツはいないよ。いいか、アピールってもんは間なんだよ。いいか、プロレスは間を覚えれば自然とできるわけ。間っていうのは、「その間をどう潰すか」ってことだから。いろいろあんだけど、その一つとして派手に潰すときっていうのがアピールになってくるんだ。黙って潰すときもあるんだよ。「このバカ野郎！」「ふざけやがって」とか、口に出さないで心の中でしゃべっているのも間なんだよ。しゃべってるあいだとか、モノを考えているあいだっていうのは身体は絶対に動かないから。

―はい、はい、はい。

冬木　だから、「なんでもいいからしゃべれ！　そのあいだは絶対に身体は動いていないから。それが間になるんだよ」って。

―ほう、勉強になりますね（笑）。

冬木　びっくりしてしょうがないだろ（笑）。これは、あくまでも理屈だよ。だけど、こういう理屈を知ってるヤツがいないんだよ。

―言葉にできないんでしょうね。

冬木　まあ、これで食ってるからね（笑）。

―ガハハハハ！　理論化できる人って凄いですよね。体内言語みたいなものだけだったわけじゃないですか、それまでのレスラーっていうのは。

冬木　そうだね。だから、教えなかったんだろうな、みんな。国際に入った時も誰も教えてくれなかったもん。「見て覚えろ」とか、わけのわかんないこと言われて終わってたからね。

―みんなそうですね。カール・ゴッチさんも技を覚えられるのを嫌がったらしいし（笑）。

冬木　でも、もうそういう時代じゃないんだよ。

―これからは冬木さんがそういうことを手とり足取り教えていくわけですか。

冬木　ヒマがあったらね。

―だけど邪道・外道さんなんか言わないでもわかるクチじゃないですかね。

冬木　身体でわかってるのは外道と金村。口では言えないだろうけど身体ではわかってるよね、たぶん。ただ、基礎を練習しなきゃダメだよ。俺は全部基礎ができた上での話をしてるんだからな。

―練習っていう部分は冬木さんのレスラーとしてのプライドにつながるわけですか？

冬木　はぁ？　そんなことないよ、別に。

―よくレスラーは言うじゃないですか、「練習できなくなったら俺は引退する」とか。

冬木　そんなこと言ったら、とっくに引退しなきゃダメだよ。あっちこっち身体が悪くなるからね。そりゃあ練習してるよ、俺も。でもハタから見たら鼻クソみたいな練習だよ。リハビリみたいなもんだもの。

―ガハハハハ！　まあ、でも若い頃の蓄積が大きいんでしょうからね。やっぱり冬木さんはプロレスラーがナメられたらいけないっていうプライドみたいなものってありますか？

冬木　ないよ。

―あっ、ない（笑）。

冬木　人のことをあまり気にしないタイプだから。

―力道山先生の時代は「素人にナメられたらいけない」ってことでガラスのコップを食べたりしたわけですよね。

冬木　昔はよくいたね。八百長だって言うヤツにビール瓶で自分の頭を殴って「これでも八百長か！」って……バカだよな。

―ガハハハハ！　サスケさんはそれをやったって言ってました（笑）。

冬木　いいじゃない、八百長でもなんでも。

―ガハハハハ！　いいんですか？

冬木　あのね、八百長でも真剣勝負でもなんでもいいの。金を払って見にくればいいんだ、こっちに。見に来ないヤツが金も払わずに「八百長だ」とか言ったら、そりゃ怒るよ、みんな。俺だって「ふざけるな、この野郎！　金払って見てから言え、この野郎！」って思うもん。

―客が言う分には許す、と。

冬木　そりゃ構わねえ、金払って来てるんだから（笑）。

―ガハハハ！　払ったヤツは何を言ってもいい（笑）。

冬木　払って見て、見たくなきゃ見にこなければいいんだよ。

―でも、金を払わないヤツにそういうことを言われると頭にくる？

背中にタトゥー（シール）も入れた冬木。あまりにマッチョすぎるボディーのために、気合いの入ったタトゥーもかわいく見えてしまったのが悲しかった。

検証

ショーに限りなく近い

プロレス

冬木 当たり前だよ、それは。金払えば怒んないよ。「そうですよ、八百長ですよ」って感じですよ。「殴ってないんですよ、ホントは」って（笑）。

――ガハハハハ！

冬木 そうすると向こうは言ってるくるよ、「いや、そんなことはないでしょ？」って（笑）。

――ガハハハハ！ 向こうが思う以上にプロレスを落としてみるわけですか（笑）。

冬木 向こうがフォローしてくるんだよ。「だって殴って蹴ってるじゃないですか」って。「いや、できますよ。プロだから」って（笑）。しつこいぐらい言ってやるよ（笑）。

――そういう守り方もあるわけですね。

冬木 こっちは殴れねえんだからさ。

――だけど素人を口で言いまかすのは難しいですよね。

冬木 ちゃんと向こうが反撃できないように順序立てて言えばみんなわかるよ、大体はね。

――ホントに理論派ですね（笑）。それで冬木さんが思いついたのが「ショーに限りなく近いプロレス」っていうわけですかね。

冬木 思いついたっていうか、どうしたらいいかっていう問題なのよ。新日本、全日本を越えるためにはどうしたらいいかって考えて。俺から言わせればプロレスを退化させたらUWFになるんだよ。UWFは「進化させた」って言ってるけどさ、あれは退化だよ、絶対に。進化させたらショーに近いものになるよ。

――とすると、進化の理想的な形は……。

冬木 WWF。プロレス自体は変わらないんだよ。誤解しちゃダメだよ、プロレスの前後が変わるだけなんだよ。

――前後ですか？

冬木 入場から何から、そこをショーアップしてるだけなんだよ。休憩時間とか、そういうところでお客さんを楽しませるってことなんだよ。お客さんも一緒に参加できるようなものを実験段階でやってるだけなんだ。

――中身は変わらないと。

冬木 プロレスはプロレスだよ。変えようがあるわけないじゃない。何言ってるの！

――ガハハハハ！

冬木 変わったらインチキだよ。ショーアップはするよ。ただ、プロレスは変わるわけないんだから。

――根底は変わらないわけですね。だけど、冬木さんを見てるとWAR時代に腰を負傷して欠場した後ぐらいから、見てて何だかフッ切れた感じがしたんですけど。変わりましたよね。

冬木 フッ切れたうんぬんじゃないんだよ。動けなかったわけよ。受け身が取れなかったわけ。それでどうしようかと考えたときに、楽なやり方を考えたんだよ。

――ガハハハハ！ そういうことだったんですか（笑）。

冬木 いや、ホントのことだよ。それ

紙プロは超本気！立体的にブリーフ・ブラザーズを見るんです①

結成のキッカケですか？ 去年アマリロでテリー・ファンクの興行があったときに、冬木さんとメシを食う機会があって、「テリーの家に行こう」ってことになったんですよ。そのときテリーと冬木さんは険悪でしたから、「間に入ってくれよ」と言われて。で、行ったらテリーは映画の取材を受けててボクら8時間ぐらい待ちぼうけをくらったんですよ（笑）。やることないから、そこで冬木さんと今後のプロレスについていろいろ話したのが原点ですよ。

なんと言ってもボクらの共通点は、ず～っと全日好きだったことですね。新日は見てなかったんですよ。金曜8時は『太陽にほえろ』を見てましたから（笑）。タイガーマスクは見てません（キッパリ）。テリーが好きだったんですよ。要するにボクらがやってるのは10何年前の全日本のプロレスですよね。そこにプラス・アルファ、新日本の持ってる過激さやWWFの演出効果が入ってるんですよ。

「WWFみたいなコテコテのアメプロは日本で受けない」というのが定説みたいになってましたけど、あれは日本の媒体や日本人の固定観念が邪魔してたんですよ。ボクらも全日本や新日本と肩を並べるためには、ブリーフを履いて日本人の固定観念を破壊するしかなかったんですよ。それがブリーフ・ブラザーズです。ふざけてやってるように見えるけど、奥が深いんですよ。ボクらは固定観念を破壊しつつ、常にお客さんを意識しなきゃいけませんからね。プロレスラーは客商売ですから。ボクらは勉強するためにウォータービジネスの店によく行くんですけど（笑）。そこで「客商売とは何か？」という極意を常に吸収してますから。そこから導き出された答えが、「プロになりきる」ということです。お客さんのニーズに応えなきゃいけないんです！ 彼女たちはプロですよ。どんなイヤなヤツが来ても常に喜ばせて帰しますからね。尊敬しますね。

まあ、ボクらにいちばん近いのがECWですかね。あそこはプロレス少年が、そのままレスラーになってますから。日本だと、みんなレスラーになるとなぜか「昔、プロレスファンだった」って言わないじゃないですか？ 逆にボクらは、それを売りにしますよ。プロレスが好きで入って、プロレスしか出来ないんだから。ECWでは、それウケてるんですから。これからはファンの発想がファンの心を動かしていく時代ですよ。冬木さん、邪道、外道、雁之介、金村たちはみんな根っからのプロレス少年ですからね。非道の成長がいまいちなのは、遅れてプロレスにたどり着いたからです。みんな会場にプロレスを見に来るんだから、もっとプロレスにしていけばいいんじゃないですか。プロレスはプロレスですから。

いまは選手もフロント化してますよね。試合してるだけじゃなくて、企画も考えてますから。ブリーフ・ブラザーズには24時間プロレスのことを考えていられるメンバーが集まったんじゃないですかね。そういう意味じゃ、すごくマジメなんですけど、世間からは反面教師と言われて（笑）。また、そのギャップがいいんですけどね。（談）

踊るマネージャー伊藤豪が語るブリーフ・ブラザーズのルーツ

俺より新聞の見出しを多く取れるレスラーって何人いる？　文句言えないでしょ？

で動かなくていいように太ろうと。

――はっはぁー。それで、ああいうボディーになったわけですね（笑）。

冬木　あとはどうやって動いてるように見せるか、それだけだよ。

――でも、それでも試合をキッチリ組み立てられるってのは凄いですよね。

冬木　だってワザっていうのはさ、大きな人間、小さな人間いるけど、どんな選手にも通用するワザが使えるワザじゃない。得意ワザっていうのはどんな相手にも使えるようなワザ。そういうワザを持ってる人間じゃないとトップ取れないわけよ。

――説得力がなくなるわけですね。

冬木　もっと簡単に言ったら……あんまり言っちゃダメだよ（笑）。

――ガハハハ！

冬木　ロープに飛ばしてなんかやるワザと、固めるワザとフィニッシュの3つ持ってりゃいいんだよ、プロレスってのは。そうすれば試合だってできるんだよ。みんなそうだよ。

――少なければ少ないほど印象に残るわけですよね、そのワザが。

冬木　ロープ飛ばしてなんかやって、そこそこのダメージがある技にもっていって、あとは休憩する技っていうとまた変に聞こえるから、見せる技ね。カメラマンが写真をパチパチ撮れるヤツね。それでフィニッシュにもってけばいいんだよ。

――凄いですね。プロレス入門書を書けますよ、冬木さん（笑）。

冬木　書けないよ（笑）。そういうの書くとみんなにまたなんか言われちゃうよ（笑）。

――そういえば先輩とかになんか言われないんですか、こういうキャラクターをしていると。

冬木　言えないよ。なんで言えるの？　言える人って限られてるでしょ。俺より新聞の見出しを取れるレスラーって言ったら何人もいないでしょ。

――それは先輩とかに関係なく？

冬木　先輩だって小さい小見出しくらいしか取れないでしょ。俺より新聞のスペースを取れるレスラーって限られてるんだから。文句言えるのはそういう人たちだけ。

――「結果を出してる以上は言えない」ってことですね。ホントに新しいスタイルのレスラーですね、冬木さんは（笑）。

冬木　新しいスタイルじゃないんだって、当たり前のことだって。

――その当たり前のことが言えなかったんじゃないですか、いままで（笑）。

冬木　まあ、そうだね。でも、いまはいくらでも言えるよ。自分で会社やってるから、何でも言えるよ。

――というとWARの時は気を遣いながらやっていたんですか？

冬木　あのね、いまだって気を遣いながらやってるよ、俺は。

――そうなんですか。なかなかそうは見えないんですが（笑）。

冬木　見せないで気を遣うのがホントに気を遣ってるんだよ。そうらしいよ。

――らしいよって（笑）。蝶野さんと冬木さんの考え方は似てると思うんですけど、その部分の根っこにあるのは、たぶんリック・フレアーが好きってことなんでしょうね。

冬木　そんなの関係ねえだろ、べつに。

――フレアーってプロレスマニアが喜んで見てるような選手じゃないですか。

冬木　性格的な問題だ。ただ単に。要は怠けモンなんだろ（笑）。

――怠け者が団体できないですよ（笑）。

冬木　できてるねぇ。でも、選手としては、俺はいま辞めてもいいや。

――ということは若いモンに任せて社長業に専念するってことですか。

冬木　できる状態ならね。だからいろいろ技も教えるし。だけどそこまでのもんが誰もいないからさ。だから、とりあえず俺がやってるんだよ。

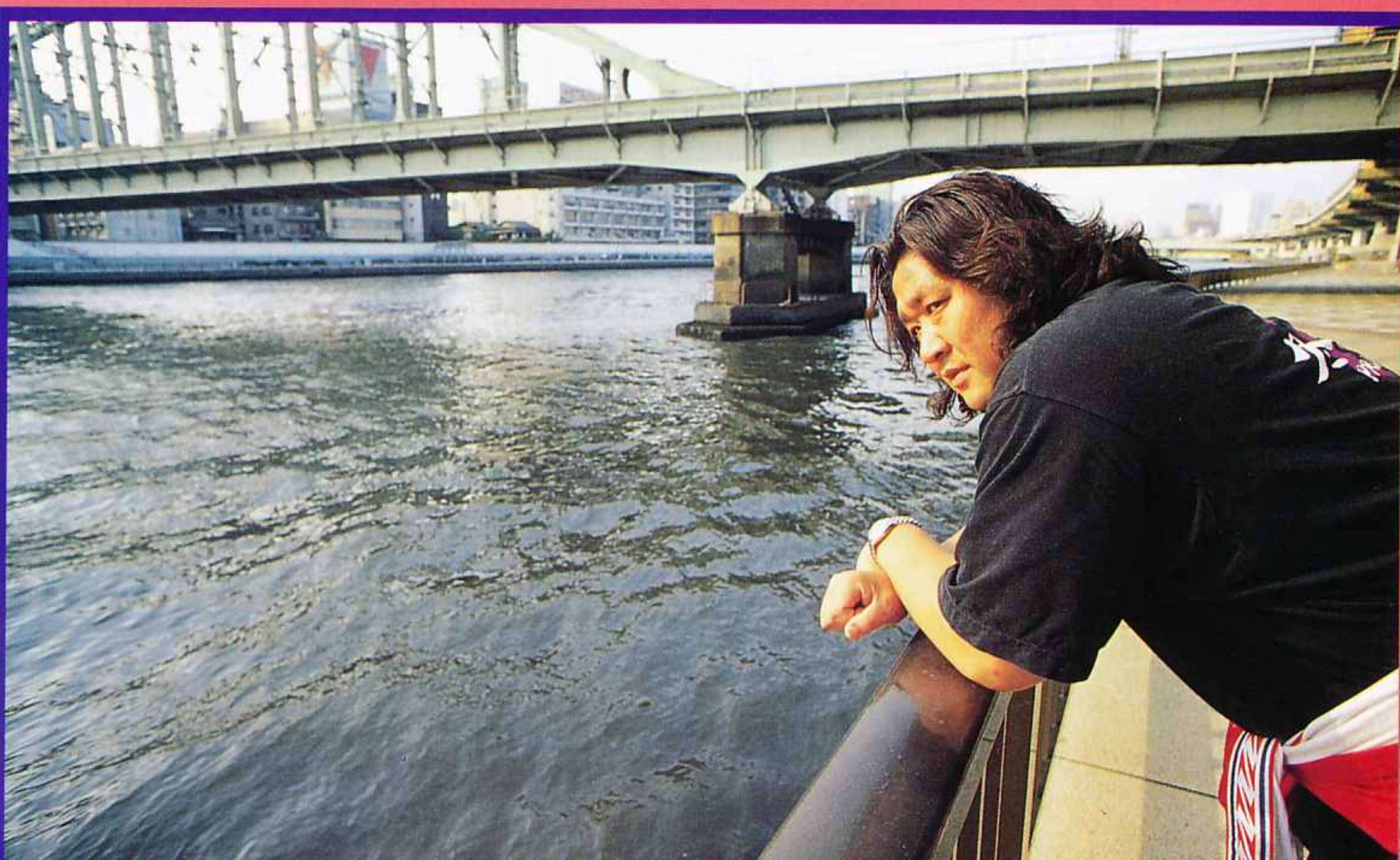
破天荒な言動の中に、しっかりと自分の主張を折り込むやり方は天下一品。プロレスマスコミが週刊誌主導から、日刊紙主導にシフトチェンジしたことで紙面に登場する回数も増えている。ここ数年、最も躍進した1人ではなかろうか。

――全然、未練ないんですか？

冬木　この世界にはあるよ。でも、レスラーにはないよ。

――じゃあ、たとえばどうしても最後に天龍と一騎打ちしたいとか（笑）。

冬木　そんなのまったくないね。

――ガハハハ！　まったくないですか（笑）。そういえば最近（4・30）、横浜でやったFMWの大会名が「エン

ターテインメント・レスリング・ライブ」ってことでしたけど、やっぱり冬木さんの目指すところのプロレスと一致してきたんじゃないんですか？

冬木　そうだね。向こうもそういう考えになってきてたね。どうしたら自分のところの特徴出せるかなって考えた時にああなったんじゃないの、やっぱり。自然の流れだよ。

――あの日は冬木さんとか、ブリーフ・ブラザーズとかが光りましたよね。それが進化なわけですね。

冬木　しょうがねえよ。そういう流れでいくしかないんだって。でも、そんな簡単にはできないよ。あれ、金もかかるし。だから、違う方法を考えなきゃいけない。年に何回かはあれぐらいのビッグショーがあっていいよね。だけど、その他とのギャップをどうするかを考えなきゃいけない。

――頭を悩ませてるわけですね。

冬木　どうしようもないからさ。ドサ周りしてるんですよ（笑）。

――やっぱり理想形はWWFとかWCWみたいな形なわけですか。

冬木　まっ、そうだね。試合内容は違うけどね。試合が一番面白いと思うのはECWだよ。俺が想像できないことやるもん。ECWは必ず外れるんだよ、読みが（笑）。

――ガハハハハ！　見て面白いのはわかるんですけど、冬木さんがやる分にはつらいんじゃないんですか、ECW路線は（笑）。

冬木　つらくないよ。

――だけどWCWやWWFみたいなスタイルの方が楽できそうじゃないですか（笑）。

冬木　楽ってできないよぉ。あのね、楽するって建て前で言ってるんだからね。できたらいいけどねえ（笑）。楽するっていったって人それぞれ違うからなあ。俺にとって楽でも、違う人にはもの凄くきついことかもしれないしね。真面目なレスラーにとったら、ブリーフ履くことがもの凄く苦痛で、きついことだと思うしな。

――「ブリーフ履くなら俺は死ぬ」みたいな人もいるでしょうしね（笑）。

冬木　たぶんいるだろうな。凄い苦しいことだと思うし。一回履いちゃうともの凄く楽になるけどね。

――ちなみに自殺したX－JAPANのhideさんも凄く虫が嫌いらしいんですけど、ビデオでブリーフを履くか、全身にゴキブリをつけるかどっちかを選べって言われてゴキブリをつけたそうですよ。それぐらいブリーフは嫌みたいですね、普通（笑）。

冬木　そう。俺だって履かないよ。

――５・７後楽園（冬木軍興行）で勝ち取った金のブリーフも貰っただけでしたもんね（笑）。

冬木　『日刊スポーツ』に渡したよ、すぐ。あんなの持ってたら着せられるんだから、絶対に。でもさ、今週号の『サンデー毎日』見た？　載ってるだろ、俺ら。この世界で『サンデー毎日』に載ってるヤツなんかいないだろ。それも一つの効果だよ。ブリーフ履かなき

紙プロは超本気！立体的にブリーフ・ブラザーズを見るんです②

コント番長金村ゆきひろが語るW☆INGからブリーフ・ブラザーズへ

ボクはボクシングも野球も相撲も、全部エンターテイメントだと思うんですよ。「ああいうことやって、恥ずかしくないんですか？」って聞かれますけど、まったく問題ないです！　地方ではブリーフ一丁で試合して、ケツも出しましたからね（笑）。

これからコント目当てで会場に来るお客が出てくるかもしれませんけどね、頭の固いプロレスファンも一度見に来いと。絶対笑わしたる！　でも、メジャー団体のファンはこういうこと言ったら、ひきますからね。意地でも笑わないようにしたりして（笑）。だから、そういうヤツらはバカなんだ！　「芸のためなら女房も泣かす」じゃないですけど、こんなプロレスとコントのことを考えて行動してるやつはいませんよ！

ちなみに「ホントにW★INGを捨てたのか？」って聞かれるんですけど、まったくありません。そういう人たちに言わせてください。「余計なお世話だ、この野郎！」って。「なんだ、バカヤロウ！」ですよ、ホント（笑）。思い入れも、もうないですね。レスラーになりたかったんであって、いま考えれば、デスマッチなんて痛いもんはやるべきじゃなかった。マッチメイクを組まれたらやりますけど、自ら進んでデスマッチはやらないですよ。しょせん、過去のもんですから。松永さんも、「インディーはレスリングだけじゃ勝負できない」っておっしゃってましたけど、そりゃそうですよ。結局、エンターテイメント・プロレスなんですよ。リングに笑いを持ち込んだとか言われるけど、シメるところはちゃんとシメてますから。

だいたい戦後、日本の国民を勇気づけたのはプロレスであり、プロ野球ですからね。プロレスは大衆スポーツの王道なんですよ。それをこれから変えていくのは冬木さんであり、ブリーフ・ブラザーズだと思いますよ。

たしかにU系の団体がやってることは凄いと思いますよ。ボクはああいう試合は出来ないです。でも、地方に行って、小さい子供やおじいちゃんが、あのスタイルを見てもわからないと思います。ボクはお年寄りから子供まで誰もが楽しめるプロレスがしたいんです。

エンターテイメントとはいってもボクらも常に死にもの狂いでやってますから。ホントに血流しても、「血袋使ってる」って言うヤツいますけどね。昔の人なら頭でビール瓶を割って見せたりしたんでしょうけど、そんなことしたら冬木さんに「バカなことすんじゃねーッ!!」って怒られますよ（笑）。黙ってオデコを見せたり、それが女の子だったら黙ってチンチンをぶち込んでやれって感じですね（キッパリ）。まあ、ボクのは小さいんですけど（笑）。（談）

DIRECTV PRESENTS
ENTERTAINMENT WRESTLING LIVE
SUPER MATCH in YOKOHAMA
FMW
1998.4.30 YOKOHAMA

今年に入り、ブリーフ・ブラザーズが大活躍。ついに本体のFMWまでも「エンターテイメント・レスリング・ライブ」という新路線を堂々と打ち出した。

や載れないわけだから（笑）。

――ガハハハハ！

冬木　いい悪いは別にして載ってないだろ、レスラーで。ちゃんと2ページ載ってるんだからさ。

――くだらないネタでもいいから、ちゃんと提供しているわけですね（笑）。

冬木　そういうことだよ。バカにしてるかもしれないよ。じゃあ、おめえら載るのかよ、この野郎って。ウチの興行は一応、新聞、雑誌は勢揃いするだろ？　そういう意味では新日本、全日本にもひけをとってないよ。それだけ努力してるよってことだよ。

――企業努力を、ですね。

冬木　血を吐いてね（笑）。

――格闘技が好きならどんどんそっちに流れてください。うちはショーに徹しますと（笑）。一つだけ確認したいことがあるんですけど、日本で一番チンチンが大きいレスラーは冬木さんだって聞いたんですけど（笑）。

冬木　それは真っ赤なウソです。それは『東スポ』がネタがない時に「『九スポ』だけで書いたらバレないだろう」って書いたんだよ。

――それがどんどん一人歩きしたわけですね（笑）。

冬木　それをほっとけばいいものをわざわざ俺にコピーして持ってきたんだよ（笑）。

――でも、『東スポ』が一番好

バーリ・トゥード？　俺がムキになると怖いぞ　殺す気でいくから絶対にケガはさせる！

4・30横浜大会は、大型モニターテレビ、入場ゲート、派手な照明と大会名どおり「エンターテイメント」な仕掛けだった。その中でも、冬木は看護婦を２人帯同させて、野郎どもの目を釘付けにした。初代・道子など、色仕掛けは天才的である

きなんですよね、冬木さんは。

冬木　『東スポ』好きだな。

――冬木さんのプロレスに対する考え方と『東スポ』の姿勢が近いわけですか。

冬木　そんなことないよ。『東スポ』が一番載せてくれるからだよ。プロレスは『東スポ』だな、ほかの新聞は関東だけじゃん。全国は『東スポ』だよ。

――長州さんが「マスコミは『東スポ』だけでいい」って言ってたじゃないですか。通じる部分があるわけですね。

冬木　ないよ、そんなもん（笑）。

――そうですか（笑）。ところで、『週プロ』での須山ちゃんとの抗争（※）っていうのはどうだったんですか。

冬木　知らねえ。

――ガハハハハ！　知らねえ（笑）。

冬木　あれはね、問題が大きくなり過ぎたんだよ。犯人探しとかわけのわからない展開になってったから。それで急いでやめたんだよ、これはまずいと思って（笑）。

――話が大きくなり過ぎたわけですね（笑）。以前、『週プロ』に対して怒ったことがありますよね。ＳＷＳのこともあったのかもしれませんけど。

冬木　『週プロ』は好きじゃないよ、あんまり。

――心情的には『ゴング』派？

冬木　心情的って言うより、親しい人がいないしね。それだけのことだからね。『ゴング』なんかも怒ってる、しょっちゅう。

――なるほど（笑）。プロレスとはスポーツであるとか、格闘技であるとか、ショーであるとかいろいろ言う人がいますけど、冬木さんはその三つの中ではどれだと思いますか。

冬木　全部だよ、プロレスは。

――ショーにもっとも近いものだけれども、全部を含んでいると。

冬木　その通りだよ。全部を含んでるんだよ。だから、面白いんだ。だから、みんなが利用するんだよ。格闘技系も利用するし。そういう意味では一番凄いんじゃない。プロの商売として。

――いま、冬木さんがやろうとしている方向性が単なるショーだと思われる可能性があるわけじゃないですか。

冬木　うん？

――ショーにもっとも近いプロレスっていう、それだけが一人歩きして、「ああショーなんだね」みたいな（笑）。

冬木　してないだろ、まだ（笑）。もっとしなきゃダメだよ（笑）。マスコミも気をつけなきゃいけないよぉ。

――一回、プロレスはショーだって言おうとして周りに止められたってこと

※97年11月、冬木軍とJd'が業務提携して、合同興行を行っていた。その際、『週プロ』須山記者のジョークがねじまがって冬木に伝わり、「ウチとJd'の関係を壊そうとした」と激高した事件。

検証
ショーに限りなく近い
プロレス

もあったそうですね。

冬木　下地ができてないからやめなさいって言われてね。

――いまはもう下地ができたってことですか。

冬木　下地ができたってことより、俺自身にあとがねえってことだよ。この辺でもう一回勝負しないとこのまま終わっちゃうってことだよな。自分の理想のプロレスにね、リニューアルするんだよ。

――逆にそれが流れになって動きだしつつありますよね。

冬木　いきゃあいいけどねえ。

――その半年ぐらい前ですか。高田vsヒクソンというUWF系の大きなイベントがありましたよねえ。どう思いますか。冬木さんは「喜んで負けてやるよ」と言ってましたけどね（笑）。

冬木　あれはプロレスじゃないもん。あんなのは別に関係ないって。プロレスじゃないんだからいいんだよ。

――でも、一応プロレスラーが出て負けたっていうのは？

冬木　そりゃ負けるだろ。あれで勝ったらどうすんだ。向こうだって商売だろ？　そう考えりゃ当たり前のことだよ。

――正直な話、例えばKRSが金をポンッと積んで柔術の大物とやらないかって話がきたらやりますか。

冬木　やんないよ。プロレスしかやんない。

――面白いと思いますけどね（笑）。

冬木　あっさり負けるって言ってるけど、俺がムキになると怖いぞ。いい試合もなにも殺す気でいくから。勝とうが負けようが絶対にケガはさせる。そのあと、どうするんだよ。

――じゃあ引退試合だったら問題なし？

冬木　引退までいけば別にね（笑）。

――それで勝ち逃げするのがベストですけどね。

冬木　面白くないよ、そんなことやったって。後味悪いだけ。

――面白いプロレスを追求していくわけですね。最近、プロレスが軽視され過ぎだってボクは凄い思うんですよ。いまはファンの間でプロレスが軽々しく見られすぎているんじゃないかと。格闘技に負けた＝ダメなものっていう。どうしてそういう考えになっちゃうのかっていうところがあるんですね。

冬木　いや、いいんだよ。そういうレスラーもいるし。勝てないヤツもいるよ、正直に言って。俺が見てもいるもん。「冗談でしょ?」っていうヤツはやっぱり早めにリングを降りさせないとね。

――冬木さんの中で認められるレスラーの基準ってあるんですか。

冬木　パッと見て、「誰?」ってヤツ。それが問題なわけよ。そしたらまず、見た目から入る。「なんだこいつショッパイ顔してるな」ってなったら、それで終わりだよ。パッと見てなんとかなるヤツって何か持ってるよ、やっぱり。ダメなヤツは10年やったってダメだし。プロレスは10年やって1人前だから、10年やってダメなヤツはダメってことだな。辞めなさいってことだよ。

――こうやって話を聞かせていただくと、冬木さんの意外な男気とかをいろいろ感じさせていただきました。

冬木　男気なんてあるわけないよ。

――そうですか（笑）。冬木さんが見てもプロレスを軽視してる人がいるっていうのは名言でしたね（笑）。

冬木　そうなの？　いてもいいんだよな。見てくれることが大事よ。

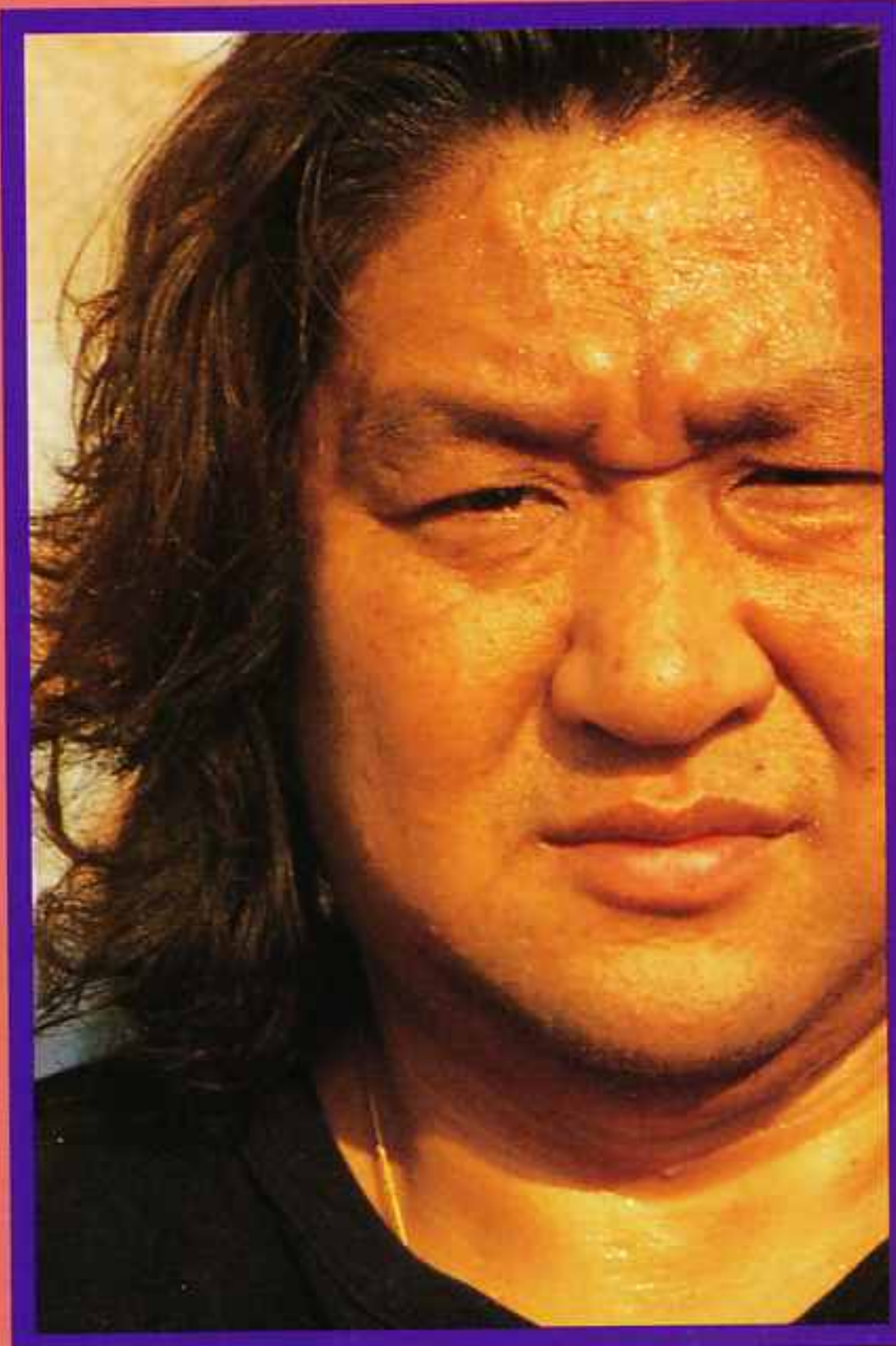
――金を払って見てくれれば八百長って言われても何言われても問題ないわけですからね（笑）。

冬木　見て八百長だと思えば、それでいいだろ。それはしょうがねえ（笑）。

――ガハハハ！

冬木　「あそこは八百長ですよ」って言われれば「うん！」って（笑）。

――ガハハハハ！　「うん！」と言いますか（笑）。

【98年5月15日、冬木軍事務所にて収録】

冬木弘道（ふゆき・こうどう）■昭和35年5月11日、神奈川県横浜市出身。昭和55年に国際プロレスでデビュー後、全日、SWS、WARを経て、FFFに参加表明するも、旗揚げ前に崩壊。冬木軍プロモーション設立。その後はインディー各団体に出場しながら、自主興行もちょくちょく主催。現在はFMWにブリーフ・ブラザーズのボスとして登場している

Koudou

ボーイ RADICAL

喧嘩プロレス二瓶組 超美人マネージャー
ダイアナ

前号でプロレスマスコミとおさらばした本誌は、ライバルは『週プロ』ではなく『週プレ』と宣言したところ、読者から「紙プロでセクシーグラビアやれんのか、アン？」（広島県／宮永
「わかったから、かわいい女の子もっと出せ！」

号記念企画

BATTLE

聞き手／チョロ
interview by Choro
撮影／戸成嘉則
photographs by Yoshinori Tonari

写真提供／ナイタイスポーツ

きてね♥

マット界の美女を探せ

喧嘩。プロレス二瓶組
超美人マネージャー

ダイアナ

○だいあな　本名、生年月日、出身地不明　血液型＝B型　身長163cm。B84/W58/H84　好物はメロン

インディーマット界のマリー・アントアネット

**この美しいお人こそ、二瓶組超美人マネージャー・ダイアナである。
ダイアナは、キックボクシングを修得しており、
秋に予定されるデビュー戦に向け、
その練習にも力が入る今日この頃なのである、きっと。**

皆さんは二瓶組を知っていますか？

ボクは、知っています。

二瓶組を初めて見たのは、忘れもしない今年の3月1日、インディーマット界の聖地・鶴見青果市場だった。

そこで見た二瓶組の試合は、ショッキングなシーンの連続だった。刺青を入れたコワモテな男たちの果てしなく続くド突き合い、シバキ合い、小競り合い。これだけでも充分買いだったのだが、おまけに二瓶組には超美人マネージャーが付いているではないか。彼女の名はダイアナ。

超美人マネージャーにはメジャーもインディーもない！

皆さんは二瓶組を応援しますか？

ボクは、応援します。

二瓶組を広く知ってもらうためにも、まずはビジュアルから！　とド新人の私・チヨロは思いいたりまして　ダイアナの〝ナマ声〟を聞いてみました。

―ボクが今、注目しているのが二瓶組なんですよ。今日はその中でも、読者からも反響が多かったダイアナさんにお話を伺おうと思うんですけど？

ダイアナ　なんでも話しま～す。

―ダイアナさんはかなりのプロレスファンだったって聞いたことあるんですけど？

ダイアナ　そうなの。でもホント2年ぐらい前からかなぁ、マニアックになってきたのは（笑）。

―マニアックですか（笑）。どんな選手が好きだったんですか？

ダイアナ　ライガー（笑）。なんか見てて変わった人とかァ、変な人とかの方が好きになるでしょ？

―は、はぁ、そうですね。

ダイアナ　普通の黒いパンツとか履いても困るんだよねェ。つまんないの。

——猪木さんとかはどうなんですか？

ダイアナ　全然興味な～い（笑）。それでねェ、FMW見てビックリしたのねッ。自分はそういうプロレスが好きなんだと思ってェ、それからもっと見ていくうちに二瓶組になったの（笑）。

——見ていくうちに二瓶組！　それはかなりマニアックですね。

ダイアナ　かもしれない（笑）。あと、アメリカンプロレスとかもビデオで見ててェ、エリザベス（現WCWマネージャー）っているじゃない？　スゴイ綺麗だなァって思ったの。ステキだなァって。

——それで、自分もマネージャーをやってみたいと思ったんですか？

ダイアナ　その時はいいなと思ってたんだけどォ、ずっと忘れててね。去年やっぱりやりたいって思い出したの。

——思い出した（笑）。

ダイアナ　お客としてキングダムを見に行ったのね。折原（昌夫）さんが出てたから（笑）。

——エッ！　ダイアナさんは折原選手のファンなんですか？

ダイアナ　そうなのォ（笑）。そしたらその会場に二瓶組長がいたの。

——組長のことは知ってました？

ダイアナ　もちろん。見に行ってて知っててェ。その場で「マネジャーいりませんか？」ってお願いしたの。そしたら「わかった！」って一言（笑）。

——素敵だ！　組長に会ったらお願いしようと決めてたんですか？

ダイアナ　そう。なんとなく自分にあってるって思ってたしィ。

——どんなところが？

ダイアナ　私は喧嘩でも何でも強い人が好きだから。二瓶組は喧嘩プロレスだから、一番あってると思ってたの。

——二瓶組は、喧嘩の他に刺青を入れてる人が多いですよね。ダイアナさんにも綺麗な刺青が入ってますけど、それも関係ありますかね。

ダイアナ　そうそう、二瓶組は刺青入れてる人が多かったからカッコイイと思ってたァ。それもあるかもしれない。

——ダイアナさんの刺青はいつ入れたものなんですか？

ダイアナ　半年ぐらい前！　ずっと入れたかったんだけど、前の仕事は禁止だったからね。入れるんだったら一番憧れてるマリー・アントアネットって決めてたの。

——後ろから見ても前から見ても〝シャン〟ってやつですね（笑）。実際マネージャーになってみてどうですか、二瓶組は？

ダイアナ　楽しいしィ、二瓶組に入ってホントに良かったと思ってる。

——それはどういうところがですか？

ダイアナ　だって大きい団体とかに入ったら、自分らしさって出せないじゃん。使い捨てで、その時だけの関係になっちゃう気がしてェ（笑）。その点二瓶組はいつも一緒にいるからね。一緒に飲みに行ったり、ご飯食べたりしてて楽しいしィ。喧嘩も一緒にするけどね（笑）。

——喧嘩もですか（笑）。

ダイアナ　二瓶組の人たちは実際今でも喧嘩してるのねェ。

——今でも！　いいですねぇ。喧嘩してるところを目撃したことあります？

ダイアナ　何回もあるよ（笑）。みんなでね「喧嘩しに行こう！」とか言って街に繰り出すんだよね。

——それは素晴らしい！　ダイアナさんもよく喧嘩するんですか？

ダイアナ　そんなにしないんだけど、ムカついたら、殴ったりもする（笑）。

——ウヒャヒャ！　殴ったりもする！

ダイアナ　そう。足も出る（笑）。でも最後は自分が殴られて終わりになっちゃうじゃない？

——エッッ！　ダイアナさんを殴る男がいるんですか？

ダイアナ　いる（笑）。でも私は強い人が好きだから。殴る人が好き！

——ウヒャヒャヒャ！　殴る人が好き！

私は強い人が好きだから殴る人が好き！

ところでキックボクシングはどういうキッカケで始めたんですか？

ダイアナ　松田聖子がキックボクシングやってるって雑誌で見てェ、私は松田聖子が一番好きなの。だから聖子ちゃんがやるなら私もやろうと思ったの。

——はぁ、そうなんですか。超美人マネージャーから見た二瓶組の魅力ってどん

胸元から幸せそうに顔を出しているのは、ダイアナが入場時に抱いているウナギちゃんだ！（浜松限定）

ダイアナの背中には綺麗にマリー・アントアネットのTATTOOが入っている。もっと近くで見たい！

Diana

な所ですか？

ダイアナ　二瓶組の試合はね、マネージャーじゃなくてファンの目で見てもスゴイ面白いよ。あんなに激しく殴り合う試合って他ではないでしょ。

――そうですね。この間、初の二瓶組同門対決（5・10国際の興行）があったじゃないですか。あの試合はそれこそメチャメチャ激しかったですよ。組長はまだ不満そうでしたけど。

ダイアナ　組長は、まだまだあんなもんじゃないって言ってたよ。

――あの日、組長がファントム船越選手をボコボコにしちゃったじゃないですか。それも自分に関係のない試合で（笑）。あれは、ただの乱闘には見えなかったんですけど何かあったんですか？

ダイアナ　前から気に入らなかったみたい（笑）。

――そういうことだったんですか（笑）。ダイアナさんって乱闘に参加してる時、すごく楽しそうに見えますけど、ホントは試合したいんじゃないですか？

ダイアナ　した～い。でも組長は、スゴイ心配してくれるから「そんな出たいんだったら練習しろ！」って言うの。

――まあ、それは当然ですけどね（笑）。練習は嫌いなんですか？

ダイアナ　だって喧嘩するのに練習なんていらないじゃん！

――はぁ、そ、その通りです。

ダイアナ　でも試合を組んでもらえるようにこれからはちゃんと練習するよ。

――やりたい相手とかいるんですか？

ダイアナ　やりたい人？　レスラーにはいないけど、友達にはいる！

――それこそただの喧嘩じゃないですか（笑）。もしダイアナさんがデビューしたら肩書きはやっぱりキックボクサーになるんですか？

ダイアナ　違うでしょ！　喧嘩プロレスだもん（笑）。たまたまグローブ付けてるだけでェ、たまたまキックしか出来ないだけだから。

――得意技って何かありますか？

ダイアナ　ウソ泣き（笑）。

――ウヒャヒャヒャ！　それも聖子ちゃんのマネなんですかね。

ダイアナ　かもしれな～い（笑）。

――ア～、早く見たいですよ、ダイアナさんの試合。

ダイアナ　二瓶組は秋ぐらいに旗揚げする予定だから、その時にデビュー出来ればと思ってるんだけどね。あとォ、勘違いされたくないのはねェ、「タレントになりたくてやってんだろう」とか言う人がいるんだけどォ、ホントにプロレスが好きで自然とこうなっちゃっただけだからねェ。組長にマネジャーOKだよって言われた時も「私マスク被ります！」って言ったのねッ。

――ウヒャヒャ！　自分からですか？

ダイアナ　そう。「マスクを被って素顔を出したくない」って言ったのね。その方が楽しいじゃない？　違う自分になって。だけどすごい反対されたんだよねェ。

――そりゃそうですよ。そんな美貌を隠したらもったいないですよ（ポッ）。

ダイアナ　でも面白いと思わない？

――二瓶組に行く楽しみ倍増ってやつですね。今日はありがとうございました。またゼヒ会ってくださいね（ポッ）。

【5月15日、『紙プロ』編集部1階のサブウェイで収録】

だって喧嘩するのに練習なんていらないじゃん！

かつて日本マット界にこれほどまでの美女がいただろうか？　その看板に偽り無しの超美人マネージャーである！

喧嘩なら絶対ヒクソンにも負けない！（by二瓶組長）

この秋にも総合格闘技団体として旗揚げすることが決定している二瓶組は、ファイトスタイルもこれまでの場外乱闘や凶器攻撃などを排除した格闘技色の強いものへと変わってきた。二瓶組には、喧嘩十段の組長・二瓶一将、元プロボクサー・鴨居長太郎、キックボクサー・幻、バーリトゥーダー・斉藤旭資、ムエタイ戦士・タノムサク鳥羽、そして超美人マネージャー・ダイアナ。その他にもザ☆モンゴルマン、ミラクル☆パワー、炎、魂、BAKU学、門田幸子、スモーマン、ニコニコファミリー・スマイリーなどがいる。喧嘩と刺青が見たけりゃ、二瓶組を見ろ！

二瓶組試合スケジュール

◆6/21（国際プロレス）横浜「鶴見青果市場」　PM2：00
◆6/30（DDT）　世田谷区「北沢タウンホール」PM6：30
※この大会はレディース・デーとして女性入場無料！

マット界の美女を探せ

格闘探偵団バトラーツ 爽やかリングガール 宮内美穂

その眼差しに秘められた……バトラーツ一直線

藤原組のマスコットガールとしてマット界に颯爽とデビュー。現在はリングガールとして、爽やかな笑顔を振りまく美穂ちゃん。バトラーツと共に成長する美穂ちゃんの生の声をあなたにお届け!

——ズバリ聞くと、美穂ちゃんは誰かバトラーツの選手と付き合ってるんですか?

美穂ちゃん あ〜、よく言われるんですけどね。バトラーツにどっぷりつかってますからね〜。

——やっぱり言われますか。誰とつきあってるっていわれるんですか?

美穂ちゃん いろんな説があるんですけど(笑)。結構言われるんですよ。それだけは違うと書いてください。誰ともつきあってません!(キッパリ)

——あー、よかった(キッパリ)。み、美穂ちゃんは、選手と一緒に巡業へも付いて行ってるんですよね。

美穂ちゃん そうなんです。大きい試合だけ出てるって思ってる人も多いと思うんだけど、ちゃんと日本全国行ってるんですよ。選手と一緒にバスに乗って。女は私だけなんですけどねー。

——バトラーツに大きい試合、小さい試合もないと思うんですけど(笑)。移動のバスって席順は決まってるんですか?

美穂ちゃん 今は大体決まってて、私は田中稔クンの後ろで、隣か後ろが臼田勝美クン。

——どっちにしても臼田選手が近くにいると(笑)。

美穂ちゃん そうそうそう。臼田クンは優しいから、困ってるといろいろ教えてくれるんですよ。ウチの選手はみんなホントに優しい。顔は怖い人もいるけど(笑)、心が優しい。身内だから褒めるわけじゃないけど。臼田クンは酒癖は悪いんですけどねー(笑)。

——全国的に有名ですよね(笑)。

美穂ちゃん もうデンジャー過ぎちゃって、スンゴイはじけるから。寝てくればいいんだけど、寝ないでカランでくるから、また来ちゃった来ちゃったって、スーッって避難するっていう。

——もう馴れちゃってるんですね。

○みやうち みほ 1973年11月3日生まれ
血液型=O型　身長165.5cm
B83/W56/H83
集めている物　カエルグッズ

美穂ちゃん　そうそうそう。マジで蹴りとか入れるんですよ、私とかに。

——蹴りって、手加減なしで?

美穂ちゃん　最近はねェ〜。最初は大切にされてたんですけどねェ〜。

——逆に蹴りは入れないんですか?

美穂ちゃん　さすがに蹴ったりはしないんだけど、ムッとすることはいっぱいあります（笑）。ツッコミ激しいんで、カチンと来ることが結構あるんですよ。某小野武志選手とか（笑）。彼は他人に厳しいんですよ。特に私には。もう慣れましたけどね〜。最初は何度枕を濡らしたことか……。

——えっ、ま、枕を濡らしちゃったんですか（ズルーッ＝よだれの音）。

私はバトラーツの選手とつきあっていません！（キッパリ）

美穂ちゃん　今は違いますよ！　私も逞しくなりましたから（笑）。

——逞しくなったといえば、選手の体つきも旗揚げ当時と比べると逞しくなりましたよね。

美穂ちゃん　そうそう全然違う。みんなそれぞれが意識を持ってやってるからだと思うんですけど、顔もレスラーの顔になって来たかなぁっていう感じ。みんなカッコよくなりましたよ、ホントに。

——み、美穂ちゃんの体型もカッコよくなりましたよねェ（ズルッ）。

美穂ちゃん　私はちょっと痩せたとは言われましたけど、藤原組の時はパンパン?

——えっ、ど、どの辺がパンパンだったんですか?

美穂ちゃん　体全体が風船のようにパンパンでしたから、それから比べたらちょっと痩せたかなっていう。今はお腹も出しちゃってるし（笑）。

——いいですよね〜（ズルッ）。そういえばコスチュームも段々露出が多くなってきてますよね。デヘヘヘ（ズルズルッ）。

美穂ちゃん　そう、布がね、ちょっと少なくなってきて、この先どうなっちゃうのかなって（笑）。

——今やお腹出すのは基本ですもんねッ。今日もスカート大分短かったですし。デヘヘヘヘ（ズルーッ）。

美穂ちゃん　ホントなんですよ〜。もう、いいのかなっていう……。

——いいのかなっていうのは、バトラーツ的にっていうことですか?

美穂ちゃん　でも、団体としては「もっともっと大胆でイイ!」って。

——も、もっと大胆で（ズルズルッ）。

美穂ちゃん　な〜んか、チョロさん、やらしいですよ!!

——す、すみません!　マ、マジメにやります。で、でも他団体でもリングガールっていそうでいないですよね?

美穂ちゃん　そうですよね。いたら面白いと思うんですけどね。ただ私は、選手に言ったらそれは違うだろって言われるかもしれないんですけど、女の子だからっていって、団体に花を添えるとかそういうんじゃなくて、私はもっと入り込んだ位置で、選手それぞれの、何て言うのかな……マネージャーとも違うんですけど……。

バトラーツファンクラブ会報の編集長でもある美穂ちゃん。読みたければ今すぐファンクラブに入るべし！

——お母さんでもないですしね（笑）。

美穂ちゃん　お母さんの歳じゃないしなぁ（笑）。

——あっ、ファミリーの一員ですか?

美穂ちゃん　そうそうそう。私も気持ちはリングの上で一緒に闘ってるよ、っていう感じで。彼女がどうとか、あの女の子がどうとか、女の子紹介しろよとか、いろんな話をするから、ホントに家族みたいって私は思ってるんで。バトラーツという名字で、バトラーツ美穂みたいな、そういう気持ちなんですよね。

——バトラーツ美穂ですか?　いいですねー。語呂は悪いですけどね（笑）。

美穂ちゃん　ちょっとね（笑）。でもそういう思いなんですよ。始めた頃は拍手もしてもらえなかったし、なんでリングに上がってるのって顔で見られてるのがよく分かるし、ウチは若い女の子のファンが多いですからね。

——確かに女の子多いですよね。

美穂ちゃん　やめときゃ良かったかなぁ

Miho

Miho

試合はしたいんですけど
練習が嫌いなんです〜

っていうこともありましたよ。女の子のファンの視線が怖くって。

―何だか色々と大変そうですね〜。

美穂ちゃん　最近やっと認められたって感じですけどね。

―やっとですか（笑）。美穂ちゃんって本業はタレントなんですか？

美穂ちゃん　う〜ん……。タレントでしょうね、やっぱり。でも何なんだろう。間違ってもセクシータレントじゃないし、不思議なジャンルですよね〜。

―自分でもよくわからない？（笑）

美穂ちゃん　そうなんですよ〜。でも私は基本的にしゃべることをしたいんですね。ただ、アシスタントで立ってるんじゃなくて、今リングの上でもしゃべってるし、人の何かを引き出す、そういうことをやっていきたいんですよ。

―ラウンドガールとかじゃ満足しないわけですね。

大盛況に終わった5／27後楽園大会『Mr・B〜ミスター・ビーの大逆襲〜』で着用のコスチューム・アーミールックバージョン（試作段階）。当日はさらにグレードアップ！　次のコスチュームはなんだ？（ズルーッ）

美穂ちゃん　アレじゃあ私の表現は足らないですね。

―どっちかって言うと目立ちたがりの方なんですか？

美穂ちゃん　うん、だと思う（笑）。でなきゃこんなこと出来ないですよ。

―こんなこと！（笑）

美穂ちゃん　気分いいですもん、リングに上がると。

―そういえば美穂ちゃんはバット折りが出来るって聞いたんですけど。

美穂ちゃん　そうなんですよ。マイ・サンドバッグありますから。もう怖いものないですよ。自信ありますよ。ちょっと練習すれば。ファイティング・スピリッツっていうのは結構あるんですよ。

―後々アマチュアバトラーツで試合したいという気持ちはあります？

美穂ちゃん　試合はしたいんですけど、練習が嫌いなんです〜（笑）。

―アハハハ！　練習は嫌いだけど、試合には出たいと？

美穂ちゃん　出たいです〜（笑）。練習もシェイプアップに適度にやるのはいいんですけど、闘うためにやるっていったら本当に努力しなきゃいけないから、そこまで出来る自信がないんですよね。一応、道場で教えてもらってるんですけどね。

―どんな練習をしてるんですか？

美穂ちゃん　キックと、関節技も軽く。

―得意技ってなんかありますか？

美穂ちゃん　こないだ石川社長に褒められたのは、腕ひしぎ。「筋がイイ」って。普通一回教えてもひねる方向とか加減がわからないんですって。やっぱり、やった方がイイのかなぁ？

―ゼヒ見てみたいですねぇ、美穂ちゃんの試合。ゼヒそのカッコで（笑）。コーチとしては誰が一番教え方がうまいと思います？

美穂ちゃん　テイネイなのは石川さん。女の子だからかもしれないんですけど、教え方がソフトなんですよ（笑）。他の選手は、やっぱり自分のやってることだから真剣になるじゃないですか。その真剣さが時に怖かったりしますね。でもみんな教えるのうまいですよ〜。

―美穂ちゃんも色々と選手から教わっちゃったりするんですか〜？　デヘヘヘヘ〜。

美穂ちゃん　また〜！　チョロさん変なこと考えてるでしょ〜!!

―クセなんです（ズルーッ）。

【5月22日、代々木の喫茶店にて収録】

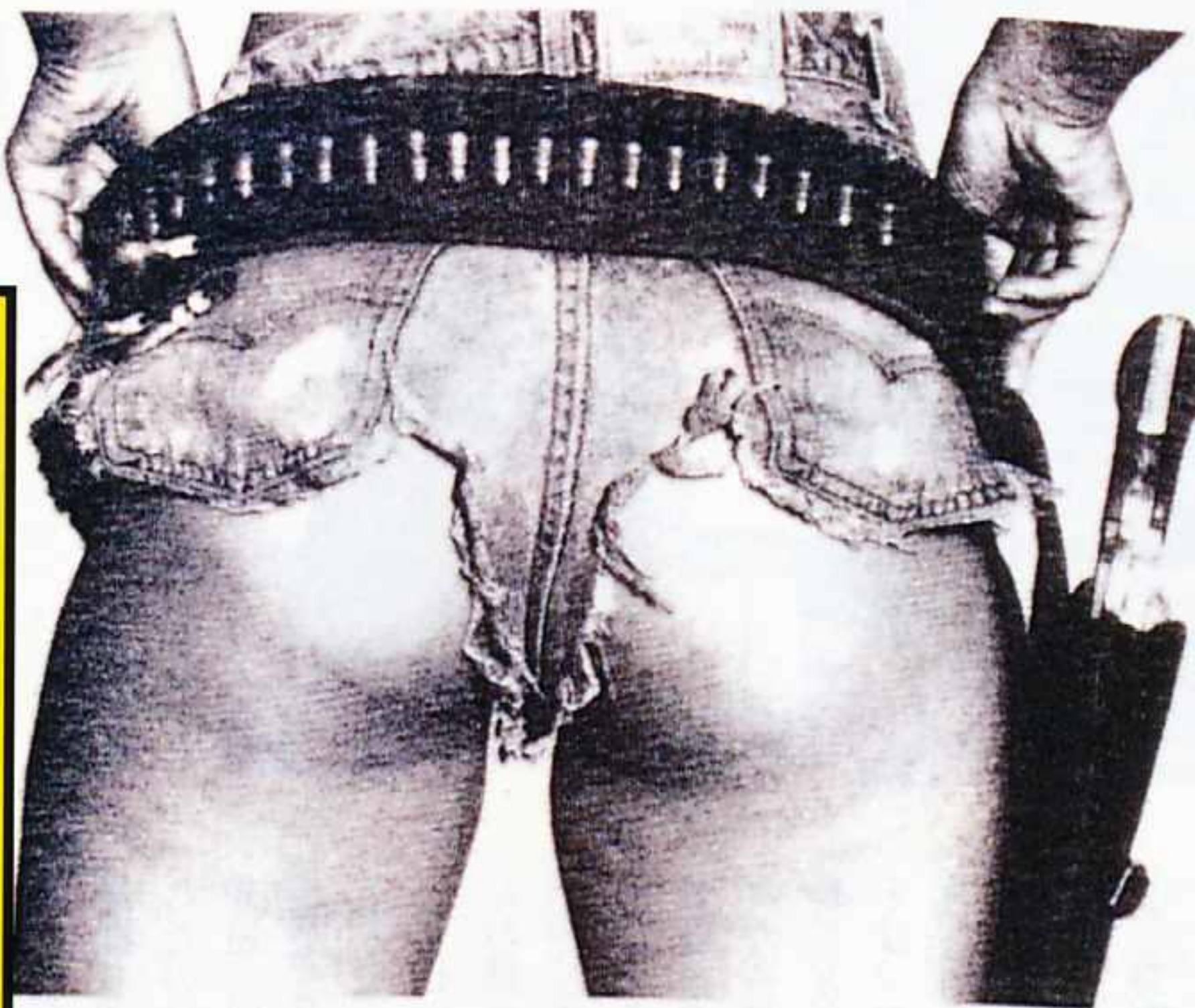
今年はバトラーツのリングガール&キャスターで勝負！

休憩時間の一服の清涼剤『みほコーナー』は只今人気爆裂中！　今やバトラーツになくてはならない名物に！　そしてタレント活動（同じ事務所には今号の『ラジカルミステリーツアー』に登場の維新力、プロレスファンにもお馴染み氏神一番などもいる）も大忙しの美穂ちゃんの定番スケジュール

◆フジテレビ系列　毎週土曜日「土曜一番!!　花やしき」
※生放送　朝5：55〜11：25　「みんみんガールズ」美穂ちゃんのダンスが見れるのはココだけ！（ダンスは5：56からと9：58からです。モチ必見！）

◆千葉テレビ　毎週木、金担当「朝まるＪＵＳＴ」
※生放送　朝6：30〜8：30
キャスターの美穂ちゃんが見れるのはココだけ！
テレビの前でも美穂ちゃんをヨダレを垂らしながら応援しよう！

United Sports
100% COTTON

このTシャツのイラストも
けっこうリアルですが、

MANAMI
TOYOTA

“プレイステーション初”
女子プロレス3Dポリゴン格闘ゲーム登場

豊田真奈美、井上貴子、堀田裕美子、アジャ・コング、井上京子ら、あの全日本女子プロレスで競い合った13人が、時空を超えて、ここに集結。

- 女子プロレスならではのスピード感溢れる激しい動きをスーパーリアル再現。
- 本物の叫び、本物の悲鳴が錯綜する、臨場感たっぷりの試合展開。

株式会社 ティー・イー・エヌ研究所

協力 全日本女子プロレス／アルシオン／ネオ・レディース／ガイア ジャパン
[ユーザーサポート] 03-5467-3843 10:00～15:00（祝祭日をのぞく）

このゲームはもっと、もっと、もっと、リアル！

7/23 発売予定

夢のハイテク・モーションキャプチャーで
選手の動きをリアルに再現！

『紙プロ』編集部のボンクラどもからも期待の声が続出！

中村カタブツ君(35歳)

えっ、女子プロのゲームが出るって？　(府川)由美ちゃんは出てくるの？　ホント？　じゃあ、買おう。デへへへ、セクハラしちゃダメ？　ゲームはセクハラするもんじゃないって？　まあ、そうだよね。でも、こう見えてもオレ、ゲーマーだからさ。えっ、これプレステで出るの？　プレステ持ってないんだよなぁ……。わかった！　由美ちゃんのためにプレステ買います！　ユミちゅわ〜ん♥　デへへへ。

バンビ・バートンチョロ(26歳)

ゲ、ゲームですか？　やりたいですねえ。女子プロっちゅうか、あ、あの〜、女子プロ好きなんですよ、トミー蘭とか。同郷の岩手出身の選手は好きですね、エル・サムライとか。っちゅうか、ボーイッシュな人たちの蹴り技が好きなんですよ。その点、この『女王列伝』は……あれ？　ショーンキャプチャーでしたっけ？　あ、モーションキャプチャーで選手の細かい動きまで再現してるんですよね。欲しいっす。

PlayStation

全日本女子プロレス 女王伝説

夢の対抗戦

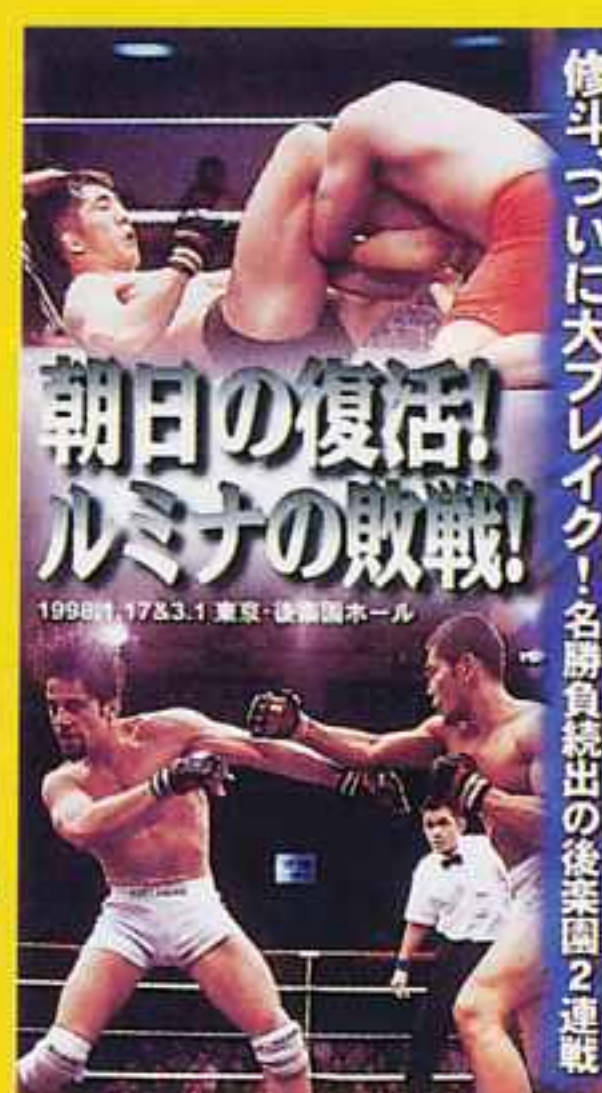
標準価格／予価¥5800（税抜）

この2ヶ月間に集めたもの、プレゼントするもの——坂井ノブ

読プレさせてよ！'98

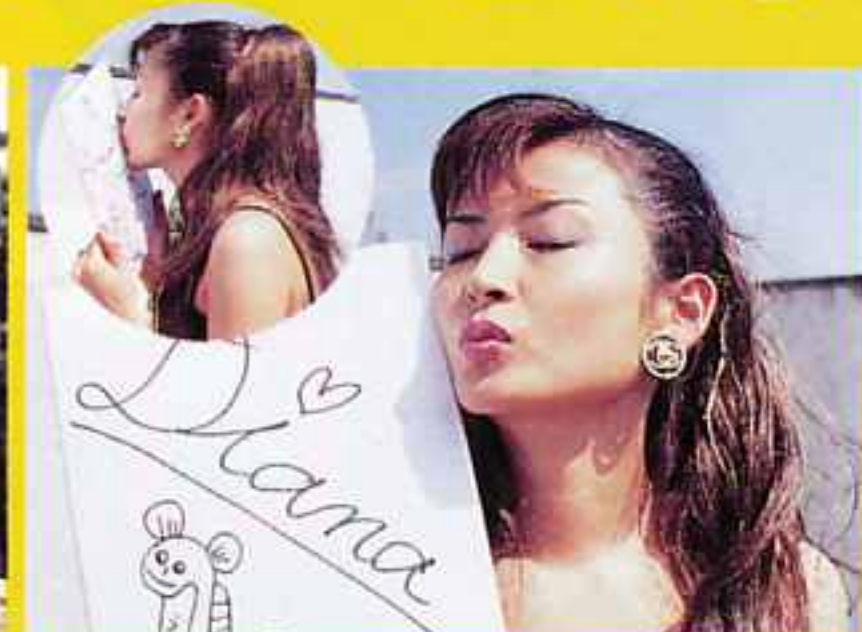
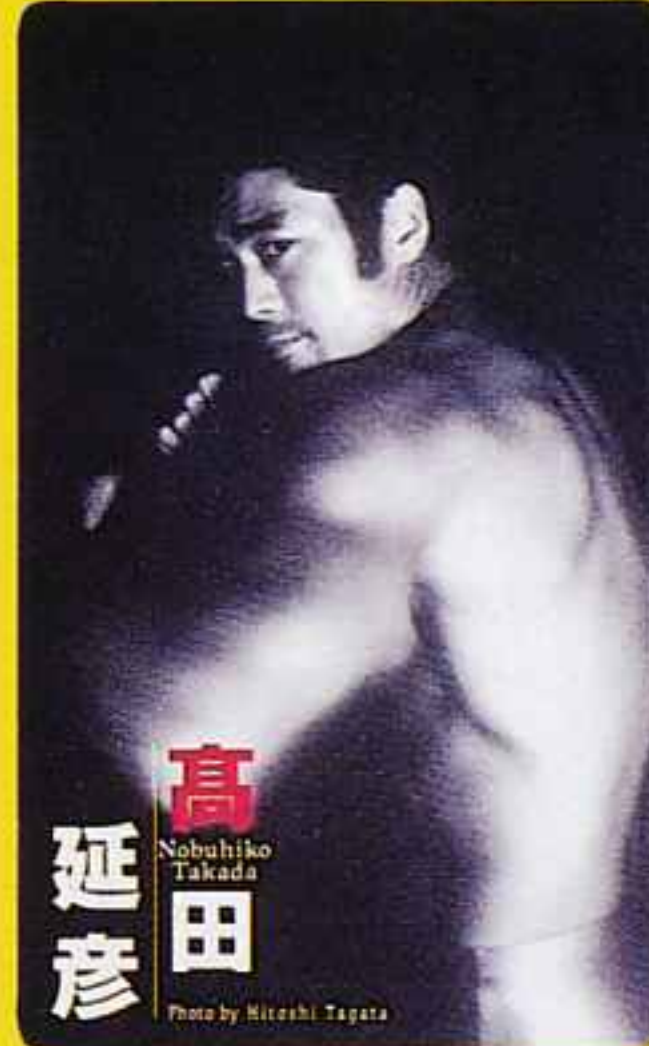
最近、読プレに応募するハガキが増えてます。これは最高に嬉しい！　ちなみにボクは穴倉ではありません。

●ルミナの負けっぷりの良さに脱帽！
1・17&3・1　修斗ビデオ　2名
プロレスファンを巻き込みながら広がりつつある修斗人気が爆発した2つの興行を収録。プロレスファンでも絶対楽しめるはず！
【QUEST提供】

●ワァオ！　若い日明の激レア映像が満載！
前田日明メモリアル黎明篇　2名
日明兄さんが若手だった頃の貴重な映像を満載！　日明兄さんメモリアル3部作の第1弾！
【QUEST提供】

●今世紀最凶のアドレナリン義兄弟！
日明兄さん&エンセンの寄せ書き色紙　3名
専門誌が超えられない壁を本誌はあっさり超えてみました。というわけで、こんな合体色紙はどこ探しても入手不可能！　欲しいでしょ？　ハガキ出せ、ハガキ！　[日明兄さん&エンセンさん提供]

●鮮烈なる男の闘いの軌跡！
『田村潔司～疾走する魂～』　2名
Uの遺伝子を継ぐ男・田村のデビューから現在までの足跡を追った記念碑的必見ビデオ！
【QUEST提供】

手に入りません！

●セクシー美女からのおチュ～元！
美穂ちゃん&ダイアナのキスマーク付きサイン色紙　各2名
見てみぃ、このキスマーク！　ホンモノだよ、ホンモノ！　この地球上でも本誌でしか手には入らないシロモノだよ。どっちが欲しいか明記してね
[美穂ちゃん&ダイアナ提供]

●男なら高田の生き様を見習え！
PRIDE.3 オフィシャルビデオ　3名
世紀の敗戦から約8ヶ月。1からバーリ・トゥードを学んだ高田の生き様を見逃すな！
[メディアファクトリー提供]

●ノブマニアは逆立ちしてでもGETせよ！
高田延彦プライベート用テレカ&カード　セットで3名
高田延彦がプライベート用に作成したテレカ&カードをセットにしてプレゼント。問答無用のレアグッズなだけに、間違ってもテレカは使わないように！
[ノブ兄さん提供]

●ブリーフから匂い立つ革命の匂いを嗅げ！
WHITE LOVE～白い革命戦士～　2名
ブリーフブラザーズの歴史がぎっちり詰まった一本。その誕生シーンからコント名場面&珍場面までも収録。これを見れば今年前半のFMWが見えてくる！
【東芝EMI提供】

●直筆サイン入り・
理不尽大王の高笑い　3名
プロレス誌や一般誌を席巻する理不尽節が詰まった1冊。理不尽というか、ものすごく的を得た正論がキミの目からウロコを落とす現代プロレス哲学書
[理不尽大王提供]

●今年の夏はVネックの予感……
高田道場サイン入りTシャツ　1名
高田道場のTシャツをどうじょう。な～んつってな、ダ～ッハッハッハッハ！
【高田道場提供】

●コクがあるのにキレがある！
6・24PRIDE.3の20世紀ポスター　2名
20世紀車内吊り　1名
ポスターといってもただのポスターじゃありません。高田&桜庭のサイン入りです。車内吊りのコピーは「待ってろよ、ヒクソン！」だよ。欲しいでしょ？
[KRS提供]

今はまだ言えないのだが……
こんな"グッズ"は他じゃ

●FIGHTING SPIRIT '98　2名
~98·2·7SAPPORO&2·15BUDOKAN~
佐々木ケンスキーと西村の一騎打ちは必見！　nWoと正規軍の7対7のシングル勝負も白熱！
[東芝EMI提供]

●人生は無我！　西村にVIVA！
闘魂Vスペシャル VOL.45　nWo vs 無我　3名
nWoと無我の間で悩む西村に肉薄。無我サイパン合宿の模様も収録
[VALiS提供]

●闘魂は死なず！　燃える闘魂
アントニオ猪木引退試合PART.2　2名
トーナメント、セレモニー、来賓インタビュー、そして引退試合。4·4を完全収録！
[東芝EMI提供]

●超完全永久保存版！
燃える闘魂アントニオ猪木引退試合PART.1　2名
猪木引退が発表されてから、4·4当日までの流れを完璧に網羅。猪木インタビューも収録！
[東芝EMI提供]

●なんつったって非売品！　こんなグッズは他じゃ手に入らない！
アントニオ猪木大型全身ポスター　2名
どうですかーッ!?　このポスターは、左で登場する猪木引退試合のビデオを2巻同時に予約した者のみがもらえる非売品。サイズも1456ミリ×515ミリとほぼ等身大！　これが最後のチャンス!?
[東芝EMI提供]

●激闘史VOL.1~闘魂伝説~　2名
猪木vsS·小林、猪木&坂口vsゴッチ&テーズなど新日黎明期の貴重な映像てんこ盛り！
[東芝EMI提供]

●激闘史VOL.2~激闘戦国記~　2名
vsハンセン、vsホーガン、vsブロディなど猪木の名勝負を収録。タイガーvsキッドの試合も見逃すな！
[東芝EMI提供]

●激闘史VOL.3~超戦士集結~　2名
なんといっても見所は猪木vsマサ斉藤の巌流島対決だ。猪木vs藤波の60分フルタイムを見て泣け！
[東芝EMI提供]

●パソコンでボンバイエ！　CD-EXTRA　アントニオ猪木エピローグ　4名
パソコン用（Windows95·Macintosh）の壁紙やアイコンを満載。イノキ·ボンバイエのピアノバージョンも収録
[コロムビアクリエイティブ提供]

●座右の銘は「人生すべて親心」
アレクサンダー大塚サイン入りポラ　2名
座右の銘が「人生、すべて心」から「親心」になったアレク。フェレットのナニワもさりげなく登場
[アレク父さん提供]

●涙の洪水！　爆笑の嵐！
バトラーツ2周年記念ビデオ『B-MANIA』　2名
旗揚げ2周年記念で、過去の名勝負BEST20をがっちり収録。世界で初めて天狗舞いや芳賀元太のビデオ化にも成功！
[東芝EMI提供]

●不況を乗り切れ！　サスケ社長&松永会長寄せ書きサイン
LOVEバージョン　不況撲滅バージョン　各1名
ズンドコ経営者コンビ・サスケ社長&松永会長が1枚の色紙で夢の競演！　2人の熱いメッセージを受け止められるか？　どっちか希望のバージョンを明記してください
[サスケ社長&松永会長提供]

●時は来たッ!!
破壊王フィギュア　1名
ちょと色黒なのが気になるけど、表情やポーズが文句なしにかっこいい！　秀作！

●赤き死の仮面・
レッドデスマスク　3名
反則大王・赤き死の仮面の付属パーツは、タイガーに突き刺された真っ二つの机。通だねぇ～。
[レッズ提供]

●黄色い悪魔・
タイガーマスク　3名
多彩なポーズを取れる可動システムが新しい！　表情やポーズもかっこいい！　¥2200で発売中！
[レッズ提供]

対象年齢14歳以上
企画&製造元：海洋堂／発売元：ジーベック／販売元：（株）レッズ
©梶原一騎・辻なおき／講談社・東映動画

●1・ジミー・スヌーカ
2・キャプテン・ロウ・アルバーノ
3・アンドレ・ザ・ジャイアント
4・フレディー・ブラッシー
各2名
伝説のレスラーが次々とフィギュア化！　『紙プロ』読者的には、見ただけでめまいがしそうな素晴らしい人選のLEGENDSシリーズ（各¥3000で6月中旬より発売予定）をそれぞれ各2名にプレゼント！　どーですかーッ!?　ここまで渋いフィギュアを作ったのはある意味画期的！　同時に、ストーンコールドやマンカインドやサニーちゃん他WWF勢が続々とフィギュアになるので要注目！
[ツクダオリジナル提供]

日明兄さんが若手だった頃の貴重な映像を満載！　日明兄さんメモリアル3部作の第1弾！
【QUEST提供】

Uの遺伝子を継ぐ男・田村のデビューから現在までの足跡を追った記念碑的必見ビデオ！
【QUEST提供】

見で

からコント名場面&珍場面までも収録。これを見れば今年前半のFMWが見えてくる！
【東芝EMI提供】

RADICAL10号応募券貼らないと応援できないよ！

夏は着るでしょ？ Tシャツ大特集！

●こいつは貴重だ！　エンセン井上ぬぎたてサインTシャツ　1名
今回の撮影でエンセンが着たPUREBRED（ピュアブレッド＝エンセンのオリジナルブランド）Tシャツにサインを入れてプレゼント！　きっと家宝になるはず。Tシャツにプロレスも格闘技も関係ないネ
【PUREBRED提供】

●かっこいいネ！
大和魂Tシャツ・ネイビー　1名
どこに行くにもエンセンが着ている大和魂Tシャツ。バックプリントもステキ！
【PUREBRED提供】

●すごいネ！　大和魂Tシャツ・レッド　1名
やはり日本といえば赤ですな。情熱的な人にぴったり！　プロレスにはないセンスだね
【PUREBRED提供】

●いいでしょ？　修斗クンTシャツ　1名
エンセンの愛犬・修斗君がべらぼうにかわいいTシャツになった！　バックも凝ってる！
【PUREBRED提供】

●©朝日昇画伯。ぶらり十字Tシャツ・ブルー　2名
エンセンが練習中に心がけている「殺るか、殺られるか」を背負ってみましょう
【PUREBRED提供】

●欲しいでしょ？
奇人Tシャツ　1名
背中に「奇人」の文字が入った素敵なTシャツ。今回、紹介したTシャツはすべて定価¥2600です
【PUREBRED提供】

Front
Back

●バンバンビガロのショッキングなTシャツ　各1名
左上からマスカラス、マスクド・スーパースター、「ギブアップまで待てない」、左下からザンギエフ、アドニスと、今回は新作&旧作織りまぜてお届け。希望を忘れずに明記すること！　お問い合わせはバンバンビガロ03－3460－1145まで
【バンバンビガロ提供】

●ダイエット・ブッチャーの素敵なTシャツ　計6名
新作は胸に「ギブ・ミー・アームバー」と入ってます。メンズとレディースでサイズが異なり、色は白・黒・黄色があります。希望のサイズと色を書いて下さい。ダイエット・ブッチャーのウェアは「オクタゴン・アストニッシュ・アタック」(TEL.03-3486-5539)で販売中！
【ダイエット・ブッチャー・スリムスキン提供】

●ホイス派もブランドやってます！
グレイシーTシャツ　各1名
アメリカのグレイシー柔術アカデミーから直輸入したかっこいいTシャツ。A～Dの希望を忘れずに書いてください。ちなみにグレイシー柔術アカデミー・グッズは通販をやってます。カタログ希望やお問い合わせは042-530-7547まで。
（グレイシー柔術アカデミー提供）

●プロレスラ～パーカー　1名
各種ひねくれウェアを作っている「栄養失調の勃起」の逸品。「勃起」ウェアは裏原宿『6%DOKIDOKI』(03-3479-6116)に揃ってます。
【栄養失調の勃起提供】

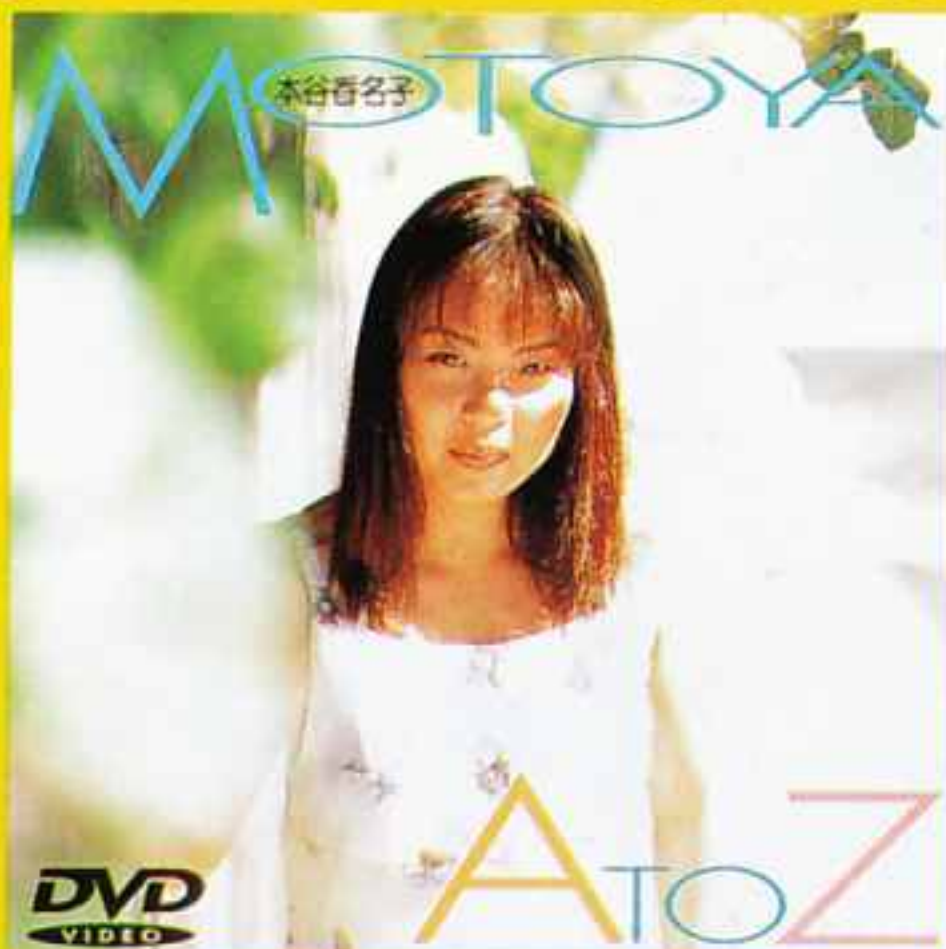
●まずは着るでしょ？
新日ロゴTシャツ　2名
むさ苦しい男の子も顔が個性的な女の子も、誰が着てもビシッときまる！

●アジアン・クーガー
直筆サインTシャツ　1名
チョロ絶賛！　インディーの一番星・クーガーTシャツ。DDTやZIPANGの会場で売ってるそうです
【アジアン・クーガーさん提供】

どう、欲しいっしょ？　女子プロ特集

●走り続ける女の魂！　DVDをもう一丁！
THE HISTORY of Mayumi Ozaki　2名

尾崎のベストバウト3試合を完全収録。小説や映画などでの活動を含めたデータベースを収録

[パナソニック　デジタル　コンテンツ提供]

●恥ずかしがり屋さんがDVDに登場！
MOTOYA A to Z　2名

ハワイでのキュートな水着姿を始め、プライベート映像も満載！

[パナソニック　デジタル　コンテンツ提供]

●アルシオンの衝撃ビデオ
STARLET '98　2名

98年4月17日、アルシオンの旗揚げ第2戦を収録！　三井綾も出場。吉田も大変身だ！

[QUEST提供]

●ネオ・レディースの新作ビデオ
ラスカチョ旗揚げ戦　2名

98年2月25日、ネオのリングをラスカチョ姉さんが乗っ取った！　元気の急成長に注目！

[QUEST提供]

●全女30周年記念CD-ROM
(Windows95・Macintosh)
が出た！　全女の魂　2名

ベストマッチやマイクアピール、さらに選手のプロフィールまで収録。¥6800（税別）で発売中！

[インナーブレイン提供]

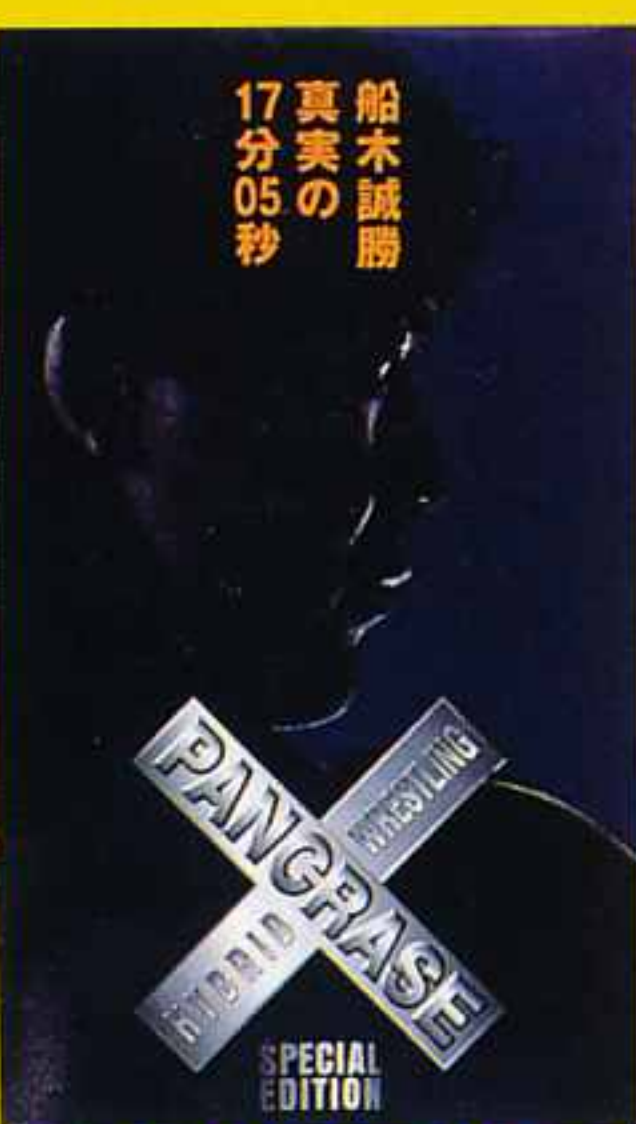
©全日本女子プロレス興行（株）
©INNER BRAIN 1998

プロレスグッズの波に乗れ！

ニューグッズ特集

●まずはビデオを見比べてみますか？
『船木誠勝真実の17分05秒』　2名
『シュートボクシング村浜武洋』　1名

応援できない人も、このビデオを見れば熱狂すること間違いなし！　船木ビデオは激動だった96年の船木とベルトの動向を中心に収録。村浜ビデオは世界の強豪との試合を収録。

[船木V QUEST提供／村浜V バップ提供]

●闘魂Vスペシャル
特別編
無我特集　3名

静かなる台風・無我を堪能できるビデオ。無我プライベート映像やサイパン合宿に密着。必見だ！

[VALiS提供]

●牛も殺せる名曲を満載！
一撃〜極真への道〜　3名

素晴らしい曲、満載。梶原一騎作詞の『空手道おとこ道』『空手バカ一代』は必聴だ！　初回特典の千社札シール付き

[ポニーキャニオン提供]

●'98チャンピオンカーニバル
スペシャルハイライト　2名

世界一苛酷なリーグ戦の模様を収録。感動の4月18日武道館大会の優勝決定戦は完全収録だ！

【バップ提供】

●なぜだ!?　突然、仁義本が登場！
仁義なき戦い　浪漫アルバム　3名

『仁義』シリーズは8年前に3作見ただけの本誌・吉田豪がライターとして参加した『仁義なき戦い』の本。

●「どりんくばぁ〜」な気分で飲もう
維新力の店ごっちゃんコースター　3名

維新力の店のロゴが入ったかっこいいコースター。酒もすすむぞ！　[維新力の店提供]

Mr.LIARチョロがTシャツ大放出！

●アマレスTシャツセット　2名

ウソばっかりついてるチョロ。面接時も「ダブルクロスに入ったらボクの秘蔵アマレスTシャツを全部あげます」と言ったくせにくれないので、強制的に読プレとして徴収しました

【チョロ提供】

今はまだ言えないのだが……

応募要項

1. 住所
2. 氏名　3.年齢
4. プレゼント希望商品
5. 面白かった記事&理由
6. つまらなかった記事&理由
7. 好きなプロレス団体
8. 『PRIDE-0』（P116〜）の勝者は誰？
9. 『週プロ』・『ゴング』・『ファイト』・『東スポ』のうちどれを愛読してますか？
10. 自作のダジャレ
11. やってほしい企画

応募券

え〜、毎度毎度説明するのも面倒くせえのですが、親切な本誌は丁寧に説明いたします。ハガキには住所、氏名、年齢、希望商品、おもしろかった記事&その理由、つまらなかった記事&その理由、好きな団体、『PRIDE.0』（116ページ〜）の勝者は誰?、アナタの愛読誌、自作のダジャレ、やってほしい企画を明記し、応募券を必ず貼って下記住所まで送ってください。締切は7月25日（当日消印有効）です。
※応募券のないものは無効となります。

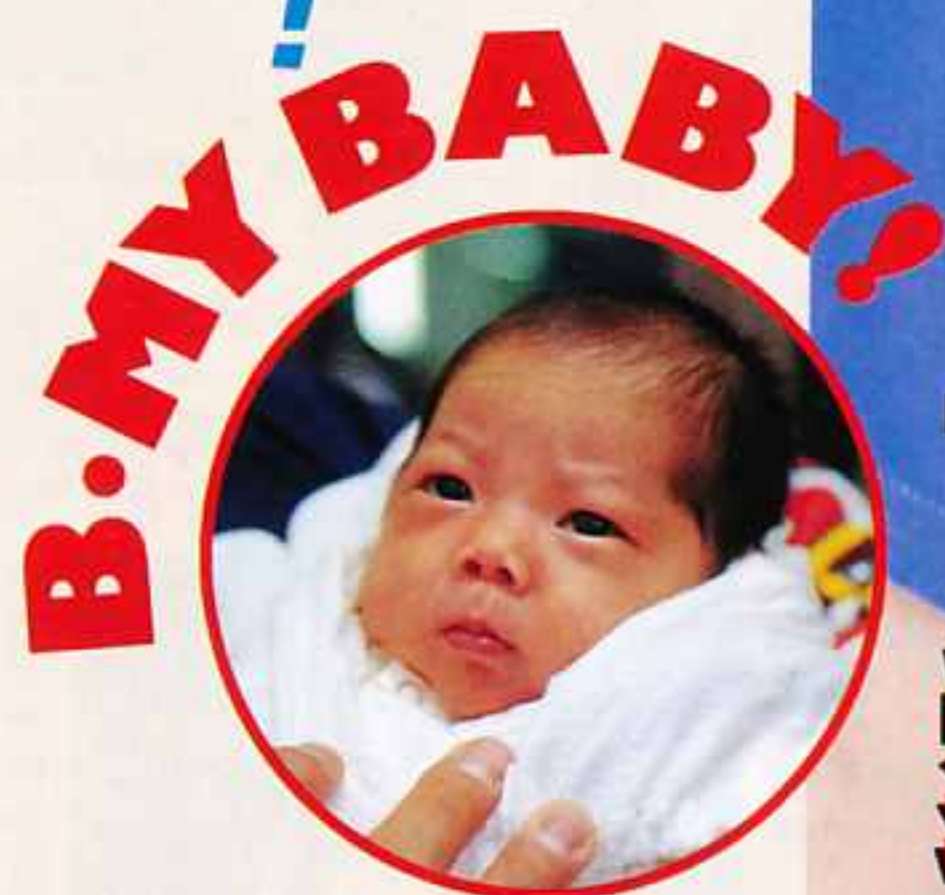
あて先は……
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
（株）ダブルクロス『紙プロ』編集部
「ウチはプロレス団体じゃねえからな」係まで

『紙プロ』だからできたB-MY BABY独占スクープ！

B-MY BABY!

アレク&のもものの愛娘が誕生！

「生まれたてはガッツそっくりだった」（のももの談）

名前は大塚愛（いと）ちゃん（♀）、です！

ずーっと寝てたのに、カメラを向けたらいきなり目を開いた愛ちゃん。生まれながらにしてタレント根性を持っているようだ

口の中に入れても痛くないとは、まさにこのこと。……って、痛いのは愛ちゃんか？　2人とも愛ちゃんがかわいくてしょうがない。

4月22日、池袋コミニティカレッジの第1回『青空プロレス道場』を盛況のうちに終えた『紙プロ』へっぽこ軍団が会社に戻る車中、山口日昇の携帯電話が鳴った。声の主はアレク。「あのぉ、予定日まで1ヶ月あるんですけど、今日、のももが破水してしまって……ぼ、ぼ、母体が……」と消えいりそうな声で囁いている。車内に凍り付くような緊張感が走った。まだ予定日の1ヶ月前なのだ、ひょっとしたらひょっとする。ごくりと生唾を飲み込み、紳士・山口日昇は「そ、それで母体がどうしたの？」と恐る恐るアレクの次の言葉を引き出した。

「はい、それで……無事生まれました。んむはぁ」

だったら、さっさと言え！　車内の全員がツッコミを入れたのは言うまでもない。

という人騒がせなアレク父さんと、のも母さんの娘・大塚愛（いと）ちゃんは98年4月22日午前9時38分、2488グラムで元気に誕生した。なんでも、アレクがオフを利用して実家に戻っているのものもに会いに来たときに生まれたのだとか。「顔を見ただけで自然に涙がでてきました」そう語るアレクは、すっかり頼もしいお父さんの顔になっていた。

取材をしたのは5月20日なので、まだ1ヶ月も経っていないのだが、アレクに言わせると「顔はボクそっくりでしょ？ほら、頬骨のあたりとか。んむはぁ」とのこと。すっかり親バカモードに突入していた。のもももまでもが「大バカだよね～（笑）」とタイコ判を押す親バカぶりだ。まあ顔は、似てるっちゃー似てる。「女の子は男親に似たほうがかわいくなる」というから、将来はかわいい女の子になるに違いない。余談だが、愛ちゃんはかなりの大食いらしく、そこはのももに似たものと思われる。

一方、お母さんになったとはいえ、のももも相変わらず凄い。生まれた赤ちゃんを見て、「ほえ～、ガッツ石松そっくりじゃん！」と思ったというから「母は強し」である。実際、「今は、何よりも赤ちゃんがかわいいよ」と、頼もしい「のも母さん」になっていた。

さて、そんな2人は、今は愛ちゃんにかかりっきり。オムツを変えたり、お乳をあげたり、夜泣きするのをあやしたり……これからは子育てのわずらわしい面も出てくるだろうが、アレクには私生活のストレスをすべてリングにぶつけてほしいものである。親の個性が強烈だけにどんな子に育つか、楽しみでしょうがない。とにかく愛ちゃん、元気に育てよ。

「子供ほどおもしろいものはないです、んむはぁ」とアレク。生まれた瞬間、あまりの感激にビデオを15秒で止めてしまい、怒られたとか

撮影協力＝のももを生み出した驚異のカバン屋「キンヤ」（長野市）TEL 026・232・7374

"新日本旗揚げから引退試合まで…アントニオ猪木26年間の激動の歴史を一挙収録!
"燃える闘魂"から"不滅の闘魂"へ、猪木黄金の歴史がここに完結する―。

格闘技世界ヘビー級選手権試合調印式
東京スポーツ新聞社・新格闘術黒崎道場

新日本プロレスリング
オフィシャル・ビデオ

〈アントニオ猪木 引退メモリアルビデオ第2弾〉

不滅の闘魂 4
アントニオ猪木物語

ストロングスタイルの夜明けであるゴッチ戦、坂口との新日本頂上対決、"インドの狂虎"シンとの抗争、"帝王"バックランドとのタイトル戦、そして最強を追い求めた異種格闘技戦。猪木絶頂の70年代が甦る…

猪木悲願の世界統一構想"IWGP"、激闘相次ぐタイトル戦線、そして長州、前田らの新日本離脱。追い討ちをかけるように猪木に挑み続けた強豪たち、アンドレ、ハンセン、ホーガン、ブロディ…。新日本存亡の危機に猪木の"燃える闘魂"が立ち向かう。

闘魂最終章に突入した猪木の首を狙って、藤波、長州が吠えた"世代闘争勃発!!そして引退への道ファイナル・カウントダウンから、猪木最後の日、運命の4月4日、引退試合まで。燃え尽きるか、燃え盛るか、猪木"最後の闘魂"がリング上で炸裂する。

VOL.1 TOVH-1348/約90分

◆vsD・F・ジュニア(69年12月2日=大阪/70年8月2日=福岡)◆vsJ・ブリスコ(71年8月5日=名古屋)◆vsK・ゴッチ(72年3月6日=大田区)◆A猪木&坂口征二vsK・ゴッチ&L・テーズ(73年10月14日=蔵前)◆vsJ・パワーズ(73年12月10日=東京)◆vsS小林(74年3月19日=蔵前)◆vs坂口征二(74年4月26日=広島)◆vsK・K・クラップ(74年5月8日=東京)◆vsT・J・シン(74年6月20日=蔵前/6月26日=大阪)◆vs大木金太郎(74年10月10日=蔵前)◆vsA・ジャイアント(74年12月15日=ブラジル)◆vsB・バーナード(75年2月4日=大阪)◆vsT・J・シン(75年3月13日=広島)◆vs大木金太郎(75年4月4日=蔵前)◆vsK・K・クラップ(75年5月16日=両国)◆vsT・J・シン(75年5月19日=カナダ/6月26日=蔵前)◆vsL・テーズ(75年10月9日=蔵前)◆vsB・ロビンソン(75年12月11日=蔵前)◆vsF・モンティ(75年12月15日=ニューヨーク)◆vsW・ルスカ(76年2月6日=武道館)◆vsS・B・グラハム(76年9月10日=品川)◆vsA・ジャイアント(76年10月7日=蔵前)◆vsパク・ソンナン(76年10月10日=ソウル)◆vsA・ペールワン(76年12月12日=パキスタン)◆vsS・ハンセン(77年2月2日=大阪)◆vsT・J・シン(77年2月10日=武道館)◆vsA・ジャイアント(77年6月1日=名古屋)◆vsザ・モンスターマン(77年8月2日=武道館)◆vsS・ハンセン(77年9月2日=名古屋)◆vsC・ウェップナー(77年10月25日=武道館)◆vsG・アントニオ(77年12月8日=蔵前)◆vsM・スーパースター(78年3月30日=蔵前)◆vs坂口征二(78年4月21日=蔵前)◆vsA・ジャイアント(78年5月30日=大阪)◆vsB・バックランド(78年7月27日=武道館)◆vsC・マルコフ(78年11月1日=名古屋)◆vsK・ミルデンバーガー(78年11月9日=西ドイツ)◆vsR・ボック(78年11月25日=西ドイツ)◆vsH・マツダ(78年12月16日=蔵前)◆vsB・ループ★(79年1月12日=川崎)◆vsミスターX★(79年2月6日=大阪)◆vsL・デイトン★(79年4月3日=福岡)◆vsT・J・シン★(79年4月5日=東京)◆vsJ・ブリスコ★(79年5月10日=福岡)

★印はビデオ初収録試合

VOL.2 TOVH-1349/約90分

◆vsS・ハンセン(79年6月7日=蔵前)◆vsD・ローデス(79年11月1日=札幌)◆vsB・バックランド(79年11月30日=徳島)◆vsK・クロケード(79年12月13日=京都)◆vsS・ハンセン(80年2月8日=東京)◆vsW・ウイリアムス(80年2月27日=蔵前)◆vsS・ハンセン(80年4月3日=蔵前)◆vsT・J・シン★(80年4月13日=メキシコ)◆vsS・ハンセン(80年6月5日=蔵前/9月25日=広島)◆vsK・パテラ★(80年9月30日=武道館)◆vsT・J・シン(80年10月24日=沖縄)◆A猪木&B・バックランドvsS・ハンセン&H・ホーガン(80年12月10日=大阪)◆vsB・ダンカン★(80年12月29日=ニューヨーク)◆vsT・J・シン(81年6月4日=蔵前)◆A猪木&谷津嘉章vsS・ハンセン&A・ブッチャー(81年6月24日=蔵前)◆vsT戸口(81年9月23日=東京)◆vsR木村(81年10月8日=蔵前/11月5日=蔵前)◆vsA・ブッチャー★(82年1月28日=東京)◆vsR木村(82年2月9日=大阪/9月21日=大阪)◆vsR木村、A浜口、寺西勇(82年11月4日=蔵前)◆A猪木&H・ホーガンvsK・カーン&T戸口(82年12月10日=蔵前)◆vsA・ジャイアント(83年5月6日=福岡)◆vsH・ホーガン(83年5月19日=大阪)◆vs前田日明(83年5月27日=高松)◆vsH・ホーガン(83年6月2日=蔵前)◆vsR木村(83年8月28日=東京)◆vs谷津嘉章(83年11月3日=蔵前)◆vs長州力(84年4月19日=蔵前)◆vsH・ホーガン(84年6月14日=蔵前)◆vs長州力(84年8月2日=蔵前)◆vsS・マシン(84年9月7日=福岡)◆A猪木&A・ジャイアントvsS・マシン1号&2号★(84年12月6日=広島)◆vsB・ブロディ(85年4月18日=両国)◆vsA・ジャイアント(85年6月11日=東京)◆vsB・ブロディ★(85年7月28日=大阪城/8月1日=両国/8月3日=ハワイ★/10月31日=東京)◆A猪木&坂口征二vs藤波辰巳&木村健吾(85年12月12日=仙台)◆vs藤原喜明(86年2月6日=両国)◆新日本 vs UWFイリミネーションマッチ(86年3月26日=東京)◆vsA・ジャイアント(86年6月17日=名古屋)◆vsD・マードック(86年6月19日=両国)◆vsB・ブロディ(86年9月16日=大阪)◆vsL・スピンクス(86年10月9日=両国)◆A猪木&藤原喜明vs前田日明&木戸修(86年12月11日=両国)◆vsM斎藤(87年3月26日=大阪)

VOL.3 TOVH-1350/約90分

◆世代闘争5対5イリミネーションマッチ(87年8月19日=両国)◆vsM斎藤(87年10月4日=巌流島)◆vs長州力/vsB・ベイダー(87年12月27日=両国)◆vsB・ベイダー(88年1月4日=後楽園)◆vs長州力(88年2月4日=大阪)◆vsB・ベイダー(88年2月7日=札幌)◆vs長州力(88年7月22日=札幌)◆vsB・ベイダー(88年7月29日=有明)◆vs藤波辰巳(88年8月8日=横浜)◆vs長州力(89年2月22日=両国)◆vsS・チョチョシビリ(89年4月24日=東京ドーム/5月25日=大阪)◆A猪木&坂口征二vs橋本真也&蝶野正洋(90年2月10日=東京ドーム)◆A猪木&T・J・シンvsB・ベイダー&A浜口(90年9月30日=横浜)◆vs馳浩(92年1月4日=東京ドーム)◆A猪木&藤波辰爾vs長州力&天龍源一郎(93年5月3日=福岡ドーム)◆vs天龍源一郎(94年1月4日=東京ドーム)◆vsG・ムタ(94年5月1日=福岡ドーム)◆vsW・ルスカ(94年9月23日=横浜)◆vsG・ゴルドー/vsスティング(95年1月4日=東京ドーム)◆vs藤原喜明(95年3月19日=名古屋)◆vsB・ベイダー(96年1月4日=東京ドーム)◆vsW・ウイリアムス(97年1月4日=東京ドーム)◆vsタイガーキング(97年4月12日=東京ドーム)◆A猪木&タイガーキングvs藤原喜明&獣神T・ライガー(97年5月3日=大阪ドーム)◆A猪木&タイガーキングvs佐々木健介&藤田和之(97年7月6日=札幌)◆vsD・フライ(98年4月4日=東京ドーム)

不滅の闘魂 アントニオ猪木物語 VOL.1
不滅の闘魂 VOL.2 アントニオ猪木物語
不滅の闘魂 アントニオ猪木物語 VOL.3

各巻:税込¥10,200
カラー/ステレオ(一部モノラル)/Hi-Fi

その他名場面および貴重な映像も多数収録!

6月24日 3巻同時発売

〈アントニオ猪木 引退メモリアル・ビデオ第3弾〉
レーザーディスクでも[3枚組ボックス] 7月29日発売
TOLH-1348~50 税込¥28,350
★ご予約の方に店頭にて「アントニオ猪木 大型全身ポスターBタイプ」(タテ1,456×ヨコ515%)(非売品)をプレゼント!

予約特典
★3巻同時にご予約の方に店頭にて「アントニオ猪木 大型全身ポスターBタイプ」(タテ1,456×ヨコ515%)(非売品)をプレゼント!

企 画:新日本プロレスリング㈱
発売元:㈱ビデオ・パック・ニッポン
販売元:東芝EMI㈱

通信販売でのお求めは
闘魂SHOP
問:TEL.03(5411)5959

お求めは全国のレコード店、書店、プロレス・ショップ及び闘魂SHOP他にてお求め下さい!
●内容についてのお問い合わせは:東芝EMI(株)映像部 ☎03-5512-1749 ●ご注文についてのお問い合わせは:同 販売3部 ☎03-5512-1558

TOSHIBA EMI

撮影協力=のものを生み出した驚異のカバン屋「キンヤ」(長野市) TEL 026・232・7374

紙のプロレス WANIMAGAZIN MOOK 76 RADICAL No.10 1998 10
スクープ対談！前田vsエンセン!! 大和魂は連鎖する!!
平成10年7月15日発行 編集発行人／山口日昇
発売元：(株)ワニマガジン社 〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地 電話／03-3357-2911
発行元：(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話／03-3403-5188
ワニマガジン社 定価：本体648円＋税

9784898295878
ISBN4-89829-587-8
C9476 ¥648E
雑誌 69861-76

印刷：図書印刷株式会社